

取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。

JUSTY



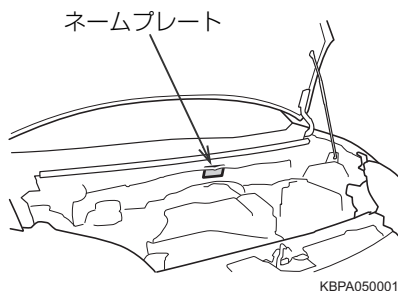
SUBARU

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	1KR型エンジン
総排気量	996cc
車体色(番号)	
トランスミッション	CVT

ネームプレートはエンジンルームに貼り付けしてあります。



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 オーディオ

オーディオの使い方など

6 室内装備・機能

室内装備の使い方など

7 手入れのしかた

お車の手入れ・メンテナンスの方法

8 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

9 車両情報

お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	24
安全なドライブのために	26
シートベルト	28
SRS エアバッグ	35
排気ガスに対する注意	42
1-2. お子さまの安全	
お子さまの安全のために	43
チャイルドシート	44
1-3. 盗難防止装置	
イモビライザー	
(盗難防止用エンジン始動	
ロックシステム)	66

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	68
計器類	74
TFT カラーマルチ	
インフォメーション	
ディスプレイ	76

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	108
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーレスアクセス	112
フロントドア	123
スライドドア	129
リヤゲート	150
3-3. シートの調整	
フロントシート	156
リヤシート	157
ヘッドレスト	160
シートアレンジ	162
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	169
ルームミラー	171
ドアミラー	172
サイドアンダーミラー	175
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	176

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	180
荷物を積むときの注意	191

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	193
CVT 車の運転	198
方向指示レバー	202
電動パーキングブレーキ	203
オートブレーキホールド 機能	208

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ライティングスイッチ	211
ADB（アダプティブ ドライビングビーム）	215
フォグライティング スイッチ	220
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	221
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	223

4-4. 給油のしかた

フューエルリッド （燃料給油口）の開け方	225
-------------------------------	-----

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト	229
衝突警報機能（対車両・ 対歩行者）、衝突回避支援 ブレーキ機能（対車両・ 対歩行者）	243
ブレーキ制御付誤発進 抑制機能（前方・後方）	255
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能	265
ふらつき警報	270
先行車発進お知らせ機能	273
標識認識機能（進入禁止／ 最高速度／一時停止）	276
全車速追従機能付 ACC （アダプティブクルーズ コントロール）	280
アイドリングストップ システム	298
コーナーセンサー	307
リヤビューカメラ	314
パノラミックビュー モニター	318
運転を補助する装置	325

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	331
--------------	-----

5 オーディオ

5. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ	336
アンテナ	337

6 室内装備・機能

6-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン	340
シートヒーター	348

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	349
・フロントマップランプ	350
・ルームランプ	350
・デッキサイドランプ右側 (スイッチ付)	351
・カーゴルームランプ	351

6-3. 収納装備

収納装備一覧	353
・グローブボックス	354
・センターダスト ボックス	354
・助手席アンダートレイ	355
・カップホルダー／ ボトルホルダー	355
・オープントレイ	358
カーゴルーム内装備	359
・カーゴボード	359
・停止表示板 収納スペース	361

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	 362
・サンバイザー	 362
・バニティミラー	 362
・運転席アームレスト	 363
・アシストグリップ	 364
・シートバックテーブル	 365
・格納式サンシェード	 366
・アクセサリソケット	 367
・USB Type-A ソケット (充電用)	 368
・USB Type-A ソケット (通信用) / HDMI 端子	 370
・ショッピングフック	 372

7 手入れのしかた

7-1. 手入れのしかた

外装の手入れ	 374
内装の手入れ	 377

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	 381
ガレージジャッキ	 384
エンジンオイルについて	 385
ウォッシャー液の補充	 386
タイヤについて	 387
タイヤの交換	 391
タイヤ空気圧について	 397
エアコンフィルターの 交換	 399
ワイパーゴムの交換	 401
キーの電池交換	 405
ヒューズの点検・交換	 409
電球 (バルブ) の交換	 412

8 万ーの場合には

8-1. まず初めに

故障したときは	422
非常点滅表示灯 (ハザードランプ)	423
発炎筒	424
車両を緊急停止するには	426
水没・冠水したときは	427
車中泊が必要なときは	428

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	429
フューエルポンプシャット オフシステム	436
警告灯がついたときは	437
警告メッセージが 表示されたときは	444
「スマアシ停止」が表示された ときは	461
パンクしたときは	464
エンジンが かからないときは	476
アクセスキーが 正常に働かないときは	477
バッテリーが あがったときは	479
オーバーヒート したときは	483
スタックしたときは	486

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	488
--------------------------------------	-----

9-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧	493
------------------	-----

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	500
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	502
お車から音が鳴ったときは (音さくいん)	506
アルファベット順さくいん	507
五十音順さくいん	508

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

SUBARU 販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- 国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適合しない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合は SUBARU 販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

SUBARU純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してSUBARUは保証いたしません。

故障診断コネクタに機器を取り付けないで

お車の故障診断コネクタには、点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。故障診断装置以外の機器を接続すると、車両システムに悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルをまねくおそれがあります。特定機器以外の接続に起因する不具合については、メーカー保証の対象にはなりません。

車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

SUBARU はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、SUBARU は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいう SUBARU は、株式会社 SUBARU を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせで使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。SUBARU にくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、SUBARU は EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ SUBARU が訴訟で使用する場合

ただし、SUBARU は

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいう SUBARU は、株式会社 SUBARU を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

RF 送信機は、次のような電子システムに影響を与える可能性がありますので、取り付けないでください。

- 燃料噴射システム
- スマートアシスト
- VSC(VDC)
- SRS エアバッグシステム
- プリテンショナー付シートベルト

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず SUBARU 販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を SUBARU 販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



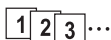
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

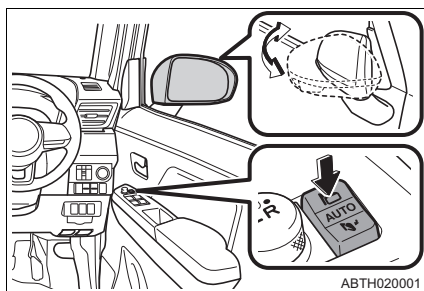
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

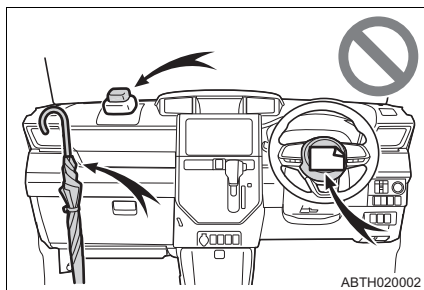
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



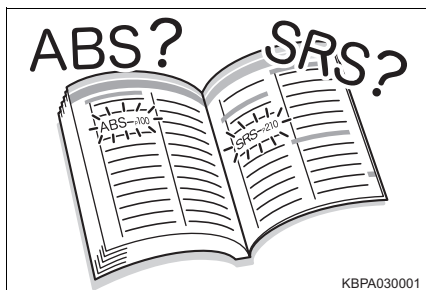
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん508
- ・ アルファベット順
さくいん507



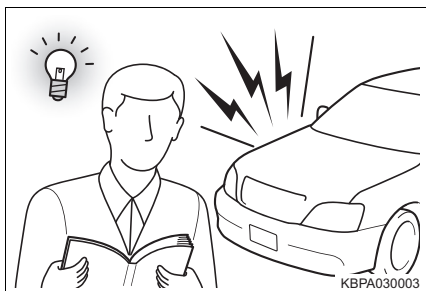
■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



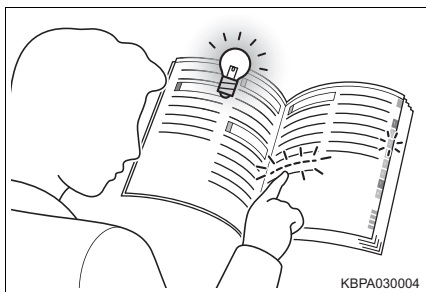
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)502
- ・ お車から音が鳴ったときは
(音さくいん)506



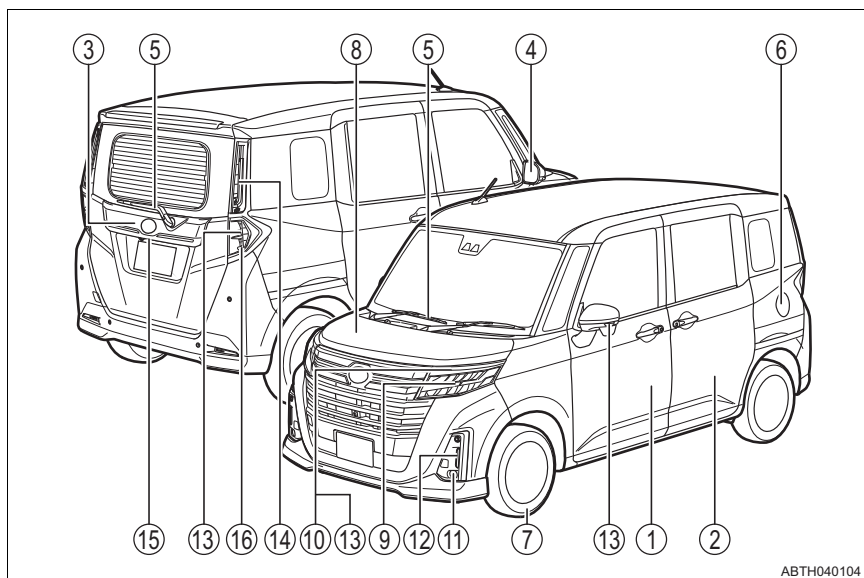
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



ABTH040104

① ドア	P. 123
施錠／解錠	P. 112, 123, 124
ドアガラスの開閉	P. 176
メカニカルキーでの施錠／解錠	P. 124, 477
警告メッセージ	P. 450
② スライドドア	P. 129
施錠／解錠	P. 129
ドアガラスの開閉	P. 176
車内から開ける	P. 130
車外から開ける	P. 129
警告メッセージ	P. 450
③ リヤゲート	P. 150
施錠／解錠	P. 112, 150
警告メッセージ	P. 450

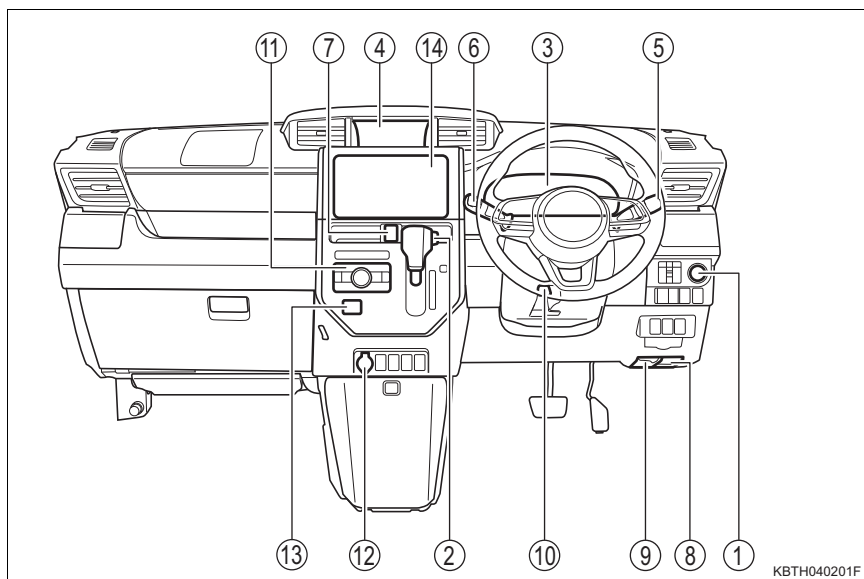
④	ドアミラー	P. 172
	鏡面の角度調整	P. 172
	ミラーの格納	P. 173
	曇りを取る（ヒートッドアミラー）★	P. 174
⑤	ワイパー	P. 221, 223
	冬期の注意	P. 331
	ワイパーゴムの交換	P. 401
	凍結防止（ワイパーデアイサー）★	P. 342
⑥	フューエルリッド	P. 225
	給油方法	P. 225
	燃料の種類・燃料タンク容量	P. 488
⑦	タイヤ	P. 387
	サイズ・空気圧	P. 491
	冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）・タイヤチェーン	P. 331
	点検・ローテーション	P. 387
	パンク時の対処	P. 464
⑧	ボンネット	P. 381
	開け方	P. 381
	エンジンオイル	P. 488
	オーバーヒート時の対処	P. 483

走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 412, ワット数：P. 492)

- ⑨ ヘッドランプP. 211
- ⑩ 車幅灯.....P. 211
- ⑪ フロントフォグランプ.....P. 220
- ⑫ LED ライナー.....P. 211
- ⑬ 方向指示灯P. 202
- ⑭ 尾灯P. 211
- ⑮ 番号灯.....P. 211
- ⑯ 後退灯
シフトポジションを R にするP. 198

■ インストルメントパネル



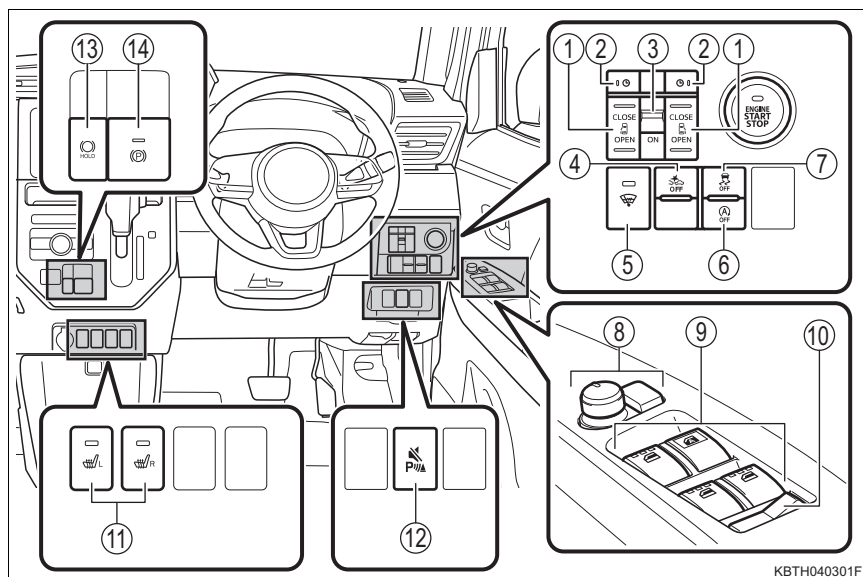
KBTH040201F

- ① **プッシュエンジンスイッチ**P. 193
 - エンジンの始動・モード切りかえP. 194
 - エンジンの緊急停止P. 426
 - エンジンが始動できないときの対処.....P. 476
 - 警告灯・警告メッセージP. 442, 457
- ② **シフトレバー**P. 198
 - シフトポジションの切りかえ.....P. 198
 - けん引時の注意.....P. 429
 - シフトレバーが動かないときの対処.....P. 200
- ③ **メーター**P. 74
 - 見方・明るさの調整 P. 87
 - 警告灯／表示灯.....P. 68
 - 警告灯点灯時の対処P. 437

- ④ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ P. 76
 - 表示内容..... P. 76
 - 警告メッセージ表示時の対処..... P. 444
- ⑤ 方向指示レバー..... P. 202
 - ライティングスイッチ..... P. 211
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯..... P. 211
 - フロントフォグランプ..... P. 220
- ⑥ ワイパー&ウォッシャースイッチ P. 221, 223
 - 使い方..... P. 221, 223
 - ウォッシャー液の補充..... P. 386
- ⑦ 非常点滅表示灯スイッチ P. 423
- ⑧ フューエルリッドオープナーレバー..... P. 225
- ⑨ ボンネット解除レバー..... P. 381
- ⑩ ハンドル位置調整レバー P. 169
- ⑪ エアコン..... P. 340
 - 操作方法..... P. 340
 - リヤウインドウの曇り取り
(リヤウインドウデフォッガー) P. 342
 - ワイパーデアイサー★ P. 342
- ⑫ アクセサリーソケット..... P. 367
- ⑬ USB ソケット★ P. 368、370
 - HDMI 端子★..... P. 370
- ⑭ オーディオ★※

※ オーディオに付属の取扱説明書を参照してください。

■ スイッチ類

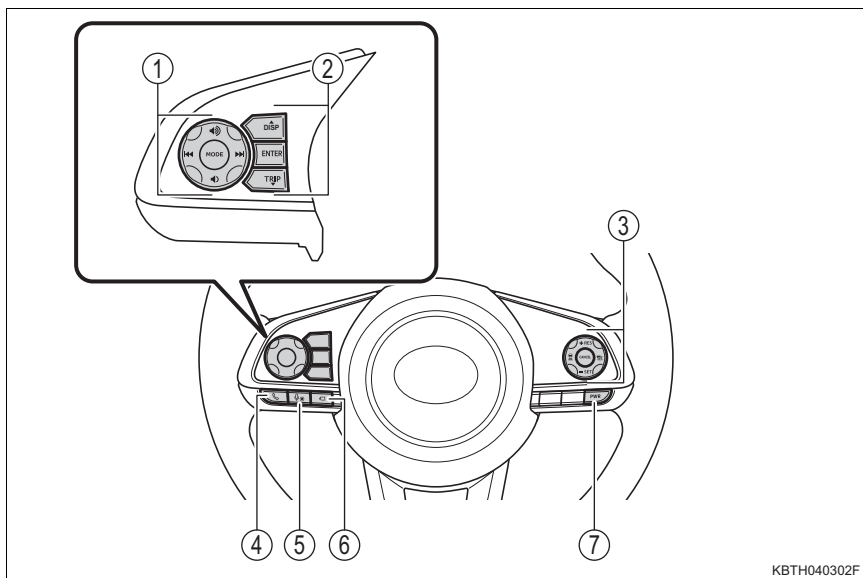


KBTH040301F

- ① パワースライドドアスイッチ.....P. 131
- ② ウェルカムオープン予約スイッチP. 133
- ③ パワースライドドアメインスイッチ.....P. 131
- ④ スマートアシスト OFF スイッチP. 233
- ⑤ ワイパーデアイサースイッチ★ P. 342
- ⑥ アイドリングストップキャンセルスイッチ.....P. 299
- ⑦ VSC (VDC) ・TRC OFF スイッチP. 326, 327
- ⑧ ドアミラースイッチP. 172
- ⑨ パワーウィンドウスイッチP. 176
- ⑩ ウィンドウロックスイッチP. 176
- ⑪ シートヒータースイッチ★.....P. 348
- ⑫ コーナーセンサーブザー OFF スイッチP. 309
- ⑬ オートブレーキホールドスイッチP. 208

⑭	パーキングブレーキスイッチ.....	P. 203
	かける・解除する	P. 203
	冬季の注意	P. 331
	警告ブザー・警告メッセージ.....	P. 73, 437

■ ステアリングスイッチ

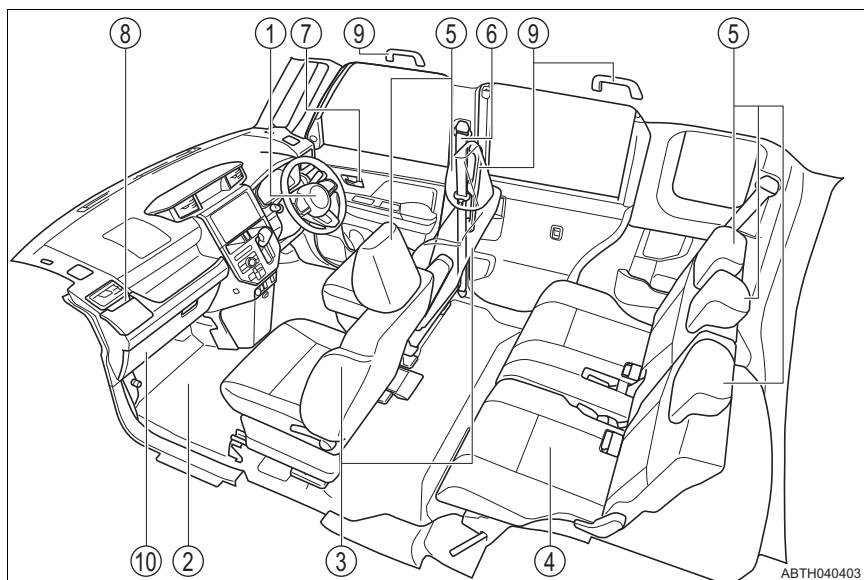


ステアリングスイッチの配置は、グレードなどで異なります。

- ① オーディオ操作スイッチ ※
- ② メーター操作スイッチ P. 77
- ③ 全車速追従機能付 ACC 操作スイッチ P. 281
- ④ 電話スイッチ ※
- ⑤ トークスイッチ ※
- ⑥ カメラスイッチ★ ※
- ⑦ POWER モード切替スイッチ P. 199

※ 装着されているオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。

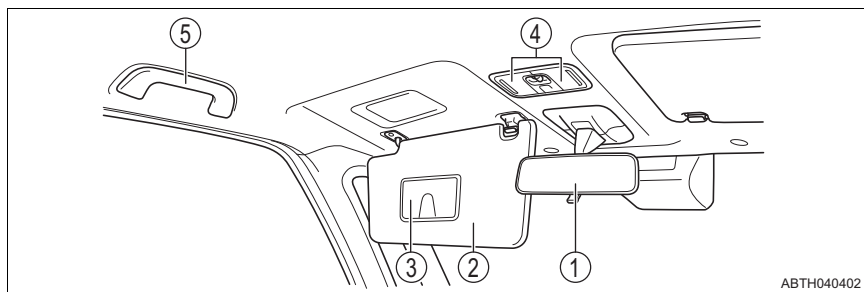
■ 室内



ABTH040403

- | | |
|-------------|--------|
| ① SRS エアバッグ | P. 35 |
| ② フロアマット | P. 24 |
| ③ フロントシート | P. 156 |
| ④ リヤシート | P. 157 |
| ⑤ ヘッドレスト | P. 160 |
| ⑥ シートベルト | P. 28 |
| ⑦ ロックレバー | P. 124 |
| ⑧ カップホルダー | P. 355 |
| ⑨ アシストグリップ | P. 364 |
| ⑩ グローブボックス | P. 354 |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



ABTH040402

- ① ルームミラーP. 171
- ② サンバイザー※P. 362
- ③ バニティミラー.....P. 362
- ④ フロントマップランプ.....P. 350
- ⑤ アシストグリップP. 364

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 49)



ABTF000109

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	24
安全なドライブのために	26
シートベルト.....	28
SRS エアバッグ.....	35
排気ガスに対する注意	42
1-2. お子さまの安全	
お子さまの安全のために	43
チャイルドシート	44
1-3. 盗難防止装置	
イモビライザー	
(盗難防止用エンジン始動	
ロックシステム)	66

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

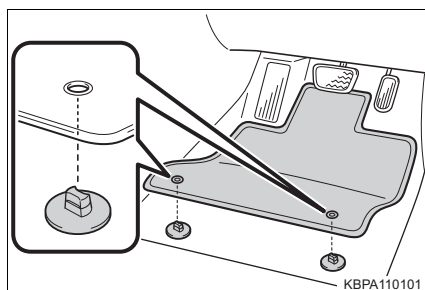
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、SUBARU 販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

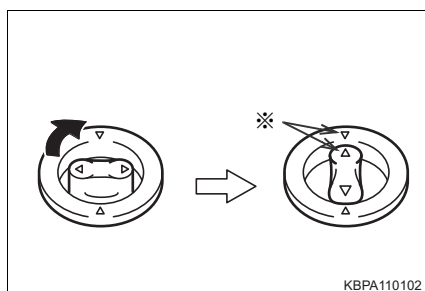
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

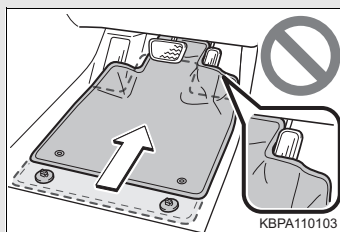
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- SUBARU 純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

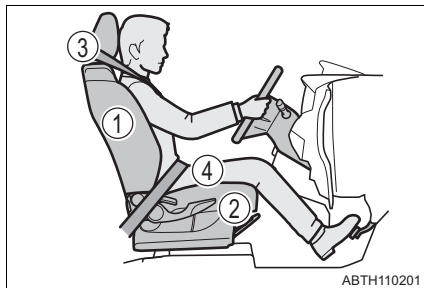


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 156）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 156）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 160）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、ルームミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 171, 172）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

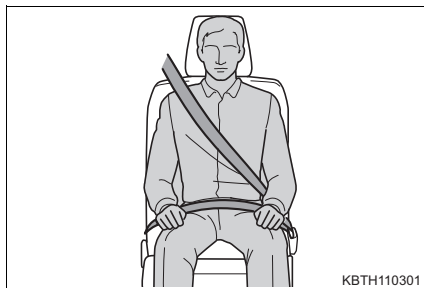
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシート（アンダートレイ付きの助手席を除く）の下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

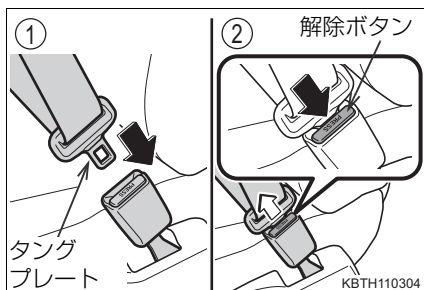
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする



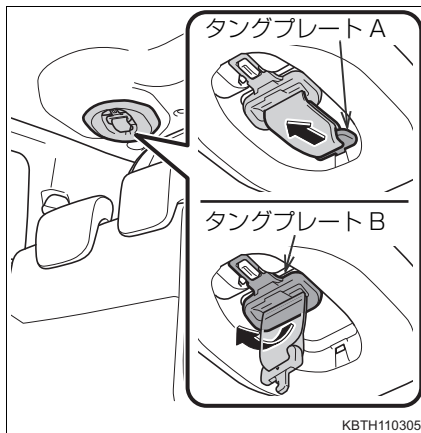
着け方・はずし方（リヤ中央席以外）

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでタングプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

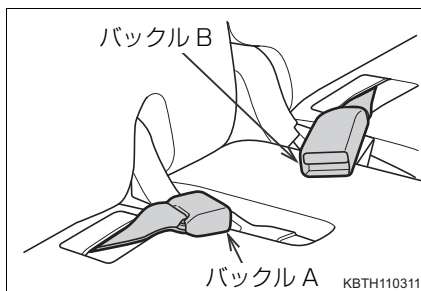


着け方（リヤ中央席）

- 1 タングプレート A を取り出す
- 2 タングプレート B を取り出す
 タングプレートの端を矢印の方向に引いて取りはずします。

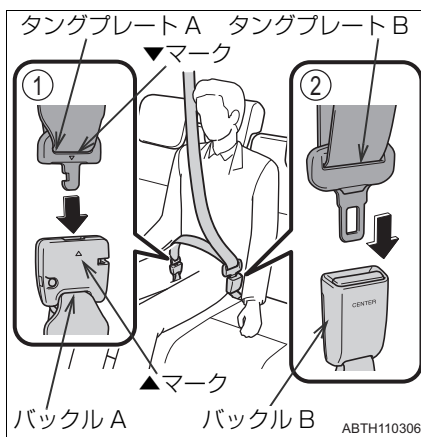


- 3 バックル A とバックル B を取り出す



- 4 ベルトを固定するには、タングプレート A、タングプレート B の順に“カチッ”と音がするまでタングプレートをバックルに挿し込む

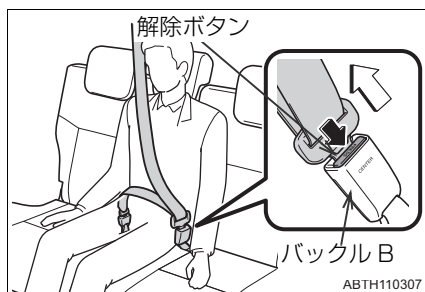
- ① タングプレート A、バックル A
 タングプレート A の▼マークとバックル A の▲マークを合わせます。
- ② タングプレート B、バックル B



はずし方・格納の仕方（リヤ中央席）

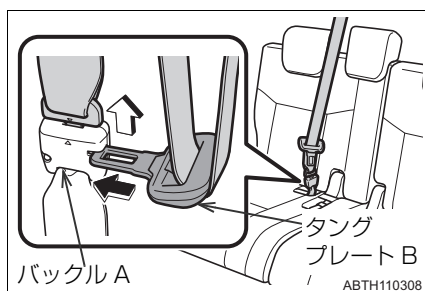
リヤ中央席シートベルトは、リヤシートを折りたたむ場合など必要ときに分離・格納することができます。安全のため、ベルトを分離したときは必ずタングプレート B を所定の場所に格納してください。

- 1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する

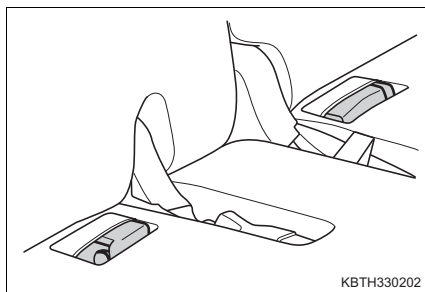


- 2 タングプレート B をバックル A の切り欠きに挿し込み、ベルトを分離する

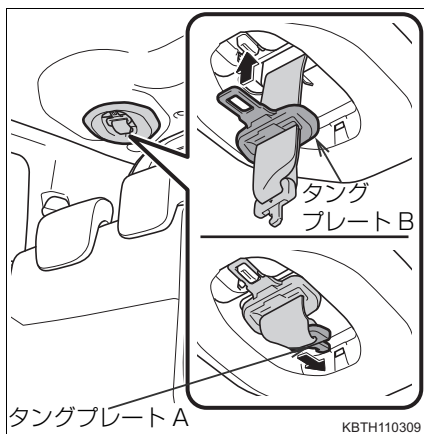
シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



- 3 バックルを格納する



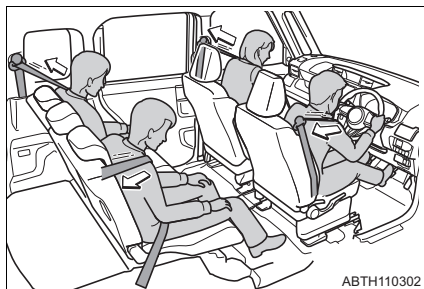
- 4 タングプレート B が確実に固定されるように、ホルダーの突起部に押し込む
- 5 タングプレート A が確実に固定されるまで、しっかりと奥まで押し込む



シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ左右席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは通常は作動しません。



 知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ シートベルトプリテンショナーについて（フロント席、リヤ左右席）

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ お子さまのシートベルトの使い方

このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトを正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

警告**■ 妊娠中の女性の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 疾患のあるかたの場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

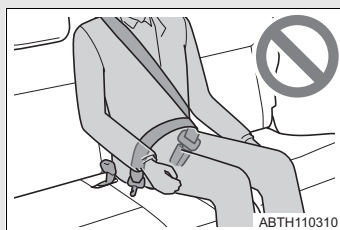
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ず SUBARU 販売店で交換してください。

警告**■シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやタングプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- タングプレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにSUBARU 販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、SUBARU 販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■分離格納式シートベルトについて

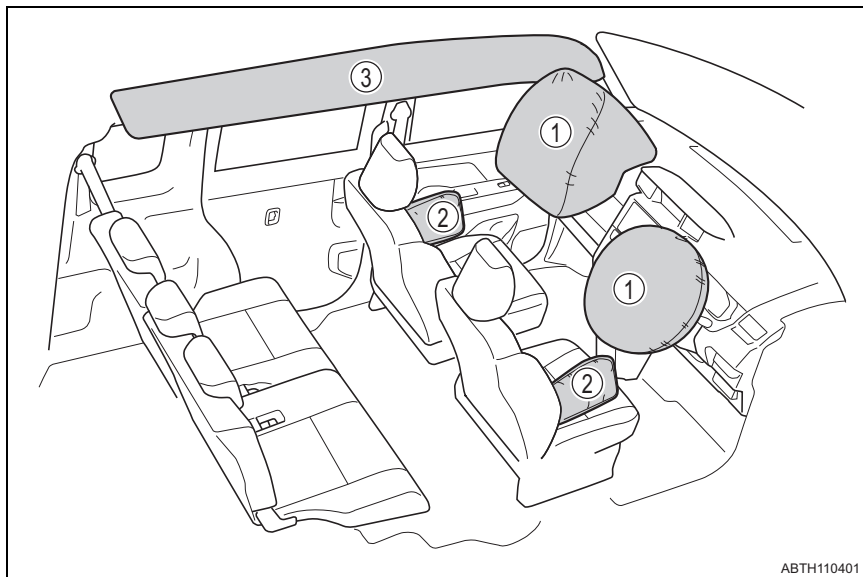
- 分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずタングプレート A とバックルを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 助手席側のリヤシートを前に倒した状態で、リヤ中央席に座らないでください。倒したシートにリヤ中央席のシートベルトバックルが挟まれるため、正しく装着することができません。事故などの場合にシートベルトが十分な効果を発揮できず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 分離格納式シートベルトを格納するときは、タングプレートを確実に挿し込み、固定してください。正しく格納していないと、走行中にタングプレートが飛び出し、乗員にあたるなどしてけがをするおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド&カーテンエアバッグ

- ② SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンエアバッグ
(フロント席とリヤ左右席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

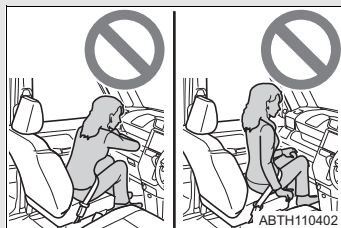
警告

■SRS エアバッグについて

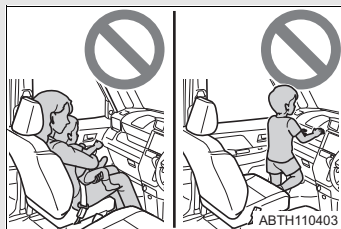
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

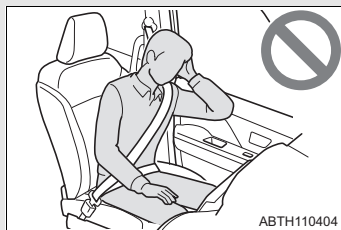
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤシートに乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 44)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



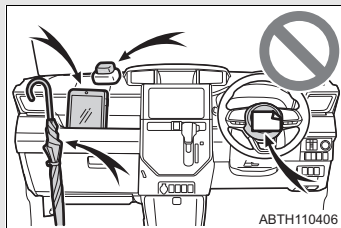
警告

■SRS エアバッグについて

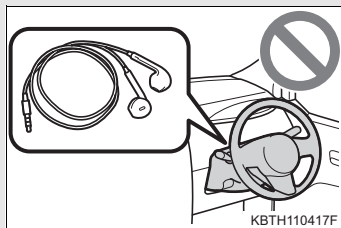
- 助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



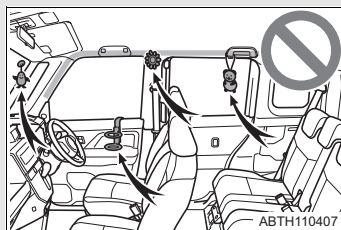
- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ケーブルなどをひっかけたりしないでください。
スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限シールを除く：→ P. 470)



- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

 警告**■ SRS エアバッグについて**

- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず SUBARU 販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

SUBARU 販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動するとき**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

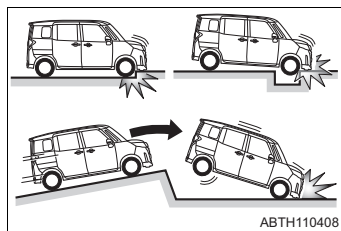
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンエアバッグ）

SRS サイド&カーテンエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 50km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

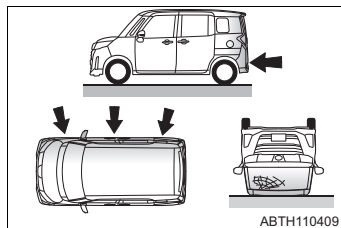
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

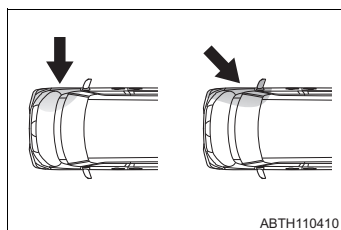
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンエアバッグ）

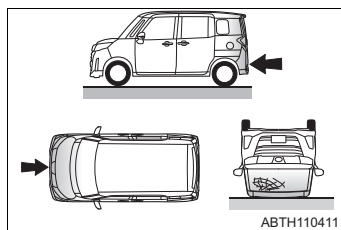
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

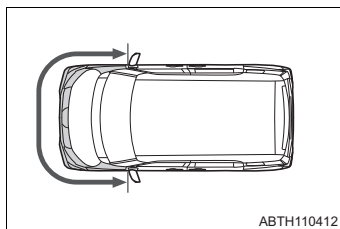
- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



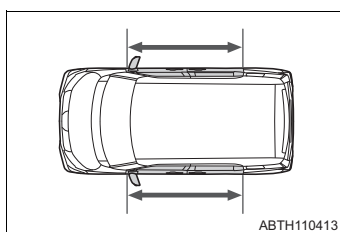
■ SUBARU 販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、修理・点検が必要になります。できるだけ早く SUBARU 販売店へご連絡ください。

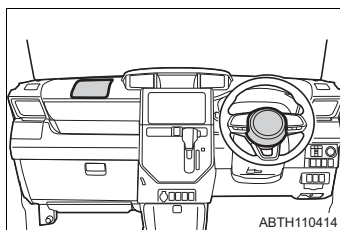
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



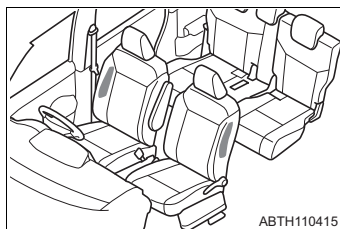
- SRSサイド&カーテンエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



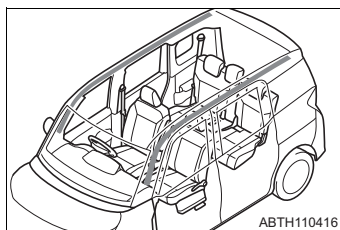
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRSカーテンエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

リヤゲートを閉じてください。

リヤゲートが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかに SUBARU 販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所にお車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ず SUBARU 販売店で点検を受けてください。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 44)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドブルーフ(→ P. 132)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 176)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・スライドドア・リヤゲートやシート・アームレストなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 44 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- SUBARU では、より安全にお使いいただくために、SUBARU 純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
SUBARU 純正チャイルドシートは、SUBARU 車のために作られたチャイルドシートです。SUBARU 販売店で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 51)

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN (ECE) R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kg まで

グループ0⁺：13kg まで

グループⅠ：9 ～ 18kg

グループⅡ：15 ～ 25kg

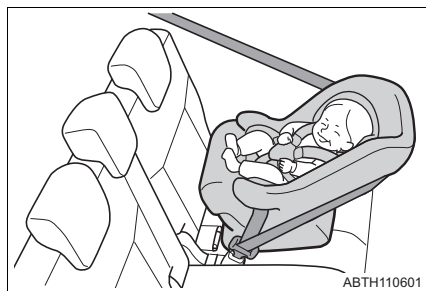
グループⅢ：22 ～ 36kg

※ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

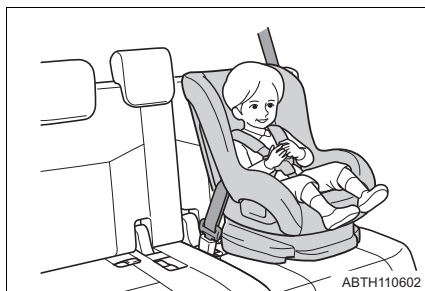
▶ ベビーシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当



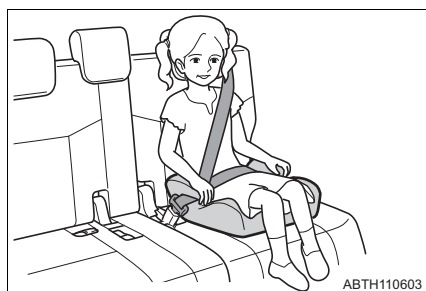
▶ チャイルドシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0⁺、I に相当



▶ ジュニアシート

UN (ECE) R44 基準のグループ II、III に相当



 警告**■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- SUBARU では、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

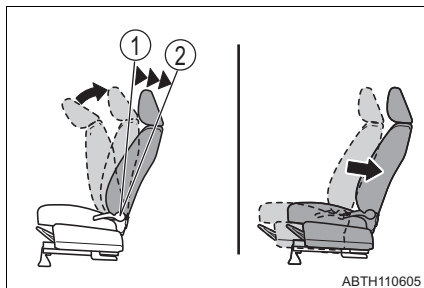
- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 51）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、カーゴルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは**■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき**

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (①) まで起こし、4 段目の固定位置 (②) まで調整する
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外す (→ P. 160)
- シートをいちばん後ろに下げる



⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。

後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

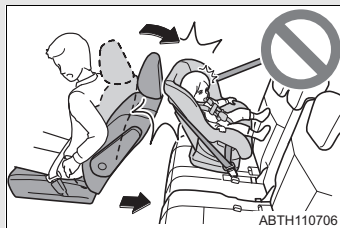


警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 52）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 55）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

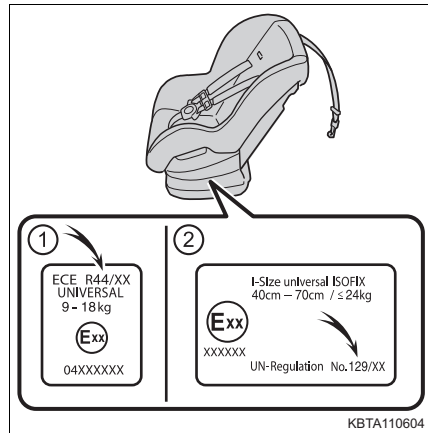
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶ 法規番号の表示例

- ① UN (ECE) R44 認可マーク※² 対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- ② UN (ECE) R129 認可マーク※² 対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

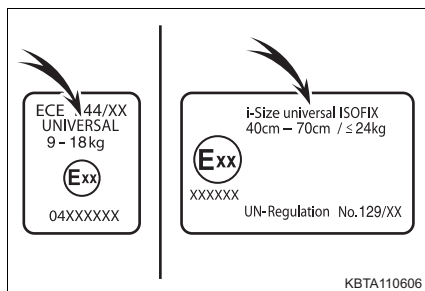
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

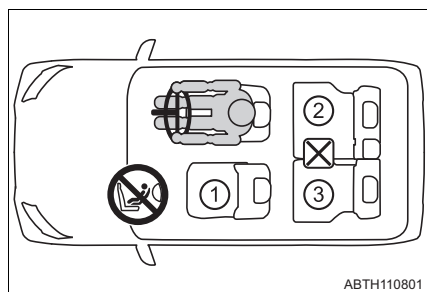
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル
「universal (汎用)」
- ・セミユニバーサル
「semi-universal (準汎用)」
- ・リストラクティッド
「restricted (限定)」
- ・ビークルスペシフィック
「vehicle specific (特定車両)」



KBTA110606

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



ABTH110801

※1, 2, 3 ①	U ※5
※3, 4 ②	U L 
※3, 4 ③	U L 



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル (汎用) カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表 (→ P. 55) に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-SizeチャイルドシートおよびISOFIXチャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。

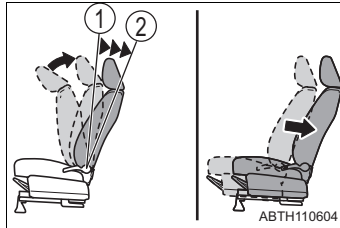


チャイルドシートの取り付けに適していません。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けなくてください。

- ※1 シートをいちばん後ろに下げた状態で取り付けてください。
- ※2 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (①) まで起こし、4 段目の固定位置 (②) まで調整してください。



- ※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。
- ※4 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置まで起こしてください。
- ※5 チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
i-Size 着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 / L2）	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後向きチャイルドシート
R2	小型後向きチャイルドシート
R2X	小型後向きチャイルドシート
R1	後向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適用範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
SUBARU 純正チャイルドシート (i-Size) (ISOFIX 固定専用)	身長：～ 83cm (体重：～ 13kg)	後向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、 身長：76 ～ 100cm (体重：～ 18kg)	前向き	×	○	○

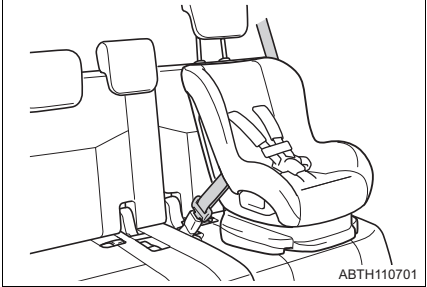
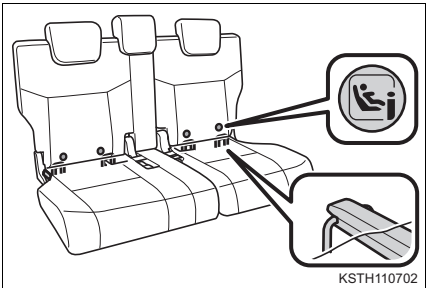
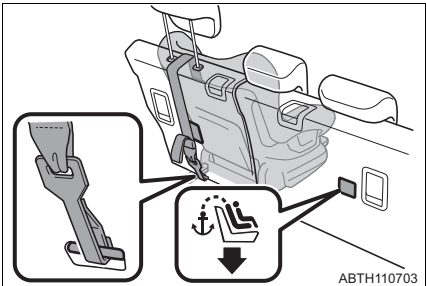
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 58
ロアアンカレッジで固定する		P. 61
テザーベルトを固定する		P. 64

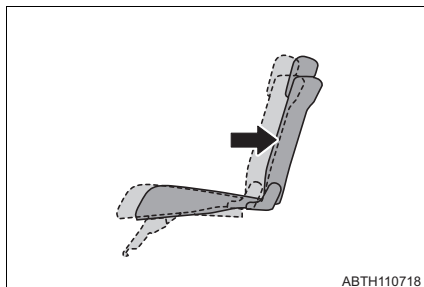
チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

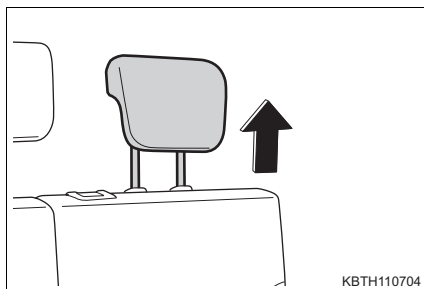
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 52）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する（→ P. 48）
- 2 背もたれを一度前に倒し、1 段目の固定位置まで起こす
- 3 シートをいちばん後ろに下げる

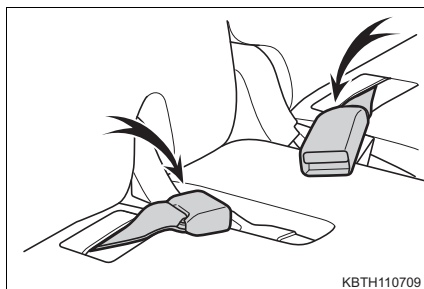


- 4 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 160）

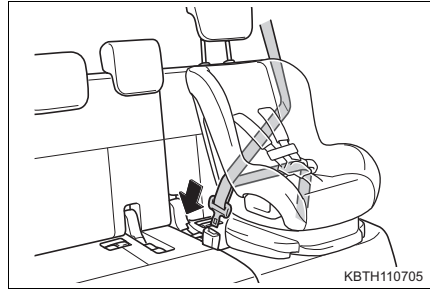


- 5 チャイルドシートを取り付ける側のリヤ中央席シートベルトのバックルを車両中央に向けて取り出す



- 6 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートバックルに“カチッ”と音がするまで差し込み、ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



- 7 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

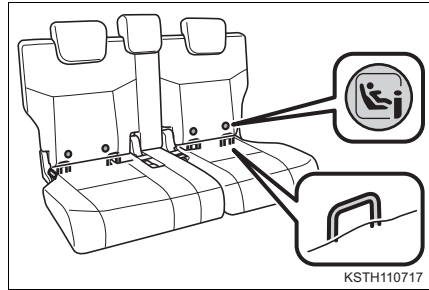
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートをロアアンカレッジで固定する

■ ロアアンカレッジについて

このお車はリヤ外側席にロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)



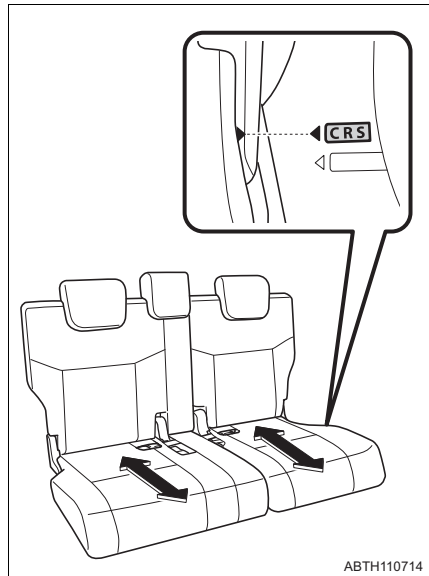
■ ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にある)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 52)

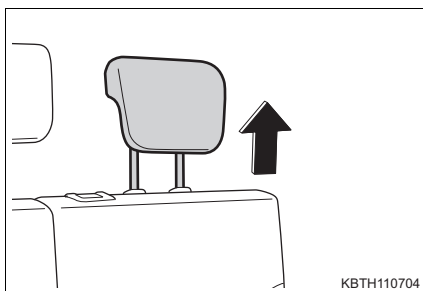
- 1 背もたれを一度前に倒し、1 段目の固定位置まで起こす
- 2 指定の位置までスライドを調整する

シートをいちばんうしろにさげてから、▶ マークを前方へ5 段目固定位置の ◀ (CRS) マークに合わせてください。

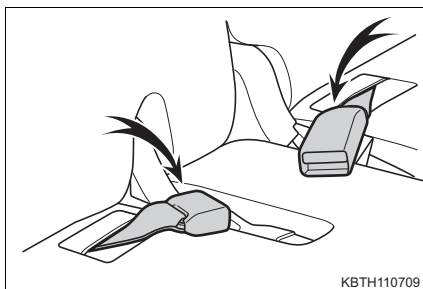


- 3** ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。(→ P. 160)



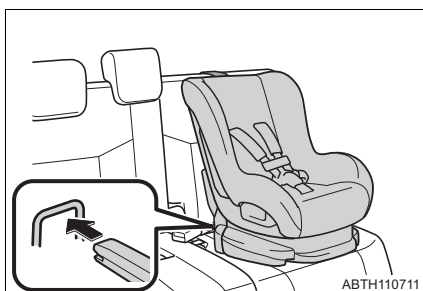
- 4** チャイルドシートを取り付ける側のリヤ中央席シートベルトのバックルを車両中央に向けて取り出す



- 5** チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシートロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 6** 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

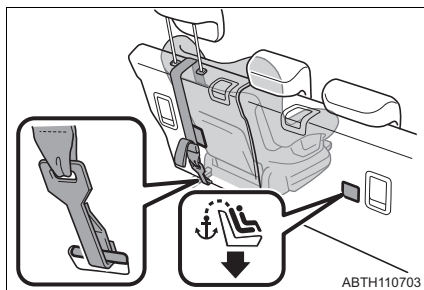
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

このお車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



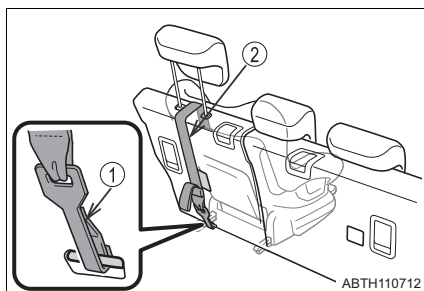
■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1** トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

- ① フック
- ② テザーベルト



- 2** 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■リヤヘッドレストについて

- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヘッドレストの取り外しが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

イモビライザー (盗難防止用エンジン始動ロックシステム)

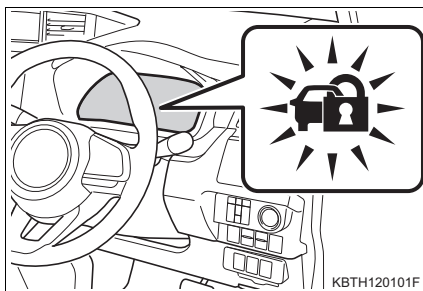
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

プッシュエンジンスイッチを“OFF”にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が 消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）のメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティ用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）を正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯.....68

計器類.....74

TFT カラーマルチ

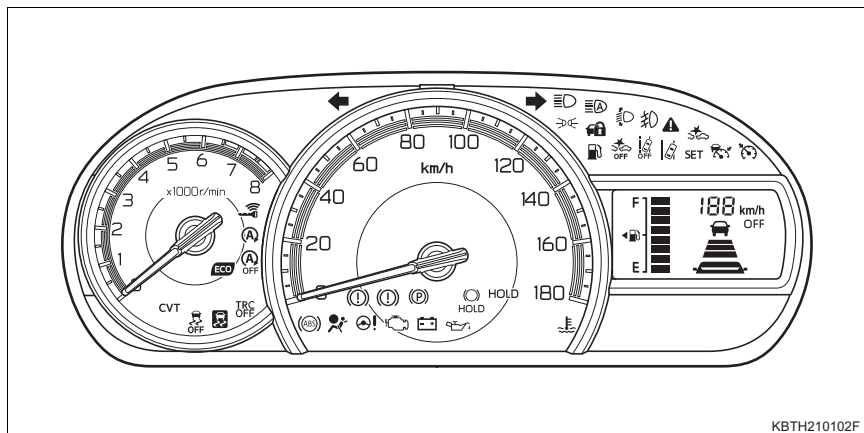
インフォメーション

ディスプレイ.....76

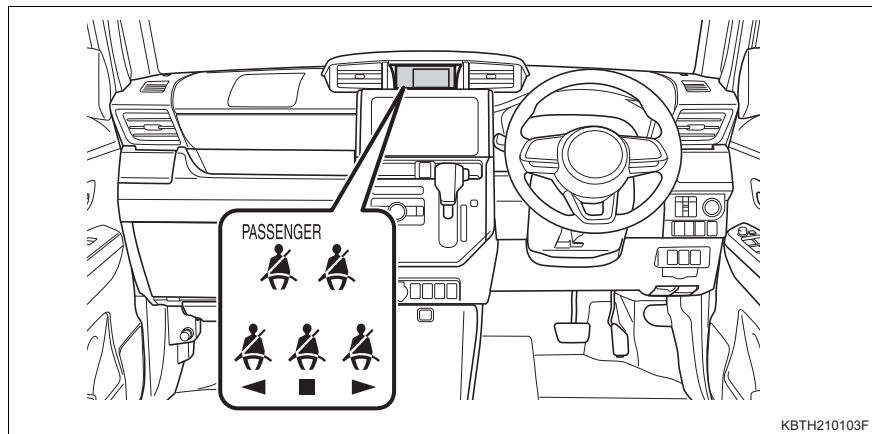
警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター



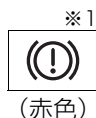
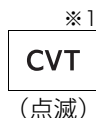
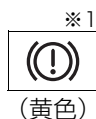
◆ インストルメントパネル中央



KBTH210103F

警告灯

システム異常などを警告します。

ブレーキ警告灯
(→ P. 437)CVT 警告灯
(→ P. 437)ブレーキ警告灯
(→ P. 437)SRS エアバッグ/
プリテンショナー警告灯
(→ P. 438)チャージ警告灯
(→ P. 437)

ABS 警告灯 (→ P. 438)

オイルプレッシャー警
告灯 (→ P. 437)オートブレーキホールド
作動表示灯
(→ P. 438)

高水温警告灯 (→ P. 437)

ステアリング制御警告灯
(→ P. 438)エンジン警告灯
(→ P. 437)ADB 警告灯
(→ P. 438)

- | | |
|--|---|
| <p>※1※2</p>  <p>スマートアシスト OFF
表示灯
(→ P. 438)
(点灯/点滅)</p> | <p>※1</p>  <p>LED ヘッドランプオートレ
ベライザー警告灯
(→ P. 439)</p> |
| <p>※1※3</p>  <p>車線逸脱警報 OFF
表示灯 (→ P. 438)
(点灯/点滅)</p> | <p>※1※8</p>  <p>キーレスアクセス警告灯
(→ P. 439)</p> |
| <p>※1※4</p>  <p>マスターウォーニング
(→ P. 438)</p> |  <p>燃料残量警告灯
(→ P. 439)</p> |
| <p>※5</p>  <p>スマートアシスト
停止警告灯
(→ P. 461)</p> | <p>※5</p>  <p>運転席シートベルト
警告灯
(→ P. 439)
(点滅)</p> |
| <p>※1</p>  <p>ACC 警告灯
(→ P. 439)
(黄色)</p> | <p>※5</p>  <p>助手席シートベルト
警告灯
(→ P. 439)
(点滅)</p> |
| <p>※1※6</p>  <p>VSC (VDC) 作動表示灯
(→ P. 439)</p> | <p>※5※9</p>  <p>後席シートベルト
警告灯
(→ P. 440)</p> |
| <p>※7</p>  <p>アイドリングストップ
キャンセル表示灯
(→ P. 439)
(点滅)</p> | <p>※1※10</p>  <p>パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 440)
(点滅)</p> |

- ※¹ 作動確認のためにプッシュエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。SUBARU 販売店で点検を受けてください。
- ※² スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。
- ※³ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報を停止にしたときも点灯します。
- ※⁴ スマートアシストが作動したときも点灯します。(→ P. 235)
- ※⁵ インストルメントパネル中央に点灯します。
- ※⁶ 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。
- ※⁷ アイドリングストップシステムを非作動にしたときは点灯します。
- ※⁸ 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。点滅した場合はアクセスキーが作動範囲外にある、またはアクセスキーの電池切れに近い状態であることを示します。(→ P. 442)
- ※⁹ 後席シートベルトをはずした状態で、プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき、もしくは後席シートベルトをはずすと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または走行後約 30 秒経過すると消灯します。
また、走行後に後席シートベルトをはずした状態でスライドドアを開閉すると点灯します。
- ※¹⁰ パーキングブレーキがかかっているときは、プッシュエンジンスイッチを“ON”にすると点灯します。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示器表示灯
(→ P. 202)



VSC (VDC) 作動表示灯
(→ P. 326)



ライティングスイッチ
表示灯 (→ P. 211)



VSC (VDC) OFF 表示灯
(→ P. 327)



ハイビーム / パッシング
表示灯
(→ P. 212)



TRC OFF 表示灯
(→ P. 326)



フロントフォグランプ
表示灯 (→ P. 220)



ACC 表示灯
(→ P. 288)



低水温表示灯



クルーズコントロール
表示灯
(→ P. 293)



スマートアシスト作動灯
(→ P. 235)



ACC SET 表示灯
(→ P. 280)



スマートアシスト OFF
表示灯
(→ P. 233)



先行車表示灯 (→ P. 280)



車線逸脱警報作動灯
(→ P. 236)



ACC OFF 表示灯
(→ P. 280)



車線逸脱警報 OFF 表示灯
(→ P. 233)



エコドライブインジケー
ターランプ (→ P. 182)



アイドリングストップ
表示灯
(→ P. 298)



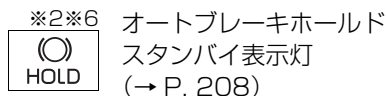
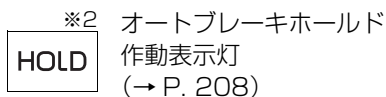
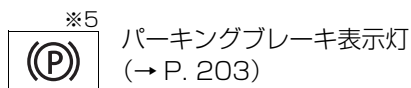
セキュリティ表示灯
(→ P. 66)



アイドリングストップ
キャンセル表示灯
(→ P. 299)



ADB 作動灯
(→ P. 215)



- ※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。
- ※2 作動確認のためにプッシュエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。SUBARU 販売店で点検を受けてください。
- ※3 スマートアシストに異常があるときは点灯します。
- ※4 アイドリングストップシステムに異常があるときは点滅します。
- ※5 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約5km/h以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※6 オートブレーキホールド機能が ON のときは、エンジンをかけると点灯します。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

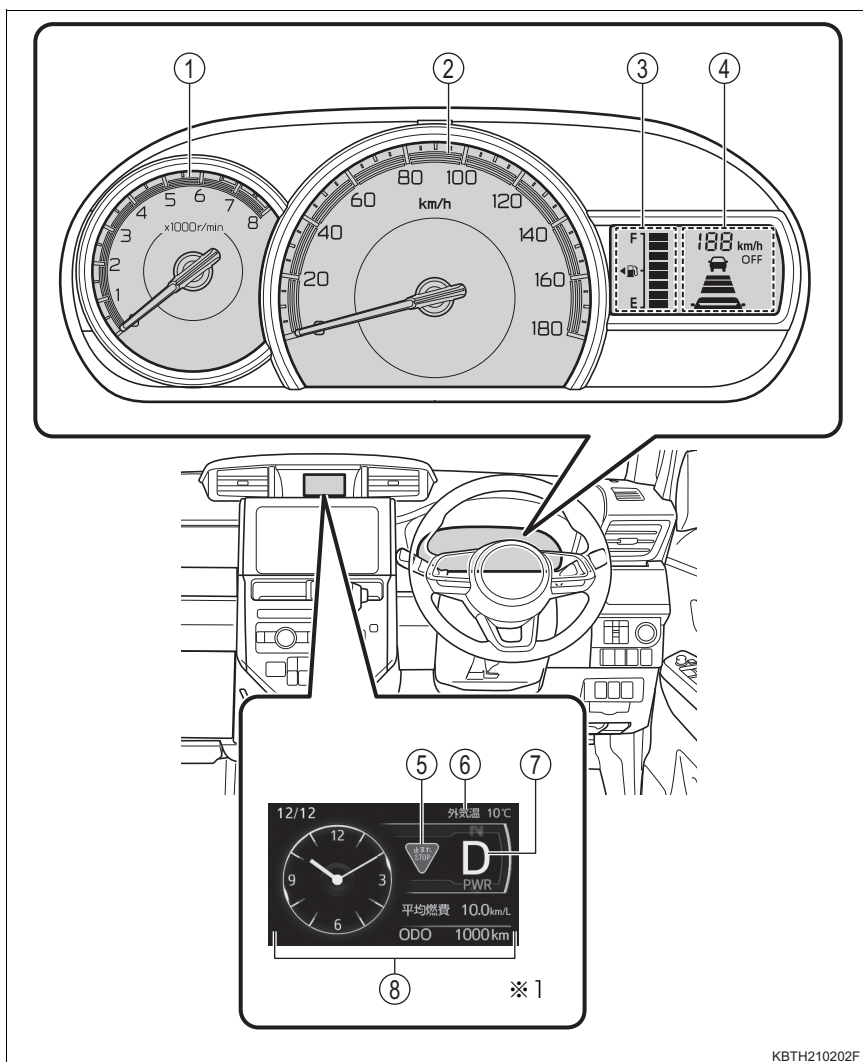
ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、プッシュエンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計のかわりに高水温警告灯(→ P. 437)が装備されています。高水温警告灯が赤色点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。(→ P. 483)

計器類



① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

③ 燃料計

燃料残量を示します。

④ 運転支援表示 (→ P. 280)

⑤ 標識表示 ※2

標識認識機能 (最高速度／一時停止) で認識した標識を表示します。(→ P. 276)

⑥ 外気温表示

外気温を表示します。(→ P. 80)

⑦ シフトポジション表示 ※2

選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 198)

⑧ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示・設定します。(→ P. 76)

※1 イラストは基本画面の代表例です。(時計モード)

※2 警告メッセージが表示されると、表示位置が変わります。

 知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

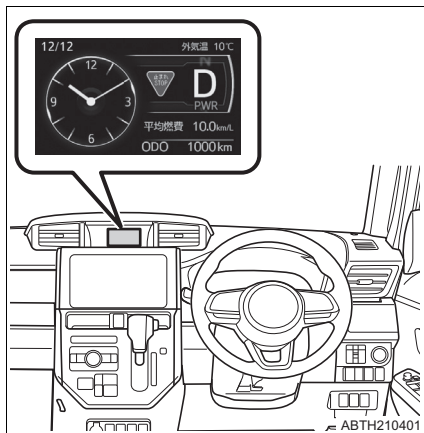
タコメーターの針がレッドゾーン (エンジンの許容回転数をこえている範囲) に入らないようにしてください。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

表示内容

- トリップインフォメーション
表示される項目は次のとおりです。
 - ・ オドメーター
 - ・ トリップメーター A / B
- ドライブインフォメーション
表示される項目は次のとおりです。
 - ・ アイドリングストップ時間
 - ・ 総アイドリングストップ時間
 - ・ 瞬間燃費
 - ・ 平均燃費
 - ・ 航続可能距離
 - ・ メッセージ確認
- 外気温表示 (→ P. 80)
外気温を表示します。
- 標識表示 ※ (→ P. 276)
- シフトポジション表示 ※ (→ P. 198)
- POWER モード表示 ※ (→ P. 199)
- エコキャラモード (→ P. 80)
- 設定 (→ P. 84)
日時の修正や、画面の設定・変更を行います。
- 警告メッセージ (→ P. 444)
各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。
- スマートアシスト機能停止表示 (→ P. 461)
- コーナーセンサー作動表示 (→ P. 307)



※ 警告メッセージが表示されると、表示位置が変わります。

表示切りかえ

操作スイッチを押して、画面の表示切りかえ、設定をします。

① DISP スイッチ

ドライブインフォメーションの表示を切りかえます。(→ P. 79)

② へ/✓スイッチ

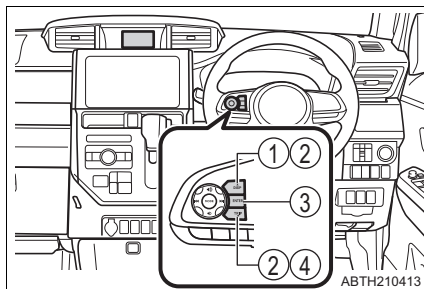
画面設定・変更時の上送り、下送りをします。(→ P. 84)

③ ENTER スイッチ

画面設定・変更時の決定・選択をします。(→ P. 84)

④ ODO/TRIP スイッチ

トリップインフォメーションの表示を切りかえます。(→ P. 78)



基本画面

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイは、時計モード、カレンダーモード、エコキャラモードの3つの基本画面があります。表示する基本画面を選択してください。(→ P. 85)

▶ 時計モード



▶ カレンダーモード



▶ エコキャラモード



トリップインフォメーション

ODO/TRIP スイッチを押すごとに次のように切りかわります。

① オドメーター

走行した総距離を表示します。

② トリップメーター A※

リセットしてからの走行距離を表示します。

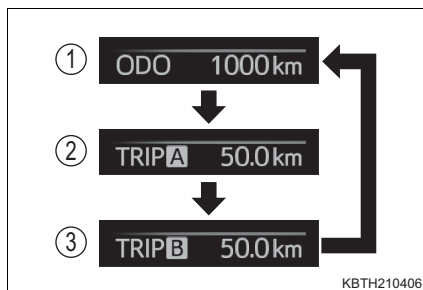
リセットするには、トリップメーター A の表示中に ODO/TRIP スイッチを 1 秒以上押します。

③ トリップメーター B※

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター B の表示中に ODO/TRIP スイッチを 1 秒以上押します。

※ : 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。



ドライブインフォメーション

DISP スイッチを押すごとに次のように切りかわります。

① アイドリングストップ時間

エンジンを始動してから停止にするまでのアイドリングストップ時間(アイドリングストップによるエンジン停止時間)を通算で表示します。

② 総アイドリングストップ時間

リセットしてからのアイドリングストップ時間(アイドリングストップによるエンジンの停止時間)を通算で表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間表示中に DISP スイッチを長押しします。

③ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

④ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・リセットするには、平均燃費表示中にDISPスイッチを長押しします。
- ・表示される平均燃費は、参考として利用してください。

⑤ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- ・表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

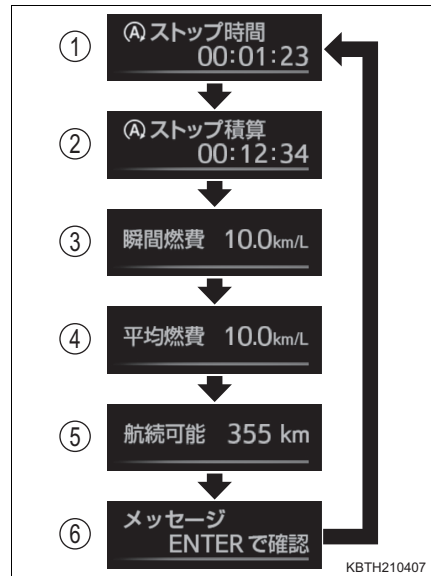
⑥ メッセージ確認

- 次のとき、「ENTER で確認」と表示されますので、ENTER スイッチを押してメッセージを確認してください。

- ・警告メッセージを記憶しているとき (→ P. 444)
- ・「スマアシ停止」と表示されているとき (→ P. 461)

メッセージを複数記憶している場合は、**△**スイッチを押すと表示が切りかわります。

- メッセージを記憶していないときは「メッセージなし」と表示されます。



外気温表示

- 外気温 (①) を表示します。

外気温：－ 30 ℃～ 60 ℃の間で表示します。

- 外気温が 3 ℃以下になると「凍結注意」の警告メッセージを表示します。(→ P. 455)



エコキャラモード

エコキャラモードの画面表示では、環境に配慮した運転をしているとき、車両下のイルミネーション (①) が緑色に変化したり、スタンプ (②) が増えたりします。

- ・スタンプは最大 10 まで増えます。
- ・スタンプはリセットすることができます。(→ P. 94)



オープニング画面

プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき、演出画面を表示したあとのお知らせ画面を数秒間表示します。

次のお知らせ画面を表示することができます。

- 新年のごあいさつ
- エンジンオイル交換
- 誕生日
- オイルフィルター交換
- 記念日
- タイヤローテーション
- 車検日
- 走行距離
- 点検日

■ 新年のごあいさつ

1 月 1 日に表示します。

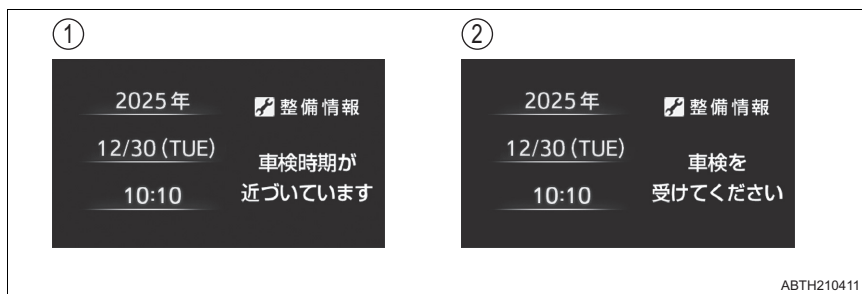
■ 誕生日、記念日

設定した日付に表示します。

■ 車検日、点検日

設定日まで残り 1 か月を切ったとき、設定日以降に一度ずつ表示します。

▶ 例：車検日



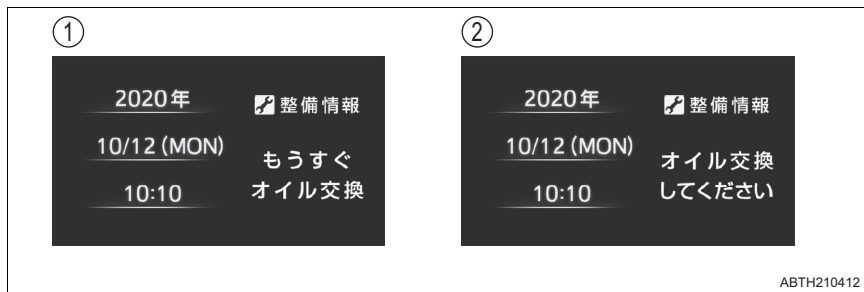
① 設定日まで残り 1 か月を切ったとき

② 設定日以降

■ エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーション

設定距離まで残り 500km を切ったとき、設定距離に到達したときに一度ずつ表示します。

▶ 例：エンジンオイル交換



- ① 設定距離まで残り 500km を切ったとき
- ② 設定距離に到達したとき

エンディング画面

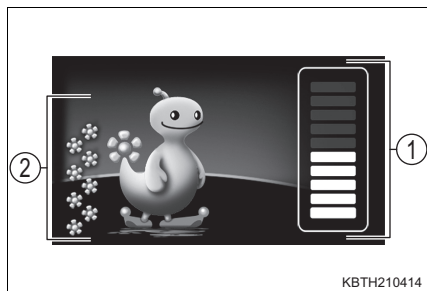
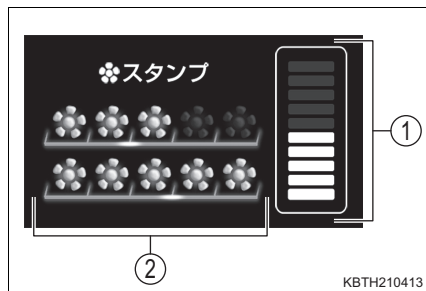
プッシュエンジンスイッチを“OFF”にすると、 スタンプの画面を表示したあとに走行記録を表示します。

■ スタンプ

エンジンを始動してから停止するまでに、環境に配慮した運転をしていると画面右側のゲージが増えます。ゲージが全て表示になると  スタンプが1つ増え、その後、ゲージは非表示になります。

- ・  スタンプは最大10まで増えます。
- ・  スタンプはリセットすることができます。(→ P. 94)

▶ 時計モード、カレンダーモード ▶ エコキャラモード表示時表示時



① ゲージ

②  スタンプ

■ 走行記録

エンジンを始動してから停止するまでの走行記録を一覧で表示します。

今回の走行記録		
	走行距離	24.4km
	走行時間	0h 45m
	平均速度	35km/h
	今回燃費	20.4km/L
	節約燃料	60mL
	スタンプ	5/10pt

KBTH210415

設定

プッシュエンジンスイッチが“ON”で停車時に、ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示し、表示の設定や調整、機能の ON / OFF の設定をすることができます。



ABTH210416

車両走行中は操作できません。必ず安全な場所に停車して操作してください。



KBTH210417

次の内容を設定、調整ができます。

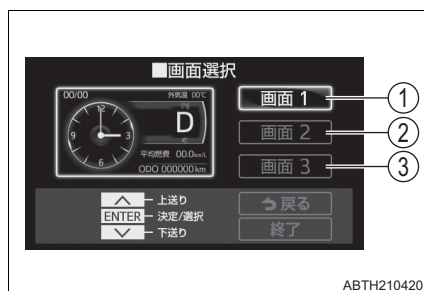
- 基本画面 (→ P. 85)
- 日時 (→ P. 86)
- メーター・ディスプレイの照度 (→ P. 87)
- 画面色 (→ P. 88)
- お知らせ通知日 (→ P. 88)
- メンテナンス (→ P. 90)
- その他の表示オプション (→ P. 92)
- スタンプリセット (→ P. 94)
- ブザー (→ P. 95)
- スマートアシスト (→ P. 96)
- ドアロック (→ P. 97)
- ワイパー (→ P. 98)
- 方向指示灯 (→ P. 98)
- オートエアコン (→ P. 99)
- パワースライドドア (→ P. 99)
- ウェルカムランプ (→ P. 100)
- 表示設定初期化 (→ P. 102)

■ 基本画面

表示する基本画面を選択できます。

(初期設定：→ P. 102)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「画面選択」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを押して表示する基本画面を選択し、ENTER スイッチを押す
 - ① 時計モード
 - ② カレンダーモード
 - ③ エコキャラモード



ABTH210420

■ 日時

日時を設定できます。

スマートフォン連携ディスプレイオーディオ装着車、純正ナビゲーションシステム装着車：日時の自動補正の ON / OFF を設定できます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「自動補正」・「時」・「分」・「12H/24H」を選択し、ENTER スイッチを押す
 - ・ 自動補正は ENTER スイッチを押すたびに「ON」と「OFF」が切り替わります。
 - ・ 自動補正を「ON」に設定した場合は、日時の調整はできません。

・ 時・分は  が表示された後、

$\wedge/\vee$ スイッチで数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。設定時刻の 0 秒にリセットされた状態から時計が作動を始めます。

- ・ 12H/24H は ENTER スイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切りかわります。
- ・ 12H/24H の設定に関わらず時刻調整時は 24 時間表示になります。

- 4 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「年」・「月」・「日」の画面に切りかえる

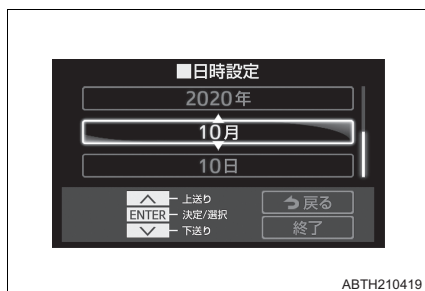
- 5 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「年」・「月」・「日」を選択し、ENTER スイッチを押す

 が表示された後、 $\wedge/\vee$ スイッチ

を押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。



ABTH210418



ABTH210419

■ メーター・ディスプレイの照度

メーターとディスプレイの昼照度または夜照度（→ P. 103）を調整できます。

（初期設定：→ P. 102）

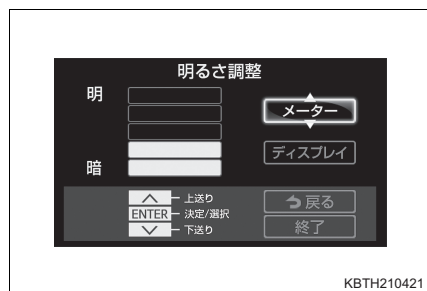
- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する。
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「明るさ調整」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 4 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「メーター」・「ディスプレイ」を選択し、ENTER スイッチを押す



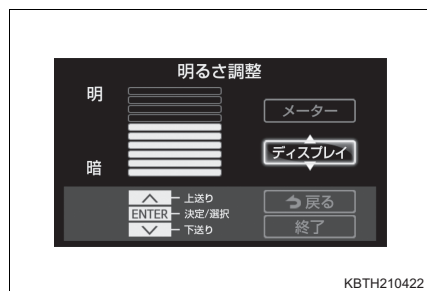
- ・ が表示された後、 $\wedge/\vee$ スイッチで照度を調整し、再度 ENTER スイッチを押します。
- ・ 昼照度は周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。
- ・ 夜照度は周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。

▶ メーター

▶ ディスプレイ



5 段階で調整できます。



10 段階で調整できます。

■ 画面色

ブラウン、またはブルーの画面色を選択できます。

(初期設定：→ P. 102)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ スイッチを押して「画面色選択」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 4 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ スイッチを押して「色 1」(ブラウン)、または「色 2」(ブルー)を選択し、ENTER スイッチを押す



ABTH210423

■ お知らせ通知日設定

オープニング画面で表示される誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日を設定できます。

(初期設定：→ P. 102)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ スイッチを押して「お知らせ設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 4 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ スイッチを押して「お知らせ通知日設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 5 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ スイッチを押して 1 ～ 9 の「設定日」を選択し、ENTER スイッチを押す

4 ～ 9 の設定日は $\blacktriangle/\blacktriangledown$ スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。



KBTH210424

- 6 カテゴリでENTERスイッチを押

して  が表示された後、

 スイッチで項目を選択する

誕生日、記念日、車検日、点検日のいずれかを選択し、再度 ENTER スイッチを押します。



- 7   スイッチを押して日付の「年」・「月」・「日」を選択し、ENTER スイッチを押す

・  が表示された後、  スイッチで数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。

・ 誕生日、記念日は、「年」の設定はありません。

- 8 設定完了後、  スイッチを押して「戻る」を選択し、ENTER スイッチを押す

選択したカテゴリと「設定済」が表示されます。



■ メンテナンス設定

オープニング画面で表示されるエンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの時期を距離で設定できます。

(初期設定：→ P. 102)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「お知らせ設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 4 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「メンテナンス設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 5 ON / OFF を設定する場合は、 $\wedge/\vee$ スイッチを押して各メンテナンス項目の「ON」、または「OFF」を選択し、ENTER スイッチを押す

オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。

▶ 表示が「OFF」で距離が設定されていない場合は

「設定」の項目が表示されず、「ON」に切りかえると、リセットの設定画面が表示されます。



▶ すでに距離が設定されている場合は

ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切りかわります。



- 6 距離を設定、リセットする場合は、**▲/▼**スイッチを押して各メンテナンス項目の「設定」を選択し、ENTER スイッチを押す。オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、**▲/▼**スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。



- 7 「リセット」が選択されている画面が表示されたら、ENTER スイッチを押す

すでに距離が設定されている場合は、次回お知らせまでの距離が表示されています。



- 8 **▲/▼**スイッチを押して距離を選択し、ENTER スイッチを押す



が表示された後、**▲/▼**スイッチで距離を設定し、再度ENTERスイッチを押します。



- 9 **▲/▼**スイッチを押して「決定」を選択し、ENTER スイッチを押す



次回お知らせまでの距離が表示されます。



■ その他の表示オプション設定

次の機能の ON / OFF を設定することができます。

- オープニング画面、エンディング画面の表示
- エコドライブインジケータランプの表示 (→ P. 182)
- 平均燃費の給油時リセット
- アイドリングストップ表示の自動切りかえ
- ハンドルポジションモニター (ハンドル位置の警告メッセージの表示) (→ P. 455)

(初期設定：→ P. 102)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 **▲/▼**スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 3 **▲/▼**スイッチを長押しするか、数回押して「表示オプション」の画面を切りかえる

▶ 1 画面目



▶ 2 画面目

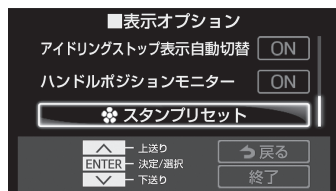


- 4 **▲/▼**スイッチを押して各機能の「ON」、または「OFF」を選択し、ENTER スイッチを押す
ENTER スイッチを押すごとに「ON」、
「OFF」が切りかわります。

■ スタンプリセット

増えた  スタンプをリセットすることができます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2  スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3  スイッチを長押しするか、数回押して「表示オプション」の画面を切り替え、「 スタンプリセット」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 4  スイッチを押して、「はい」を選択し、ENTER スイッチを押す



KBTH210436



ABTH210437

■ ブザー設定

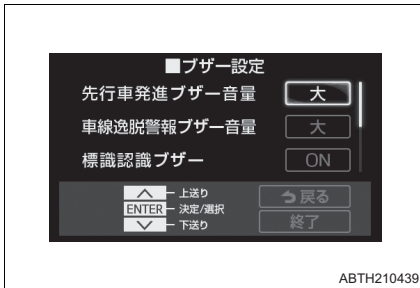
次の設定を変更することができます。

- 先行車発進ブザー音量 (→ P. 273)
- 車線逸脱警報・路側逸脱警報ブザー音量 (→ P. 265)
- 標識認識ブザーの ON / OFF (→ P. 276)
- 全車速追従機能付 ACC 先行車認識ブザーの ON / OFF (→ P. 280)

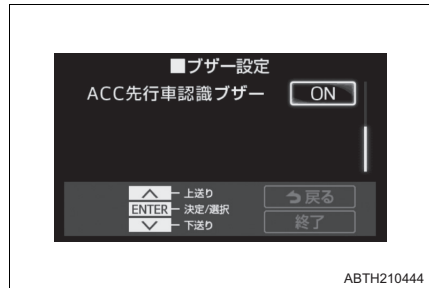
(初期設定：→ P. 102)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「ブザー設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「ブザー設定」の画面を切りかえる

▶ 1 画面目



▶ 2 画面目



- 4 $\wedge/\vee$ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

ENTER スイッチを押すごとに表示される設定が切りかわります。

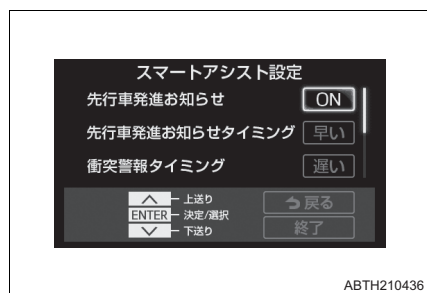
■ スマートアシスト設定

次の設定を変更することができます。

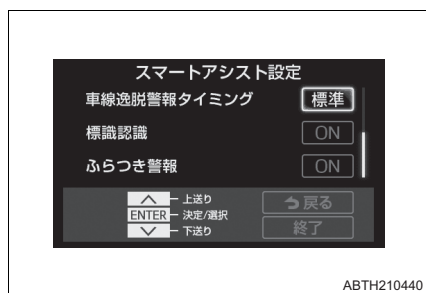
- 先行車発進お知らせの ON / OFF (→ P. 273)
 - 先行車発進お知らせのタイミング (→ P. 273)
 - 衝突警報のタイミング (→ P. 243)
 - 車線逸脱警報のタイミング (→ P. 265)
 - 標識認識機能 (進入禁止 / 最高速度 / 一時停止) の ON / OFF (→ P. 276)
 - ふらつき警報の ON / OFF (→ P. 270)
- (カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「スマートアシスト設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 4 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「スマートアシスト設定」の画面を切り替える

▶ 1 画面目



▶ 2 画面目



- 5 **▲/▼**スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す
- ・ ENTER スイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。
 - ・ ENTER スイッチを押したあと、が表示されたときは**▲/▼**スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

■ ドアロック設定

次の設定を変更することができます。

- アンサーバックブザー音量（キーレスアクセス作動の合図）
（→ P. 113）
- アンサーバック非常点滅表示灯の ON / OFF（キーレスアクセス作動の合図）（→ P. 113）
- ウェルカムドアロック解除の ON / OFF（→ P. 126）
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 **▲/▼**スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 **▲/▼**スイッチを押して「ドアロック設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

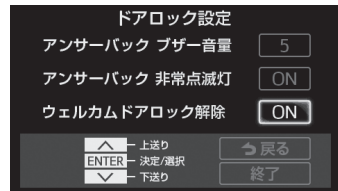
- 4 **▲/▼**スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

- ・ ENTER スイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。
- ・ ENTER スイッチを押したあと、



が表示されたときは

▲/▼スイッチを押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。



ABTH210443

■ ワイパー設定

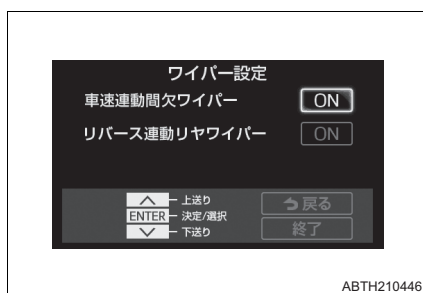
次の設定を変更することができます。

- 車速連動間欠ワイパーの ON / OFF (→ P. 221)
- リバース連動リヤワイパーの ON / OFF (→ P. 223)

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを押して「ワイパー設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 4 $\wedge/\vee$ スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押して設定を切り替える
ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。



ABTH210446

■ 方向指示灯設定

ワンタッチターンシグナル（方向指示レバーを途中まで操作したときの方向指示器表示灯3回点滅）のON/OFFを設定することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「車両設定」の画面を切り替え、「方向指示灯設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 4 ENTER スイッチを押して設定を切り替える

ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。



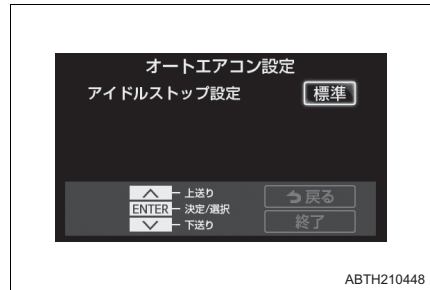
ABTH210447

■ オートエアコン設定

オートエアコン使用時のアイドリングストップシステムによるアイドリングストップの設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「車両設定」の画面を切り替え、「オートエアコン設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 4 ENTER スイッチを押して設定を切り替える
 - ・ ENTER スイッチを押すごとに「標準」、「空調」が切り替わります。
 - ・ 「空調」に設定するとエアコンの作動が優先され、アイドリングストップシステムによるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。(→ P. 298)



■ パワースライドドア設定

次の設定を変更することができます。

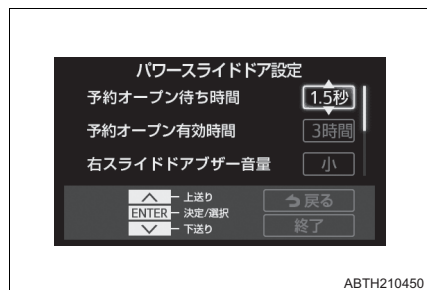
- 予約オープン待ち時間（ウェルカムオープン機能）(→ P. 133)
- 予約オープン有効時間（ウェルカムオープン機能）(→ P. 134)
- 左スライドドアブザー音量（操作、開閉時のブザー音量）
- 右スライドドアブザー音量（操作、開閉時のブザー音量）

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

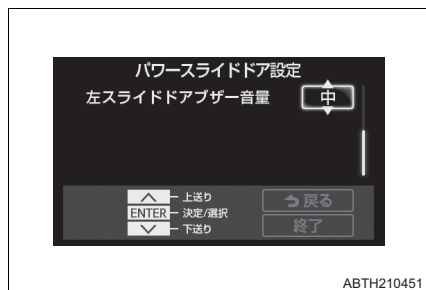
- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 $\wedge/\vee$ スイッチを長押しするか、数回押して「車両設定」の画面を切り替え、「パワースライドドア設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 4 **▲/▼**スイッチを長押しするか、数回押して「パワースライドドア設定」の画面を切り替える

▶ 1 画面目



▶ 2 画面目



- 5 **▲/▼**スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押す

・ ENTER スイッチを押すごとに表示される設定に切り替わります。

・ ENTER スイッチを押したあと、が表示されたときは**▲/▼**スイッチ

を押して設定を選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

■ ウェルカムランプ設定

次の設定を変更することができます。

- ルームランプ連動（アクセスキーを携帯して車両に近付くと、室内灯が点灯）の ON / OFF (→ P. 127)
- テールランプ連動（ドアロック解除時に車幅灯、番号灯、尾灯が点灯）の ON / OFF (→ P. 127)

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 **▲/▼**スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 **▲/▼**スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「ウェルカムランプ設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

- 4 **▲/▼**スイッチを押して各機能の設定を選択し、ENTER スイッチを押して設定を切り替える
- ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り替わります。



■ 表示設定初期化

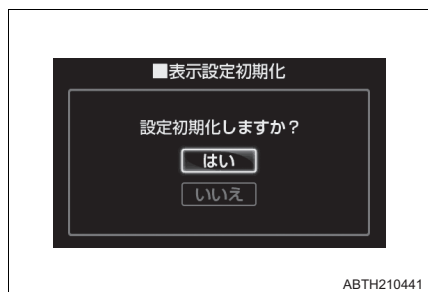
表示の設定を初期化（出荷時の状態）することができます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する。

- 2 **▲/▼**スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「表示設定初期化」を選択し、ENTER スイッチを押す



- 3 **▲/▼**スイッチを押して、「はい」を選択し、ENTER スイッチを押す



■ 初期設定一覧

項目		初期設定
画面選択	基本画面	時計モード
日時設定	自動補正	ON
	12H / 24H	24H
表示オプション	メーターの照度	昼照度：5
		夜照度：4
	ディスプレイの照度	昼照度：10
		夜照度：6
	画面色	メーター 文字板色
	誕生日、記念日、車検日、点検日	未設定
	エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの設定	OFF
	エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの距離	未設定
	オープニング画面、エンディング画面の表示	ON
	エコドライブインジケータランプの表示	ON
	給油時の平均燃費リセット	OFF
	アイドリングストップ表示の自動切りかえ	ON
ブザー設定	ハンドルポジションモニター	ON
	先行車発進ブザー音量	大
	車線逸脱警報ブザー音量	大
	標識認識ブザー音量	OFF
	ACC 先行車認識ブザー	ON

 知識

■ 外気温表示について

- 外気温の測定が正しく行われなときは「-℃」または「E℃」と表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

■ 「凍結注意」の警告メッセージについて

→ P. 456

■ 平均燃費について

- プッシュエンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

■ 航続可能距離について

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。

■ メーター、ディスプレイ照度について（昼照度と夜照度）

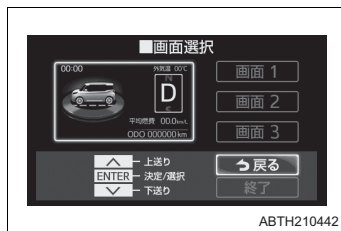
- メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。
 - ・ 昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき
 - ・ 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき
- 夜照度になるとメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、照明が減光しません。

■ 日時の自動補正について

スマートフォン連携ディスプレイオーディオ、または純正ナビゲーションシステム以外を装着した場合は、日時の自動補正の設定はできません。

■「設定画面」の操作について

- ドライブインフォメーションがメッセージ確認を選択しているときは、「設定画面」を表示できません。(→ P. 79)
- 「設定画面」操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。
 - ・ 警告メッセージが表示されたとき
 - ・ 走行し始めたとき
- 一つ前の「設定画面」に戻るときは、**▲/▼**スイッチを押して「戻る」を選択し、ENTER スイッチを押します。
- 「設定画面」を終了するときには、**▲/▼**スイッチを押して「終了」を選択し、ENTER スイッチを押します。



■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

■液晶ディスプレイについて

→ P. 75

■お知らせ画面について

- お知らせ画面は、プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたときに一度だけ表示されます。
- 誕生日、記念日は、設定日 2 月 29 日にしている場合、うるう年以外の年は 3 月 1 日表示します。

■メッセージアイコンについて

次のとき、メッセージアイコンが表示されます。

- 警告メッセージを記憶しているとき (→ P. 444)
- 「スマアシ停止」と表示されているとき (→ P. 461)



 警告**■ 走行中の警告**

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ 設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

■ 航続可能距離について

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、次の場合はただちに燃料を給油してください。

燃料切れを起こすと、突然走行不能となり危険です。

- 燃料計が“E”に近付いた
- 燃料残量警告灯が点灯した
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「給油してください」が表示された

各部の操作**3**

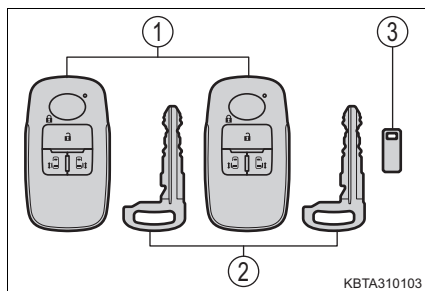
3-1. キー	
キー	108
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーレスアクセス	112
フロントドア	123
スライドドア	129
リヤゲート	150
3-3. シートの調整	
フロントシート	156
リヤシート	157
ヘッドレスト	160
シートアレンジ	162
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	169
ルームミラー	171
ドアミラー	172
サイドアンダーミラー	175
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	176

キー

キーについて

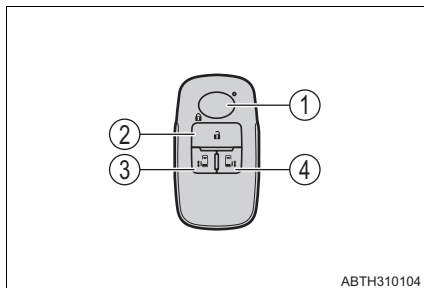
お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① アクセスキー
 - ・ キーレスアクセスの作動
(→ P. 112)
 - ・ 電波式リモコン機能の作動
(→ P. 123)
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



電波式リモコン

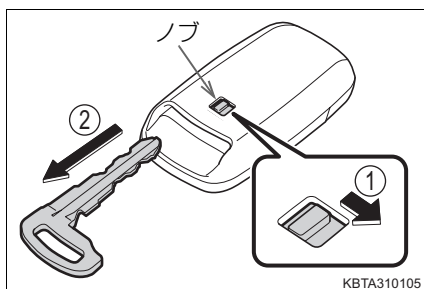
- ① ドアの施錠 (→ P. 123)
- ② ドアの解錠 (→ P. 123)
- ③ 助手席側パワースライドドアを開閉する (→ P. 129)
- ④ 運転席側パワースライドドアを開閉する (→ P. 129)



メカニカルキーを使うには

- ① ノブをスライドする
- ② メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、アクセスキーと一緒に携帯してください。アクセスキーの電池が切れたときやキーレスアクセスが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→ P. 477)



 知識**■ メカニカルキーを紛失したとき**

- キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、SUBARU 販売店で SUBARU 純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートはお車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

- スペアキーを作るときもこのキーナンバーが必要になります。

■ 航空機に乗るとき

航空機にアクセスキーを持ち込む場合は、航空機内でアクセスキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

→ P. 120

■ アクセスキーの状態や、プッシュエンジンスイッチのモードに関する警告メッセージが表示されたときは

車内へのアクセスキーの閉じ込みや、同乗者によるアクセスキーの持ち出し、プッシュエンジンスイッチの切り忘れなどを防止するため、アクセスキーやプッシュエンジンスイッチなどの状態の確認を促すメッセージが TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示内容に従ってすみやかに対処してください。（→ P. 457）

■ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が残りにわずかです」が表示されたときは

アクセスキーの電池残量が残りにわずかです。新しい電池と交換してください。（→ P. 405）

■ 電池の交換方法

→ P. 405

■ キーのご購入について

アクセスキーは最大 4 個まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法については SUBARU 販売店にご相談ください。

 注意**■ アクセスキーの故障を防ぐために**

- 直射日光や高温下に放置しない
- アクセスキーをズボンなどの後ろポケットに入れない
- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- アクセスキーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- アクセスキー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ アクセスキー取り扱いの注意

アクセスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ アクセスキーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ キーレスアクセスの故障などで SUBARU 販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべてのアクセスキーをお持ちください。

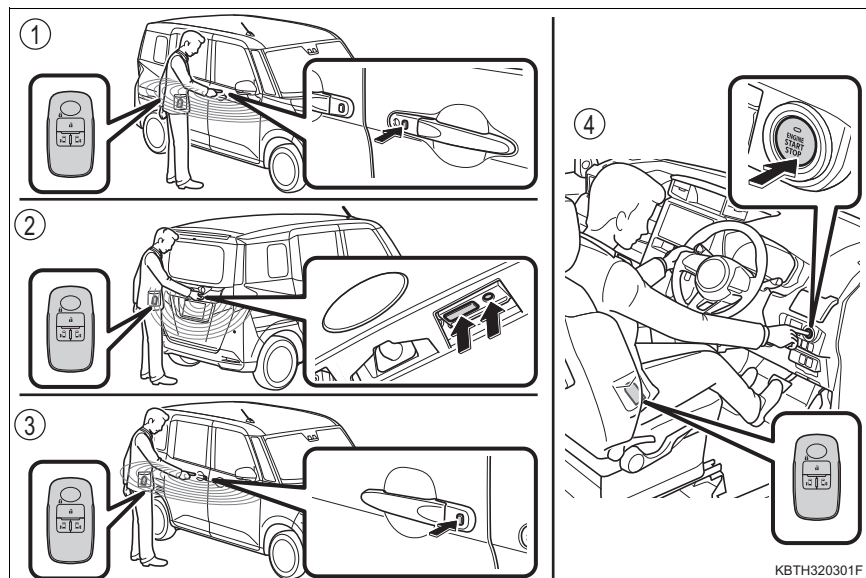
■ アクセスキーを紛失したとき

アクセスキーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのアクセスキーをすべてお持ちのうえ、ただちに SUBARU 販売店にご相談ください。

キーレスアクセス

機能概要

アクセスキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)



知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅表示灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

■ カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。
(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

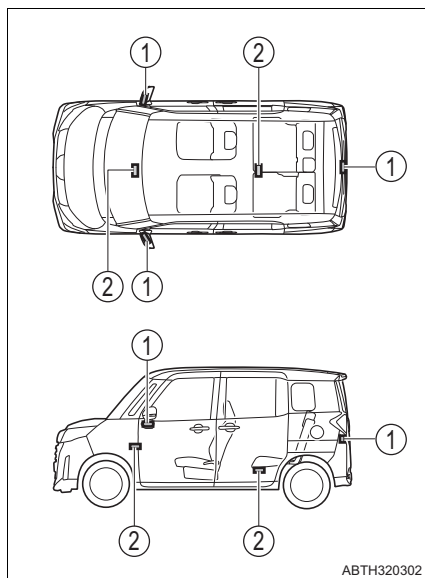
■ 解錠操作のセキュリティ機能

(→ P. 124)

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



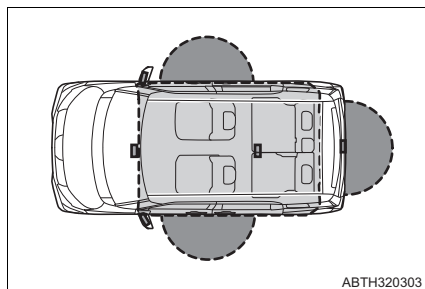
■ 作動範囲（アクセスキーの検知エリア）**●：ドアの施錠・解錠時**

ドアハンドルから周囲約 80cm 以内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。

（アクセスキーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●：エンジン始動時またはモード切り換え時

車内でアクセスキーを携帯している場合に作動します。



 知識

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴って、警告灯が点灯したり、警告メッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。

(→ P. 442, 457)

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピピ”、車外から“ピッピッピッ”と鳴る	プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けてアクセスキーを車外に持ち出しドアを閉めた	アクセスキーを携帯して乗車してください
車内から“ポーンポーンポーン…”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でプッシュエンジンスイッチを“ACC”にした(“ACC”のときに運転席ドアを開いた)	プッシュエンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください
車外から“ピーツ”と鳴る	プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはリヤゲートのロック/アンロックスイッチで施錠しようとした	プッシュエンジンスイッチを“OFF”にして施錠してください
	車内にアクセスキーを置いたまま、フロントドアまたはリヤゲートのロック/アンロックスイッチで施錠しようとした	アクセスキーを携帯して施錠してください
	いずれかのドアが開いているときに、フロントドアまたはリヤゲートのロック/アンロックスイッチや電波式リモコンで施錠しようとした	すべてのドアを閉めて施錠してください

警告音	状況	対処方法
車外から“ピーツ”と鳴って、すべてのドアが解錠した	プッシュエンジンスイッチが“OFF”のときに、車内にアクセスキーを置いたまま、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にして運転席のドアハンドルを引いたままドアを閉めた	アクセスキーを携帯して施錠してください
	タッチ & ゴーロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、アクセスキーを車内に戻した	
	プッシュエンジンスイッチが“OFF”のときに、車内にアクセスキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた	
車内から“ピッピッピッ”と鳴る	アクセスキーの電池切れが近いときに、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にした※	新しい電池に交換してください（→ P. 405）

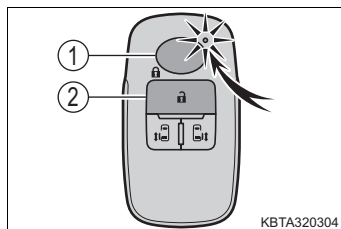
※ 電池切れが近い状態を継続すると、プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも警告ブザーが鳴ります。

■ アクセスキーの節電モードについて

- 節電モードに設定すると、アクセスキーによる電波の受信待機を停止し、アクセスキーの電池の消耗を抑えることができます。

アクセスキーの施錠スイッチ (①) を押しながら、解錠スイッチ (②) を2回押し、アクセスキーのインジケータが4回点滅することを確認してください。

節電モード中は、キーレスアクセス・ウェルカムオープン機能を使用できません。節電モードを解除するには、アクセスキーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しないアクセスキーは、節電モードにしておくことをおすすめします。
- アクセスキーの電池交換直後に節電モードにするときは、約10秒経過してから行ってください。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

キーレスアクセスは微弱な電波を使用しています。次のような場合はアクセスキーと車両間の通信をさまたげ、キーレスアクセスや電波式リモコン、イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）が正常に作動しないことがあります。

（対処方法：→ P. 477）

- アクセスキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・コインパーキング・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- アクセスキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式リモコンを使用しているとき
- アクセスキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車のアクセスキーや電波式リモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（電子手帳）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにアクセスキーを置いた場合

■ ご注意いただきたいこと

- アクセスキーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時にアクセスキーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ エンジン始動時またはモード切りかえ時にアクセスキーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合
- アクセスキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。（作動範囲：→ P. 114）
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近にアクセスキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、アクセスキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- アクセスキーが作動範囲内にあれば、アクセスキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、アクセスキーを検知しているドア以外では、解錠できません。
場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近にアクセスキーがある場合でも、アクセスキーを検知し、解錠されることがあります。
- 車外でもドアガラスに近い位置にアクセスキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

- アクセスキーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、解錠・施錠を繰り返すことがあります。その場合は、次のような処置をしてください。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます）
 - ・ キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く（盗難に注意してください）
 - ・ キーを節電モードに設定してキーレスアクセスの作動を停止する（→ P. 117）
- 車室内または車両に近い位置にアクセスキーがあるときに電波式リモコンなどで施錠を行うと、キーレスアクセスによる解錠ができなくなることがあります。（電波式リモコンで解錠すると復帰します）
- ドアハンドルにあるスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。
- ドアハンドルにあるスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、スイッチが押せない場合があります。押せない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。
- 周囲の状況により、フロントドアのロック／アンロックスイッチを操作しても施錠・解錠できないときがあります。電波式リモコン機能、またはメカニカルキーを使用して施錠・解錠してください。（→ P. 123, 477）
- 次のような状況では、アクセスキーの電池の消耗と車両のバッテリーあがりを防止するために節電機能が働き、キーレスアクセスによる施錠・解錠に時間がかかることがあります。
 - ・ 車両の周辺約 3m 以内にアクセスキーを約 2 分以上放置した
 - ・ 約 5 日間以上キーレスアクセスを使用しなかった

■解錠時の留意事項

- ドアハンドルにあるスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度（リヤゲートを除く）スイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他のアクセスキーがあるときは、ドアハンドルにあるスイッチを押してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■施錠時の留意事項

車内にアクセスキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、車内のブザーが鳴ることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、アクセスキーを車両から 3m 以上離しておいてください。
- あらかじめキーレスアクセスを非作動にすることができます。
詳しくは SUBARU 販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

アクセスキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合はアクセスキーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時のアクセスキーの位置や持ち方によっては、アクセスキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 125）

■キーレスアクセスが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→ P. 477
- エンジンの始動：→ P. 477

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電波式リモコンを使用しなくても電池は消耗します。また、アクセスキーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ キーレスアクセスや電波式リモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ アクセスキーの LED が点灯しない
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。（→ P. 442, 459）

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内にアクセスキーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ オーディオ
 - ・ AC アダプター
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 低周波治療器などの医療用電気機器
 - ・ 液晶表示器
 - ・ モーター類
 - ・ 電磁調理器
- 車内、または車両の近くにアクセスキーを置かないでください。アクセスキーと車両が常時通信状態になるため、電池が著しく消耗します。常時通信状態になると、アクセスキーのインジケーターが点滅しますので、消灯するまでアクセスキーを車両から離してください。
- 長期間使用しないアクセスキーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→ 117)

■電池が切れたとき

→ P. 405

■SUBARU 販売店で設定可能な機能

キーレスアクセスを非作動にすることができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

■SUBARU 販売店でキーレスアクセスを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：電波式リモコン機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 109, 477)
- エンジンの始動・プッシュエンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 477
- エンジンの停止：→ P. 194

 警告**■電波がおよぼす影響について**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 113）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

キーレスアクセスを非作動にすることもできます。

詳しくは SUBARU 販売店にお問い合わせください。

 注意

ドアハンドルにあるスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

フロントドア

ドアの施錠／解錠

キーレスアクセスや電波式リモコン機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

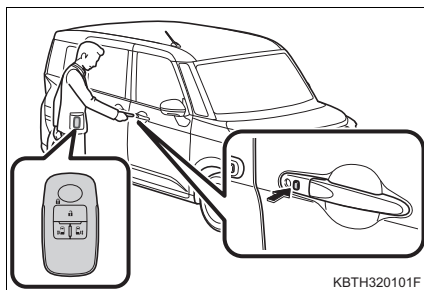
◆ キーレスアクセス

アクセスキーを携帯し、ロック／アンロックスイッチを押して全ドアを解錠・施錠する

スイッチを確実に押してください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約3秒間は解錠できません。
(タッチ & ゴーロック機能使用時を除く：→ P. 133)



▶ ウェルカムドアロック解除

アクセスキーを携帯してキーの解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠する (→ P. 126)

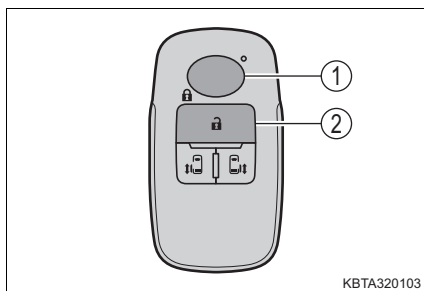
ウェルカムドアロック解除では施錠できません。

◆ 電波式リモコン機能

① 全ドアを施錠する

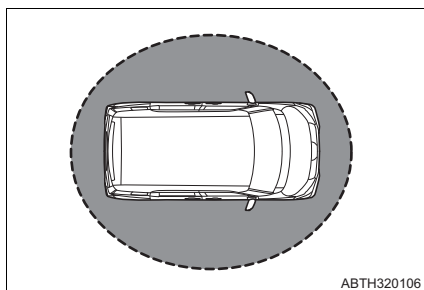
必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する



▶ 作動範囲

● : 車両中心から周囲約3m以内



 知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅表示灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

■ カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。
(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ キーレスアクセスや電波式リモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 477)

アクセスキーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。
(→ P. 405)

◆ キー

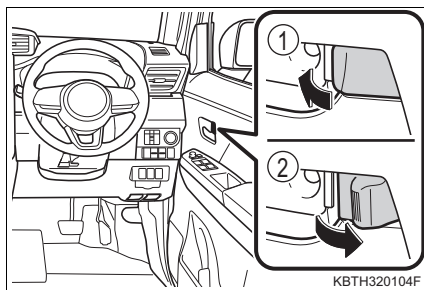
メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→ P. 477)

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席のドアを解錠（または施錠）すると、全てのドアが解錠（または施錠）されます。



キーを使わずに外側から運転席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときや車内にアクセスキーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

 知識**■キー閉じ込み防止機能**

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

●プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- ・ 運転席ドアが開いている状態で、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたとき
- ・ すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（プッシュエンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）

●プッシュエンジンスイッチが“OFF”で車内にアクセスキーがあるときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- ・ 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にし、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- ・ すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

■半ドア走行時警告ブザー

→ P. 450

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 117

ウェルカムドアロック解除

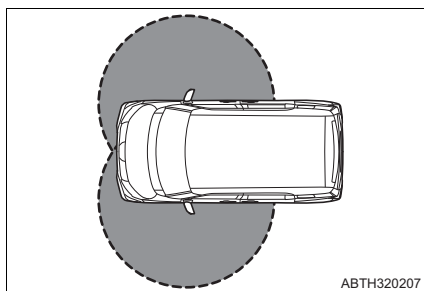
アクセスキーを携帯して解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠します。

■ ウェルカムドアロック解除の解錠範囲



：解錠範囲

ドアミラーから周囲約 1.5m 以内でアクセスキーを携帯している場合に作動します



■ 予約のしかた

- 1 お車から降り、キーレスアクセスまたは電波式リモコン機能で施錠する（予約待機）
 - 2 解錠範囲から出て、約 5 秒経過すると予約が完了する
- 予約の有効期間は約 5 日間です。有効期間を過ぎると、予約がキャンセルされます。

知識

■ カスタマイズ機能

キーレスアクセスの機能の一部、ウェルカムドアロック解除を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

■ ウェルカムドアロック解除の作動について

- ウェルカムドアロック解除でドアを解錠したときは、ブザーと非常点滅表示灯の点滅（2 回）で知らせます。
- 次のいずれかの場合は、ウェルカムドアロック解除の予約はできません。
 - ・ カスタマイズ機能でキーレスアクセスまたはアクセスキーの室外自動検知機能を非作動にしたとき（→ P. 493）
 - ・ ウェルカムドアロック解除を“OFF”にしたとき（→ P. 97）
- ドアロック後、解錠範囲を出てから約5秒以内に解錠範囲に入ったときは予約が完了せず、ウェルカムドアロック解除は作動しません。
- アクセスキーが解錠範囲内にあっても、アクセスキーがドアガラスなどやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合は正しく作動しないことがあります。

- アクセスキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。
- 予約が完了するまでの間に次の状況になると予約がキャンセルされます。
 - ・ ドアを施錠したあと、解錠範囲内にアクセスキーがある状態が約 2 分以上続いたとき
- 解錠範囲に入りドアが解錠されてから、ドアを開けずに約 15 秒経過すると、ドアが自動的に施錠され予約がキャンセルされます。
- 予約完了後、車両の近くにアクセスキーがあると意図せずウェルカムドアロック解除が作動する場合があります。

■ ウェルカムドアロック解除が正常に働かないおそれのある状況

キーレスアクセスが正常に働かないおそれのある状況にある (→ P. 117)

■ ウェルカムドアロック解除使用時のアクセスキーについて

第三者にアクセスキーを受け渡すときは、予約していることを伝えてください。

■ ウェルカムランプ設定 (テールランプ連動) について

次の方法でドアロックを解除したときに車幅灯・番号灯・尾灯を約 15 秒間点灯させ、ドアロック解除をお知らせすることができます。(→ P. 100)

- キーレスアクセスによるドアロック解除 (ウェルカムドアロック解除によるドアロック解除を含む)
- 電波式リモコン機能によるドアロック解除

■ ウェルカムランプ設定 (ルームランプ連動) について

- 次の条件をすべて満たしている場合、アクセスキーを携帯して車両に近付いた (ウェルカムドアロック解除の解錠範囲に入った) ときに、室内灯を点灯させることができます。
 - ・ アクセスキーの室外自動検知機能の作動 (→ P. 493) が有効になっている
 - ・ ウェルカムランプ設定 (ルームランプ連動) が有効になっている (→ P. 100)
 - ・ 室内灯のスイッチがドアポジションになっている
- 室内灯の点灯時間は、ドア連動機能 (→ P. 352) の点灯時間に連動します。

 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
- お子さまをリヤシートに乗せるときは、チャイルドブローフを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

- 傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■ お子さまを乗せているときは

お子さまにドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ キーレスアクセス

→ P. 112

◆ 電波式リモコン

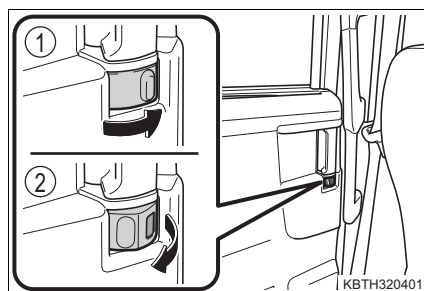
→ P. 109

車内からの解錠・施錠

◆ ロックレバー

① 施錠

② 解錠



KBTH320401

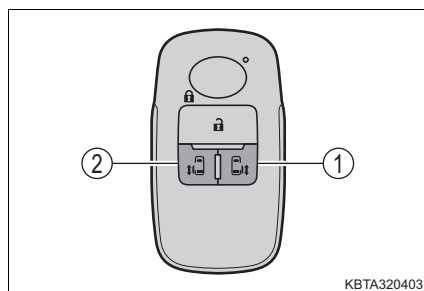
車外からスライドドアを開閉する

◆ 電波式リモコン

スイッチを長押しして開閉します。

① 運転席側パワースライドドアを開閉する（長押し）

② 助手席側パワースライドドアを開閉する（長押し）



KBTA320403

スライドドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中に押すと停止し、再度長押しすると全開します。

途中まで開いた状態から全開するとき、一度全開した後にスイッチを長押ししてください。

◆ スライドドアハンドル

- ① ワンタッチスイッチを押して開閉する

- ・ ドア施錠時：アクセスキーを携帯し、スイッチを押すと全てのドアが解錠されスライドドアが自動で開きます。

アクセスキーの検知エリア内(→ P. 114) でスイッチを押さないと、スライドドアは開きません。

- ・ ドア解錠時：スイッチを押すとスライドドアが自動で開きます。

- ② ドアハンドルを引いて開閉する

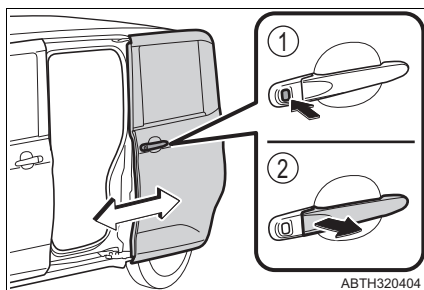
スライドドアを解錠してから操作してください。

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

ドアハンドルを引くと自動で全開または、全閉になります。

自動開閉作動中にスイッチを押す、またはドアハンドルを引くと自動開閉作動が停止し、再度スイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、スライドドアが反対方向に作動します。

スライドドアが全閉した状態でスイッチを押してもドアは施錠しません。



ABTH320404

車内からスライドドアを開閉する

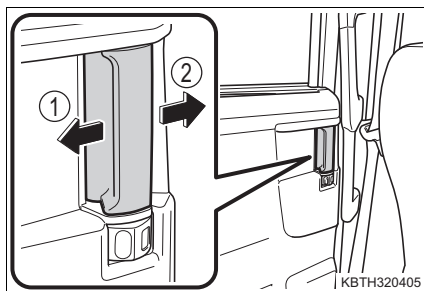
◆ インサイドドアハンドル

インサイドドアハンドルを操作して開閉します。

- ① 開く

スライドドアを解錠してから操作してください。

- ② 閉じる



KBTH320405

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを操作します。

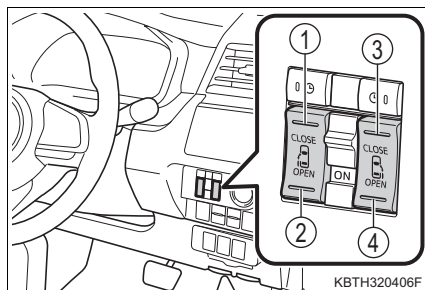
ドアハンドルを操作すると自動で全開または、全閉になります。

また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

◆ パワースライドドアスイッチ

スイッチを押して開閉します。

- ① 閉める（助手席側）
- ② 開ける（助手席側）
- ③ 閉める（運転席側）
- ④ 開ける（運転席側）

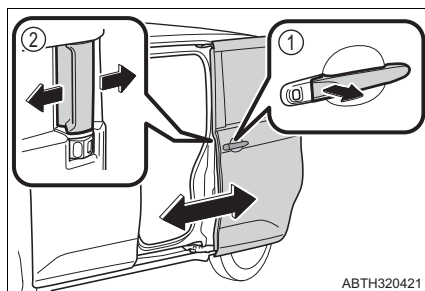


スライドドアを解錠してから操作してください。
開閉作動中に再度スイッチを押すと、停止します。

スライドドアの手動開閉

パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 132）が OFF のとき、スライドドアハンドル、またはインサイドドアハンドルを操作して開閉します。

- ① スライドドアハンドル
- ② インサイドドアハンドル



ロックが解除されるまで確実にドアハンドルを操作します。

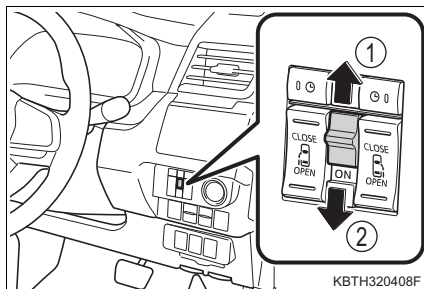
パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

① ON

次の操作によりパワースライドドアを自動で開閉できます。

- ・ 電波式リモコン
- ・ スライドドアハンドル
- ・ インサイドドアハンドル
- ・ パワースライドドアスイッチ
- ・ スライドドアハンドルスイッチ
- ・ ウェルカムオープン機能（自動開作動のみ）



ON にするとスイッチ下部に ON の文字が表れます。

② OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

OFF にするとスイッチ上部に OFF の文字が表れます。

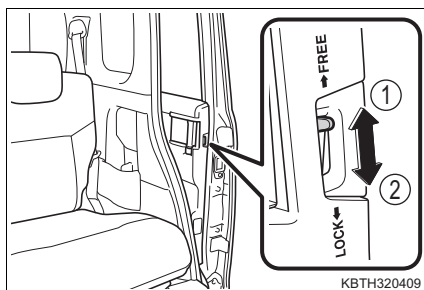
チャイルドブローフ

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。



タッチ & ゴーロック機能

スライドドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、スライドドア以外のすべてのドアが施錠され、スライドドアが閉まると同時にスライドドアも施錠されます。

- 1 スライドドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 スライドドアの自動閉作動中にロック／アンロックスイッチによる施錠操作（→ P. 123）、または電波式リモコンによる施錠操作（→ P. 123）を行う

非常点滅表示灯が 1 回点滅します。

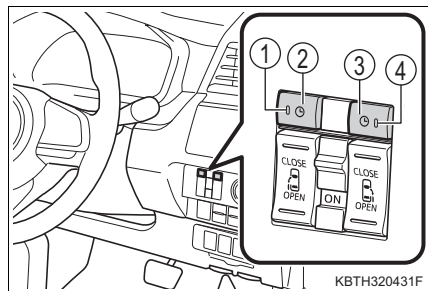
- 3 スライドドアが閉まると、同時に施錠される

非常点滅表示灯が 1 回点滅して、タッチ & ゴーロックが完了します。

ウェルカムオープン機能

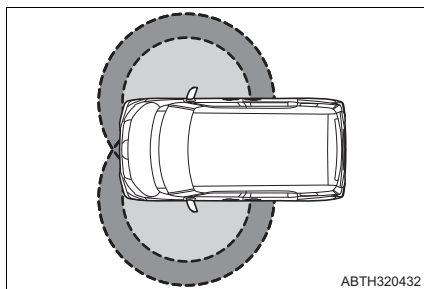
予約（→ P. 134）が完了したアクセスキーを携帯して、予約した側の解錠範囲（検知範囲 A）に入ると、すべてのドアが解錠します。その後パワースライドドアが開く範囲（検知範囲 B）に入り約 1.5 秒間経過すると予約した側のパワースライドドアが自動的に開作動します。

- ① 助手席側ウェルカムオープン予約表示灯
- ② 助手席側ウェルカムオープン予約スイッチ
- ③ 運転席側ウェルカムオープン予約スイッチ
- ④ 運転席側ウェルカムオープン予約表示灯



■ ウェルカムオープン機能の作動範囲

- : 解錠範囲（検知範囲 A）
 ドアミラーから周囲約 1.5m 以内でアクセスキーを携帯している場合に作動します
 （アクセスキーを検知している側のみ作動します）
- : パワースライドドアが開く範囲（検知範囲 B）
 ドアミラーから周囲約 1m 以内でアクセスキーを携帯している場合に作動します
 （アクセスキーを検知している側のみ作動します）



■ 予約のしかた

- 1 予約したい側のウェルカムオープン予約スイッチを押す
 “ピピッ”とブザーが鳴り、押された側のウェルカムオープン予約表示灯が点灯します。
 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 ウェルカムオープン予約表示灯は施錠されるまで点灯し続けます。
 ▶ 予約のキャンセルをする
 予約されている側（ウェルカムオープン予約表示灯が点灯している側）のウェルカムオープン予約スイッチを押す
 “ピピッ”とブザーが鳴り、ウェルカムオープン予約表示灯が消灯します。
 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 ▶ 予約の変更をする
 予約されていない側（ウェルカムオープン予約表示灯が点灯していない側）のウェルカムオープン予約スイッチを押す
 “ピピッ”とブザーが鳴り、予約表示灯が点灯します。
 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 2 お車から降り、ドアハンドルのロック／アンロックスイッチを操作して施錠する（予約待機）
 ウェルカムオープン予約表示灯が消灯します。
 ロック／アンロックスイッチを操作せずに施錠したときは、予約がキャンセルされます。
- 3 検知範囲 A から出て、約 5 秒経過すると予約が完了する
 予約の有効時間は約 3 時間です。有効時間を過ぎると、予約がキャンセルされます。

知識

■ 作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■ チャイルドブルーフ使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 中間ストッパー

フューエルリッドが開いているときは、助手席側パワースライドドアは作動しません。助手席側スライドドアは手動で開閉できますが、途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするとときは、いったんスライドドアを全閉にしてから、フューエルリッドを閉じ再度スライドドアを開けてください。

■ イージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

● 次の場合でもイージークローザーは作動します。

- ・ プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”
- ・ パワースライドドアメインスイッチが OFF

● 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。

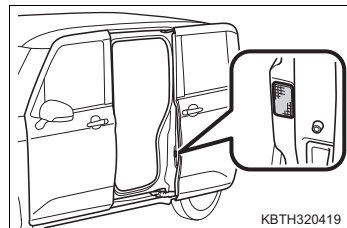
● イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドブルーフが施錠側のときを除く）

■ デッキサイドランプ右側（スイッチ付）

スイッチをドアポジションにしておくと、ドアを開けたときに点灯します。（→ P. 351）

■ 後席ステップランプ

ドアを開けたときにランプが点灯します。



■ パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- パワースライドドアメインスイッチが ON
- フューエルリッドが閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）
プッシュエンジンスイッチが “ON” のときは上記に加え、車速が約 3km/h 以下で次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。
- シフトレバーが P のとき
- パーキングブレーキがかかっているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき

スライドドアが施錠された状態で、スライドドアハンドルのスイッチ（→ P. 130）以外の操作をしたときは、自動開作動しません。自動開作動の前に解錠してください。

■ パワースライドドアの作動について

- パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ドアハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。
- パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、作動可能条件を満たしていない状態でドアハンドルを引いて手動で開けると、ブザーが鳴ります。この場合、スライドドアがスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、手動でのみ開閉できます。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときにパワースライドドアスイッチを押すとブザーが鳴り、パワースライドドアが作動しないことをお知らせします。
- フューエルリッドが開いているときに、助手席側パワースライドドアを開けることはできません。
- パワースライドドアの自動開閉中に、次の操作を行うとブザーが鳴り、作動が停止します。ドアハンドルを操作して、手動で全閉にしてください。
 - ・ パワースライドドアメインスイッチを OFF にした
 - ・ フューエルリッドを開けた（助手席側パワースライドドア）手動で全閉するとき、スライドドアがスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。
- パワースライドドアの自動開作動中に車速が約 3km/h 以上になったときは、ブザーが鳴り作動が停止して、そのまま停止状態を維持します。スイッチやドアハンドルの操作で全閉にしてください。
- 次の場合は、パワースライドドアが作動しないことがあります。
 - ・ バッテリーの電圧が低下したとき
 - ・ 傾斜地で駐車しているとき

- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、次のように作動します

逆方向に動く：

- ・ アウトサイドハンドルを引くまたはスライドドアハンドルのスイッチを押す

開方向に動く：

- ・ インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（OPEN 側）を押す

閉方向に動く：

- ・ インサイドハンドルを閉方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

挟み込み防止機能作動後、電波式リモコンのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。また、センサーに手などが強く触れたままの場合も作動しません。（→ P. 137）

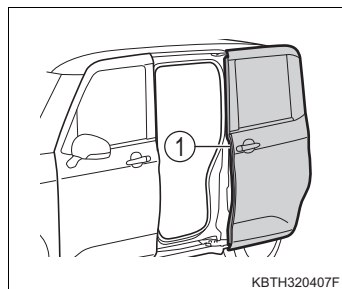
- 挟み込みを感知したスライドドアが反転作動している間に再度挟み込みを感知すると、ただちに作動が停止します。
- 挟み込みを感知した後、自動開閉できないときは、手動操作で全閉にしてください。その際、スライドドアがスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。
- 車外または車内のドアハンドルで自動で全開する際、ドアハンドル操作が十分な場合にスライドドア後端付近で「ガコッ」と音がしてブザーが約 10 秒間鳴ることがありますが、異常ではありません。もう一度ドアハンドルを引くと、パワースライドドアが正常に作動します。

■ バッテリーを再接続したときは

- パワースライドドアを適切に作動させるために、次の操作で初期設定を行ってください。
- ・ スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にする
- 手動で全閉するとき、スライドドアがスムーズに動かないことがありますが、異常ではありません。
- 初期設定を行っていないと、パワースライドドア、および挟み込み防止機能が作動しません。

■ 挟み込み防止機能

パワースライドドアの前端部には、センサー（①）が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押された、またはドアに一定以上の負荷がかかると挟み込み防止機能が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



KBTH320407F

■ タッチ & ゴーロック機能について

- タッチ & ゴーロックをしてスライドドアが自動閉作動中に、次の操作が行われるとタッチ & ゴーロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

- ・ キーレスアクセスで解錠する
- ・ 運転席側ロックレバーを解錠方向に操作する
- ・ プッシュエンジンスイッチを“ACC”にする
- ・ 挟み込み防止機能が作動するなどの停止操作

キーレスアクセスで解錠、挟み込み防止機能が作動するなどの操作で解錠した場合は、非常点滅表示灯が2回点滅します。

- タッチ & ゴーロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、アクセスキーを車内に戻すと、車内にアクセスキーが閉じ込められることがあります。タッチ & ゴーロック機能を使用するときは、必ずアクセスキーを携帯した状態で行ってください。
- お車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。
- スライドドアハンドルのスイッチでは、タッチ & ゴーロックはできません。

■ ウェルカムオープン機能の作動条件

次のいずれかを満たしたときにウェルカムオープン予約スイッチで予約可能となります。

- プッシュエンジンスイッチが“OFF” または“ACC” のとき
- プッシュエンジンスイッチが“ON”、かつ車速が約3km/h以下の状態で、次のいずれかを満たしたとき
 - ・ シフトレバーがPのとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき

ただし、次のいずれかの場合は、作動条件を満たしていてもウェルカムオープン機能は作動しません。

- カスタマイズ機能でキーレスアクセスを非作動にしたとき（→ P. 493）
- アクセスキーが節電モードに設定されているとき（→ P. 117）

■ ウェルカムオープン機能の作動について

- パワースライドドアの作動可能条件（→ P. 136）を満たしていないときは、ウェルカムオープン機能によるスライドドアの自動開作動は行われません。
- 左右のスライドドアを同時に予約することはできません。
- 予約した車両の検知範囲内に、別のキーがある状態が続いた場合、予約がキャンセルされ、スライドドアが自動で開かないことがあります。
- アクセスキーが作動範囲内（検知範囲内）にあっても、アクセスキーがドアガラスやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合は正しく作動しないことがあります。
- アクセスキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。
- スライドドアのタッチ & ゴーロック機能を使用しているときに、アクセスキーを車内に戻した場合は、すべてのドアが解錠され予約が完了できません。
- ウェルカムオープン予約スイッチを押してから、予約が完了するまでの間に次のいずれかの状況になると予約がキャンセルされます。
 - ・ お車を発進させ、車速が 3km/h 以上になったとき
 - ・ ロック／アンロックスイッチ操作以外の方法でドアを施錠したとき
 - ・ ドアを施錠せずに約 10 分経過したとき
 - ・ ドアを施錠したあと、検知範囲内にアクセスキーがある状態で約 2 分以上経過したとき（“ピーッ”とブザーが鳴ります）
- 予約が完了してから、検知範囲Aに入る前に次のいずれかの状況になると予約がキャンセルされます。
 - ・ 予約の有効時間を過ぎたとき
 - ・ ドアを解錠したとき
 - ・ プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたとき
- 検知範囲 A に入りドアが解錠されてから、次のいずれかの状況になると予約がキャンセルされます。
 - ・ ドアを施錠したとき
 - ・ アクセスキーを操作したとき
 - ・ 予約している側のフロントドア、またはスライドドアを開けたとき
 - ・ 検知範囲 B に入らずに約 30 秒経過したとき（すべてのドアが施錠されます）
 - ・ 検知範囲 A の外へ出たとき（“ピーッ”とブザーが鳴ります）
 - ・ 検知範囲 B に入りスライドドアが開く前に、検知範囲 A の外へ出たとき（“ピーッ”とブザーが鳴ります）
 - ・ プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたとき

- ウェルカムオープン機能によるスライドドアの自動開作動中に次のいずれかの状況になると、スライドドアの開作動は停止します。
 - ・ アクセスキーでパワースライドドアを操作したとき
 - ・ パワースライドドアの停止操作を行ったとき
 - ・ 挟み込み防止機能が作動したとき
 - ・ フューエルリッドを開けたとき（助手席側パワースライドドア）
- 検知範囲Aに入りドアが解錠されてから、次のことを行っても予約はキャンセルされません。
 - ・ 予約していない側のフロントドア、またはスライドドアを開けたとき
 - ・ リヤゲートオープンスイッチを操作してリヤゲートを開けたとき

■ ウェルカムオープン機能が正常に働かないおそれのある状況

- 複数のアクセスキーがウェルカムオープン機能の作動範囲内にある
- キーレスアクセスが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 117）

■ ウェルカムオープン機能使用時のアクセスキーについて

- 予約するときは、複数のアクセスキーが検知範囲内にないようにしてください。
- 第三者にアクセスキーを受け渡すときは、予約していることを伝えてください。

■ 半ドア走行時警告ブザー

→ P. 450

■ 自動洗車機を使うとき

→ P. 374

■ カスタマイズ機能

パワースライドドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

 警告**■ 走行中の警告**

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドブルーフを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■ お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。(パワースライドドア：パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。もしくは、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません)
- お子さまをリヤシートに乗せるときは、チャイルドブルーフ (→P. 132) を使用して車内からドアが開かないようにする

 警告**■スライドドアの操作にあたって**

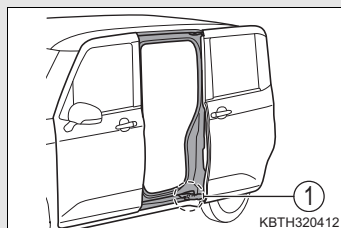
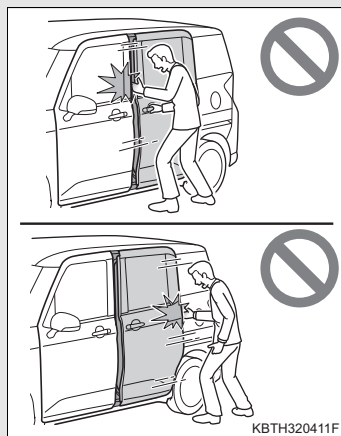
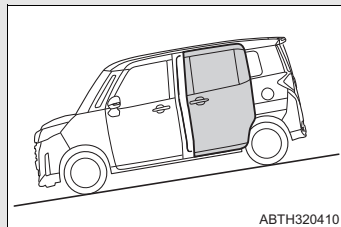
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ドアハンドルをしっかりと持ち、スライドドアのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。

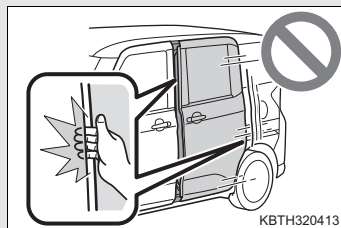
警告**■スライドドアの操作にあたって**

- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります
- スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- 傾斜した場所ではスライドドアを開けたままにしないでください。スライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。
- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に (①) の部分には十分注意してください。



警告**■ イージークローザーについて**

- スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。(→ P. 135)

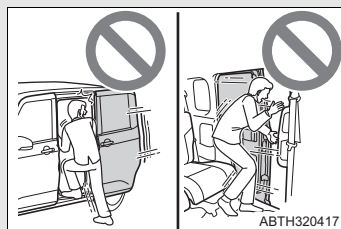


- イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーやチャイルドブーフが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ブレーキを確実にかけて、お車が完全に停止している状態で行ってください。
- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

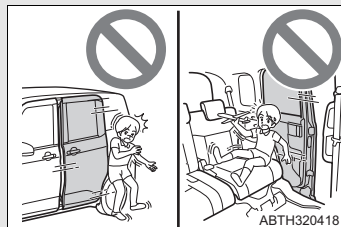


- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告**■ パワースライドドアについて**

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 傾斜した場所ではパワースライドドアを開閉しないでください。自動開閉を完了できずに途中で反転作動するおそれがあります。
- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にしたり、フューエルリッドを開いたりしたときやセンサーなどが故障したときは、ブザーが鳴り作動が停止して、約 3 秒後に停止保持状態が解除されます。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分に注意してください。
- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、停止保持状態が解除されることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分に注意してください。
- 自動開作動中に車速が約 3 km/h 以上になったときは、ブザーが鳴り作動が停止して、そのまま停止状態を維持します。この場合、同乗者や荷物が車外に放り出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車するか、スイッチやドアハンドルの操作でスライドドアを全閉にしてください。
- パワースライドドアが完全に閉まらない状態で走行しないでください。車内の方や荷物が車外に放り出されるなど、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車するか、ドアハンドルやスイッチの操作により、スライドドアを完全に閉めてください。
- エンジン停止中に、パワースライドドアを途中で停止させたまま放置しないでください。スイッチやドアハンドルの操作で停止した場合は、約 3 分後（挟み込みで停止した場合は約 30 分後）にブザーが鳴り、停止保持状態が解除されます。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分に注意してください。

 警告**■ パワースライドドアについて**

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、停止保持状態が解除されることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、プッシュエンジンスイッチを “ON” にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

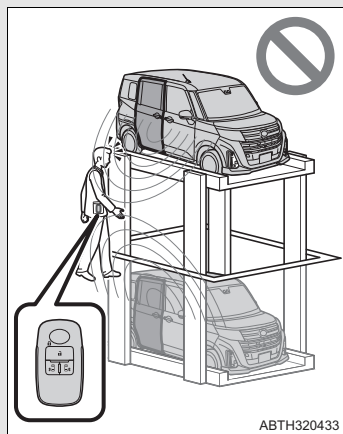
警告**■ウェルカムオープン機能について**

ウェルカムオープン機能によるスライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアミラーから約3m以上離れた位置で、十分に周囲の安全を確認してから車両に近付いてください。
周囲に人がいるときは、車両に近づく前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、ウェルカムオープン機能を作動させないでください。

- 機械式駐車場などでは、車両が安全な場所にあることを確認してから車両に近付いてください。
車両がアクセスキーよりも上、または下にある状態でもアクセスキーが検知されればウェルカムオープン機能が作動し、スライドドアが自動的に開作動します。

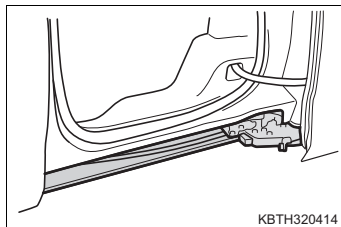


- アクセスキーが検知されてからスライドドアの開作動が始まるまでの間は、いつでもスライドドアの作動が停止できるようにスライドドアハンドルに手が届く位置、またはアクセスキーのボタンを押せる状態でお待ちください。
- スライドドアの開作動までの待ち時間の変更（→ P. 99）で待ち時間を短く設定したときは、アクセスキーが検知されてからスライドドアが開作動するまでの時間が短くなるため、よりいっそう注意して操作してください。

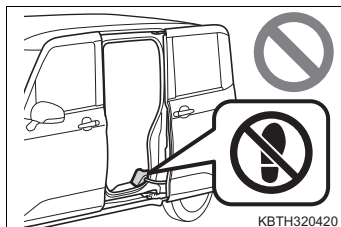
⚠ 注意**■ スライドドアについて**

- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

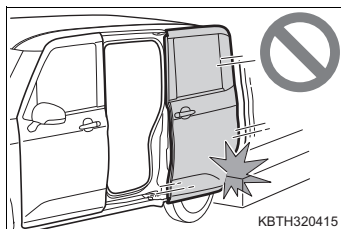
- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- 乗降時に、リヤシート下のプレートを押まないようにしてください。プレート下の配線類が損傷するおそれがあります。



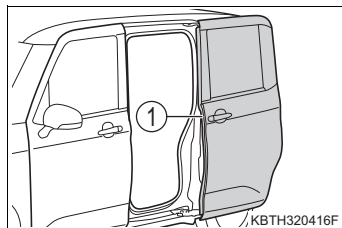
- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

**■ イージークローザーについて**

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

⚠ 注意**■ パワースライドドアについて**

- パワースライドドア前端部のセンサー（①）を刃物などの鋭利なもので傷付けないう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



- アイドリングストップによるエンジン停止中に自動開閉すると、エンジンが始動することがあります。しっかりとブレーキペダルを踏み続けてください。
- ドアが凍結しているときは、スライドドアが開閉可能か手動で確認してから自動開閉してください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。

■ バッテリーあがりを防止するために

後席ステップランプが点灯するため、エンジンを停止した状態でスライドドアを長時間開けたままにしないでください。

リヤゲート

リヤゲートは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

◆ キーレスアクセス

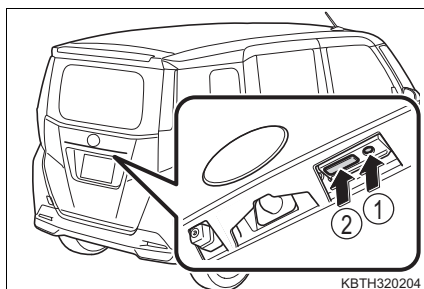
アクセスキーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

リヤゲートが半ドア状態になります。



◆ 電波式リモコン

→ P. 109

車内からの施錠／解錠

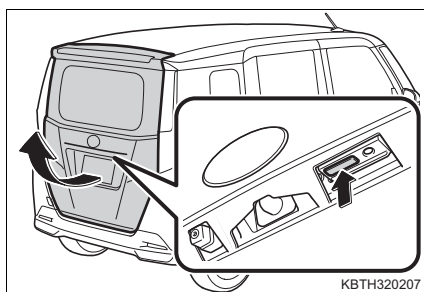
◆ ロックレバー

→ P. 124

リヤゲートを開けるには

リヤゲートオープンスイッチを押したまま、リヤゲートを持ち上げる

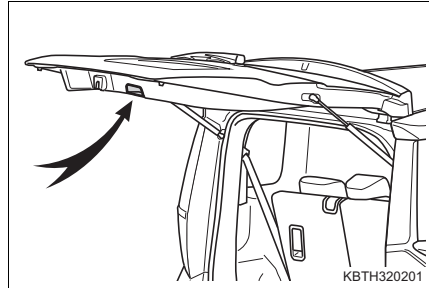
リヤゲートオープンスイッチを押したあと、約 1 秒間はリヤゲートを閉めることができません。



リヤゲートを閉めるとき

リヤゲートインナーハンドルを持ってリヤゲートを引き下げる

必ず外から押して閉めてください。

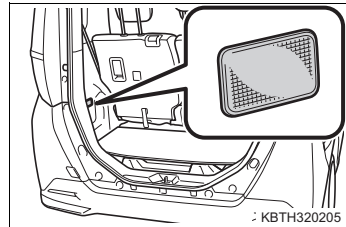


知識

■ デッキサイドランプ左側

リヤゲート、またはリヤゲート以外のドアを開けたとき、デッキサイドランプ左側が点灯します。

プッシュエンジンスイッチが“ACC”、または“OFF”の場合、約 10 分後に自動消灯します。



■ 半ドア走行時警告ブザー

→ P. 450

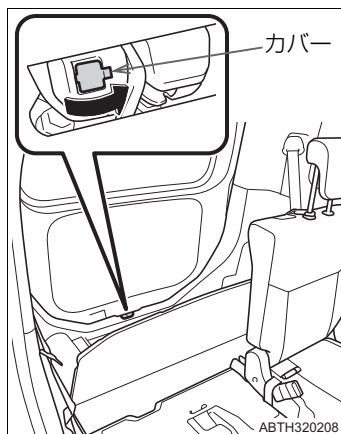
■ カスタマイズ機能

リヤゲートのスイッチ操作による作動を変更することができます。
(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

■ リヤゲートが開かなくなったら

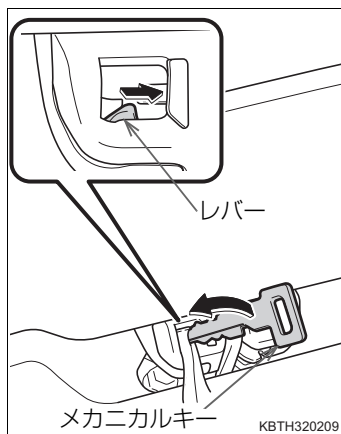
リヤゲートを内側から開けることができます。

- 1 右側リヤシートを格納する (→ P. 163)
- 2 カーゴボードを上げる (→ P. 359)
- 3 カバーを開ける



- 4 メカニカルキーなどを使ってレバーを矢印の方向に動かす (→ P. 109)

傷が付くのを防ぐため、メカニカルキーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



 警告**■ 走行中の警告**

- 走行中はリヤゲートを閉めてください。
開けたまま走行すると、リヤゲートが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にリヤゲートが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にリヤゲートが完全に閉まっていることを確認してください。リヤゲートが完全に閉まっていないと、走行中にリヤゲートが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- カーゴルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- カーゴルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはリヤゲートの開閉操作をさせないでください。
不意にリヤゲートが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ リヤゲートの使用にあたって

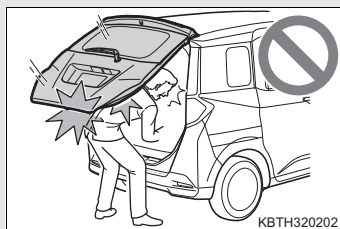
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

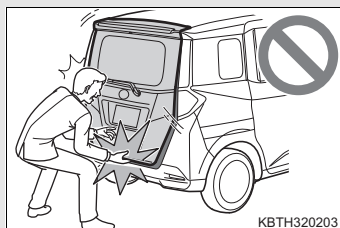
- リヤゲートを開ける前に、リヤゲートに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでリヤゲートが突然閉じるおそれがあります。
- リヤゲートを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
リヤゲートが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- リヤゲートのスイッチを押すときは、スイッチ横の番号灯をさわらないでください。点灯中、または消灯直後は電球が高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

警告

- 半開状態で使用すると、リヤゲートが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくく、急にリヤゲートが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずリヤゲートが全開で静止していることを確認して使用してください。



- リヤゲートを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- リヤゲートは必ず外から軽く押して閉めてください。リヤゲートインナーハンドルを持ったままリヤゲートを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- リヤゲートダンパーステアを持ってリヤゲートを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、リヤゲートダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リヤゲートにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。リヤゲートに SUBARU 純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。

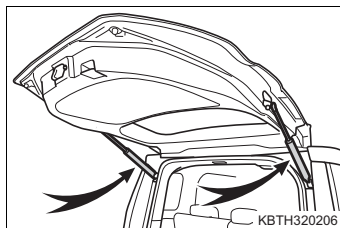
⚠ 注意**■ リヤゲートハンドルのスイッチについて**

リヤゲートハンドルのスイッチは強い力で押ししたり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

■ ダンパーステーについて

リヤゲートにはリヤゲートを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

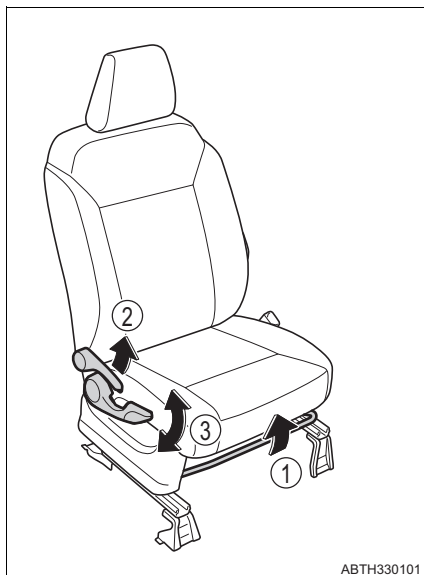
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- リヤゲートに SUBARU 純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)



ABTH330101

⚠ 警告

■シートを調整するとき

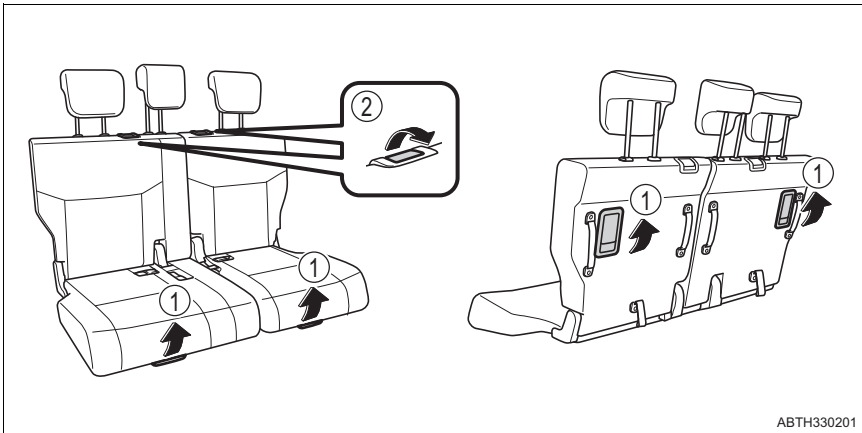
- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

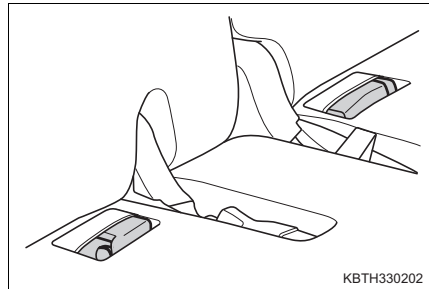
調整のしかた



- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整

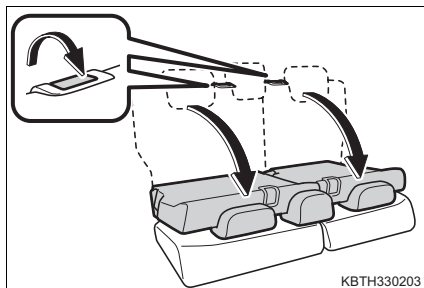
背もたれを前に倒す

- ① リヤ中央席シートベルトを格納する (→ P. 30)
- ② リヤ中央席シートベルトのバックルを格納する



- ③ ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 160)

- 4 リクライニングレバーを引きながら、背もたれを前方に倒す
ロックが確実に解除されるまで、レバーを引いてください。



- 5 上から押して、背もたれを固定する
- 6 背もたれをもとにもどすときは逆の手順で行う

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート調整について

- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤ中央席に座るときは、リヤ左右席のシート位置、背もたれの角度を同じにしてください。正しい姿勢がとれず、事故の際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■背もたれを前に倒すときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれやカーゴルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがカーゴルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

 注意**■ 背もたれを前に倒すときは**

背もたれを倒す前に、必ずリヤ中央席のシートベルトとバックルを格納してください。シート、またはバックルが破損するおそれがあります。

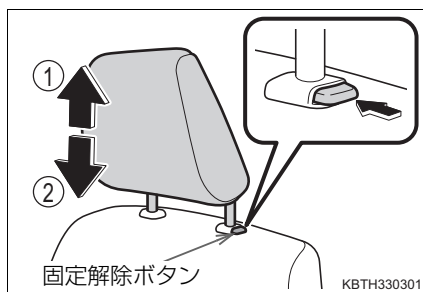
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作します。

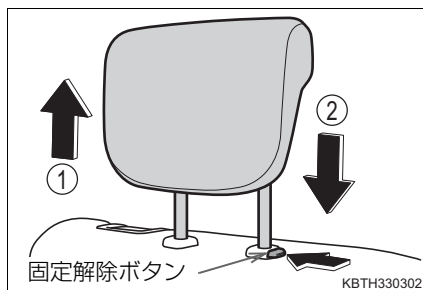


リヤシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

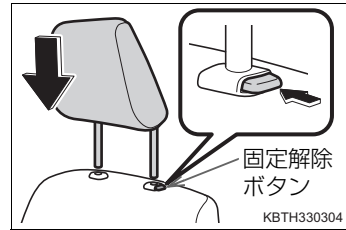
固定解除ボタンを押しながら取りはずします。



■ヘッドレストを取り付けるとき

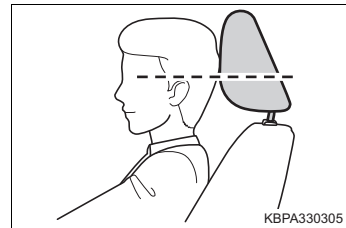
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作してください。



■フロント席のヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤシートのヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

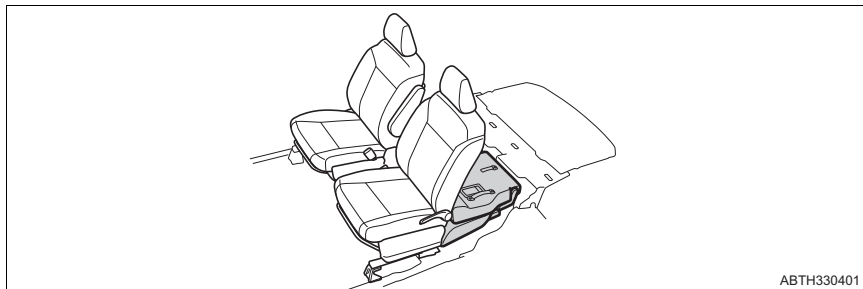
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

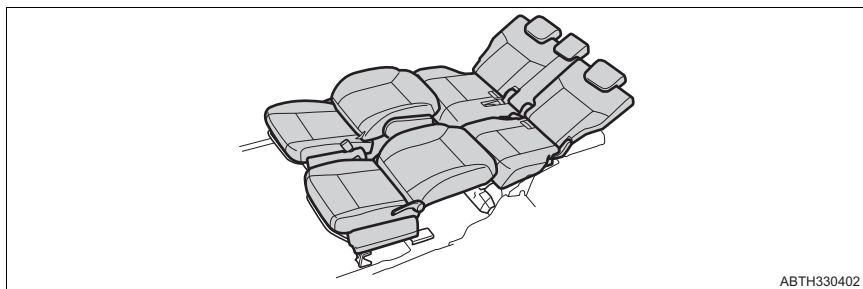
◆ ダイブインモード (リヤシート格納)

→P. 163



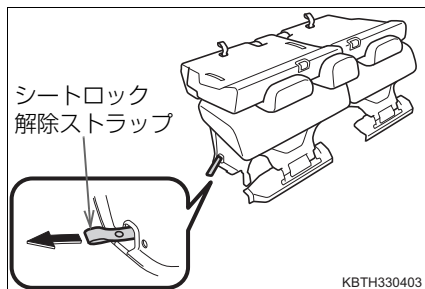
◆ フルフラットモード

→P. 164



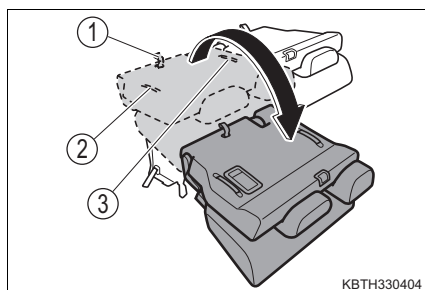
ダイブインモード（リヤシート格納）にするには

- 1 お車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 フロントシートをいちばん前までスライドする
- 3 リヤシートをいちばんうしろまでスライドする
- 4 リヤシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 160）
- 5 リヤシートの背もたれを前に倒して固定する（→ P. 157）
- 6 シートロック解除ストラップを引いてロックを解除する



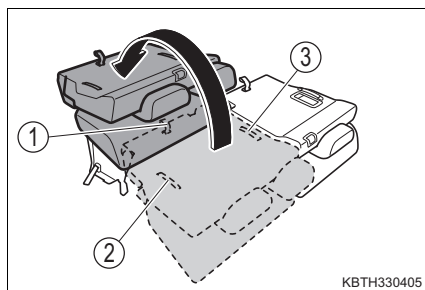
- 7 車外からストラップ（①）、（②）を持って、リヤシートを持ち上げ格納する

車内から格納するときは、ストラップ（①）、（③）を持ちます。

**■ もとにもどすには**

- 1 お車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 フロントシートをいちばん前までスライドする
- 3 車外からストラップ（①）、（②）を持って、リヤシートを持ち上げもとにもどす

車内からもどすときは、ストラップ（①）、（③）を持ちます。



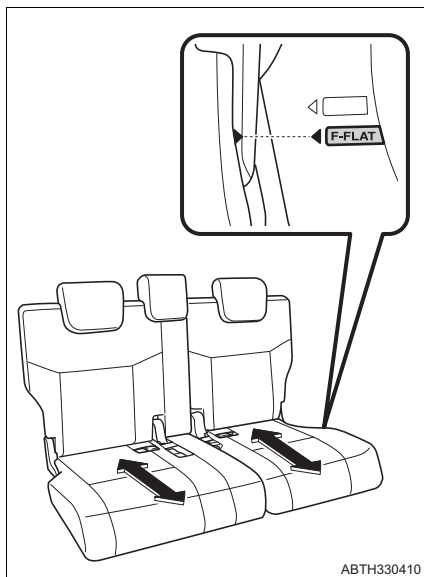
- 4 上から押して、リヤシートを固定する
- 5 背もたれを起こし、固定する

リクライニングレバーを引いたまま背もたれを起こします。

フルフラットモードにするには

- 1 お車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 2 リヤシートの位置を調整する

▶ マークを ◀ (F-FLAT) マークに合
わせてください。



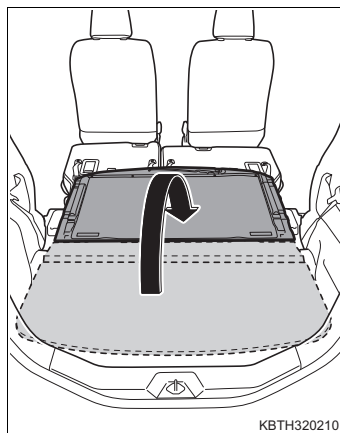
- 3 リヤシートのヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 160)
- 4 リヤシートの背もたれをいちばんうしろに倒す
- 5 フロントシートのヘッドレストを取りはずす (→ P. 160)
- 6 フロントシートをいちばん前までスライドする
- 7 フロントシートの背もたれをいちばんうしろに倒す

 知識

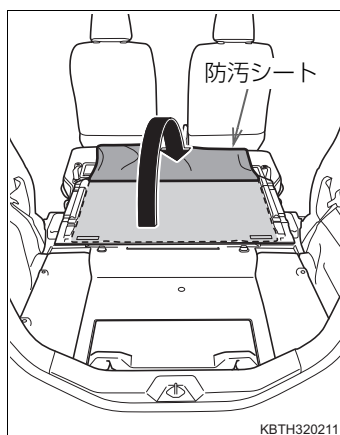
■ カーゴボードの防汚シートについて

ダイブインモードにしてカーゴボード裏面にある防汚シートを展開すると、リヤシートを汚すことなく荷物を積みことができます。

- 1 ダイブインモードにする (→ P. 163)
- 2 カーゴボードを車両前側に反転する



- 3 カーゴボード裏面の防汚シートを車両前側にめくる



 警告**■ シートアレンジについて**

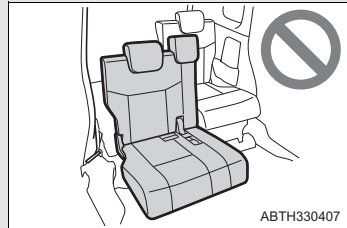
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

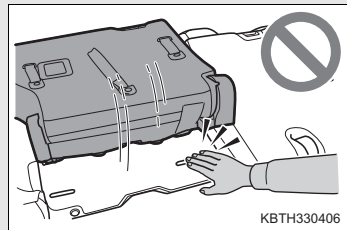
- 必ず平坦な場所でシフトレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートのあいだにシートベルトが挟みこまれていないか確認してください。
- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

警告**■ダイブインモードについて**

- カーゴスペースに人を乗せて走行しないでください。
- 操作するときは、2 箇所のストラップ (→ P. 163) を必ず両手で持って、リヤシートの下を持たないようにしてください。また、もともにもどすときは、シートが固定されるまでストラップから手を離さないでください。シートが落下したときに、手を挟みけがをするおそれがあります。
- 格納操作時以外、シートロック解除ストラップを操作しないでください。
- リヤシートを格納するときは、カーゴルーム側から操作しないでください。体がシートの重みで前側に引っぱられ、けがをするおそれがあります。
- リヤシートを格納した状態から背もたれだけ起こして、人を乗せないでください。シートが固定されていないため走行中にシートが動き、急ブレーキや事故の際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



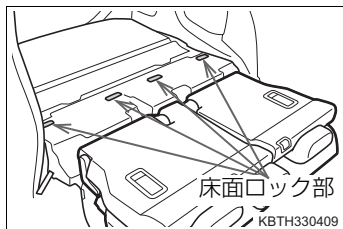
- リヤシートをもともにもどしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。
- リヤシートをもともにもどすときは、シート脚部と床面ロック部のあいだに手や足を近付けないでください。手や足を挟み、けがをするおそれがあります。

**■フルフラットモードについて**

人を乗せて走行しないでください。体が固定されていないため、急ブレーキや事故の際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

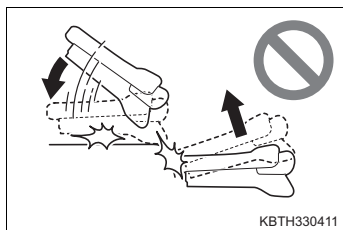
⚠ 注意**■ ダイブインモードについて**

- リヤシートを格納するときや、もとにもどすときは、床面やシートクッションの上に物が無いことを確認してから行ってください。
- リヤシートを格納するとき、シートをいちばんうしろまでスライドしてから行ってください。いちばんうしろの位置以外で操作すると、シート周辺の部品と干渉して傷付いたり、破損するおそれがあります。
- リヤシートをもとにもどす前に、床面ロック部に異物が入っていないことを確認してください。異物が入っていると、シートが固定できなったり、ロック機構が破損するおそれがあります。



- リヤシートをもとにもどすときは、次のことをお守りください。シートとフロアが干渉して破損するおそれがあります。

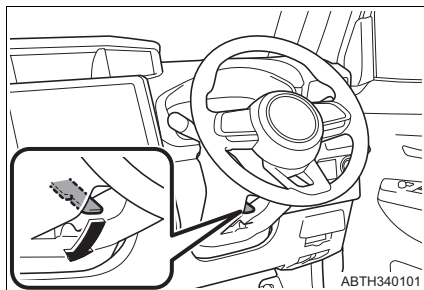
- ・ シートを斜めにして持ち上げない
- ・ シートが固定されるまで両手で持っているストラップを離さない



ハンドル

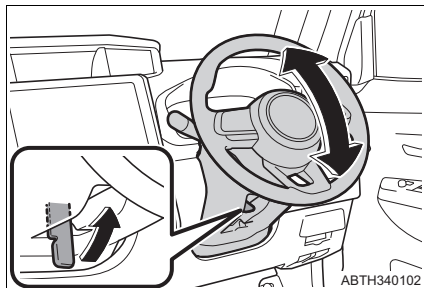
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

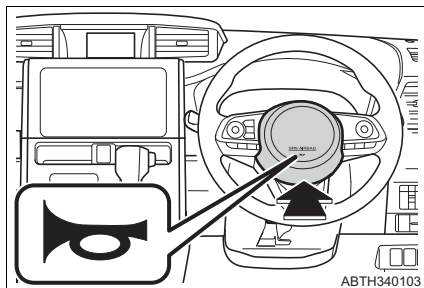
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。

プッシュエンジンスイッチの位置に関
係なく鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 169）

警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

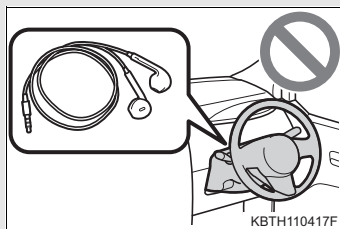
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ SRS エアバッグについて

ハンドルやその周辺に物を置いたり、ケーブルなどをひっかけたりしないでください。

スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRS エアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



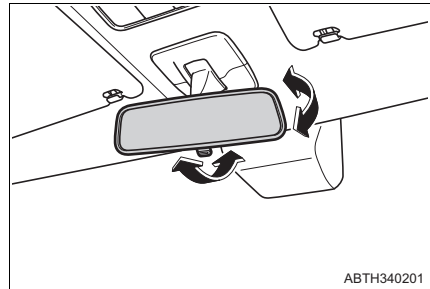
ルームミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの角度を調整することができます。

調整のしかた

運転姿勢に合わせてルームミラーの角度を調整することができます。

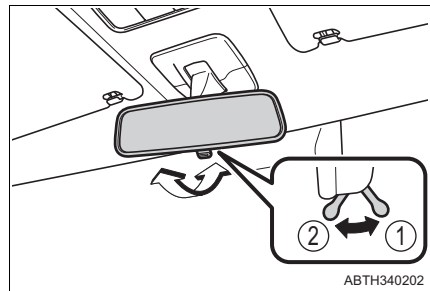
ルームミラー本体を持って調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

■ 走行中の警告

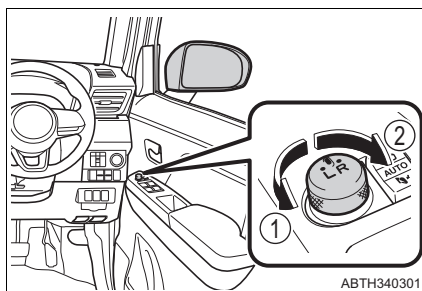
走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

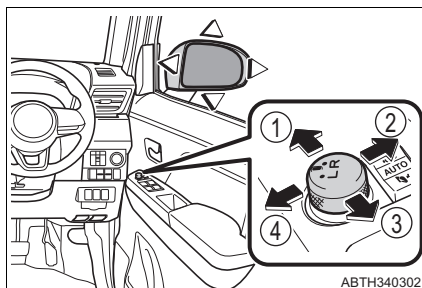
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

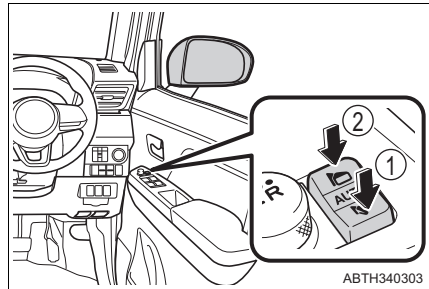
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する**■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた**

スイッチを押す

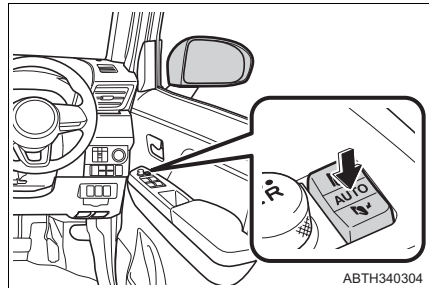
- ① 格納する
- ② 復帰する

**■ オート作動**

キーレスアクセスによるドアの施錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納します。

▶ 格納のしかた

- ① スイッチを“**AUTO**”（中立）の位置にする
- ② ロック／アンロックスイッチ操作、または電波式リモコン操作でドアを施錠する

**▶ 復帰のしかた**

プッシュエンジンスイッチを“**ACC**”または“**ON**”にする

 知識

■ 作動条件

プッシュエンジンスイッチが“ACC” または“ON” のとき

■ ミラーが曇ったとき（ヒートッドアミラー装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ヒートッドアミラーが同時に作動し、曇りを取り除くことができます。（→ P. 342）

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■ オート作動での格納（または復帰）をさせたくないとき

スイッチを復帰（または格納）の位置にしてください。

■ カスタマイズ機能

オート作動の作動内容などを変更できます。
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

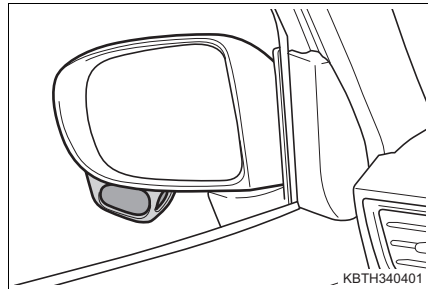
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ヒートッドアミラーが作動しているとき（ヒートッドアミラー装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

サイドアンダーミラー

発進時またはごく低速時に、助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

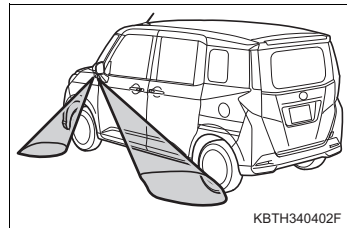


知識

■ミラーに映るおよその範囲

運転者の身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■サイドアンダーミラーについて

- サイドアンダーミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。そのままにしておくと、視界のさまたげとなるおそれがあります。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかルームミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウィンドゥ

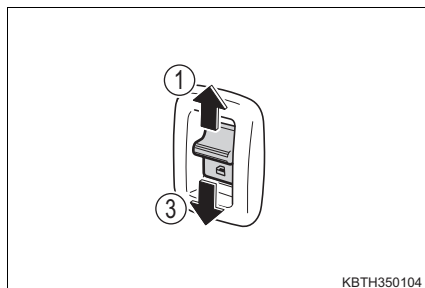
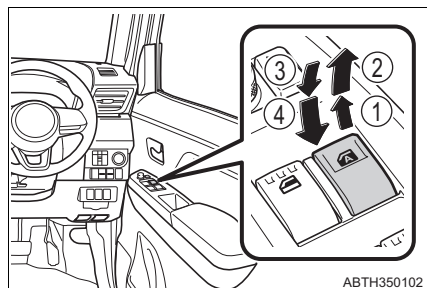
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

▶ 運転席／助手席

▶ 後席



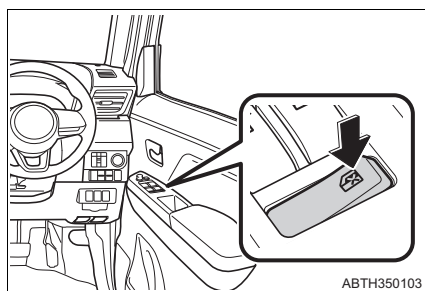
- ① 閉める
- ② 自動全閉（運転席のみ）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（運転席のみ）※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウィンドゥロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき

■ エンジン停止後の作動（運転席のみ）

プッシュエンジンスイッチを“ACC”、または“OFF” にしたあとでも、約40秒間はドアガラスを開閉できます。

■ ウインドウ反転機構（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 運転席ドアガラスを閉めることができないとき

ウインドウ反転機構が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドゥスイッチで、次の操作を行ってください。

- ① お車を停止し、プッシュエンジンスイッチを“ON” にする
- ② 運転席ドアウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにスイッチを6秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーを再接続したときは

パワーウインドゥを適切に作動させるために、初期設定を次の手順で行ってください。

- ① プッシュエンジンスイッチを“ON”にする
- ② 運転席ドアウインドゥスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉したあと、さらにスイッチを2秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

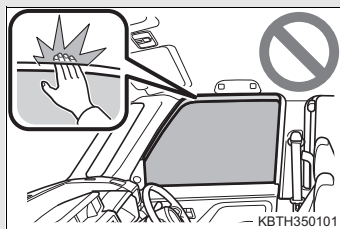
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドゥロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 176)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- お車から離れるときはプッシュエンジンスイッチを“OFF”にし、アクセスキーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ウインドゥ反転機構（運転席のみ）

- ウインドゥ反転機構を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- ウインドゥ反転機構は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、ウインドゥ反転機構は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	180
荷物を積むときの注意	191

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	193
CVT 車の運転	198
方向指示レバー	202
電動パーキングブレーキ	203
オートブレーキホールド 機能	208

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ライティングスイッチ	211
ADB（アダプティブ ドライビングビーム）	215
フォグライティング スイッチ	220
ワイパー＆ウォッシャー （フロント）	221
ワイパー＆ウォッシャー （リヤ）	223

4-4. 給油のしかた

フューエルリッド （燃料給油口）の開け方	225
-------------------------------	-----

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト	229
衝突警報機能（対車両・ 対歩行者）、衝突回避支援 ブレーキ機能（対車両・ 対歩行者）	243
ブレーキ制御付誤発進 抑制機能（前方・後方）	255
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能	265
ふらつき警報	270
先行車発進お知らせ機能	273
標識認識機能（進入禁止／ 最高速度／一時停止）	276
全車速追従機能付 ACC （アダプティブクルーズ コントロール）	280
アイドリングストップ システム	298
コーナーセンサー	307
リヤビューカメラ	314
パノラミックビュー モニター	318
運転を補助する装置	325

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	331
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンを始動する

→ P. 193

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 198)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 203)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 198)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、お車を完全に停止させる
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけて (→ P. 203)、シフトレバーを P にする (→ P. 198)
パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P にしたときに、自動でパーキングブレーキがかかります。(→ P. 204)
パーキングブレーキ表示灯 (→ P. 203) が点灯していることを確認してください。
- 3 プッシュエンジンスイッチを “OFF” にしてエンジンを停止する
- 4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

オートリリース機能 (→ P. 205) により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキが解除されます。

3 お車が動き出す感触を確認したら発進する

知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ エンジン出力の抑制について (ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステムが作動した場合、警告メッセージが表示されます。(→ P. 450)

■ 急発進の抑制および後退速度の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような場合、ドライブスタートコントロールが作動します。

- ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき（D は S・B ポジションを含む）のような通常と異なる操作が行われると、エンジンの出力を抑制することがあります。

この場合、警告メッセージが表示されます（→ P. 449）

- ・ 後退時の速度が所定以下になるようにエンジンの出力を抑制 ※ します。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 326）させることにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。
- 「DSC 故障」の警告メッセージ（→ P. 449）を表示しているときは、ドライブスタートコントロールが作動しません。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂部品（バンパー、リヤゲートなど）に取り付けることはできません。

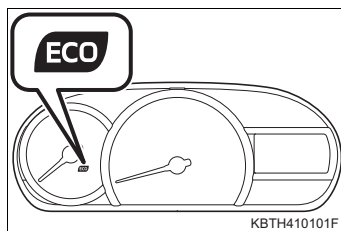
■ 環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケータランプは作動しません。

- シフトレバーが D 以外のとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき
- 全車速追従機能付き ACC による走行中（→ P. 280）
- 走行モードが POWER モードのとき（→ P. 199）

エコドライブインジケータランプの表示／非表示を設定できます。（→ P. 92）



 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。（ブレーキ保持による停車時を除く）クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近にお車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 426を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 198)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・ルームミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また、フルタイム 4WD 車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンプレーキやエンジン回転数の変化は、お車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが止まり、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早く SUBARU 販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- お車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、お車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。

ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、SUBARU 販売店または専門業者へご連絡ください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。(→ P. 181)
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、お車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

 注意**■ タイヤがパンクしたときは**

タイヤの損傷の程度を確認してください。

- 修理可能な場合は、応急修理してください。(→ P. 464)
- 修理不可能な場合は、SUBARU 販売店にご連絡ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ず SUBARU 販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスファー (4WD 車)・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト (4WD 車) 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はカーゴルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤシート（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ フタのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをカーゴルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真うしろには積まないでください。
- カーゴルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

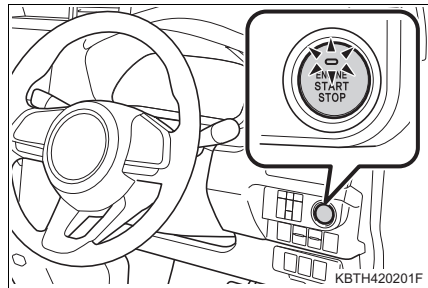
エンジン（イグニッション）スイッチ

アクセスキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはプッシュエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 26）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPにあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む

プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



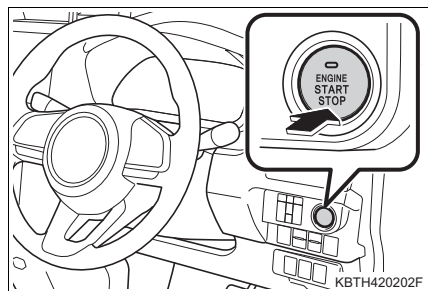
- 5 プッシュエンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、長押しする必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

プッシュエンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 203)、シフトレバーを P にする
- 3 プッシュエンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離して、プッシュエンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

プッシュエンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

“OFF” ※

非常点滅表示灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

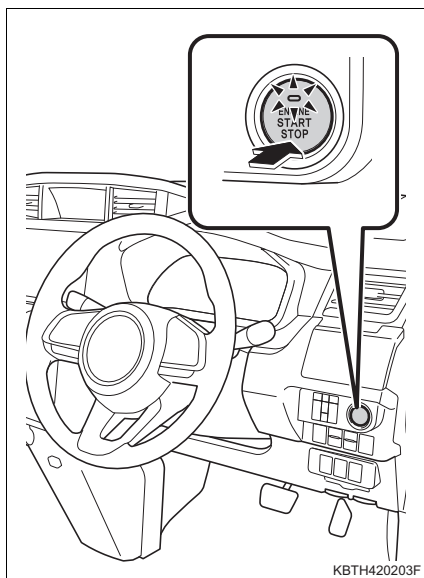
プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーがP以外のときは “ACC” になり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、プッシュエンジンスイッチのモードは“ACC”になり“OFF”になりません。次の手順で“OFF”にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P にする
- 3 プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、プッシュエンジンスイッチを 2 回押す
- 4 プッシュエンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上“ON”（エンジンがかかっていない状態）か 1 時間以上“ACC”にしたままにしておくと、プッシュエンジンスイッチが自動で“OFF”になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ アクセスキーの電池の消耗について

→ P. 120

■ キーレスアクセスが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 117

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 118

■ エンジンが始動しないとき

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）が解除されていない可能性があります。（→ P. 66）

■ プッシュエンジンスイッチの表示灯が黄色に点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ アクセスキーの電池が切れたときは

→ P. 405

■ プッシュエンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合や速く連続して押した場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- プッシュエンジンスイッチ “OFF” 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。プッシュエンジンスイッチ “OFF” 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能でキーレスアクセスを非作動にしたときは

→ P. 493

⚠ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ドアの施錠操作をしたりしないでください。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、プッシュエンジンスイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 426)
ただし、緊急時以外は走行中にプッシュエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、プッシュエンジンスイッチを“ACC” または“ON” にしたまま長時間放置しないでください。
- プッシュエンジンスイッチの表示灯が消灯していない場合プッシュエンジンスイッチが“OFF” になっていません。プッシュエンジンスイッチを“OFF” にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、プッシュエンジンスイッチが“ACC” となるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

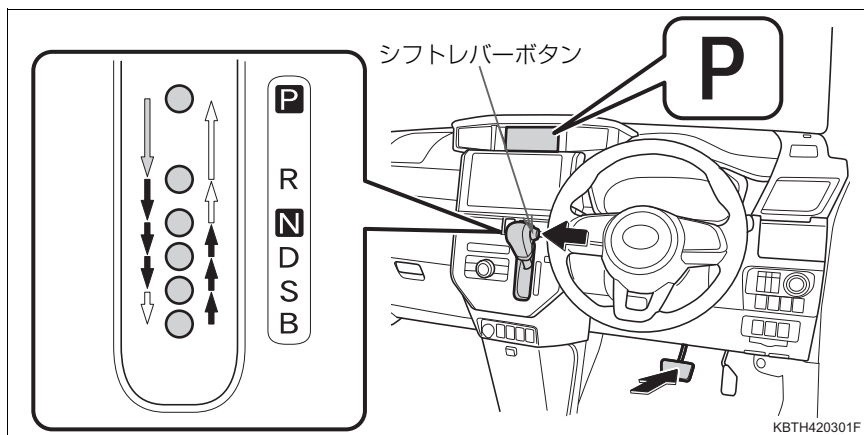
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにSUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ プッシュエンジンスイッチの操作について

プッシュエンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにSUBARU 販売店にご連絡ください。

CVT 車の運転

シフトレバーの動かし方



- ← プッシュエンジンスイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。
- ← シフトレバーボタンを押して操作します。
- ← シフトレバーボタンを押さずに操作します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

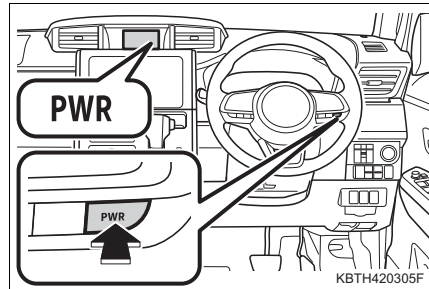
走行モードの選択

POWER モード切替スイッチを押す

POWER モードに切り替わり、ディスプレイ内に POWER モードが表示されます。

シフトレバーが D・S のときに軽快な走行をすることができます。

再度スイッチを押すと通常走行モードへ戻ります。



知識

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

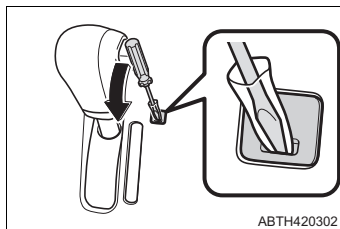
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

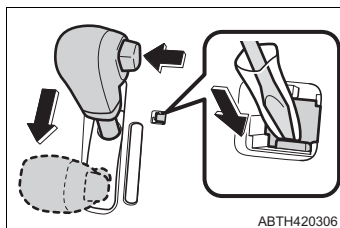
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 プッシュエンジンスイッチを “OFF” にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取り外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■ POWER モードについて

● 次のいずれかの場合、POWER モードの制御は行われません。

- ・ シフトレバーが R・B のとき
- ・ 全車速追従機能付 ACC (→ P. 280) が作動しているとき

● POWER モード切替スイッチを “ON” にしても、プッシュエンジンスイッチを再度 “ON” にすると POWER モード切替スイッチは自動的に “OFF” になります。

● エンジン警告灯、CVT 警告灯が点灯・点滅しているときは、POWER モードに切り替わりません。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。プッシュエンジンスイッチが “ON” でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

⚠ 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、お車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

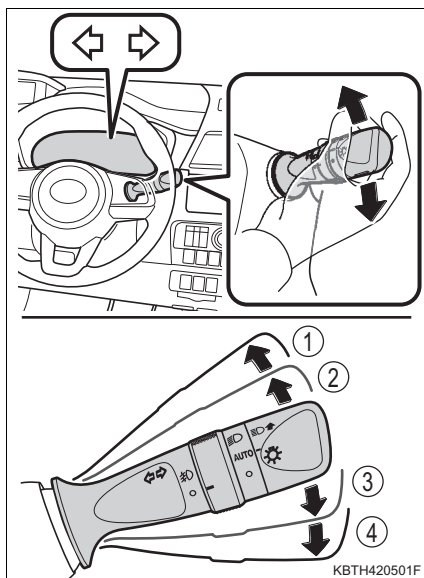
方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持 ※)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持 ※)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折

※ ②または③の位置にレバー操作し、すぐに離れたときは方向指示灯が3回点滅します。



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の②または③の位置に操作してください。レバーを①または④の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

■ カスタマイズ機能

方向指示灯の設定を変更できます。(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

電動パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモード作動中は、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモード作動中でも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

パーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキをかける・解除することができます。

- ① パーキングブレーキをかける
(スイッチを引く)

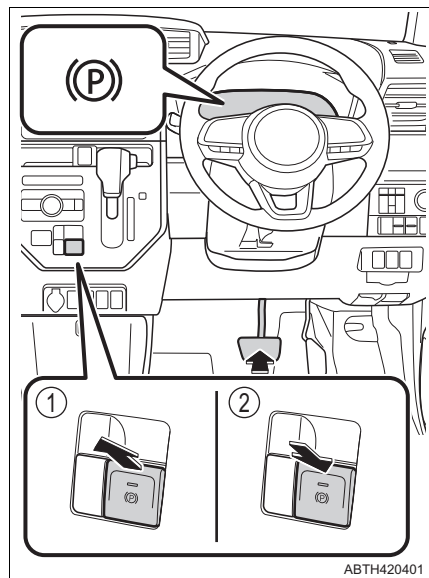
パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けることで車両を停止させることができます。

- ② パーキングブレーキを解除する
(スイッチを押す)

- ・ ブレーキペダルをしっかりと踏みながら操作してください。
- ・ オートリリース機能(→ P. 205)により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときは、ゆっくり踏んでください。

パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が消灯します。



■ オートモード

シフトレバーを P 以外から P にしたとき、自動でパーキングブレーキをかけることができます。

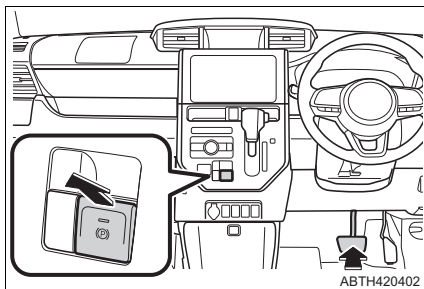
パーキングブレーキがかかると、パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

パーキングブレーキの解除方法は、マニュアルモード（→ P. 203）を参照してください。

▶ オートモードを ON にする

停車中にパーキングブレーキがかかった状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ピッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを引き続ける

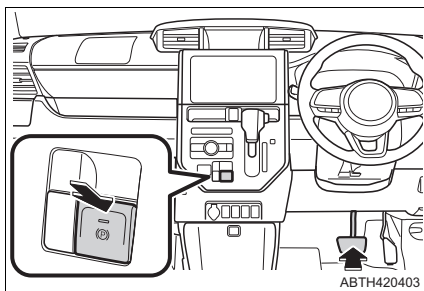
ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



▶ オートモードを OFF にする

停車中にパーキングブレーキが解除された状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ピピッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを押し続ける

ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



 知識

■ パーキングブレーキの作動について

- プッシュエンジンスイッチモードによらず、パーキングブレーキをかけることができます。
- パーキングブレーキが作動（かける・解除する）するとき、ブレーキペダルが動くことがあります。これはパーキングブレーキの作動によるもので異常ではありません。

■ パーキングブレーキの解除について

- プッシュエンジンスイッチが“ON” 以外では、パーキングブレーキを解除できません。
- ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すと、ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキを踏みながらスイッチを操作してください」と表示されブレーキペダルを踏むよう運転者にお知らせします。

■ オートモードの作動について

- プッシュエンジンスイッチが“ON” 以外では、オートモードによる作動はできません。
- シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- シフトレバーを素早く、またはゆっくり操作すると、オートモードが作動しない場合があります。その場合、手動でパーキングブレーキを操作してください。（→ P. 203）

■ オートリリース機能について

次の条件をすべて満たしてアクセルペダルを踏むと、パーキングブレーキが解除されます。

- 運転席のドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- シフトレバーが P・N 以外の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除されない場合は、手動で解除してください。

■ パーキングブレーキ表示灯が点滅したとき

- パーキングブレーキ表示灯が点滅したときは、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても点滅が続く場合は、システムに異常があるおそれがあります。SUBARU 販売店で点検を受けてください。
- 短時間にパーキングブレーキの作動を繰り返すと、システム過熱防止のためにパーキングブレーキの作動を制限することがあります。一時的に操作を控えてください。1 分程度でもとの状態に戻ります。

■ パーキングブレーキの作動音について

- パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 緊急時にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、エンジンルーム付近から音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 急勾配の坂に停車している状態でパーキングブレーキを作動させた場合、パーキングブレーキ作動灯が点灯してから数分後に作動音（パーキングブレーキ作動）がすることがありますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、プッシュエンジンスイッチモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
“ON”：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
“ON” 以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でプッシュエンジンスイッチを“OFF”にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

パーキングブレーキスイッチが故障し、パーキングブレーキが解除できない場合はオートリリース機能（→ P. 205）により解除してください。

■ 駐車するとき

→ P. 180

■ パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーについて

パーキングブレーキが解除されないまま走行すると警告ブザーが鳴り、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 451）

■ ブレーキ警告灯（黄色）が点灯したとき

→ P. 437

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 332

■ バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキを作動（かける・解除する）させることはできません。（→ P. 479）

⚠ 警告

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。お車が動きだしたり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。（→ P. 180）

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、パーキングブレーキの思わぬ作動につながるおそれがあります。

■ 走行時のパーキングブレーキ使用について

緊急時以外は走行中にパーキングブレーキを使用しないでください。

■ 走行前の留意事項

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 故障などでパーキングブレーキが作動しないとき

システム異常により電動パーキングブレーキが作動しない場合は、ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。

オートブレーキホールド機能

ブレーキペダルを踏んで停車した際、ブレーキペダルから足を離しても、ブレーキを保持するシステムです。
保持中にアクセルペダルを踏むと、ブレーキは解除されます。

システムを作動させるには

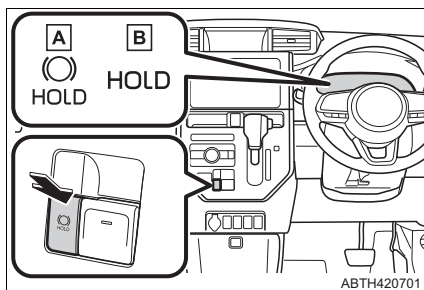
- 1 スイッチを押して、オートブレーキホールド機能を ON にする
オートブレーキホールドスタンバイ表示灯 **A** が点灯します。

- 2 シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで車両を停止させる

ブレーキがしっかり踏み込まれているとブレーキ保持を開始します。ブレーキ保持中はオートブレーキホールド作動表示灯 **B** が点灯します。

次の場合にブレーキ保持は解除されます。

- ・ シフトレバーを P にする
- ・ シフトレバーが R でブレーキペダルを踏む



知識

■ システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと、オートブレーキホールド機能を ON にできます。

- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している

オートブレーキホールド機能が ON のときに上記条件を満たさなくなると、機能が OFF になり、オートブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は自動的にパーキングブレーキがかかります。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかり、制動灯が消灯します。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にパーキングブレーキスイッチを引くとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ保持は解除されます。
- ブレーキ保持中にブレーキペダルを素早く踏むと、ブレーキ保持は解除されます。
- 急勾配の坂でブレーキ保持できない場合、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブレーキ操作を促します。運転者がブレーキペダルを踏んでブレーキをかけてください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、再度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの方法でパーキングブレーキを解除してください。

- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作する
操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
(→ P. 437)
- 運転席ドアを閉め、運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

■ SUBARU 販売店で点検が必要なとき

オートブレーキホールド機能の作動条件を満たしているときに、オートブレーキホールドスイッチを押してもオートブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯しないときは、ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ オートブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意を促します。警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキペダルを踏まずにスイッチを操作したときは

オートブレーキホールド作動表示灯が点灯しているときに、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを操作すると、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作してください。

■オートブレーキホールド機能の作動音

オートブレーキホールド作動中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を高めるために作動音が発生する場合があります。

■オートブレーキホールド機能について

- プッシュエンジンスイッチを“OFF”にすると、システムは自動的にOFFになります。
- ブレーキ保持中にブレーキペダルを踏むと重く感じるがありますが、異常ではありません。
- アイドリングストップの作動条件を満たしているときは、アイドリングストップも作動します。
- 停車時にブレーキペダルをしっかりと踏み込まないと、システムが作動しないことがあります。

⚠ 警告

■急坂路では

急な坂道ではオートブレーキホールド機能を使用しないでください。オートブレーキホールド機能が作動しない、または作動しても停車を維持できずに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■滑りやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。滑りやすい路面での使用は控えてください。

■安全にお使いいただくために

- オートブレーキホールド機能を過信しないでください。オートブレーキホールド機能は停車時のブレーキ操作を補助する機能です。ブレーキ操作を怠ると不意にお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の交通状況に応じて適切にブレーキ操作を行ってください。
- オートブレーキホールド作動表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。お車が停止状態を保持できず、動き出すおそれがあります。

■駐車するとき

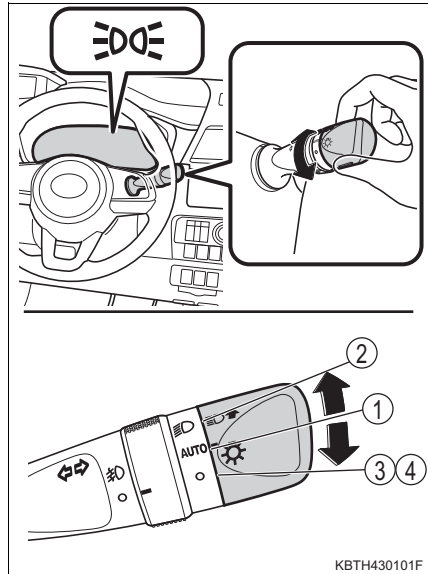
オートブレーキホールド機能は長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にプッシュエンジンスイッチを“OFF”にすると、保持が解除されてお車が動き出す場合があります。プッシュエンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。

ライティングスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

プッシュエンジンスイッチが“ON”のとき、次のように  スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ		
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯	LED ライナー
①	AUTO	自動点灯・消灯		点灯
②		点灯 ※ ¹		
③ ※ ² 、 ³	○	消灯	点灯	
④ ※ ² 、 ⁴		消灯		

※¹ プッシュエンジンスイッチが“ACC” または“OFF” のときも点灯します。

※²  スイッチを ○ の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。

※³ 車速が約 3km/h 以下で自動点灯しているとき

※⁴ 車速が約 3km/h 以下で  スイッチを約 1 秒以上操作したとき

■ ランプ類の再点灯について

※ スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

- 車速が約 3km/h を超えたとき
- 再度 ※ スイッチを ○ の位置に操作したとき
- プッシュエンジンスイッチを再度“ON”にしたとき
- 車速が約 3km/h 以下(停車時を除く)の状態のまま約 30 秒経過したとき

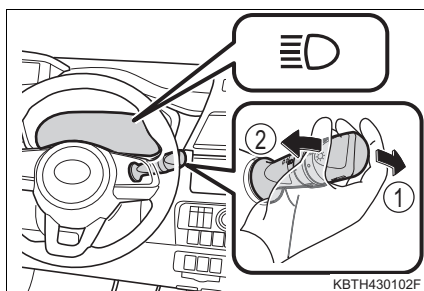
ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

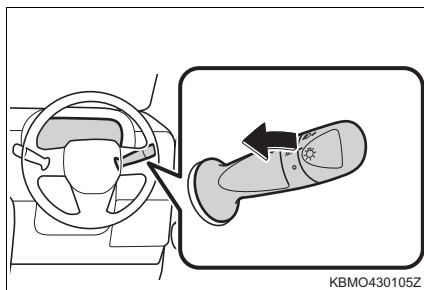
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



ヘッドランプ点灯延長機能

エンジンスイッチが“OFF”の状態、ヘッドランプを約 30 秒間点灯させることができます。

エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、ライティングスイッチが **AUTO** の位置で、レバーを手前に引いて離します。



約 30 秒間経過する前に次の操作をすると、ヘッドランプが消灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき ※¹
- ライティングスイッチを操作したとき ※²
- ライティングスイッチを再度手前に引いて離したとき

※¹ 周囲が暗いときは、点灯したままになる場合があります。

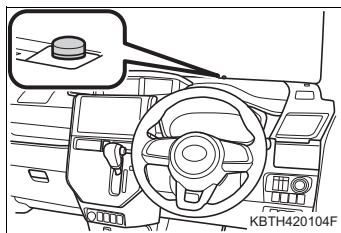
※² ライティングスイッチを  に操作したときは、点灯したままになります。



知識

■ ライトセンサー

- 次のことをお守りください。
お守りいただかないと自動点灯・消灯機能が正常に動かなくなります。
- ・ センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らない
- ・ ガラスクリーナーなどを吹きかけない



■ ランプ消し忘れ防止機能

- ランプ類が点灯している状態で、プッシュエンジンスイッチを“ON”から“ACC”または“OFF”にすると、点灯していたランプ類が自動で消灯します。
- 再度ランプを点灯する場合は、プッシュエンジンスイッチを“ON”にするか、再度  の位置にします。

■ オートヘッドランプレバイザー

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによるお車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

- プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態、ヘッドランプ・尾灯を点灯して運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。
(ヘッドランプ点灯延長機能による点灯時は除く)
- ブザーと共に警告メッセージが表示されます。(→ P. 454)

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態、ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。

自動消灯したあと、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

- プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき
- ライティングスイッチを操作したとき(ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します)
- いずれかのドアを開閉したとき(ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します)

■ サイドビューランプ

サイドビューランプは、点灯したまま約 5 分経過すると、自動的に消灯します。

消灯後再度、方向指示レバー、ハンドル操作を行うか、シフトレバーを R にすると点灯します。

停車時に自動的に消灯した場合は、車速約 3km/h で走行すると点灯します。

■ カスタマイズ機能

ヘッドランプ点灯延長機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずランプ類を消灯してください。

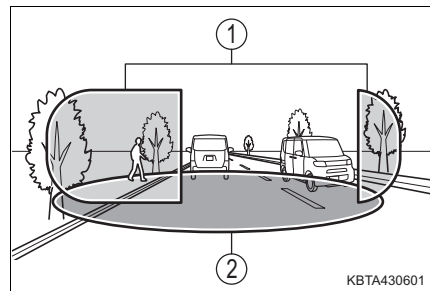
ADB（アダプティブドライビングビーム）

ADB は、フロントウィンドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

- 対向車または先行車の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

対向車または先行車へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

- ① ハイビームで照らす範囲
- ② ロービームで照らす範囲



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

ADB を過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

■ADB を正しく作動させるために

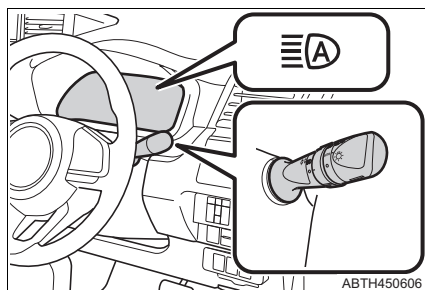
- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

ADB の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、ADB が作動し、ADB 作動灯が点灯します。

- プッシュエンジンスイッチが“ON”のとき
- ライティングスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき

周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ヘッドランプ照射範囲の自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の街灯が暗い

次の条件をすべて満たすと、対向車または先行車の位置に応じて遮光ハイビームに切り替わります。

- 車速が約 30km/h 以上
- 前方にランプを点灯した車両がある
- 車両前方が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームに切り替わります。

- 車速が約 20km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車の台数が多い
- 前方の街灯が明るい

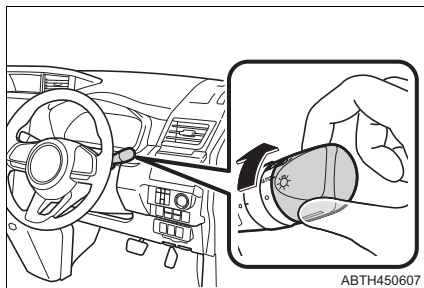
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ライティングスイッチを  にする

ADB 作動灯が消灯します。

ADB に戻すには、ライティングスイッチを **AUTO** に戻します。



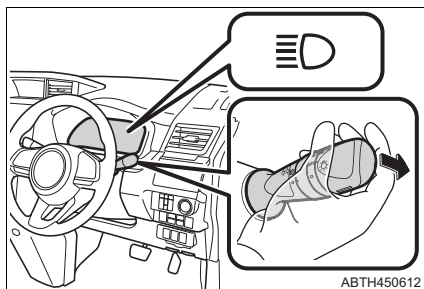
ABTH450607

■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

ADB 作動灯が消灯し、ハイビーム / パッシング表示灯が点灯します。

ADB に戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



ABTH450612

サイドビューランプ

ADB 作動灯点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、ロービームが追加点灯し車両進行方向を照射します。

ただし、車速約 35km/h 以上の場合は、サイドビューランプは点灯しません。

● ハンドルを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ・ ロービームを消灯したとき
- ・ ライティングスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- ・ ハンドルをまっすぐに戻したとき

● 方向指示レバーを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ・ ロービームを消灯したとき
- ・ ライティングスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- ・ 方向指示レバーをもとに戻したとき

- シフトレバーが R のとき（左右両側のサイドビューランプが点灯）
次のいずれかのとき消灯します。
 - ・ ロービームを消灯したとき
 - ・ ライティングスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
 - ・ シフトレバーを D・S・B にして車速が約 5km/h 以上になったとき

知識

■ ADB について

- 次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切り替わらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合があります
- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合や、切り替わらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度や、ロービームへの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 遮光ハイビームに切り替わってもハイビーム表示灯は点灯したままです。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

- ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
- ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ・ステレオカメラの温度が高いとき
- ・ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブ、うねった道路、坂道のとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- ・著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■ ADB 警告灯が点灯、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプ光軸異常」、または「ヘッドランプシステム故障」の警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ サイドビューランプ

サイドビューランプは、点灯したまま約 5 分経過すると、自動的に消灯します。

消灯後再度、方向指示レバー、ハンドル操作を行うか、シフトレバーを R にすると点灯します。

停車時に自動的に消灯した場合は、車速約 3km/h で走行すると点灯します。

■ カスタマイズ機能

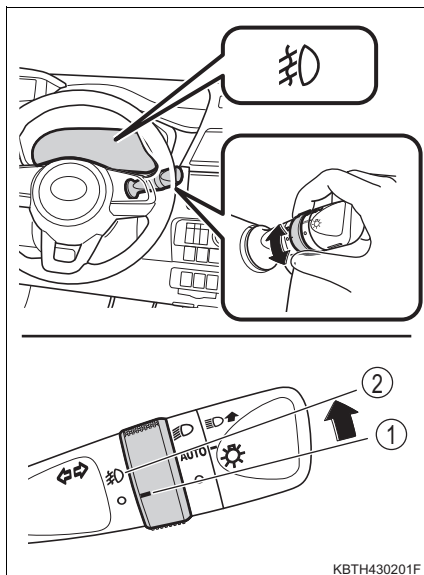
ADB の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

フォグライティングスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ 点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

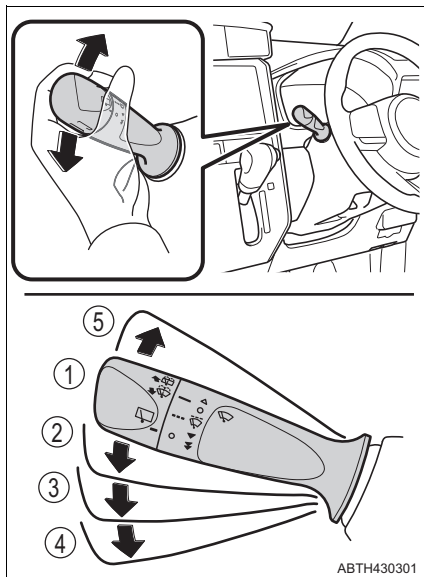
操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

 を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間がかわります。

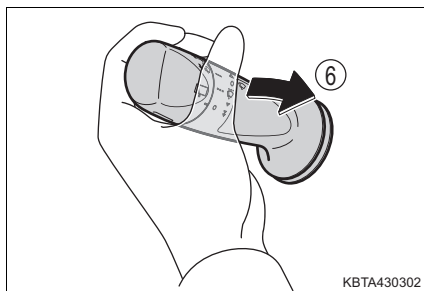
- ① ○ 停止
- ②  間欠作動
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼ 高速作動
- ⑤ ▲ 一時作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。



- ⑥  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



 知識

■ 作動条件

プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ カスタマイズ機能

車速感应機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウィンドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウィンドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ フロントウィンドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときは SUBARU 販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

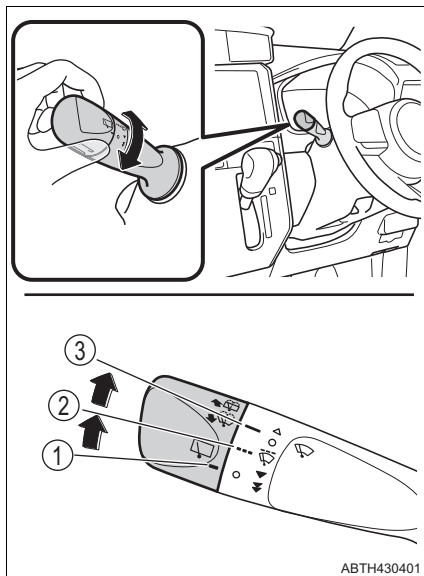
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

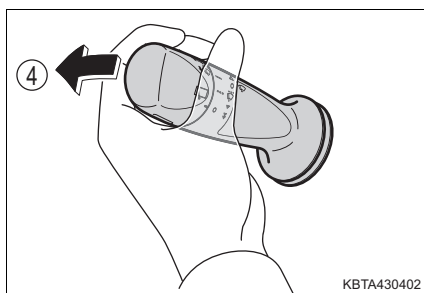
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

- ①  停止
- ②  約 4 秒間低速作動した後、
間欠作動
- ③  通常作動



- ④  ウォッシャー液を出す
レバーを前方へ押すとウォッシャーが
作動します。



 知識

■ 作動条件

プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが数回作動します。

■ カスタマイズ機能

作動の間隔などの設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときは SUBARU 販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

フューエルリッド（燃料給油口）の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■ エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

■ 助手席側スライドドアが全開にならない状況

フューエルリッドが開いていると、助手席側スライドドアは途中までしか開きません。

(→ P. 135)

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボディなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、フューエルリッドに静電気を除去していない人を近付けしないでください。

静電気を帯電した人がフューエルリッドに近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- フューエルキャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、フューエルキャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでフューエルキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、フューエルリッドから燃料が噴き出るおそれがあります。

 警告

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- フューエルリッドにノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意**■ 給油するとき**

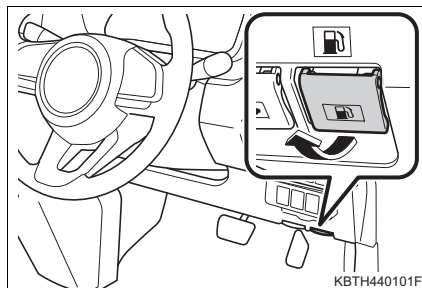
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

※：アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合している ETBE や E3 などのバイオガソリンは使用できます。

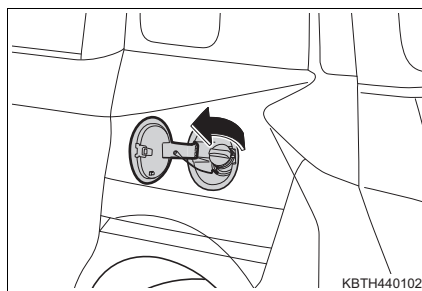
フューエルリッドの開け方

- 1 オープナーレバーを引く

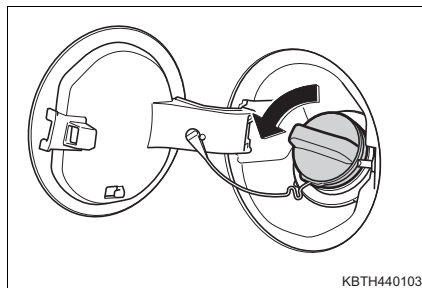


- 2 フューエルリッドを止まる位置まで開ける

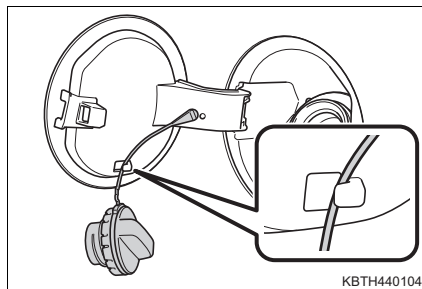
フューエルリッドがもどらないことを確認する。



- 3 フューエルキャップをゆっくりまわして開ける



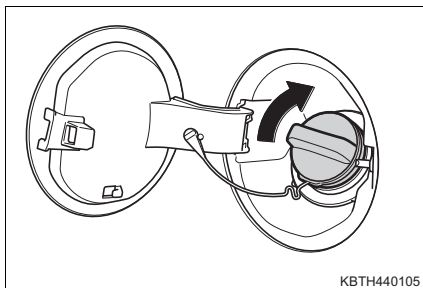
- 4 フューエルキャップをハンガーにかける



フューエルリッドの閉め方

フューエルキャップを “ カチッ ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、フューエルキャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■ フューエルキャップが正常に閉まらないとき

必ず SUBARU 販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないフューエルキャップをそのまま使用したり、SUBARU 純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スマートアシスト

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 243

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 243

◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

→ P. 255

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 265

◆ 路側逸脱警報機能

→ P. 265

◆ ふらつき警報

→ P. 270

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 273

◆ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）

→ P. 276

◆ 全車速追従機能付 ACC

→ P. 280

◆ ADB

→ P. 215

 警告**■スマートアシストについて**

- スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- お客様ご自身でスマートアシストの作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。(→ P. 233)
 - ・タイヤの空気圧が適正でないとき
 - ・スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - ・摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - ・メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - ・タイヤパンク修理キットを使用したとき
 - ・サスペンションを改造したとき
 - ・ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
 - ・ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
 - ・ヘッドランプの光軸がずれているとき
 - ・ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
 - ・荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・車両を改造・架装したとき
 - ・けん引されるとき
 - ・キャリアカー・船舶・列車などに積載するとき
 - ・シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 - ・リフトアップし、エンジンを始動してタイヤを空転させたいとき
 - ・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
 - ・サーキットなどでスポーツ走行するとき
 - ・脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
 - ・冠水した道を走行するとき
 - ・事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - ・ブレーキ警告灯が点灯しているとき
 - ・洗車機を使用するとき

車両データの記録について

スマートアシストには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ハンドルおよびシフトレバーの操作状況
- 車速などの車両情報
- スマートアシストの各機能の作動状況
- 前方車両や歩行者、障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（衝突回避支援ブレーキ作動時）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

SUBARU および SUBARU が委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、SUBARU および SUBARU が委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- SUBARU が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

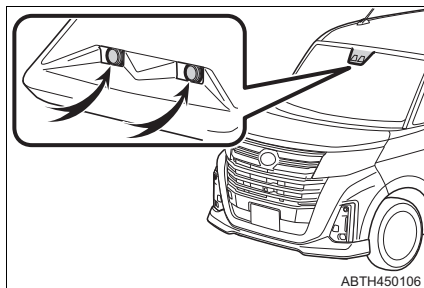
【ここでいう SUBARU は、株式会社 SUBARU を意味しています。】

記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、SUBARU 販売店にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で必要な情報を認識します。

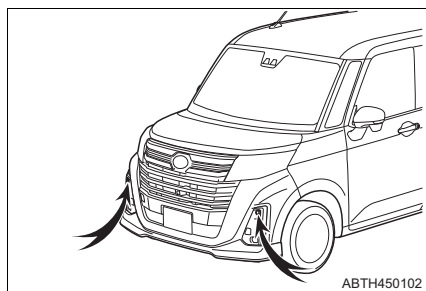
- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 路側逸脱警報機能
- ふらつき警報
- 先行車発進お知らせ機能
- 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）
- 全車速追従機能付 ACC
- ADB



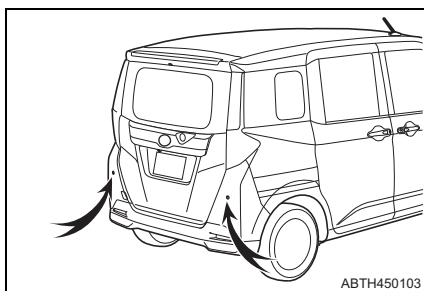
ソナー

ソナーは、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）で必要な情報を認識します。

▶ フロントソナー



▶ リヤソナー



スマートアシストの機能を停止するには

スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

また、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定を変更することにより、スマートアシストの一部の機能を停止することができます。

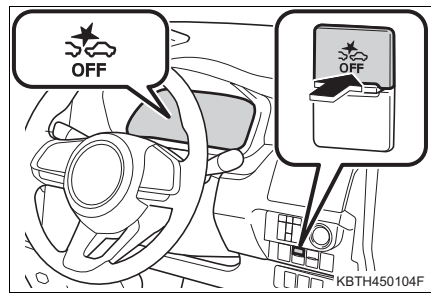
(→ P. 96)

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能・標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）・全車速追従機能付 ACC を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを 2 秒以上長押しする

“ピピッ” とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度2秒以上長押しすると、“ピピッ” とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。

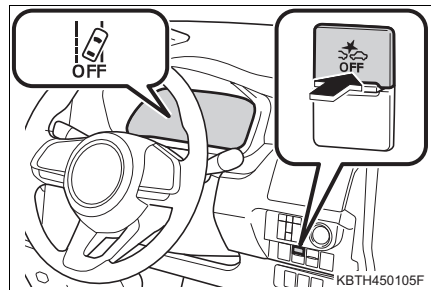


■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ” とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ” とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



 知識

■ステレオカメラについて

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■スマートアシストが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※「スマアシ停止」が表示されていても、一部の機能は作動します。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。（→ P. 461）

状況が改善されれば再度機能は作動します。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
- エンジン始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■スマートアシストの自動復帰について

スマートアシストOFFスイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）
- 全車速追従機能付 ACC

■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報について

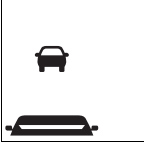
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

■スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピ ピッ”	 (点滅)		衝突警報機能が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 		衝突回避支援ブレーキ 機能の 1 次ブレーキ、 または 2 次ブレーキが 作動
“ピピピッ”と鳴 り続ける	 (点滅)		衝突回避支援ブレーキ 機能の 2 次ブレーキが 作動したあと、車両が 停止 運転者の操作でブザー とディスプレイの表示 が終了します。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピ ピッ”	 (点滅)		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動
“ピピピピピ” と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動するとともにエンジンの出力を抑制
“ピピピピピ” と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピピッ”	 (点滅)		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動
“ピピピピピ” と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動するとともにエンジンの出力を抑制
“ピピピピピ” と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピッピピ ピッ”	 (点滅)		車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピッ”	 (点灯)		ふらつき警報が作動
“ピピピッ”	 (点滅)		先行車発進お知らせ機能が作動
—	 (緑色)	—	ADB が作動
— ※1	—		標識認識機能が作動
—	 SET		全車速追従機能付 ACC が車間制御モードで作動
—	 SET		全車速追従機能付 ACC が定速制御モードで作動
“ピッ”	—	 ※2	全車速追従機能付 ACC 作動時、先行車を認識した、または認識しなくなった

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピ” と鳴り続ける	—		全車速追従機能付ACCの接近警報が作動
—	—		全車速追従機能付ACCの停車保持が作動
“ピッ”	—		全車速追従機能付ACCの設定条件を満たさずに- SETスイッチ、または+ RESスイッチを押したとき
“ピッピッ” と鳴り続ける	—		全車速追従機能付ACCの停車保持が自動的に解除

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ	作動状態
“ピピッ”	—		作動条件を満たさなくなり、全車速追従機能付 ACC が解除された
“ピピッ”	—		先行車を認識しなくなり、全車速追従機能付 ACC が解除された

※¹ 標識認識機能（進入禁止）が作動したとき、ブザーが鳴るようにすることができます。（→ P. 95）

※² 先行車を認識したときは先行車表示灯が点灯し、認識しなくなったときは消灯します。

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞き取りにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

 警告**■ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ステレオカメラ前面のフロントウィンドウガラスは常にきれいにしてください。
 - ・フロントウィンドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・フロントウィンドウガラスにガラスコーティング剤などを使用しないでください。ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・フロントウィンドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、SUBARU 販売店にご相談ください。
- フロントウィンドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントウィンドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 342）
- フロントウィンドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。（→ P. 401）
 - ・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、SUBARU 販売店にご相談ください。
- フロントウィンドウガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合は SUBARU 販売店にご相談ください。
- フロントウィンドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。
フロントウィンドウガラスの交換が必要な場合は、SUBARU 販売店にご相談ください。

 警告

- SUBARU 純正品以外のフロントウインドゥガラスに交換しないでください。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、SUBARU 販売店にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けしないでください。
- ステレオカメラに強い光を照射しないでください。
- ステレオカメラをサンシェードで覆わないでください。覆うとステレオカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。
- ルームミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インstrumentパネル上部にものを置かないでください。フロントウインドゥガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- Instrumentパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドゥガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けしないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- SUBARU 純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

 警告**■ ソナーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ソナーは常にきれいにしてください。

- ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
- ・ 手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。

●ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ず SUBARU 販売店で点検を受けてください。

●ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。

●ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。

●ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

●バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。

●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、SUBARU 販売店にご相談ください。

■ 汚れ検知機能について

ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。

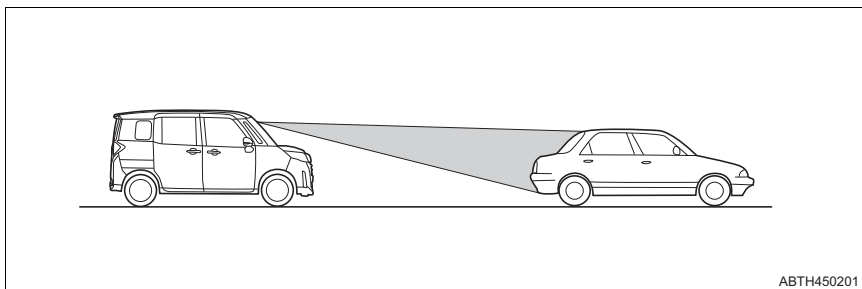
汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両^{※1}、歩行者^{※2}を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※1 二輪車、自転車を含む（人が乗車している場合のみを対象物としています）

※2 昼間、夜間対応



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 235）で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 235）で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

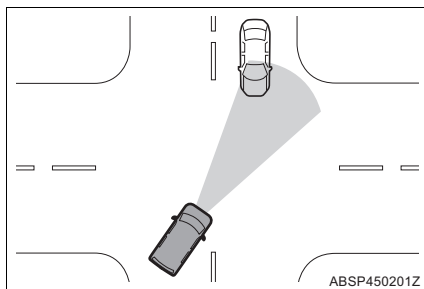
◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

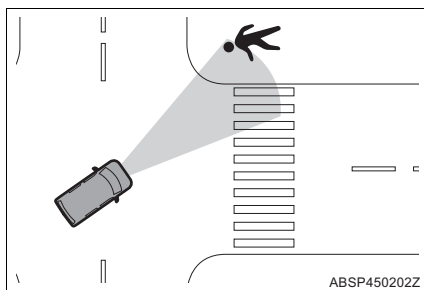
◆ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況で、衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報および衝突回避支援ブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 252
- ・ 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 245, 252

 警告**■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について**

- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両[※]や歩行者に作動します。電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりする場合、その操作状態によって衝突の可能性が低いと判断されると、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない、作動が遅れる、または作動が解除されることがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両[※]との速度差が約 120km/h(対歩行者の場合は速度差が約 80km/h) を超える場合は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。(→ P. 28)

[※] 二輪車、自転車を含む

■ 衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車両[※]や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合
- 自車の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

 警告

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
- ・ガラスコーティング剤を使用したとき
- ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
- ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- ・フロントウインドウウォッシャーの使用または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- ・SUBARU 純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- ・夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両 ※、歩行者に接近するとき
- ・トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- ・強い光が車両 ※ や歩行者、路面に反射しているとき
- ・カーブ、うねった道路、坂道のとき
- ・路面に水たまりや水膜があるとき
- ・雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
- ・自転車や対象物がふらついているとき
- ・対象物が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・右折中に、対向車が自転車の走行する車線から離れた車線を走行しているとき
- ・右折中に、自転車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき
- ・右左折中に、横断歩行者が自転車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
- ・移動する自転車が集団で前方にいるとき
- ・歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- ・対象物が対向車であっても、対象物とシステムが認識する前に、自転車が対向車の進行路に進入している場合

 警告

- ・対象物が対向車であっても、自車が対向車線に進入している場合
- ・前方車両※や歩行者との距離が極端に短いとき
- ・自車の前方に車両※や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- ・急加速やハンドル操作をしながら、前方車両※、歩行者に接近したとき
- ・前方車両※の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- ・小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- ・水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・自車が車線変更を行い、前方車両※のすぐ後ろに接近したとき
- ・前方車両※が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- ・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンデム自転車など）
- ・前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- ・車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- ・荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- ・後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- ・二輪車が横向きに走行しているとき
- ・二輪車や自転車、または歩行者が斜めに走行・横断しているとき
- ・二輪車や自転車が斜め、または横向きに走行しているとき
- ・歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
- ・対向車※やバックしてくる車両などのとき
- ・車高の低い車両などのとき
- ・停車している車両※の前に壁などがあるとき
- ・重い荷物を積むなど、前方車両※が傾いているとき
- ・二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- ・二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- ・二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- ・身長の子供や高身長の子の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- ・歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき

⚠ 警告

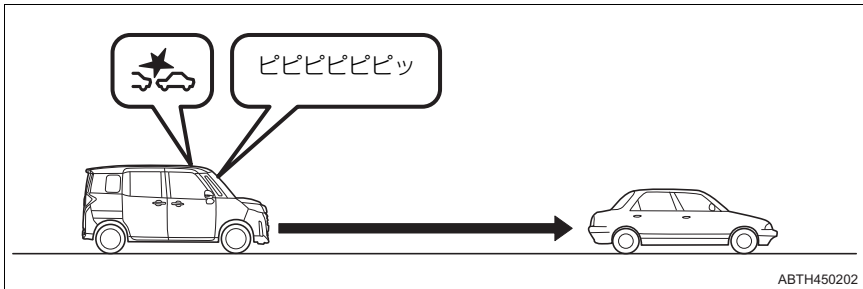
- ・ 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
 - ・ 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
 - ・ ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
 - ・ 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
 - ・ 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）
 - ・ 上方に構造物がある場所の下に対象物がいるとき
 - ・ 対象物が複数重なっているとき
 - ・ 2人以上乗車している自転車
- タイヤ径が小さい二輪車[※]や全長が長い二輪車[※]のとき
 - 歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき
 - 二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき
- [※] 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

①～④の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- ・システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
- ・ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ・ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

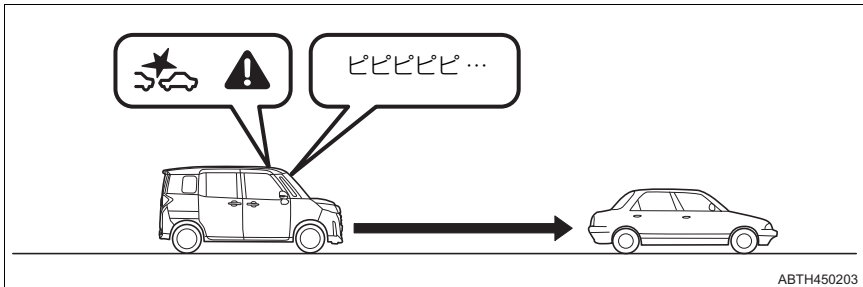
① 衝突警報



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 235）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

② 1次ブレーキ

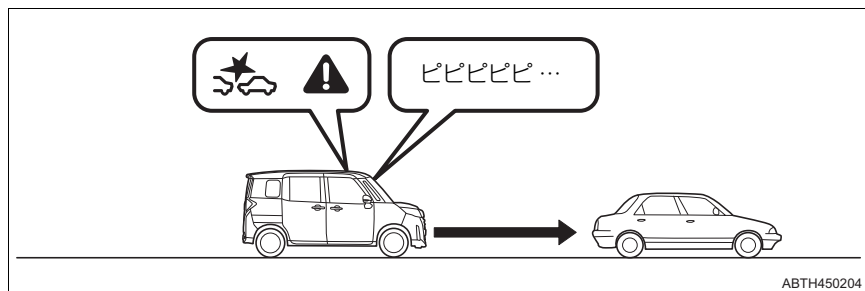


前方車両※・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- ・前方車両※・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。

※ 二輪車、自転車を含む

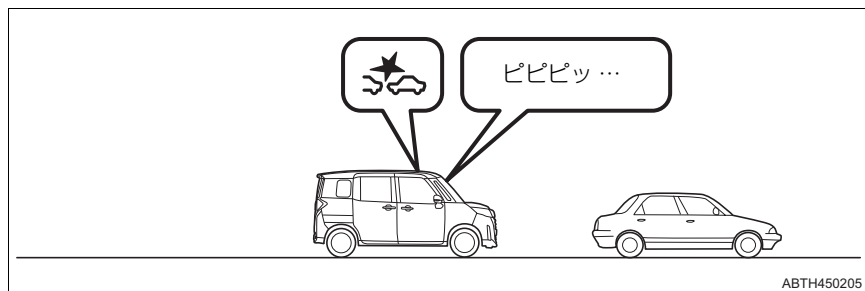
3 2次ブレーキ



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※ 二輪車、自転車を含む

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。*

停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

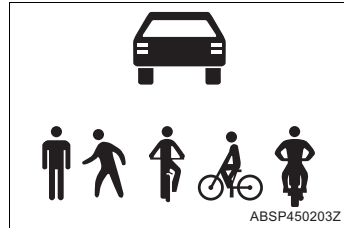
※ アクセルペダルを踏んだときも、ブレーキ制御が解除される場合があります。

知識

■ステレオカメラについて

ステレオカメラは対象物の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、対象物の動き・姿勢・角度などによっては、対象物を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、交差点衝突回避支援の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ブッシュエンジンスイッチが“ON”のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- メーター内の VSC (VDC) OFF 表示灯が消灯しているとき
- シフトレバーが P・R 以外のとき
- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき
(交差点衝突回避支援以外の場合)

機能	対象	作動車速、速度差 ※1
衝突警報機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者 ※2	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
衝突回避支援 ブレーキ機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者 ※2	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
被害軽減 ブレーキアシスト ※3	対車両	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者 ※2	約 30 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 30 ～ 120km/h

- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき
(交差点衝突回避支援の場合)

機能	対象	作動車速度	対向車速度
衝突警報機能	対車両 ※4	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—
衝突回避支援 ブレーキ機能	対車両 ※4	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※2 昼間、夜間対応

※3 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

※4 方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

■ 衝突回避支援ブレーキについて

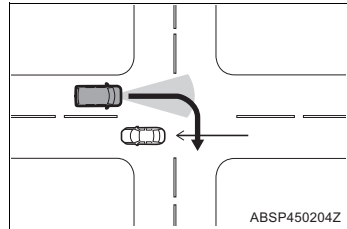
- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■ 衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

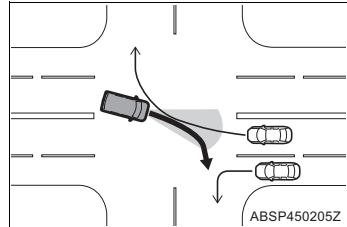
次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両 ※ がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 先行車 ※ を追いつくときに車両に接近して走行する場合
- 車線変更や右左折している前方車両 ※ などを追い抜くとき
- 右左折待ちの前方車両 ※ などとすれ違うとき
- 前方車両 ※、横断歩行者などの対象物が自車進路内に入る手前で停止したとき
- 道路上方に物体（道路標識、看板、または樹木の枝など）がある場所を走行するとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車や歩行者の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき
- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき

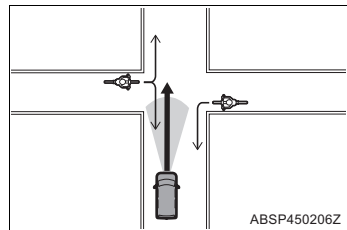
- カーブの入口や道路脇に対象物が存在するとき
- 前方の壁に対象物と区別が付きにくい映り込みやペイントがあるとき
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が通過したとき



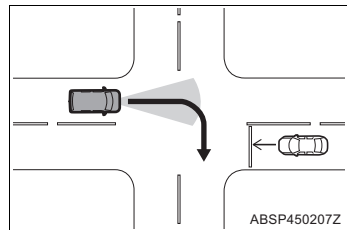
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に右左折する対向車とすれ違ったとき



- 車両※、歩行者が自車の前に飛び出してくる直前に、向きを変えて合流またはすれ違ったとき



- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が交差点手前で減速または停止したとき



- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまり、洗車機など、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車両※に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両※などの横を至近距離で通過するときや対向車※が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき

- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車※があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
- 複数台の前方車両※などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 前方車両※の方向指示／非常点滅表示灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両※と車両※、車両※と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
- すれ違う歩行者、前方車両※の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両※のとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を停止するには

→ P. 233

■カスタマイズ機能

衝突警報機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

(TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：
→ P. 96)

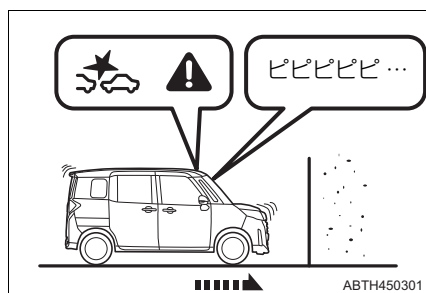
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

ブレーキ制御付誤発進抑制機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 235）による運転者への警報とエンジンの出力の抑制制御に加え、ブレーキ制御を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 前方

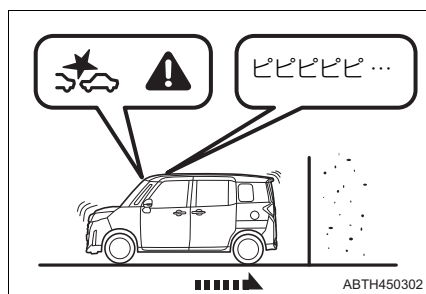
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約 2 ～ 3 m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



 警告**■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能について**

- ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しのかけて進む場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。(→ P. 233)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC (VDC) ・ TRC を停止にした場合、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は一定時間作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。(→ P. 28)

 警告**■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況**

次の条件の違いにより、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤ装着など）
- 車両や二輪車などの急な割り込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ・ フロントウィンドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
 - ・ ステレオカメラの温度が極端に高いとき
 - ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
 - ・ 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ・ ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 雨滴やウィンドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、障害物の認識が不完全になったとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき

 警告

- ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- ・ 前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・ 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- ・ 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
- ・ 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
- ・ 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
- ・ 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
- ・ ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
- ・ 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
- ・ しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
- ・ 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
- ・ 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近し過ぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
- ・ 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- ・ 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- ・ 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）

- ・ 背の低い障害物
- ・ 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- ・ 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- ・ 急に前方に現れたもの
- ・ 車両前方を横切るもの
- ・ 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- ・ 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
- ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
- ・ 動いているもの
- ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
- ・ 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
- ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき

警告

- ・認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
- ・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- ・雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- ・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
- ・ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたとき
- ・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配・凹凸など）
- 車両の状態（積載・乗員など）
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合

警告

- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
 - ・ ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたとき
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動

■ 警報

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 235）で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

- 後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 235）

■ エンジン出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルがすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 235）で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約8秒間継続します。
- エンジン出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

■ ブレーキ制御

エンジン出力の抑制制御が行われてもそのままアクセルペダルを踏み続け、障害物との衝突が避けられないとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 235）で運転者に警報するとともに、ブレーキ制御を行います。

- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- 停止後、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

 知識

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
 - スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
 - ブレーキペダルを踏んでいないとき
 - 車速が 0 ～約 10km/h のとき
 - 方向指示表示灯が消灯しているとき
 - メーター内の VSC (VDC) OFF 表示灯・TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
 - 前方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
 - ・ シフトレバーが D・S・B のとき
 - ・ 機能停止コード「5E」※¹、「6E」、「11E」※²、「12E」、「14E」が表示されていないとき
 - 後方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
 - ・ シフトレバーが R のとき
 - ・ 機能停止コード「12E」、「14E」、「15E」、「16E」が表示されていないとき
 - フロントワイパーを“高速”で作動させていないとき※³
- ※¹ 機能停止コード「5E」のみが表示されているときは、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。
- ※² 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。
- ※³ フロントワイパーを“高速”で作動させていても、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

■ ブレーキ制御について

- ブレーキ制御中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがあります、異常ではありません。

■ 衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき

- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 縦列駐車をするとき
- 前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
- 水しぶき・雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）を停止するには

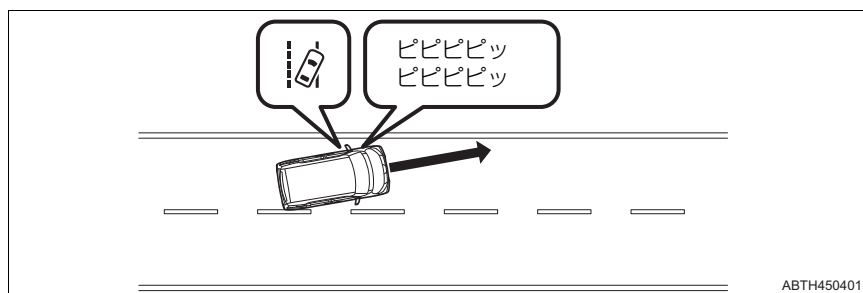
→ P. 233

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は、フロントウィンドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線または道路※から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断したときに作動します。

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は車線または道路※を認識し、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 235）で運転者に注意を促します。

※ アスファルトと草・土などの境界



 警告**■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について**

- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は、車線・道路※の逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能に頼っていると、車線・道路※の逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。
- 車線または道路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合

次のような条件では、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- 車線／道路の幅が狭いときや広いとき
- 方向指示レバーを使用しているとき
- 急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき

 警告**■車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況**

次の条件では白（黄）線または道路 ※ を正確に認識できず、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・ 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
 - ・ 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - ・ 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - ・ 車線／道路の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・ 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
 - ・ 坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - ・ 段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - ・ 路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
 - ・ 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
 - ・ 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
 - ・ 車線や区画線が二重に描かれている道路を走行するとき
 - ・ 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - ・ ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - ・ 分岐・合流路などを走行するとき
 - ・ 急なカーブのある道路を走行するとき
 - ・ カーブの形状が変化するとき
 - ・ 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、車線以外の線が路面に描かれているとき

⚠ 警告

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・先行車との車間距離が短いとき
 - ・自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
 - ・ステレオカメラが高温になったとき
 - 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
 - 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき
 - 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
 - コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
 - アスファルトと草・土などの境界が不明瞭または直線的でないとき
 - 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
 - 横風を受けているとき
 - 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
 - 車線変更をした直後
 - 冬用タイヤなどを装着しているとき
 - 過度な高速走行をしているとき
 - 隣車線から車が割り込んできたとき
 - 路肩に縁石や側壁があるとき
 - 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
 - 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
 - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
 - 区画線に急に接近する場合
 - 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき
- ※ アスファルトと草・土などの境界

 知識

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- プッシュエンジンスイッチが“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 方向指示器表示灯が消灯しているとき（方向指示器表示灯が消灯してから約4秒間は作動しません）
- 急なハンドル操作をしていないとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが左右いずれかの白（黄）線または道路※を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 269）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能を停止するには

→ P. 233

■ カスタマイズ機能

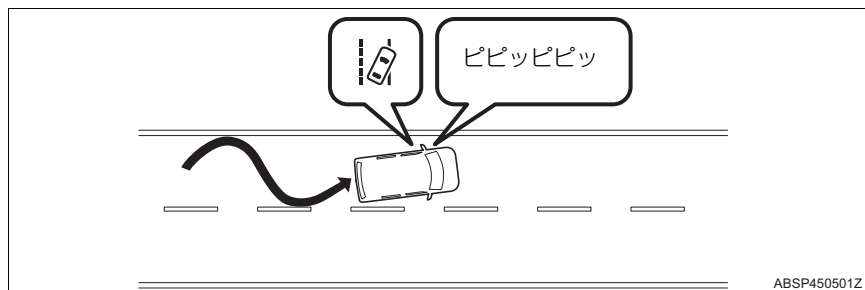
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：
→ P. 96）

ふらつき警報

ふらつき警報は、フロントウィンドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって白（黄）線を認識し、長時間走行中、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイ表示（→ P. 235）で運転者に注意を促します。



⚠ 警告

■ ふらつき警報について

ふらつき警報を過信しないでください。ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、運転者に注意を促す機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。走行中は常に安全運転に努めてください。

 知識

■ ふらつき警報の作動条件

次のような条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- プッシュエンジンスイッチが“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- カスタマイズ機能の設定で「ふらつき警報」を ON にしているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 方向指示器表示灯が消灯しているとき（方向指示器表示灯が消灯してから約5秒間は作動しません）
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動していないとき

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 271）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再度作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ ふらつき警報について

- 車線がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、ふらつき警報が作動しない場合があります。
- ふらつき警報は、運転者の操作と車両の動きから総合的にふらつきを判断しています。

■ ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき

- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・ 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・ 急なカーブのある道路を走行するとき
 - ・ 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・ 先行車との車間距離が短いとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき
- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 車線変更をした直後
- 過度な高速走行をしているとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

■ ふらつき警報を停止するには

→ P. 233

■ カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。

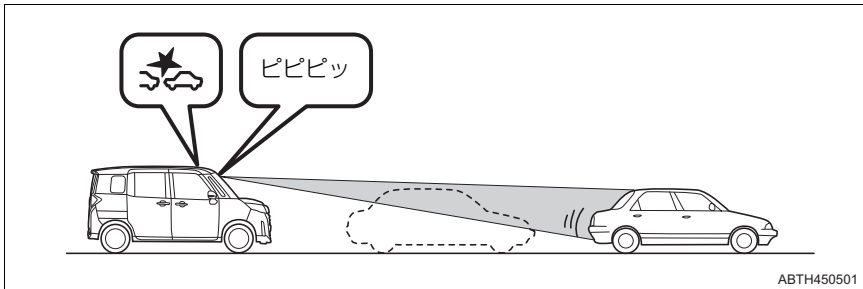
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 96）

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 235）で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



⚠ 警告

■ 先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

📖 知識

■ 先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- ブッシュエンジンスイッチが“ON”のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- シフトレバーが D・S・B でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトレバーが N のとき
- シフトレバーが D・S・B・N でブレーキ保持により車両が停止しているとき
- 停止してから数秒経過したとき

■ 先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

- 停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- 天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のすれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止したときに先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- 先行車が二輪車・自転車などのとき
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- 車高の低い先行車のとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ ガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・ フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・ フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ SUBARU 純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・ 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき

- ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- ・夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両 ※、歩行者に接近するとき
- ・トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- ・強い光が車両 ※ や歩行者、路面に反射しているとき
- ・カーブ、うねった道路、坂道のとき
- ・路面に水たまりや水膜があるとき
- ・水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・重い荷物を積むなど、前方車両 ※ が傾いているとき
- ・先行車が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- ・暗がりでは先行車のランプが片側のみ点灯しているときや、ランプが無灯火のとき

※ 二輪車、自転車を含む

■ 先行車発進お知らせ機能を停止するには

→ P. 233

■ カスタマイズ機能

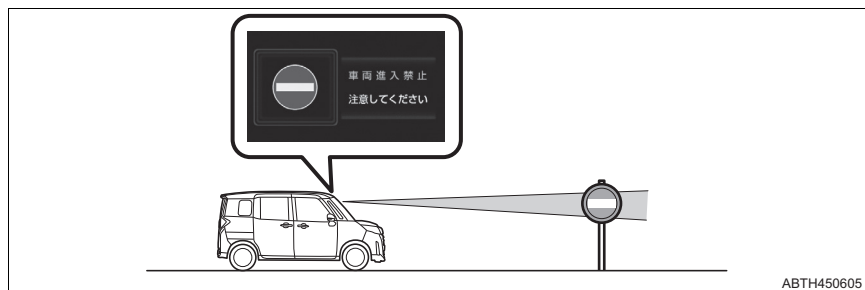
ブザーの音量、ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 95、96）

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、フロントウィンドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって特定の道路標識を認識し、ディスプレイに表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。状況によっては、道路標識の表示が正常に作動しない場合があります。



⚠ 警告

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）をお使いになる前に

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者ご自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）に頼らず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



：最高速度



：車両進入禁止



：一時停止



知識

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 96）で、「標識認識機能」を ON にしているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 車速が次のとき
 - ・ 車両進入禁止、一時停止：約 60km/h 以下
 - ・ 最高速度：0km/h 以上
- シフトレバーが D・S・B のとき

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動終了

次の状況になってから一定の時間が経過したときは、標識の表示が消えます。

▶ 最高速度

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折などにより走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 補助標識（終わり）を認識したとき
- シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき

▶ 車両進入禁止

- 車両進入禁止標識を通過したとき
- シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき
- 方向指示レバーを操作したとき

▶ 一時停止

- 一時停止標識を通過したとき
- シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では標識を正確に認識できず、標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 最高速度標識の速度と車速が大きく離れているとき
- 標識の手前で減速したときや、右左折前、右左折後
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 認識対象の標識の色、形、数字に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）
- 補助標識が設置されている場合
- 電光標識に数字が表示されていない場合
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状況（特に次のような場合）
 - ・ ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
 - ・ ステレオカメラが標識を認識する時間が短いとき
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面またはステレオカメラ付近が覆われているとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用後または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ SUBARU 純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）

- ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に標識に接近するとき
- ・ 屋内の駐車場など暗い場所で標識に接近するとき
- ・ トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- ・ 強い光が路面に反射しているとき
- ・ 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・ 前方車両の後ろ部分にステッカーが貼ってあるとき
- ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- ・ 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）

● 標識の状態（特に次のような場合）

- ・ 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- ・ 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- ・ 標識の向きが変わっているとき
- ・ 標識が破損しているとき
- ・ 標識のまわりが込み入って見つけにくいとき
- ・ 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
- ・ 標識の上や下に、規制や条件などを示す補助標識が設置されているとき
- ・ 標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
- ・ 標識が高い位置にあるとき
- ・ 標識が低い位置にあるとき
- ・ 標識が急な上り坂、急な下り坂にあるとき
- ・ 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
- ・ 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- ・ 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
- ・ 小さいサイズの標識のとき
- ・ 電光標識のコントラストが低いとき
- ・ 電光標識が極端に明るい、または暗いとき
- ・ 側道の標識がステレオカメラの認識範囲内に入ったとき
- ・ トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

● 運転の状況（曲がる・車線変更など）が誤って判断されたとき

● ヘッドランプの汚れなどで照射が弱いときや光軸がずれているとき

■ カスタマイズ機能

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の設定を変更することができません。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 493）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 95、96）

全車速追従機能付 ACC (アダプティブクルーズコントロール)

全車速追従機能付 ACC は、アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。

定速制御モードでは、一定の車速で走行を行います。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

システム構成部品

■ 運転支援表示

① 設定車間

設定された車間距離を表示します。

② 先行車表示灯

車間制御モード作動中に、先行車を認識しているとき表示されます。

次のいずれかのとき点滅します。

- ・ 接近警報 (→ P. 290) が作動したとき
- ・ 先行車を認識しなくなり、制御が自動的に解除されたとき

③ 設定車速

設定された車速を表示します。

次のいずれかのとき点滅します。

- ・ 制御が自動的に解除されたとき
- ・ 車間制御モードでシステムを ON にしているときに、設定条件 (→ P. 294) を満たさずに - SET スイッチ、または + RES スイッチを押したとき

④ ACC SET 表示灯

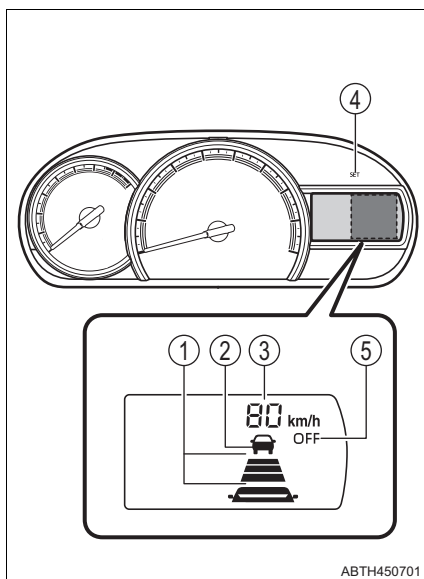
車間制御モード、または定速制御モードが作動しているとき表示されます。

⑤ ACC OFF 表示灯

機能停止により、作動できないとき点灯します。

次のいずれかのとき点滅します。

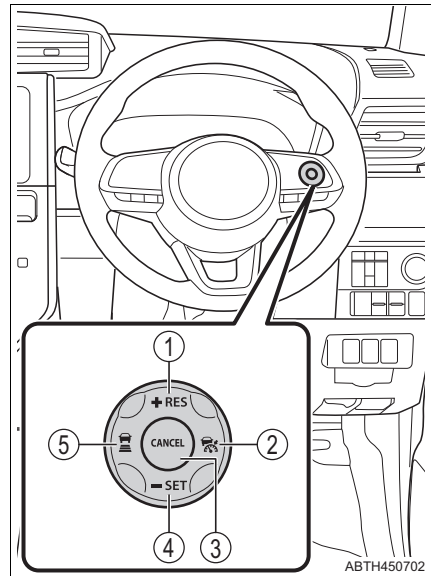
- ・ 制御が自動的に解除されたとき
- ・ 車間制御モードでシステムを ON にしているときに、設定条件 (→ P. 294) を満たさずに - SET スイッチ、または + RES スイッチを押したとき



ABTH450701

■ 操作スイッチ

- ① + RES スイッチ
- ② ACC メインスイッチ
- ③ キャンセルスイッチ
- ④ - SET スイッチ
- ⑤ 設定車間切り替えスイッチ



 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- 全車速追従機能付 ACC は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
- 設定車速は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定車速の確認は運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 全車速追従機能付 ACC を使わないときは ACC メインスイッチを押してシステムを OFF にしてください。
- 全車速追従機能付 ACC を使用するときは、車間制御モード、定速制御モードのどちらのモードが選択されているかをメーター内の表示灯で必ず確認してください。

 警告**■ システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見運転やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC は、先行車への追突を防止する機能ではありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC の状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - ・ 先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
 - ・ 先行車に追従しゆるやかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき
- 料金所や渋滞などの最後尾で停止中の車両に対しては減速しないことがあります。十分注意してください。
- 手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。
- 定速制御モードでは、接近警報は作動しません。

■ 全車速追従機能付 ACC について

- 路面または壁面の模様・ペイントや前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似ている場合、ブレーキ制御や接近警報が作動する場合があります。
- 次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - ・ 車両の状態（積載量、乗員など）
 - ・ 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
 - ・ 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
 - ・ 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
 - ・ エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）

⚠ 警告

- ・ 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- ・ 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

- 定速制御モードを使用するときは、十分な車間距離を取ってください。
- 定速制御モードでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行います。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。

■ 全車速追従機能付 ACC を使用してはいけない状況

次の状況では、全車速追従機能付 ACC を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 接近警報が頻繁に鳴るとき
- 歩行者や自転車などが混在している道
- 交通量の多い道
- 一般道（自動車専用道路以外）
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- 上り／下り坂で勾配変化が激しい坂
 - ・ 下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
 - ・ 急な上り／下り坂では、停車保持できない場合があります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、車線が極端に近い道
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 先行車との位置が横にずれているとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき
- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき

警告

- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、ステレオカメラが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルで加速）してください。

- 他車が急に割り込んできたとき
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 先行車が低速で走行中のとき
- 先行車が背景と似た色合いで区別ができないとき
- 先行車が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいるとき
- 先行車が路面の水たまりの付近にいるとき（まわりの風景が水たまりに映り込むなど）
- 先行車が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- 先行車と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- 先行車が次のような車両のとき
 - ・ 後ろ部分が小さ過ぎる車両（荷物を積んでいないトレーラーなど）
 - ・ 荷台にあおりが無い空荷のトラックなど
 - ・ 後端から積荷が飛び出している車両など
 - ・ 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
 - ・ バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
 - ・ リヤタイヤから車両後端までが長い車両
 - ・ 車高が極端に高い車両
 - ・ 車高の低い車両
 - ・ 背面が縦縞、縞、タイル柄など、連続する模様になっている車両
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ ガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・ フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・ フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき

⚠ 警告

- ・ フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ SUBARU 純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・ 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ・ ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
 - ・ ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
 - 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行または停車しているとき
 - 同じ車線を二輪車が走行中のとき
 - 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
 - 夕方、朝方の薄暗いとき
 - 自車バンパーの近い位置に物体があるとき
 - カーブやカーブの出入り口付近、車線幅が狭い道路などを走行する場合
 - ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
 - 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
 - アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき
 - 白（黄）線がない道路や、白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくい道路を走行するとき
 - 上り坂から平坦な道または下り坂に変わるとき
 - 下り坂から平坦な道または上り坂に変わるとき
 - 分岐・合流路などを走行するとき

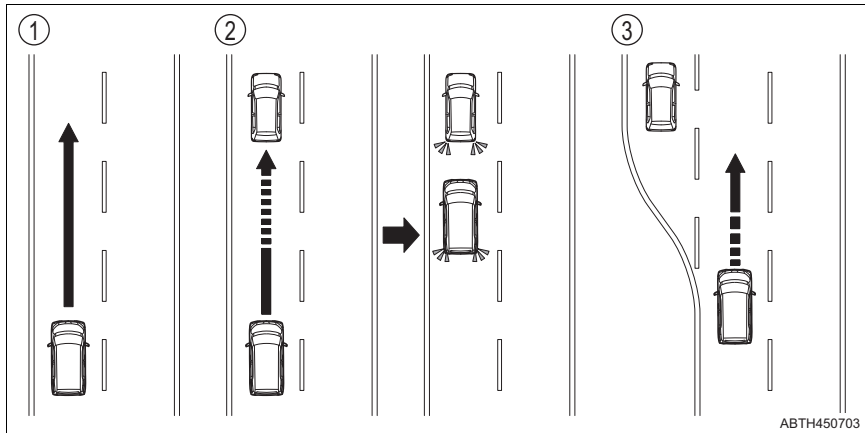
車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、ステレオカメラにより車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

また、設定車間切り替えスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。



① 定速走行：先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

約 30km/h 未満では前方に車両がない場合使用できません。

② 減速走行 — 追従走行：設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。

十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します。（停車保持）（→ P. 291）

③ 加速走行：設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行に戻ります。

車速を設定する（車間制御モード）

- 1 ACC メインスイッチを押して、車間制御モードでシステムを ON にする
- ・ ACC 表示灯が点灯します。
 - ・ 車間設定が表示されます。
 - ・ 設定車速が “ -- km/h ” と表示されます。

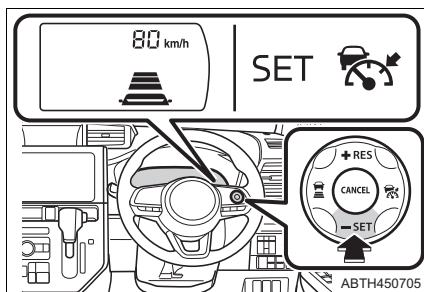
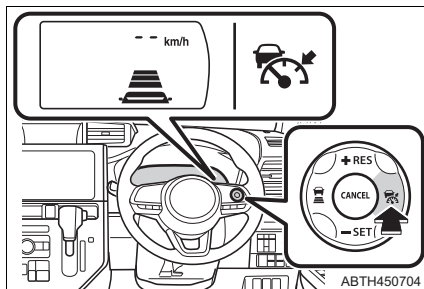
システムを OFF にするには再度 ACC メインスイッチを押します。

ACCメインスイッチを約2秒以上長押しすると定速制御モードでシステムが ON になります。（→ P. 292）

- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、－ SET スイッチを押す
- 設定車速が表示され、制御を開始します。

スイッチを離れたときの車速で設定されます。

- ・ ACC SET 表示灯が点灯します。
- ・ 設定車速は 30km/h から設定できます。



設定車速を変える（車間制御モード）

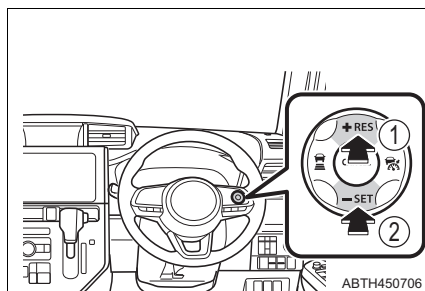
設定車速を変えるには、希望の速度が表示されるまで+ RES スイッチまたは- SET スイッチを押す

スイッチを操作することにより設定車速の表示が変わります。

- ① 速度を上げる（停車保持時を除く）
- ② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定車速は次の通りに増減されます。

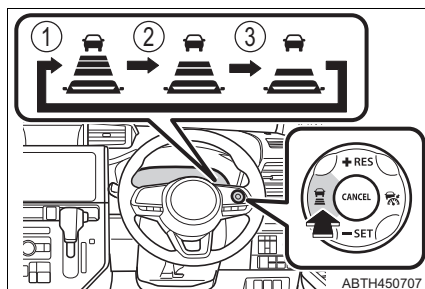
微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間、5km/h きざみで変化

設定車間を切り替える（車間制御モード）

設定車間切り替えスイッチを押すごとに次のように設定車間が切り替わります。

- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い



設定車間切り替えの目安（車間制御モード）

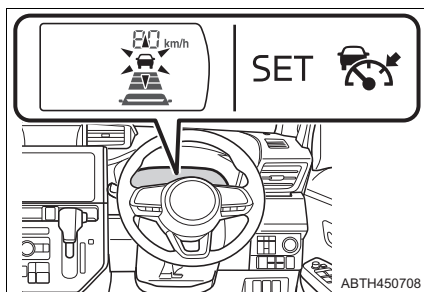
次の目安を参考に車間距離を選択してください。（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、停車保持作動中は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

設定車間選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 25m

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、先行車表示灯の点滅とブザー、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージで運転者に注意を促します。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 接近警報が作動しないとき

次のような場合は接近警報が作動しないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車のほうが速いとき
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 車間制御開始直後
- アクセルペダルを踏んだとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両に近付いたとき

車線変更時の補助機能

約 70km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

停車保持について（車間制御モード）

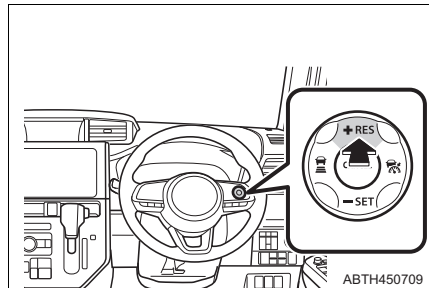
先行車が停止したときは、続いて停止します。

停車保持を最長約 3 分間継続したあと、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。停車保持中にシステムが自動解除されたときに停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。（→ P. 295）

■ 停車保持から追従走行に復帰させるには

先行車の発進後、+ RES スイッチを押すと追従走行に戻ります。

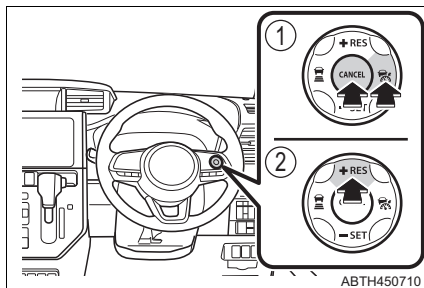
アクセルペダルを踏んでも追従走行に戻ります。



制御を解除する・復帰させる（車間制御モード）

- ① 制御を解除するには、キャンセルスイッチ、または ACC メインスイッチを押す

- ・ブレーキペダルを踏んだときも解除されます（車間制御モードの停車保持中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）。
- ・プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止したときも自動的に解除されます。
- ・オートブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 72）が点灯しているときは、停車保持中に ACC を解除すると、オートブレーキホールド機能が作動します。



- ② 制御を復帰するには、+RES スイッチを押す

■ 復帰できないとき

次の場合は、制御を復帰させることができません。

- 先行車を認識していない状態で車速が約 30km/h 未満のとき
- ACC メインスイッチを押してシステムを OFF にしたとき
- システムの自動解除条件（→ P. 295）のいずれかを満たしているとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂を走行しているときは、設定車速を超えて走行することがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。

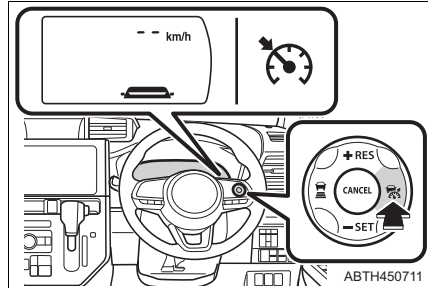
車速を設定する（定速制御モード）

- 1 ACC メインスイッチを約 2 秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にする

クルーズコントロール表示灯が点灯し、設定車速が “-- km/h” と表示されます。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。

システムを OFF にするには再度 ACC メインスイッチを押します。

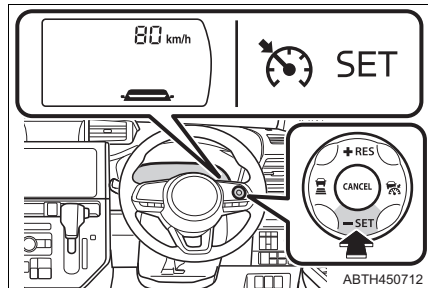


- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、- SET スイッチを押す
設定車速が表示され、制御を開始します。

スイッチを離れたときの車速で設定されます。

ACC SET 表示灯が点灯します。

設定車速は 30km/h から設定できます。



設定車速を変える（定速制御モード）

設定車速を変えるには、次の方法があります。

- アクセルペダル、またはブレーキペダルを操作する
- 操作スイッチを押す

■ アクセルペダル・ブレーキペダル操作で変える

設定車速を上げるには、アクセルペダルを踏み速度を上げ、希望の速度になったら - SET スイッチを押します。

設定車速を下げるには、ブレーキペダルを踏み速度を下げ、希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、- SET スイッチを押します。

ブレーキペダルを踏むと、全車速追従機能付 ACC が解除され、ACC SET 表示灯が消灯します。

スイッチを押したときの車速に設定され、新しく設定車速が表示されます。

■ 操作スイッチで変える

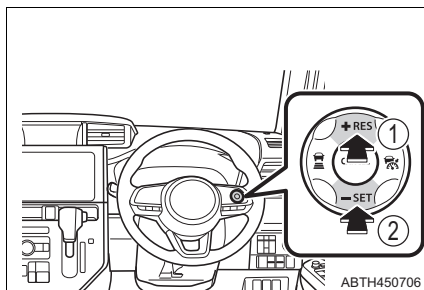
設定車速を変えるには、希望の速度が表示されるまで+ RES スイッチまたは- SET スイッチを押す

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定車速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間連続して変化

制御を解除する・復帰させる（定速制御モード）

車間制御モードと同じ方法で解除・復帰ができます。（→ P. 292）

□ 知識

■ 設定条件について

次の条件をすべて満たしているとき、全車速追従機能付 ACC の制御を開始できます。

- 車速が 0km/h 以上（先行車がないときは約 30km/h 以上）のとき（車間制御モード）
- 車速が約 30km/h 以上のとき（定速制御モード）
- エンジン冷却水温が高過ぎないとき
- 停車中の場合は、次のすべての条件を満たしているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっている
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいる、または、オートブレーキホールド機能で停車している
 - ・ 運転席シートベルトを着用している
- VSC (VDC) OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ACC 表示灯が点灯しているとき（車間制御モード）
- クルーズコントロール表示灯が点灯しているとき（定速制御モード）
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき

- ACC OFF 表示灯が消灯しているとき
- 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき（車間制御モード）
- 機能停止コード「2E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき（定速制御モード）
- ACC 警告灯が消灯しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき（停車中を除く）
- シフトレバーがDのとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- 勾配が急な坂道でないとき
- パーキングブレーキ表示灯が消灯しているとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯しているとき

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。

加速後、車速が設定速度に戻ります。

ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車速設定後の減速について

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。

- このとき、全車速追従機能付 ACC は解除されます。
- 設定車速が “ — km/h ” と表示され、ACC SET 表示灯が消灯します。
- 設定車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、— SET スイッチまたは + RES スイッチを押します。

■システムの自動解除

次のいずれかのとき、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。

全車速追従機能付 ACC が自動的に解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、— SET スイッチ、または + RES スイッチを押して復帰させてください。条件が解消されても設定できないときは、全車速追従機能付 ACC の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、SUBARU 販売店で点検を受けてください。

- 車速が約 25km/h 未満で追従走行中に、先行車を見失ったとき
- 先行車を認識していない状態で、車速が約 25km/h 未満になったとき
- エンジン冷却水温が高過ぎるとき
- 停車保持が作動しているときに、次のいずれかの状態になったとき
 - ・運転席ドアが開いたとき
 - ・運転席シートベルトを外したとき
 - ・全車速追従機能付 ACC により車両が停止したあと、約 3 分経過したとき

- ・ 先行車を見失ったとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- VSC (VDC) または TRC が OFF になったとき
- スマートアシスト OFF スイッチを押してスマートアシストを OFF にしたとき
- ACC OFF 表示灯が点灯したとき
- VSC (VDC) または TRC が作動したとき
- パーキングブレーキ表示灯が点滅しているとき
- ブレーキ警告灯 (黄色) が点灯しているとき
- 次のいずれかのとき (このとき、+ RES スイッチを押しても復帰できません)
 - ・ 先行車を認識していない状態で、車速が設定車速を大きく下回ったとき
 - ・ 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき (車間制御モード)
 - ・ 機能停止コード「2E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき (定速制御モード)
 - ・ ACC 警告灯が点灯したとき
 - ・ 勾配が急な坂道のとき
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動したとき
 - ・ ブレーキ制御付誤発進抑制機能 (前方) が作動したとき

■ 全車速追従機能付 ACC について

- 車間制御モードでは、先行車に合わせた車速で制御されるため、+ RES スイッチを押して、先行車の速度以上に設定車速を上げて加速しません。ただし、設定車速は変更されているため、先行車を認識なくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速は運転支援表示画面の表示を確認しながら変更してください。
- 車間制御モードを設定中にアクセルペダルを踏んでいるときは、車間制御モードによる接近警報を行わず、ブレーキもかけません。
ただし、このときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能による警報や緊急ブレーキが作動することがあります。
- 通常、追従走行中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。ただし、車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。
- 定速走行中であっても、周囲の状況や車両の状態によっては、設定車速通りに走行できないことがあります。

■ ブレーキ作動について

- ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えが変わったりすることがありますが、異常ではありません。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などでは設定車速を保つため、全車速追従機能付 ACC の制御によりブレーキが作動することがあります。

■ カーブ走行中は

設定車速が車速より高いときであっても、加速しない、または減速することがあります。

■ 定速制御モードでシステムを ON にするとき

ACC メインスイッチを約 2 秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にするとき、スイッチを押した直後は、次の状態になり、その後クルーズコントロール表示灯が点灯し、ACC 表示灯および設定車間が消灯します。

- ACC 表示灯が点灯
- 設定車速が “ -- km/h ” と表示される
- 設定車間が表示される

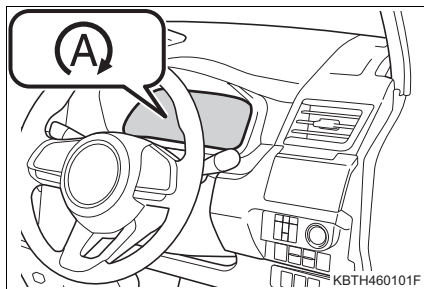
アイドリングストップシステム

赤信号や交差点などで減速した際、停車前（約 7km/h）または停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、プッシュエンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

オートブレーキホールド機能（→ P. 208）作動時も、アイドリングストップは作動します。

エンジンが停止する

- 1 シフトレバーを D で走行中、エンジン停止が可能な状態になるとアイドリングストップ表示灯が点灯する（→ P. 301）



- 2 ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前または停車後にエンジンが自動的に停止する

アイドリングストップ表示灯は点灯したままです。オートブレーキホールド機能が ON のときは、停車後ブレーキが保持され、オートブレーキホールド作動表示灯が点灯します。

エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

オートブレーキホールド機能が ON で停止した場合は、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動します。（ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません）

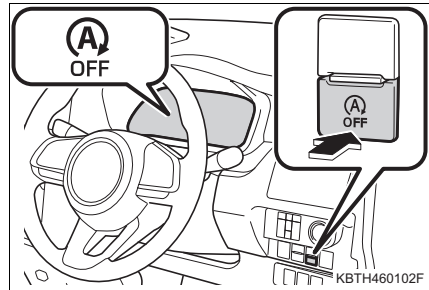
アイドリングストップ表示灯とオートブレーキホールド作動表示灯が消灯します。

アイドリングストップを非作動にするには

アイドリングストップを非作動にするにはアイドリングストップキャンセルスイッチを押す

アイドリングストップキャンセル表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、作動可能状態に戻り、アイドリングストップキャンセル表示灯が消灯します。



■ アイドリングストップキャンセルスイッチを押したとき

- アイドリングストップによるエンジン停止中、アイドリングストップキャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- アイドリングストップが非作動のとき、再度アイドリングストップキャンセルスイッチを押すと、アイドリングストップが作動可能状態に戻りますが、エンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに（アイドリングストップが作動可能状態に戻る）、アイドリングストップによって、エンジンが停止します。

ヒルスタートアシスト

アイドリングストップによって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでの間、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

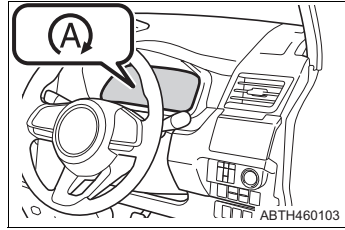
 知識

■ アイドリングストップの作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、アイドリングストップ表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。
 - ・ アイドリングストップキャンセルスイッチを押して、アイドリングストップの作動を停止していないとき
(アイドリングストップ作動停止中は、アイドリングストップキャンセル表示灯が点灯します)
 - ・ エンジンが十分温まっているとき
 - ・ トランスミッションオイルが十分に温まっているとき
 - ・ エンジン冷却水温が高過ぎないとき
 - ・ エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
(走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません)
 - ・ バッテリー状態 (充電・温度など) が良好であるとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき
 - ・ 外気温が約 0℃ 以上のとき (メーター内に表示されている外気温と異なる場合があります)
 - ・ シフトレバーが D のとき
- ・   が OFF のとき
- ・ 車内温度が快適なとき (冷房時)
- ・ システム (アイドリングストップ・エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC (VDC)・エアコン・電動パワーステアリング・車両通信) が正常なとき
- 次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。
 - ・ バッテリーが放電しているとき
 - ・ バッテリー交換などにより、バッテリー端子を外したあと
 - ・ 冷房初期
 - ・ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイでアイドリングストップの設定を「空調」にしているとき (→ P. 99)

■アイドリングストップ表示灯について

走行中にアイドリングストップの作動条件がすべて満たされると、アイドリングストップ表示灯が点灯し、停止時にアイドリングストップが作動可能状態であることをお知らせします。



■停車前のエンジン停止条件

●アイドリングストップ表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車前にエンジン停止します。

- ・ 車速が約 7km/h 以下になったとき
- ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき
- ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- ・ 車幅灯が消灯しているとき
- ・ フロントワイパーが作動していないとき
- ・ ハンドルの切れ角が小さいとき
- ・ 急減速していないとき
- ・ ABS、VSC（VDC）が作動していないとき
- ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- ・ 全車速追従機能付 ACC が作動していないとき
- ・ ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき

●次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。

- ・ ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
- ・ 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ・ ゆるやかに減速しているとき

■停車後のエンジン停止条件

●アイドリングストップ表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車後にエンジン停止します。

- ・ 停車しているとき
- ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき（全車速追従機能付 ACC により停止したときを除く）
- ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- ・ ハンドル操作をしていないとき
- ・ ABS、VSC（VDC）が作動していないとき
- ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき

- 次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

■ エンジン停止中の操作について

- 右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む
 - ・ ハンドル操作をする
 - ・ アイドリングストップキャンセルスイッチを押す（→ P. 299）
- エンジン停止中にシフトレバーを D から R 以外にしてもエンジン停止は継続します。
ただし、シフトレバーを N または P にしたあと他のシフトポジションにすると、エンジンが再始動します。
 - ・ エンジン停止中にシフトレバーを D から P に操作したときは、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません。
- 給油時はシフトレバーを P にし、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止します。

■ エンジンの再始動について

- エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。
 - ・ ブレーキペダルから足を離したとき（シフトレバーが P のとき、またはオートブレーキホールド機能による停車中は除く）
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ ハンドル操作をしたとき
 - ・ シフトレバーを R にしたとき
 - ・ シフトレバーを N または P にしたあと、他のシフトポジションにしたとき
 - ・ アイドリングストップキャンセルスイッチを押したとき
 - ・ パーキングブレーキを解除したとき
 - ・ 全車速追従機能付 ACC 作動中のアイドリングストップによるエンジン停止時に + RES スwitchを押す、または先行車が発進したとき
- ・   を押したとき
- ・ 運転席ドアを開けたとき
- ・ 運転席シートベルトを外したとき

- エンジン停止中、次のいずれかのときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(アイドリングストップ表示灯は点滅後、消灯します)
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ バッテリーの放電量が多いとき
 - ・ 傾斜などで車両が動き出したとき
 - ・ 停車前にエンジンを停止したあと、下り坂で加速したとき
 - ・ 警告灯が点灯 (→ P. 443)、警告メッセージ (→ P. 444) が表示されるなど、各システム (エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC (VDC)・TRC・エアコン・電動パワーステアリング) に異常が発生したとき
 - ・ 冷房時、エアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき
 - ・ エンジン停止してから約 3 分経過したとき
- エンジン停止中にアイドリングストップシステムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、アイドリングストップキャンセル表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ (→ P. 449) が表示され、エンジンが自動的に再始動します。
- 次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。
 - ・ 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にエンジン停止をしたとき
 - ・ 電装品などの消費電力が大きいとき
 - ・ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイでアイドリングストップの設定を「空調」にしているとき (→ P. 99)
- オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。
- エンジンが再始動すると、アクセサリソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

■ アイドリングストップの自動再開

アイドリングストップをアイドリングストップキャンセルスイッチによって非作動にしても、一度プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、アイドリングストップは自動的に作動可能状態に戻ります。

■ ボンネットを開けたときは

エンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。プッシュエンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■ヒルスタートアシストについて

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ヒルスタートアシストの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。
 - ・ブレーキペダルの踏み応えが変わる
 - ・ブレーキペダルが振動する
 - ・ブレーキから音が発生する

■オートブレーキホールド機能作動時のアイドリングストップの作動について

アイドリングストップによりエンジンが自動的に再始動してもオートブレーキホールド機能によるブレーキ保持は継続します。

■アイドリングストップについて

アイドリングストップは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■警告ブザーについて

アイドリングストップによるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時にアイドリングストップ表示灯が高速で点滅、および警告メッセージ(→P. 460)が表示されます。

- 運転席ドアが開いたとき(シフトレバーがP以外)
- 運転席シートベルトを外したとき(シフトレバーがP以外)
- ボンネットが開いたとき※

※ ボンネットが開いたときは、警告メッセージが表示されません。

■アイドリングストップキャンセル表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ(→P. 449)が表示されたままのときは

スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■エンジン始動中にアイドリングストップキャンセル表示灯が数秒間点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ(→P. 449)が数秒間表示されたときは

バッテリーの交換時期です。SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■エンジン停止中のエアコンについて

- エンジン停止中はエアコン(冷房、除湿機能)がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、ブレーキペダルをさらに強く踏むか、アイドリングストップキャンセルスイッチを押してエンジンを再始動させてください。
- AUTO を押してエアコンをオート設定にしているときは、エンジン停止中に風量が少なくなったり送風を停止することがあります。エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

■ エンジン停止中にフロントウィンドウガラスが曇ったとき

ブレーキペダルをさらに強く踏むか、アイドリングストップキャンセルスイッチを押してエンジンを再始動させてください。

を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウィンドウガラスが曇るときは、アイドリングストップキャンセルスイッチを押し、アイドリングストップを非作動にしてください。

■ アイドリングストップ時間表示とアイドリングストップ積算時間表示

→ P. 79

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 482

■ アイドリングストップを正常に作動させるために

- 次のようなときはアイドリングストップが正常に作動しないおそれがあります。SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト警告灯が点滅する、および TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ（→ P. 451）が表示されたとき
 - ・ 運転席シートベルトを外しているときに、メーター内の運転席シートベルト警告灯が点滅しない、および TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ（→ P. 451）が表示されないとき
 - ・ 運転席ドアまたはボンネットを閉めているときに、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「開いています」の警告メッセージ（→ P. 450）が表示される、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
 - ・ 運転席ドアまたはボンネットを開けているときに、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「開いています」の警告メッセージ（→ P. 450）が表示されない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき
- バッテリーの端子から電化製品の電源を取らないでください。アイドリングストップが正常に作動しなくなります。

 警告**■アイドリングストップが作動しているとき**

- アイドリングストップによるエンジン停止中(アイドリングストップ表示灯が点灯中)は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。(オートブレーキホールド機能による停車中と全車速追従機能付き ACC の停車保持中は除く)
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン停止中はお車から離れないでください。(アイドリングストップ表示灯が点灯している間)
次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ブレーキペダルから足を離す(オートブレーキホールド機能による停車中と全車速追従機能付き ACC の停車保持中は除く)
 - ・運転席ドアを開ける
 - ・運転席シートベルトを外す
- エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■ヒルスタートアシストについて

- ヒルスタートアシストは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめるとお車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルスタートアシストを過信しないでください。発進するときにお車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、ただちに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、お車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、お車が後退することがあります。お車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートアシストが作動していてもお車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

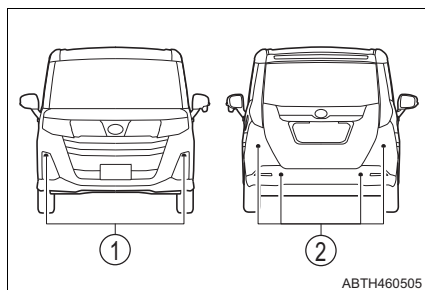
ソナーの位置・種類

① フロントソナー

フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

② リヤソナー

リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

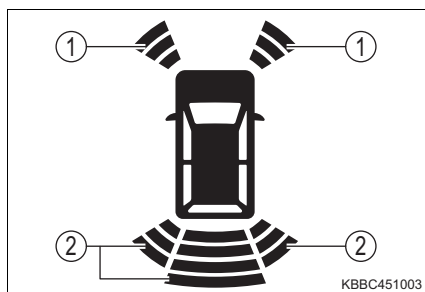


コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

① フロントコーナーセンサー作動表示

② リヤコーナーセンサー作動表示



距離表示の見方

作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせします。

- 障害物との距離が短くなると、ブザーおよびディスプレイの表示が次の表のとおり変化します。

ブザー	ディスプレイの表示	ソナーと障害物との距離
ピッ … ピッ … ピッ … (断続音)		約 150 ～ 60cm
ピッピッピッ … (断続音)		約 60 ～ 45cm
ピピピ … (断続音)		約 45 ～ 30cm
ピー (連続音)		約 30cm 以内

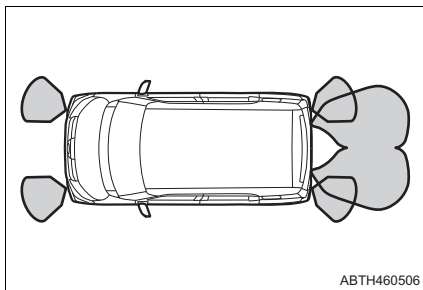
- ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図のとおりです。

ただし、障害物がソナーに近付きすぎると認識できません。

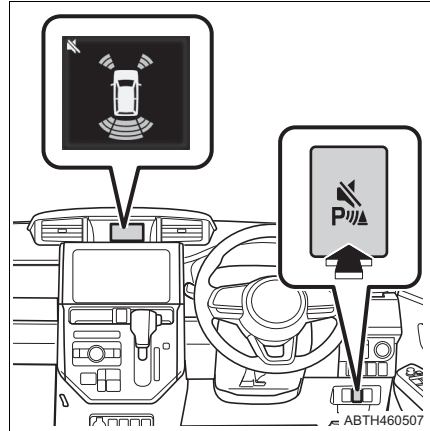
障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。



ABTH460506

ブザーについて

コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザー OFF スイッチを押すと、ブザーが止まります。このときブザー OFF を示すアイコンが表示されます。



知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき
 - ・ シフトポジションがP 以外で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー：
 - ・ プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき
 - ・ シフトポジションがR のとき
- 作動条件を満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

■ ブザーについて

コーナーセンサーブザー OFF スイッチでブザーを止めたあと、次の操作をする
と再度ブザーが鳴るようになります。

- コーナーセンサーブザー OFF スイッチを押す
- シフトポジションを切り替える
- 一定以上の車速で走行する
- 一度プッシュエンジンスイッチを“OFF” にしてから“ON” する

■ソナーの認識について

- ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。
- 障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付きすぎると、ブザーが鳴らない場合があります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

■ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が後方 1 か所表示されるか、前方 2 か所または後方 2 か所同時に表示されたときは※

- コーナーセンサーの機能が低下しています。
コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。
- マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。SUBARU 販売店で点検を受けてください。
- 状態により「ソナーセンサー機能低下」、「ソナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

※ 前方 2 か所および後方 1 か所、前方 2 か所および後方 2 か所、後方 3 か所、または 5 か所同時に表示されたときも含みます。

■コーナーセンサーについて

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

■ カスタマイズ機能

ブザーの音量を変更することができます。
(カスタマイズ機能一覧：→ P. 496)

⚠ 警告

■ コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を前進・後退するとき、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けないでください。
- 「ソナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますので SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤ装着など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき

⚠ 警告**● ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）**

- ・ ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
- ・ 地面から高い位置に存在する障害物のとき
- ・ 背の低い障害物のとき
- ・ 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
- ・ 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
- ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
- ・ 障害物の面が車両に対して斜めのとき
- ・ 地面に対して垂直でない壁のとき
- ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
- ・ 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
- ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
- ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき
- ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動について

コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。

 注意**■コーナースエンサーの異常について**

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。SUBARU 販売店で点検を受けてください。

- 障害物を認識していない状態で、コーナースエンサーが作動したとき
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
- 事故などでソナー周辺が変形したとき
- スマートアシストに異常があるとき、または「スマアシ停止」が表示されているとき（→ P. 438、461）

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

リヤビューカメラ★

リヤビューカメラは車両を後退させるとき、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。

装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

リヤビューカメラの画面表示について

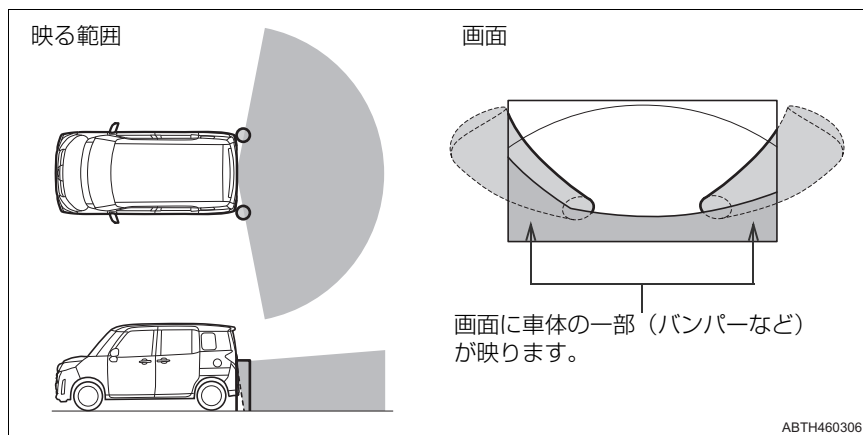
プッシュエンジンスイッチが“ON”のときに、シフトレバーを R にすると、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面に車両後方の映像を表示します。

シフトレバーを R 以外にすると、元の画面にもどります。

リヤビューカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

リヤビューカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



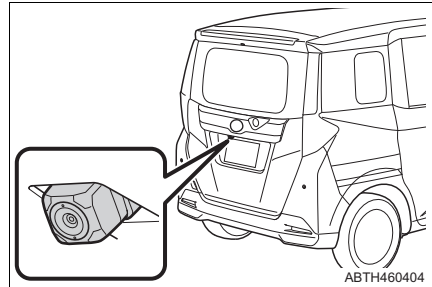
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- リヤビューカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- リヤビューカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- リヤビューカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- リヤビューカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

■ カメラについて

リヤビューカメラは次の位置にあります。



● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

□ 知識

次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。

- 暗いところ（夜間など）
- レンズ付近の温度が高い、または低いとき
- リヤビューカメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
- リヤビューカメラ付近に異物（泥など）がついたとき
- 太陽やヘッドランプの光が直接リヤビューカメラのレンズに当たったとき

 警告**■ リヤビューカメラについて**

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤビューカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やルームミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
 - ・ リヤゲートが完全に閉まっていないとき
 - ・ 坂道など平坦でない路面
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

 注意**■カメラの取り扱いについて**

- リヤビューカメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
 - ・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにSUBARU 販売店で点検を受けてください。

パノラミックビューモニター★

パノラミックビューモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、リアビューカメラの映像を合成してディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

画面を左右2分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リアビューが表示されます。また、レフト&ライトサイドビューやレフトサイド&リアビュー、フロントワイドビュー、リアワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。

画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。(→P.319)

詳しくはディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

パノラミックビューモニターの画面表示について

プッシュエンジンスイッチが“ON”の状態、シフトポジションの位置や車速、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの操作に応じたパノラミックビューモニター画面が表示されます。

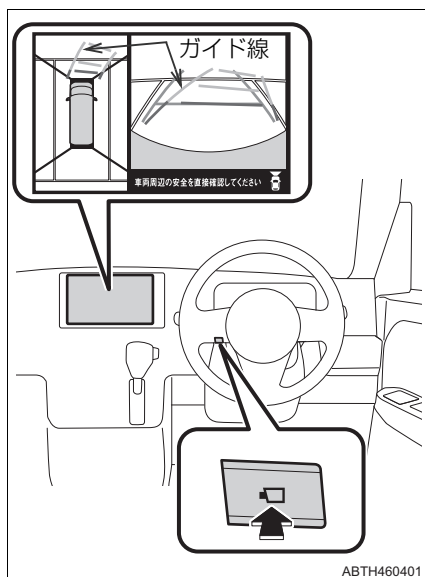
リアビューカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

■ ガイド線について※

予想進路線や距離目安線など、進路や距離の目安を示すガイド線が表示されます。

表示されるガイド線はビューによって異なります。

※ 詳しくは、装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。



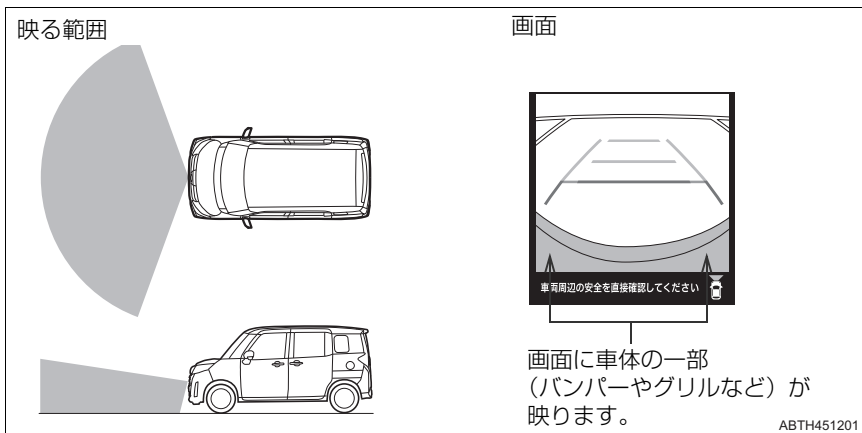
ABTH460401

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

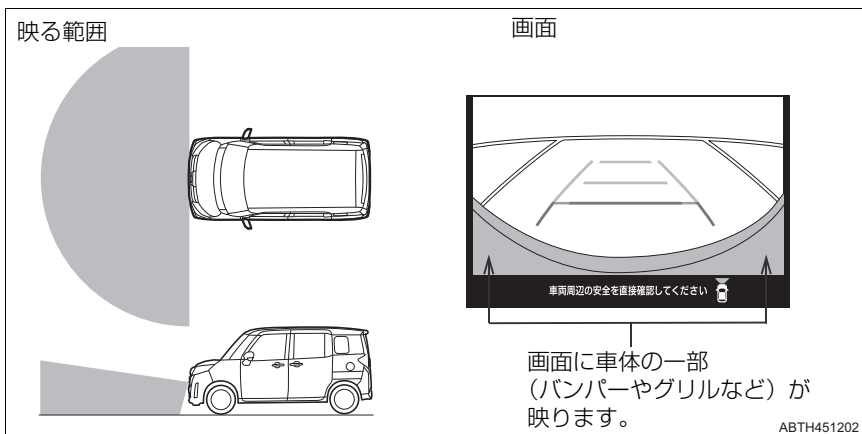
パノラミックビューモニターの注意点について

■ 画面の映る範囲について

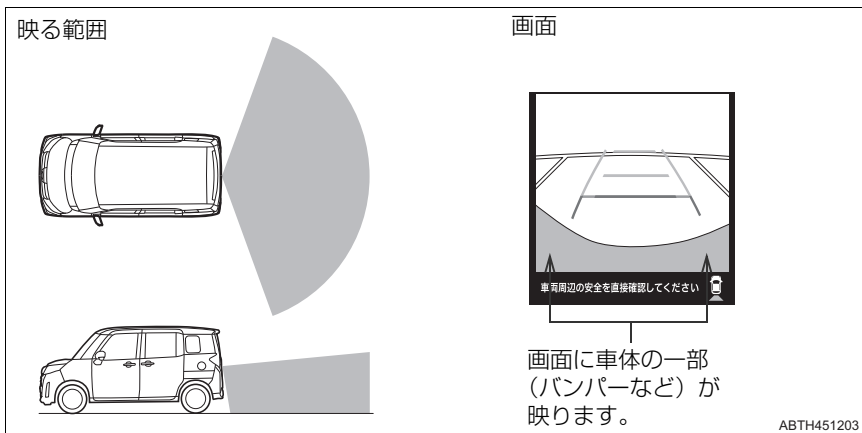
▶ フロントビュー



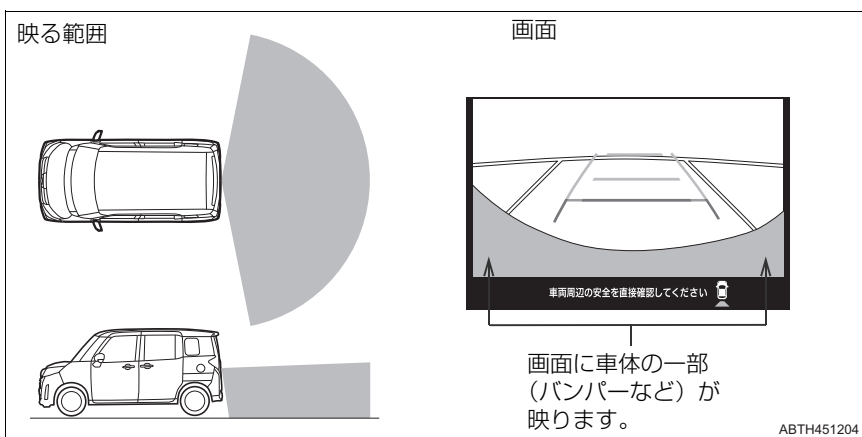
▶ フロントワイドビュー



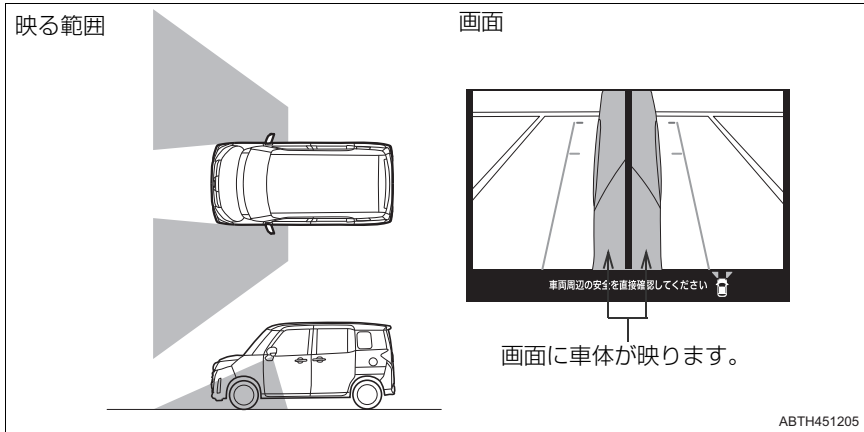
▶ リヤビュー



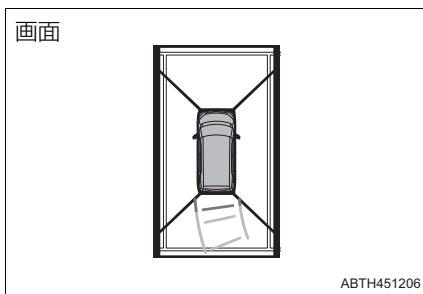
▶ リヤワイドビュー



▶ サイドビュー



▶ トップビュー

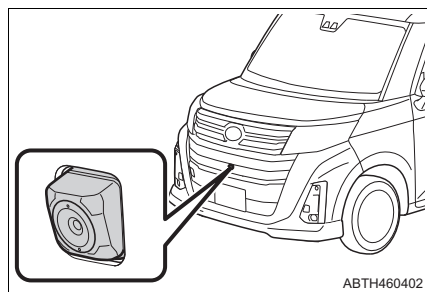


- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびリヤビューカメラからの映像を組み合わせ処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラミックビューモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラミックビューモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- リヤビューカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

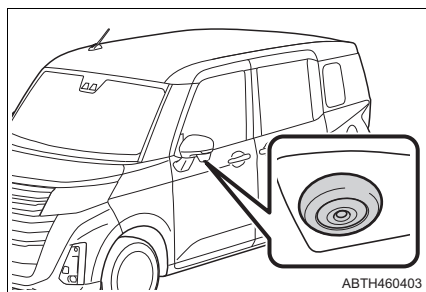
■ カメラについて

パノラミックビューモニターの各カメラは次の位置にあります。

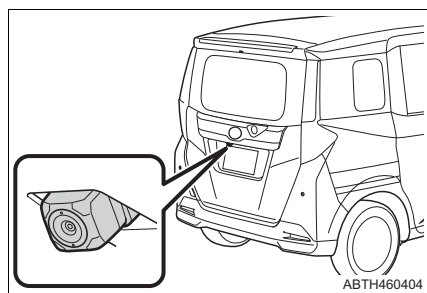
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ（左右）



▶ リヤビューカメラ



● カメラの手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

 知識

- パノラミックビューモニター対応純正ナビゲーション、ディスプレイオーディオ以外を装着した場合は、パノラミックビューモニターが正常に作動しないことがあります。
- 次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
 - ・ 暗いところ（夜間など）
 - ・ レンズ付近の温度が高い、または低いとき
 - ・ カメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
 - ・ カメラ付近に異物（泥など）がついたとき
 - ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たったとき

 警告

■ パノラミックビューモニターについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やルームミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
 - ・ フロントドア・リヤゲートが完全に閉まっていないとき
 - ・ 坂道など平坦でない路面
 - ・ ドアミラーを格納しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

 注意**■ カメラの取り扱いについて**

- パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・ カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
 - ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・ カメラ部は防水構造となっていますので、取り外し・分解・改造をしないでください。
 - ・ カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・ カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・ 高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 次の場合はカメラの故障などのおそれがあります。早めに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 - ・ カメラ部をぶつけたとき
 - ・ トップビューの映像が大きくずれているとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（VDC）

（ビークルスタビリティコントロール／ビークルダイナミクスコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ フルタイム 4WD ★

ジャスティは、フルタイム 4WD を採用しています。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。すべりやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。
通常の直進走行では FF（前輪駆動）に近い状態で走行します。
前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ ヒルスタートアシスト

坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。（→ P. 299）

◆ スマートアシスト

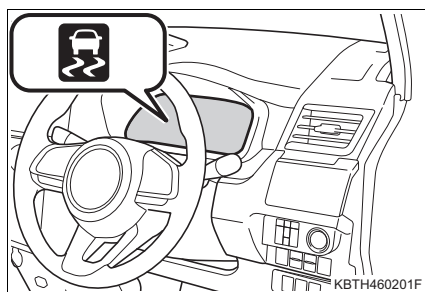
→ P. 229

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅表示灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC（VDC）が作動しているとき

TRC・VSC（VDC）が作動しているときは、VSC（VDC）作動表示灯が点滅します。



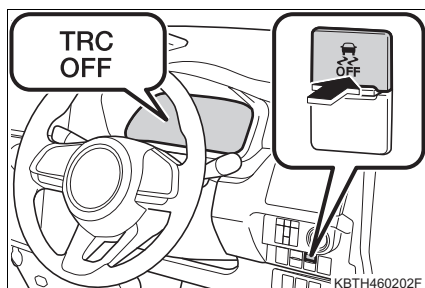
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



 知識

■ TRC と VSC (VDC) を停止するには

TRC と VSC (VDC) を停止するには停車時に  を押し 3 秒以上長押ししてください。

TRC OFF 表示灯と VSC (VDC) OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC (VDC)・ヒルホールドシステムの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ TRC や VSC (VDC) の自動復帰について

TRC や VSC (VDC) を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態に戻ります。

- プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
但し、TRC と VSC (VDC) の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルホールドシステムの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または、N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっている

■ヒルホールドシステムの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N にした
- アクセルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■VSC (VDC) 作動表示灯が点灯、および警告メッセージ（→ P. 449）が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。SUBARU 販売店に連絡してください。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅表示灯が点滅していないこと
- 車速約 60km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅表示灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき

- ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。
- ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ VSC（VDC）作動表示灯が点滅しているときは

VSC（VDC）が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

 警告**■ TRC や VSC (VDC) を OFF にするときは**

TRC や VSC (VDC) は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC・VSC (VDC) を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC (VDC) を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ フルタイム 4WD について★

●このお車の 4WD (フルタイム 4WD) は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。無理な運転はしないでください。

●脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 491）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC (VDC)・フルタイム 4WD ★が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、SUBARU 販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ 4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズ、同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。詳しくは SUBARU 販売店にご相談ください。（タイヤについて：→ P. 387）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。

輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→ P. 203)

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにSUBARU 販売店で点検を受けてください。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- タイヤサイズに合ったものを使用する
- 前2輪に取り付ける(4WD車も前2輪に装着)
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。お車のサイズに合ったSUBARU純正品をご使用ください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）装着時の警告**

- SUBARU 純正以外の金属チェーンを使用すると車体に干渉して異音発生や傷付きによる錆が発生することがあります。

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しない
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）の最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは約 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

SUBARU 純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
SUBARU 純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくは SUBARU 販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

オーディオ

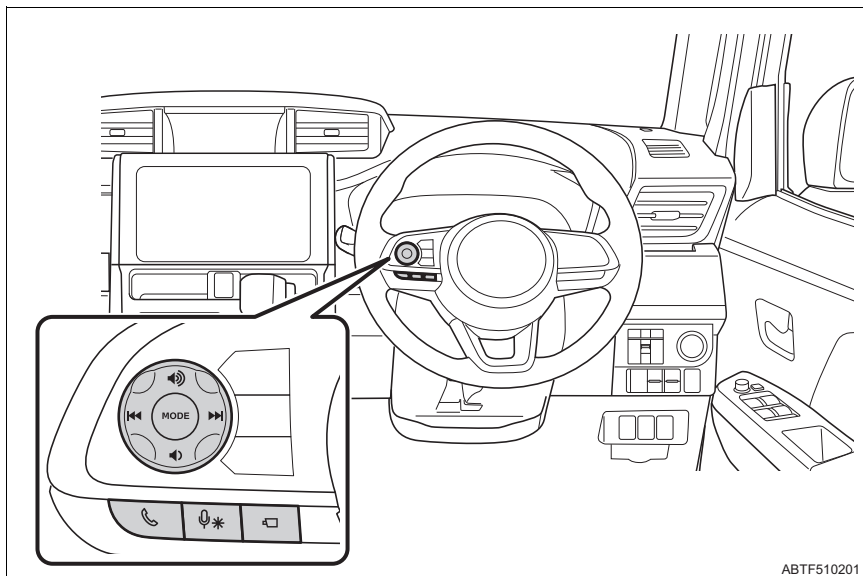
5

- 5. オーディオの使い方
 - ステアリングスイッチ336
 - アンテナ337

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱説明書をご覧ください。



スイッチの配置は、グレードなどで異なります。

⚠ 警告

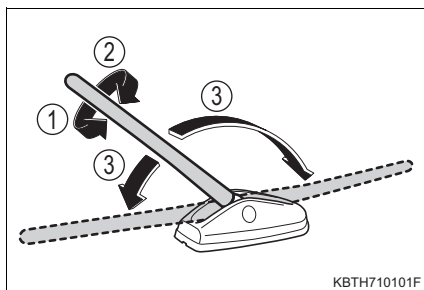
■ 事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

アンテナ

- ① 取りはずす
- ② 取り付ける
- ③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



⚠ 注意

■ アンテナの取り扱いについて

アンテナを取り扱うときは無理な力をかけないでください。ボディの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

■ アンテナの損傷を防ぐために

- 車庫の天井などにアンテナがあたるときは格納してください。
- 次のようなときはアンテナを取りはずしてください。
 - ・ カーカバーをかけるとき
 - ・ 自動洗車機を使用するとき
 - ・ 降雪時に長時間駐車するとき

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機を使用するときなどアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。

室内装備・機能

6

6-1. エアコン・デフォッガーの
使い方

オートエアコン	340
シートヒーター	348

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	349
・フロントマップランプ	350
・ルームランプ	350
・デッキサイドランプ右側 （スイッチ付）	351
・カーゴルームランプ	351

6-3. 収納装備

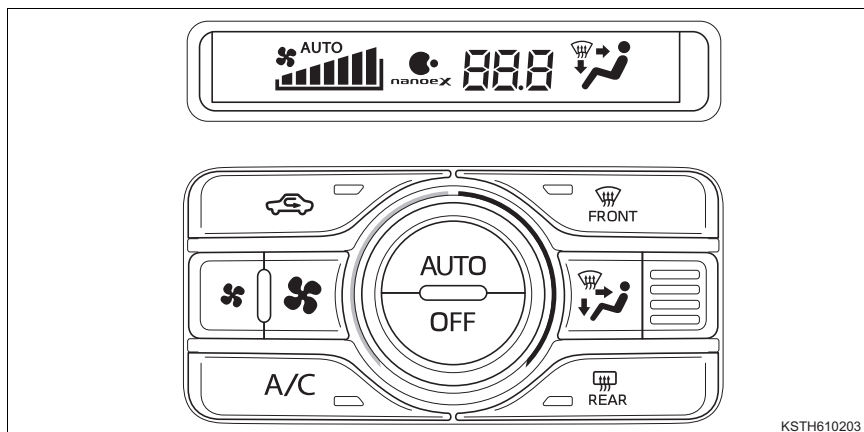
収納装備一覧	353
・グローブボックス	354
・センターダスト ボックス	354
・助手席アンダートレイ	355
・カップホルダー／ ボトルホルダー	355
・オープントレイ	358
カーゴルーム内装備	359
・カーゴボード	359
・停止表示板 収納スペース	361

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	362
・サンバイザー	362
・バニティミラー	362
・運転席アームレスト	363
・アシストグリップ	364
・シートバックテーブル	365
・格納式サンシェード	366
・アクセサリソケット	367
・USB Type-A ソケット （充電用）	368
・USB Type-A ソケット （通信用）／HDMI 端子	370
・ショッピングフック	372

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



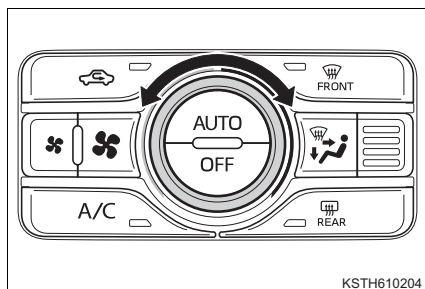
KSTH610203

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左に回す

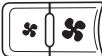
A/C  が押されていない場合

は、送風または暖房で使用できます。



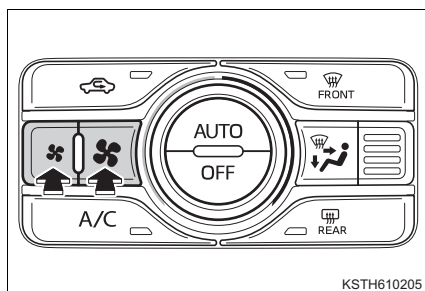
KSTH610204

■ 風量を切り替える

風量を調節するには  の

 (増) か  (減) を押す

OFF を押すと、送風が止まります。



KSTH610205

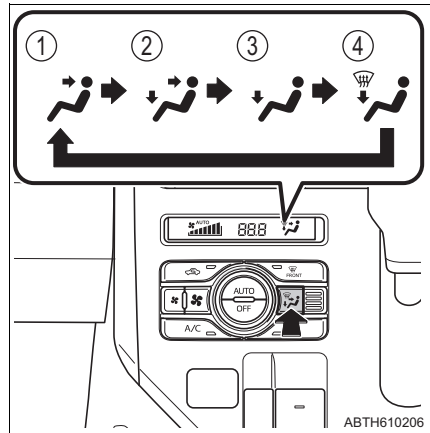
■ 吹き出し口を切り替える



を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る



オート設定を使うとき

- 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

- 2 温度を設定する

- 3 A/C  を押す

押すたびにエアコンの ON / OFF が切り替わります。

- 4 送風を止めたいときは OFF を押す

■ オート設定時の表示について

風量や吹き出し口を切り替えると、AUTO の表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

  を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、  の表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

  **FRONT** を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度   **FRONT** を押すと、前のモードに戻ります。

■ リヤウインドウデフォグガー&ヒートドアミラー★

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

  **REAR** を押す

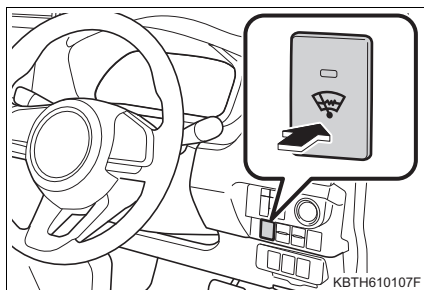
リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ワイパーデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 風が出る位置と風量

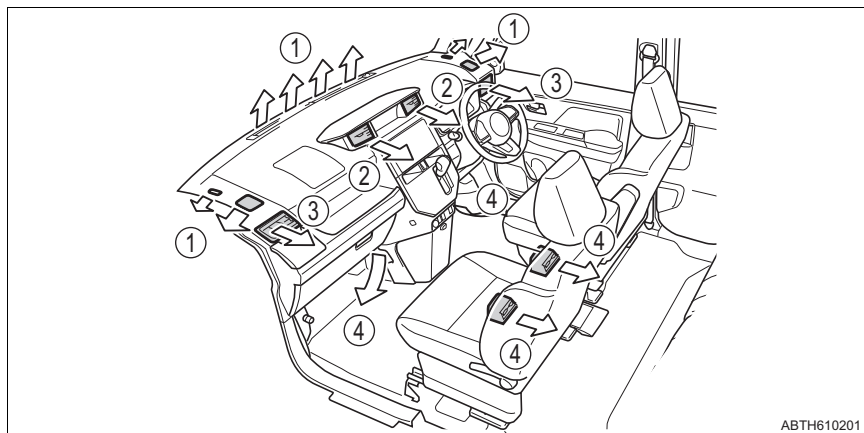
吹き出し口の設定により、風が出る位置や風量が次の表の通り変化します。

風量は吹き出し口によって異なります。

設定					
吹き出し口	② ③	② ③ ④	③ ④ (①)	① ③ ④	① ③

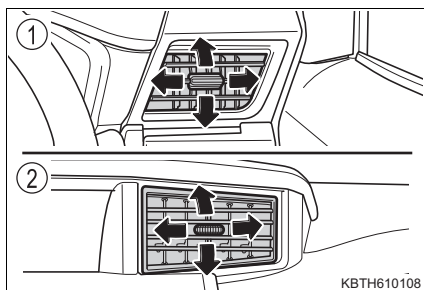
() は特に風量が少ないものを示します。

▶ 吹き出し口の位置



■ 風向きの調整

- ① 左右吹き出し口
- ② 中央吹き出し口



 知識

■ 駐車時について

プッシュエンジンスイッチが“OFF” のときはこもり臭防止のため、外気導入へ切りかわります。

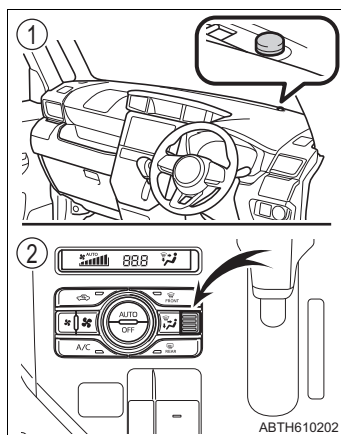
■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ 温度調節センサーについて

オートエアコンには自動的に温度調節を行うために、センサーが取り付けられています。

- ① 日射センサー
日射量を検知します。
- ② 内気センサー
室内温度を検知します。



日射センサーの上にものを置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。

その場合は A/C  を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取り除くことができます。

- A/C  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■冷房で使用しているとき

まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■外気温度が 0℃ 付近まで下がったとき

A/C  を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ナノイー X^{※1、2、3} について★

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。この装置は助手席外側の吹き出し口を通じて、ナノイー X を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます。^{※3}

- ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動し、 が表示されます。
 - ナノイー X 発生装置の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
 - ・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のとき
 - ・助手席外側吹き出し口が開いているとき
 - ナノイー X 発生装置の作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
 - 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- ^{※1} ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。
- ^{※2} nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。
- ^{※3} 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイー X の効果を十分に得られない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外の様々な臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■室内補助ヒーター★

エンジン冷間時の暖房効果を高めます。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時
- エンジン冷間時
- 外気温が低いとき

■エアコンフィルターについて

→ P. 399

■カスタマイズ機能

オートエアコンの設定を変更できます。(カスタマイズ機能一覧：→ P. 493)

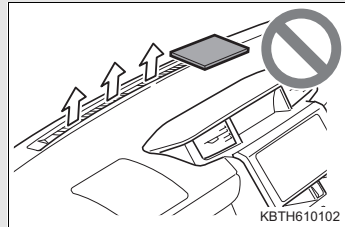
警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。また、吹き出し口を に切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■リヤウインドウデフォグター&ヒートッドアミラー★／ワイパーデアイサー★作動中の警告**

- ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ナノイー X 発生装置★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は SUBARU 販売店にお問い合わせください。

注意**■ナノイー X 発生装置★の損傷を防ぐために**

助手席外側吹き出し口（→ P. 345）の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に動かなくなるおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

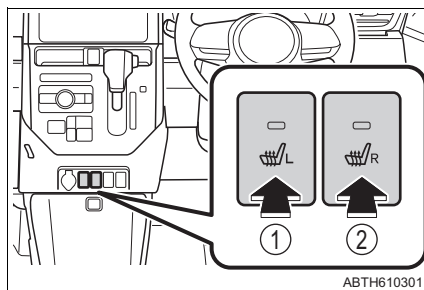
シートヒーター★

① 助手席をあたためる

② 運転席をあたためる

シートヒーター作動中は、作動表示灯が点灯します。

再度押すと OFF になり、作動表示灯が消灯します。



知識

■ 作動条件

プッシュエンジンスイッチが“ON” のとき

■ 使用しないときは

スイッチをもう一度押してください。作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがシートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いのかた
 - ・ 疲労の激しいのかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続で使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

⚠ 注意

■ シートヒーターの故障を防ぐために

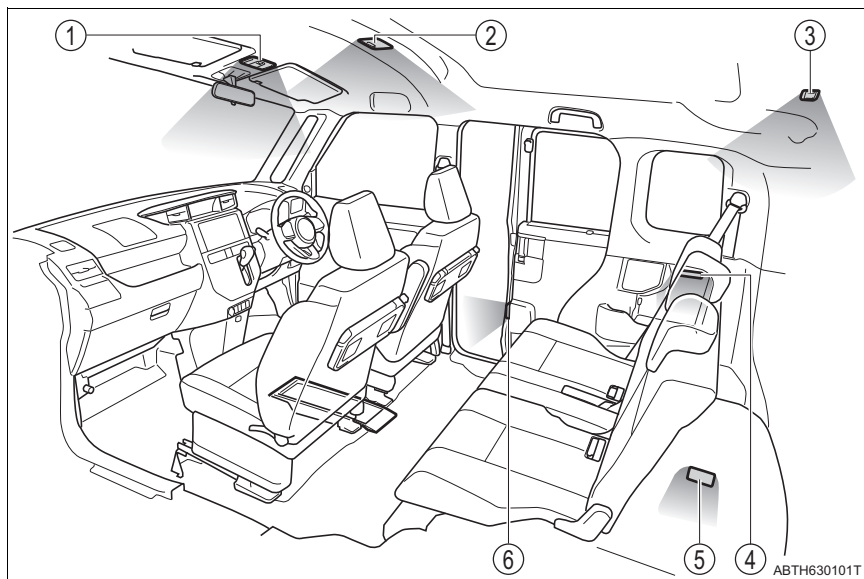
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内灯一覧

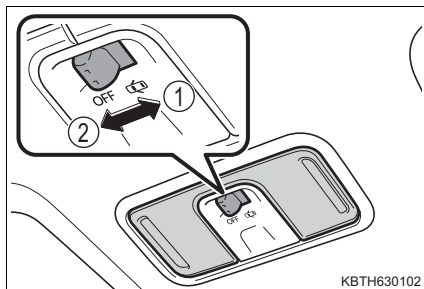


- ① フロントマップランプ (→ P. 350)
- ② ルームランプ (→ P. 350)
- ③ カーゴルームランプ (→ P. 351)
- ④ デッキサイドランプ右側 (スイッチ付) (→ P. 351)
- ⑤ デッキサイドランプ左側 (→ P. 151)
- ⑥ 後席ステップランプ (→ P. 135)

フロントマップランプ

■ ドア連動スイッチでの操作

- ① ドアポジション（ドア連動）
ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。
- ② ランプを消灯する

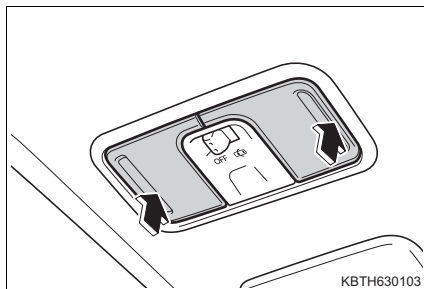


KBTH630102

■ 独立スイッチでの操作

ランプを点灯・消灯する

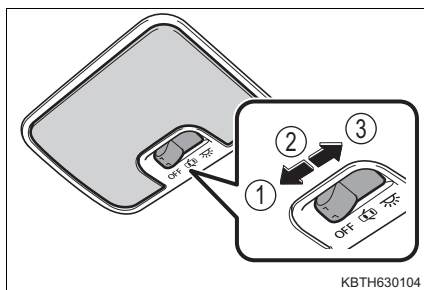
ドア連動スイッチがドアポジションでドアが開いているときは、レンズを押しても消灯しません。



KBTH630103

ルームランプ

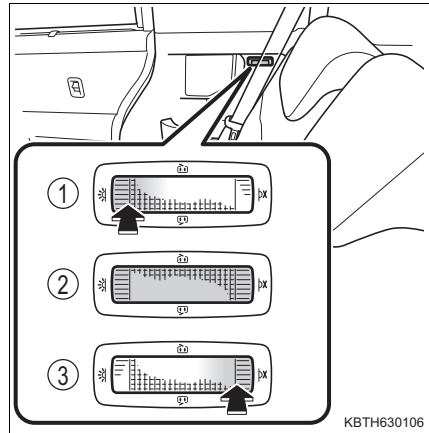
- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）
- ③ ランプを点灯する



KBTH630104

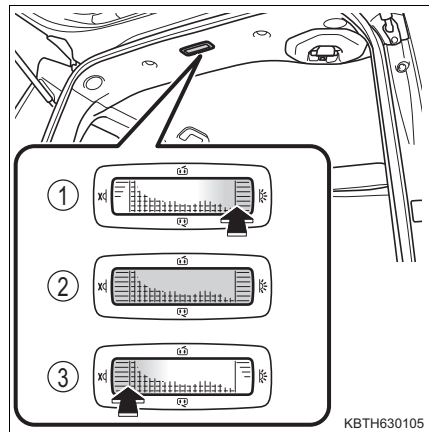
デッキサイドランプ右側（スイッチ付）

- ① 点灯
- ② ドアポジション（ドア連動）
- ③ 消灯



カーゴルームランプ

- ① 点灯
- ② ドアポジション（ドア連動）
- ③ 消灯



 知識

■ ドア連動機能

ランプのスイッチがドアポジションのとき、次の場合に各部の照明が自動的に点灯、消灯します。

- ・ アクセスキーを携帯して車両に近付いたとき
(ウェルカムランプ設定 (ルームランプ連動) : → P. 127)
- ・ ドアを施錠・解錠したとき
- ・ ドアを開閉したとき
- ・ プッシュエンジンスイッチを操作したとき

■ バッテリーあがりを防止するために

- 半ドア状態でランプのスイッチがドアポジションのときは約 10 分後に自動消灯します。
- 各部の照明が点灯したままの場合、約 12 分後に自動消灯します。

■ カスタマイズ機能

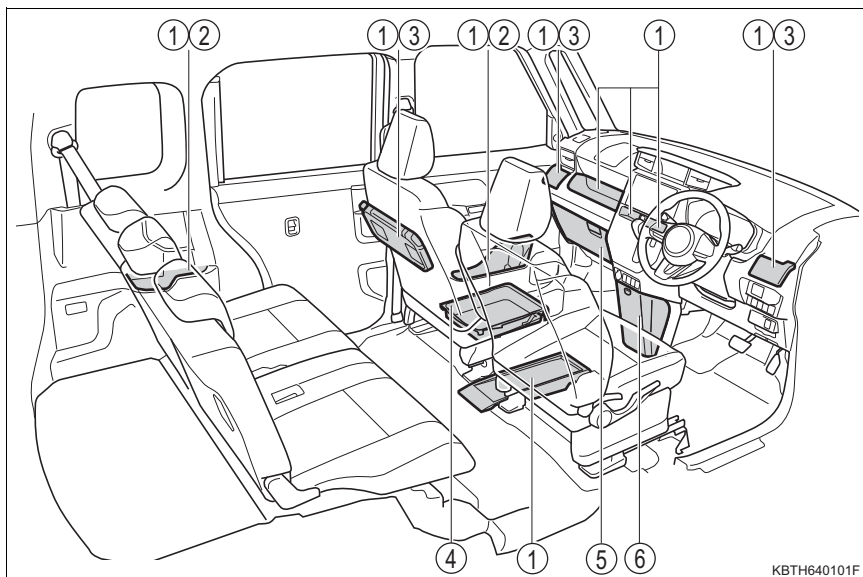
ドア連動機能の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 : → P. 493)

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



KBTH640101F

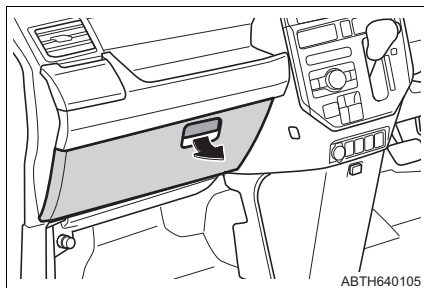
- | | |
|----------------------|--------------------------|
| ① オープントレイ (→ P. 358) | ④ 助手席アンダートレイ (→ P. 355) |
| ② ボトルホルダー (→ P. 355) | ⑤ グローブボックス (→ P. 354) |
| ③ カップホルダー (→ P. 355) | ⑥ センターダストボックス (→ P. 354) |

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

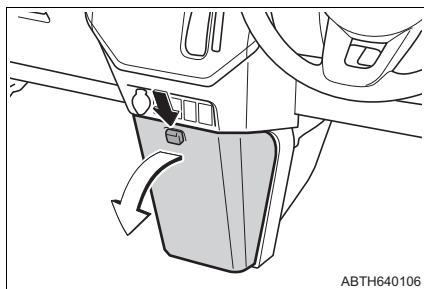
グローブボックス

レバーを引いて開ける



センターダストボックス

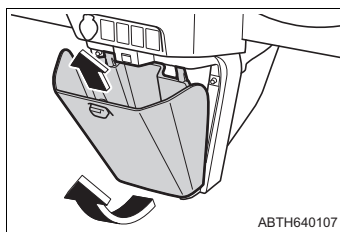
ボタンを押して開ける



知識

センターダストボックスは取りはずすことができます。真上に持ち上げてから下部を回転させて取りはずしてください。

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

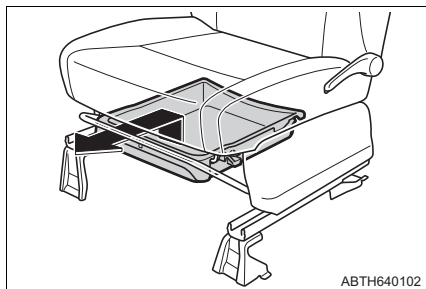


警告

センターダストボックスを取りはずしたときは、走行前に取り付け、必ず閉じてください。急ブレーキをかけたときなどにセンターダストボックスや中のものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

助手席アンダートレイ

トレイを上を持ち上げ、前に引き出す



ABTH640102

カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

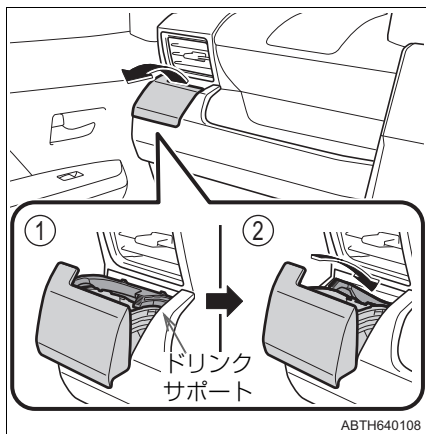
▶ 運転席／助手席

カップホルダーを引き出す

① カップホルダー

② 小物入れ

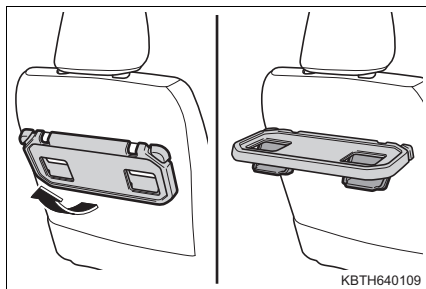
ドリンクサポートを格納することで紙パックを置いたり、小物入れとして使用することができます。



ABTH640108

▶ 後席★

シートバックテーブルを引き起こす (→ P. 365)

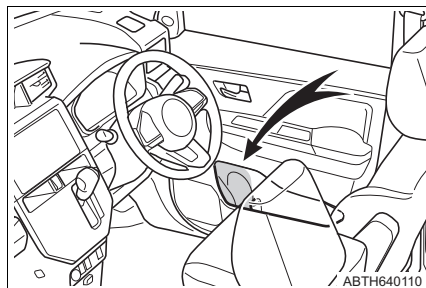


KBTH640109

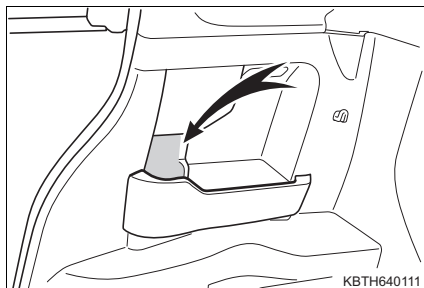
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ボトルホルダー

▶ フロントドア



▶ リヤサイド



□ 知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 警告

- カップホルダーとして使用するとき（→ P. 355）、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。
- 運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- カップホルダーを使わないときは、必ずもとにもどしておいてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
- シートバックテーブル★を使用しているときは、2kg 以上のものを置かないでください。テーブルが急に格納されたり破損してけがをするおそれがあります。

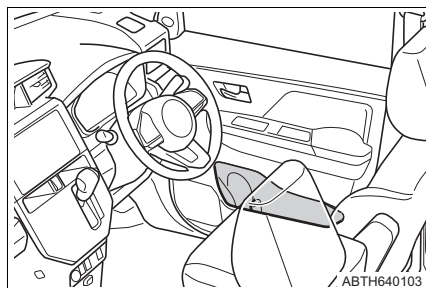
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意

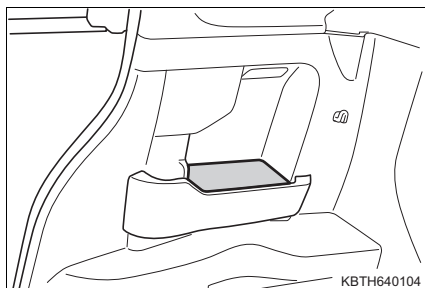
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- 小物入れの状態にしたカップホルダー (→ P. 355) ・ ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- 故障を防ぐため、飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- 破損を防ぐため、カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- 次のような異物が入ると、カップホルダー (運転席 / 助手席) の開閉機構が損傷するおそれがあります。
 - ・ 爪楊枝・ヘアピン等の小さいもの、細かいもの
 - ・ タバコの灰
 - ・ 芳香剤の液体
- カップホルダーを小物入れとして使うとき (→ P. 355, 358)、エアコンの使用状況や車室内外の温度・湿度によっては、スマートフォンなどの携帯機器内部が結露するおそれがあります。
それぞれの携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

オープントレイ

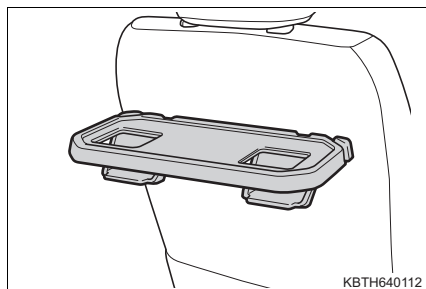
▶ フロントドア



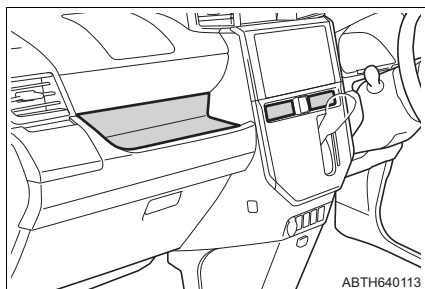
▶ リヤサイド



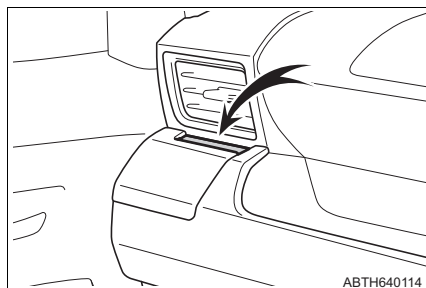
▶ シートバックテーブル★



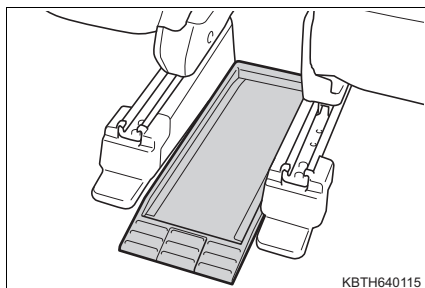
▶ インストルメントパネル



▶ カップホルダー格納時 (運転席／助手席)



▶ フロアトレイ



⚠ 警告

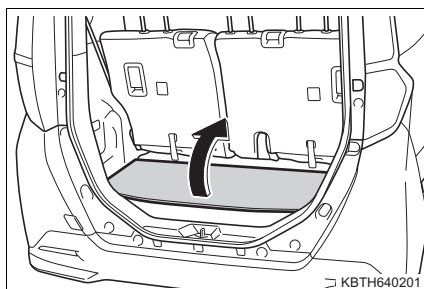
走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

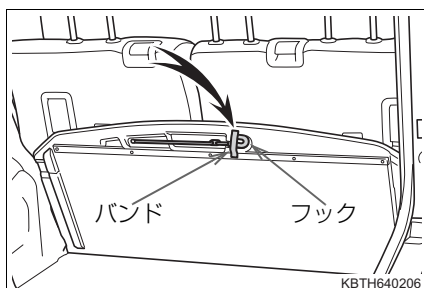
カーゴルーム内装備

カーゴボード

- 1 カーゴボードを上げる



- 2 フックをバンドから取り出す

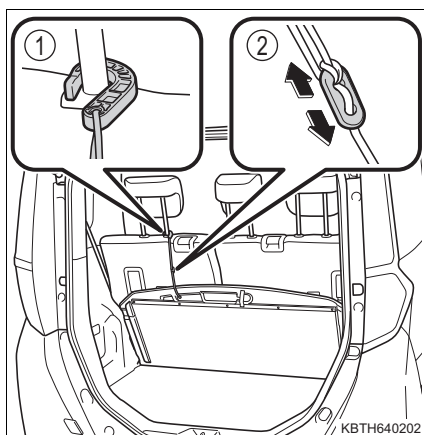


- 3 カーゴボードを固定する

- ① ヘッドレストを上げて、ステーにかける

フックを①の位置にかけて固定してください。

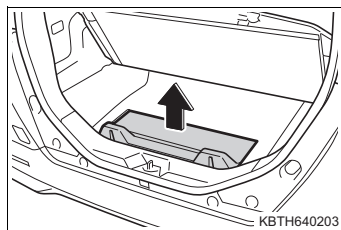
- ② アジャスターを移動させてひもの長さを調整する



 知識

■ サブトランクについて

- 停止表示板などを収納することができます。
- サブトランクを使用するときは、カバーを真上に持ち上げて取りはずしてください。

 警告

■ カーゴボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。
指をはさんだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

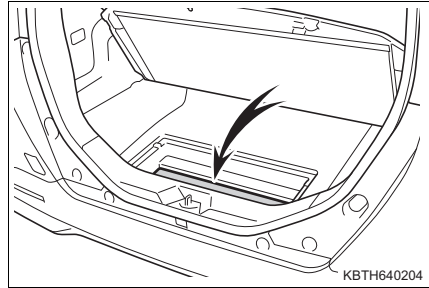
■ カーゴボードの破損を防ぐために

- カーゴボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。
- フックを使用しないときは必ずもとの位置にもどし、バンドで固定してください。リヤゲートや荷物に挟むなどして破損するおそれがあります。

停止表示板※ 収納スペース

※ 停止表示板は SUBARU 販売店で購入することができます。

サブトランクに収納することができます。



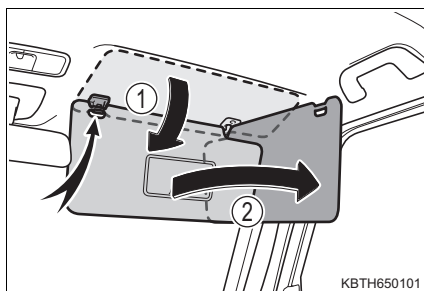
知識

停止表示板のケースの大きさ、形によっては、収納できないことがあります。

その他の室内装備

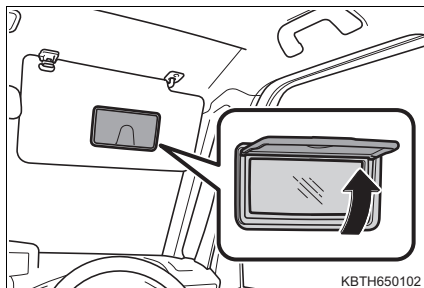
サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーを上を開ける



運転席アームレスト

手前に倒して使用する



知識

アームレストを使用していないときは必ずもとの位置に戻しておいてください。

警告

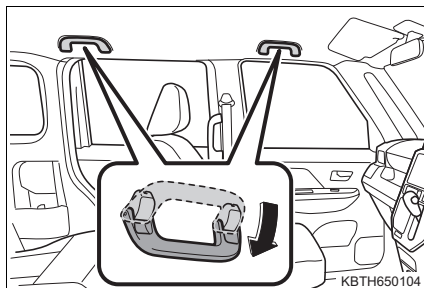
- アームレストを操作するときは、シートとアームレストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

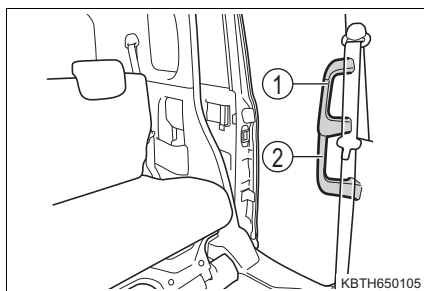
アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

- ① アシストグリップ（大人用）
- ② アシストグリップ（子供用）



⚠ 警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

アシストグリップ（回転式）が破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

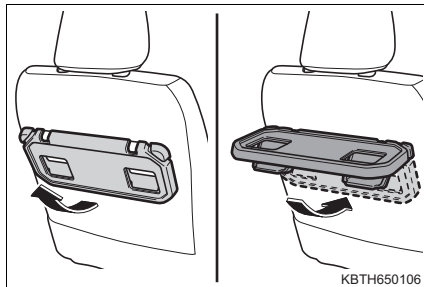
⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

シートバックテーブル★

シートバックテーブルを引き起こす

シートバックテーブルを操作するときはテーブル先端の中央を持ってください。



⚠ 警告

シートバックテーブルを使用するときは次の警告をお守りください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあり危険です。

- シートバックテーブルの上に乗ったり、重いものをのせないでください。
- 使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- 走行中はシートバックテーブルを格納し、使用しないでください。

⚠ 注意

■ テーブルの破損を防ぐために

- 重いものをのせないでください。
- テーブルとショッピングフックを同時に使用するときは、合わせて2kgをこえないようにしてください。

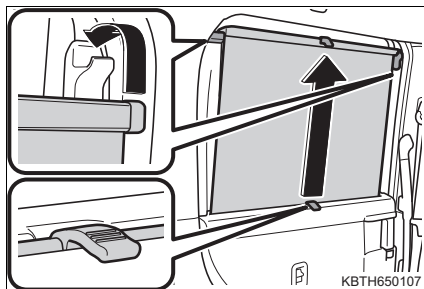
■ テーブルを使用しているときは

シートを操作しないでください。テーブル上のものが破損したり、飲みものがこぼれたりするおそれがあります。

格納式サンシェード

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。



⚠ 注意

■ 正常に機能させるために

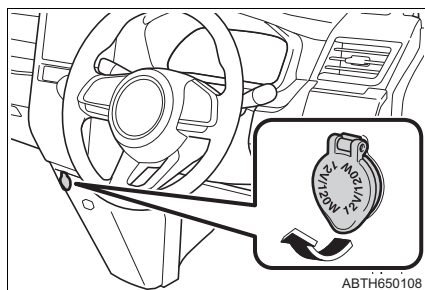
次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にもものを置かない
- 格納式サンシェードにもものを貼らない
- 格納式サンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない
- スライドドアが開閉しているときは、格納式サンシェードを操作しない

アクセサリースOCKET

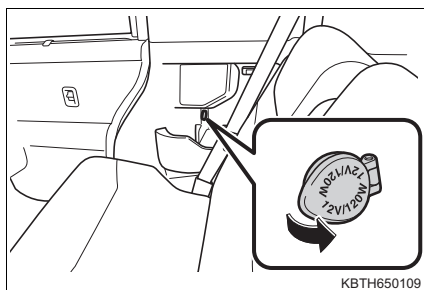
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

▶ フロント



フタを開けて使用する

▶ 後席右側



知識

■ 作動条件

プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

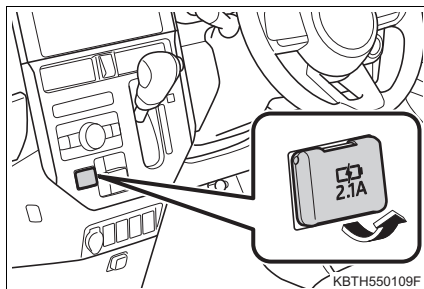
USB Type-A ソケット (充電用) ★

最大消費電力 10.5W (DC5V/2.1A) 以下の電源として使用してください。

充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。お使いになる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

1 ふたを開ける



2 ケーブルをソケットの向きに合わせてしっかり奥まで差し込む

機器やケーブルは、運転の妨げにならない場所に固定してください。

3 使用後は必ずケーブルを抜く

ふたが閉まっていることを確認してください。

知識

- エンジンが再始動したときに、一時的に充電を停止することがある場合は、バッテリーの劣化が考えられますので SUBARU 販売店にご相談ください。
- 一部の機器では、充電中に充電が一旦停止後、再充電を開始する場合がありますが、異常ではありません。

■ 作動条件

プッシュエンジンスイッチが “ACC” または “ON” のとき

■ 正常に働かないおそれのある状況

- 最大定格を超える電力を要求する機器を接続したとき
 - ・ 保護機能が働くため充電できないことがあります。
 - ・ 充電できた場合でも充電完了までの時間がかかることがあります。
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっているとき
 - ・ エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから充電を開始してください。
 - ・ 高温状態で充電した場合、温度センサーが自動的に充電を停止する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告

- USB ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

 注意

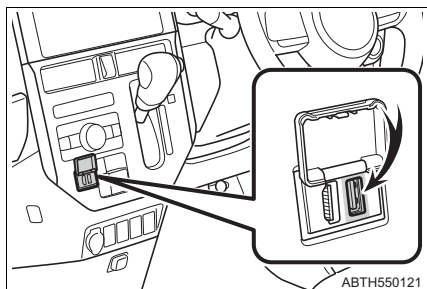
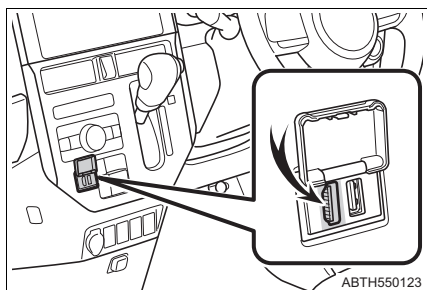
- 強い衝撃や力を加えないでください。
- **バッテリーあがりを防ぐために**
 - エンジンが停止した状態で、USB ソケットを長時間使用しないでください。
 - 走行中の使用でも充電が不要になったらケーブルを抜くように心がけてください。

USB Type-A ソケット（通信用）★／HDMI 端子★※

※ “HDMI” は HDMI Licensing Administrator, Inc の登録商標です。

スマートフォン連携ディスプレイオーディオと機器を接続するために使用してください。

詳しくは、スマートフォン連携ディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。

■ USB Type-A ソケット（通信用）**■ HDMI 端子****⚠ 警告**

- USB ソケット、HDMI 端子に指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意

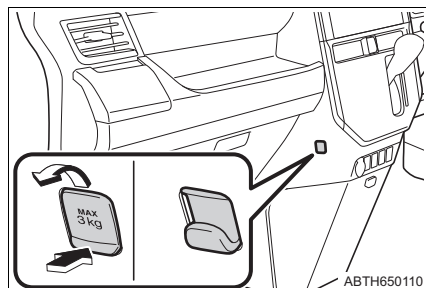
- 強い衝撃や力を加えないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止した状態で、USB ソケット、HDMI 端子を長時間使用しないでください。
- 走行中の使用でも不要になったらケーブルを抜くように心がけてください。

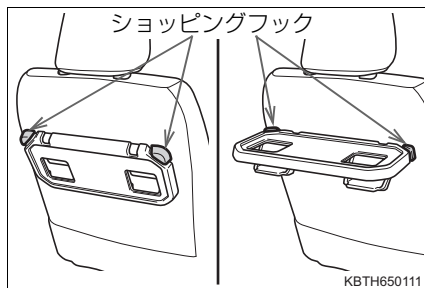
ショッピングフック

▶ フロント

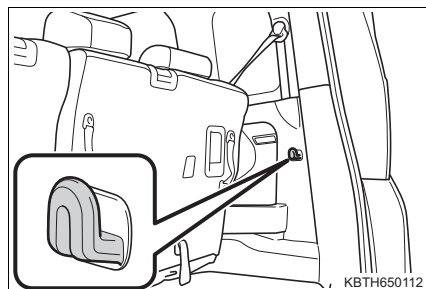


フックを引き起こす

▶ シートバックテーブル★



▶ カーゴルーム



⚠ 警告

使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの状態にもどしておいてください。

⚠ 注意

ショッピングフックの破損を防ぐために、3kg 以上のもの（フロント）、1kg 以上のもの（シートバックテーブル、カーゴルーム）をフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手入れのしかた

7

7-1. 手入れのしかた

外装の手入れ.....	374
内装の手入れ.....	377

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	381
ガレージジャッキ	384
エンジンオイルについて	385
ウォッシャー液の補充	386
タイヤについて	387
タイヤの交換.....	391
タイヤ空気圧について	397
エアコンフィルターの 交換	399
ワイパーゴムの交換.....	401
キーの電池交換.....	405
ヒューズの点検・交換	409
電球（バルブ）の交換	412

外装の手入れ

手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボディの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボディコート・ホイールコート・ガラスコートなど、ケミカル商品を施工された場合は、手入れ方法が異なります。

詳しくは SUBARU 販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択する
 - ・ パワースライドドアを OFF にする（→ P. 132）
 - ・ アンテナを取りはずす車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ 洗車などでお車に水をかけたとき

アクセスキーが作動範囲内にある場合、洗車などで水圧にてドアハンドル表面にあるドアハンドルのスイッチが押され、ドアが解錠・施錠することがあります。その場合は、次のような処置をしてください。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます）

- キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く（盗難に注意してください）
- キーを節電モードに設定してキーレスアクセスの作動を停止する（→ P. 117）

■洗剤やワックスを使うとき

- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。
- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

■アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない
- 光沢を失うおそれがあるため、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・海岸地帯を走行したあと
 - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・コールドスタート・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

 注意**■ ランプの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ ドアミラーの損傷を防ぐために

自動洗車機を使用するときは、ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。

■ アンテナの取り扱いについて

アンテナを取り扱うときは無理な力をかけないでください。ボディの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

■ アンテナの損傷を防ぐために

- 車庫の天井などにアンテナがあたるときは格納してください。
- 次のようなときはアンテナを取りはずしてしてください。
 - ・ カーカバーをかけるとき
 - ・ 自動洗車機を使用するとき
 - ・ 降雪時に長時間駐車するとき

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機を使用するときなどアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。

■ 洗車時の注意

- 洗車をするときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。車体がへこむおそれがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤、ワックスは使用しないでください。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、次の部品の結合部やブーツ類（ゴム又は樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウィンドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは

エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる



知識

■ 本革部分の手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的な手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV・IR カット機能付きフロントクォーター／フロントドアガラスについて

- フロントクォーター／フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をくり返さないでください。

 警告**■車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 35)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

 注意**■清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。
- メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。
変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。

⚠ 注意**■ 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰でお車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

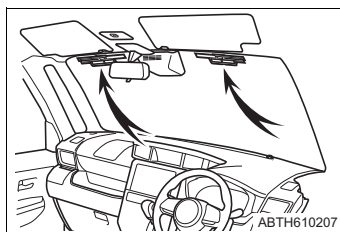
水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、お車の故障の原因となったり、ボディが錆びるおそれがあります。

■ フィルムアンテナを正常に作動させるために

フロントウインドウガラスのフィルムアンテナ周辺に次のものを貼り付けしないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。

- 金属を含むフィルム
- その他の金属物（市販のアンテナなど）

**■ フロントウインドウガラスの内側を清掃するとき**

- ステレオカメラ（→ P. 232）にさわらないように注意してください。
誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストの誤作動や故障につながるおそれがあります。
- フィルムアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーやベンジン・ガソリン・シンナーなどの有機溶剤を使わず、フィルムアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

 注意**■ スーパーUV・IR カット機能付きフロントクォーター／フロントドアガラスを清掃するときは**

フロントクォーター／フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）や鋭利なもの、硬いものを使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■ 液体芳香剤を使用するときは

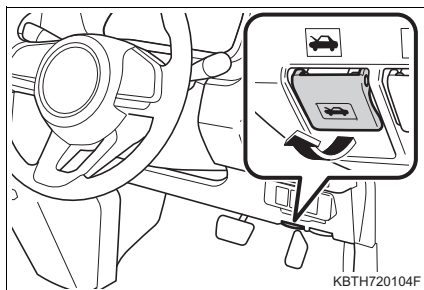
こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。

液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

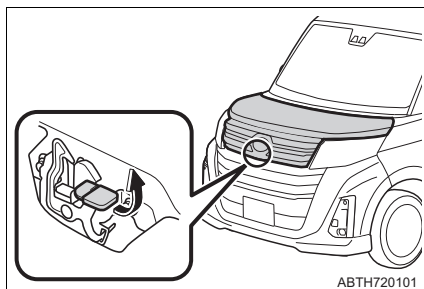
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

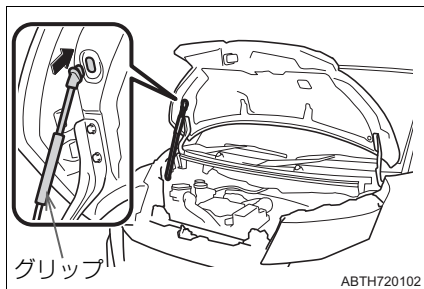
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 グリップ部を持ってボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、SUBARU 販売店にご相談ください。

警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジン始動前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルーム内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

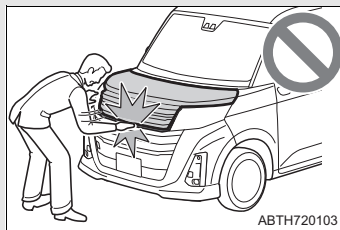
また、走行中にエンジンルーム内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店にご連絡ください。

■ オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 注意**■ ボンネットを開けるとき**

フロントワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

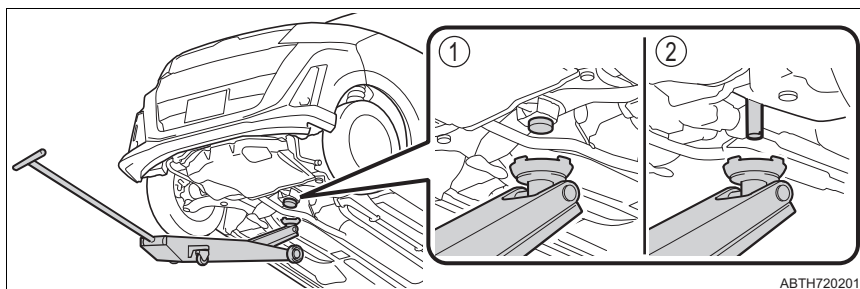
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

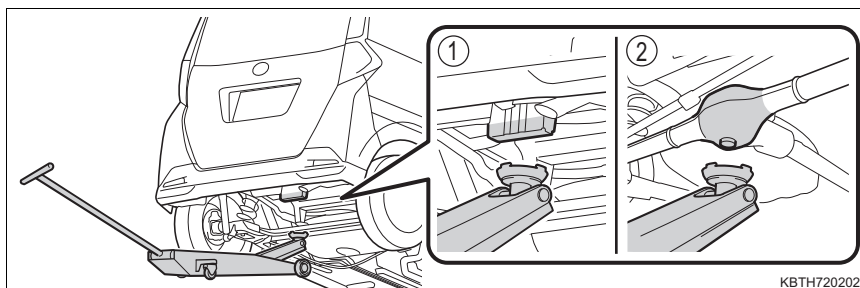
◆ フロント側



① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

◆ リヤ側



① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

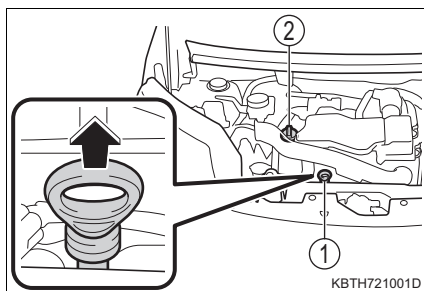
エンジンオイルについて

点検

エンジンオイルの量は、定期的に点検してください。また、高速走行を行う前は、必ず点検してください。

点検はオイルレベルゲージを抜きとって行います。

- ① オイルレベルゲージ
- ② オイルフィルターキャップ



エンジンルームのイラストは代表例です。

知識

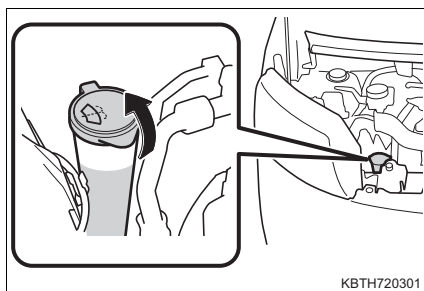
■ エンジンオイルについて

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行と共に減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイルフィルターキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機などで水分が蒸発すると解消します。この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

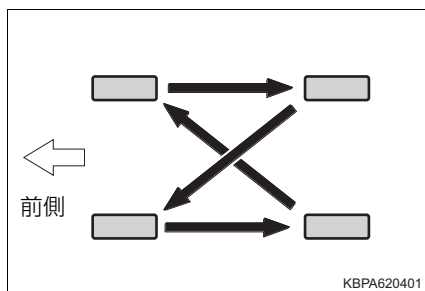
● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、SUBARU は定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。

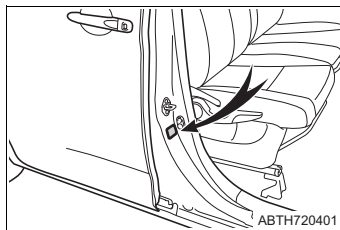


知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
165/65R14 79S	260 (2.6)	260 (2.6)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ空気圧の点検

- 1ヶ月に1回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、SUBARU 販売店にご相談ください。

■ タイヤローテーションについて

この車両には、スペアタイヤが搭載されていないため、スペアタイヤを利用するタイヤローテーションができません。SUBARU 販売店にご相談ください。

 警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しない
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

 警告**■ タイヤ交換時の注意**

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。(→ P. 396) テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

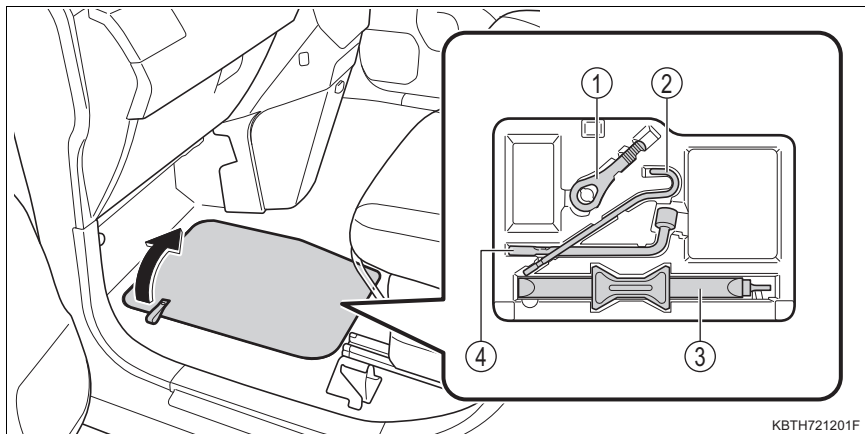
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、SUBARU 販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する

工具とジャッキの位置



① けん引フック

② ジャッキハンドル

③ ジャッキ

④ ホイールナットレンチ

KBTH721201F

 警告**■ ジャッキの使用について**

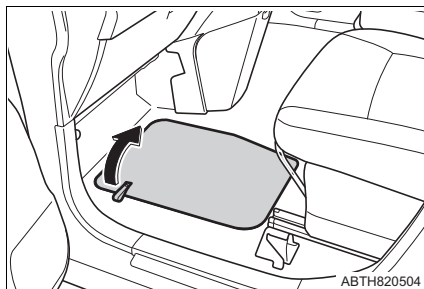
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

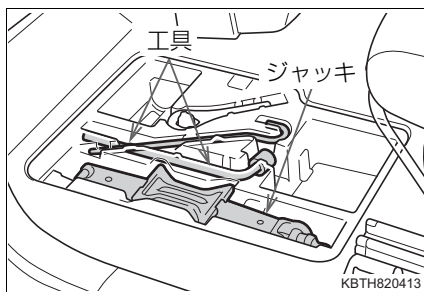
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取り外し以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他車に使ったり他車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）に正しくかける
- ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- お車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- 車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキと工具の取り出し方

- 1** フロアボードを取りはずす



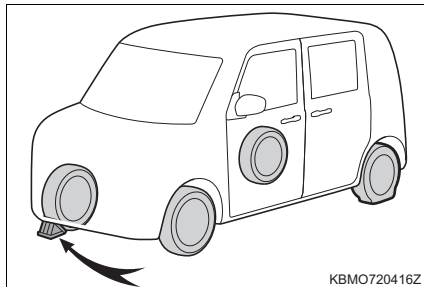
- 2** ジャッキと工具を取り出す



タイヤの交換

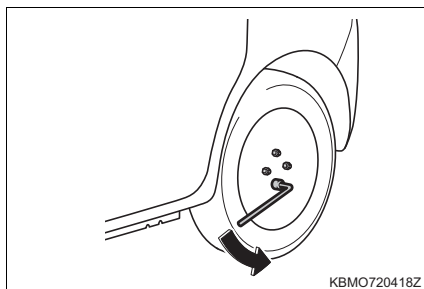
1 輪止め※をする

※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

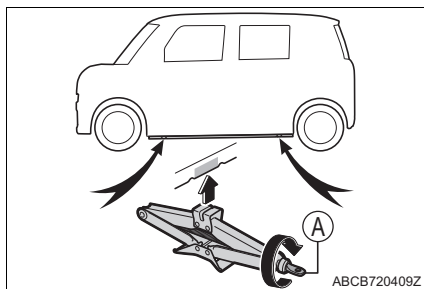


交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

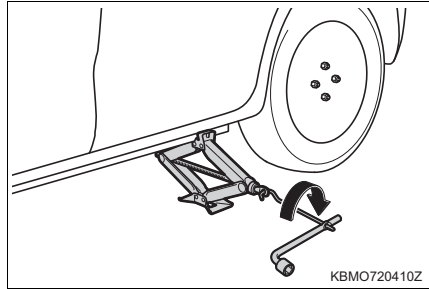


3 ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にしっかりかける



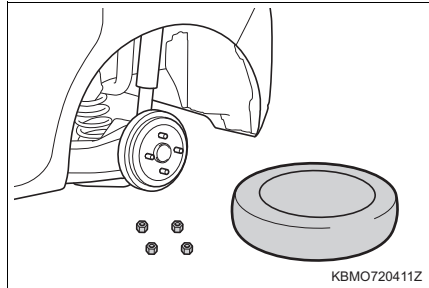
- 4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



- 5 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

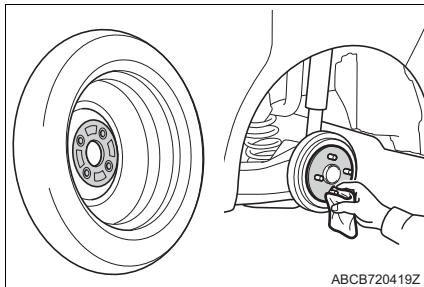
■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ネジ部やナットのテーパ部オイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 - ・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、SUBARU 販売店で点検を受ける
 - ・ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

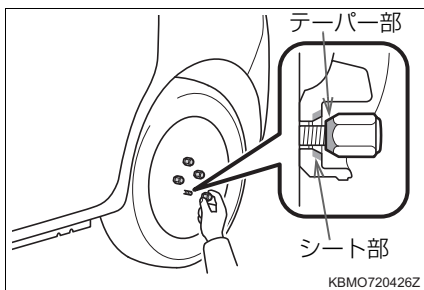
- 1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。

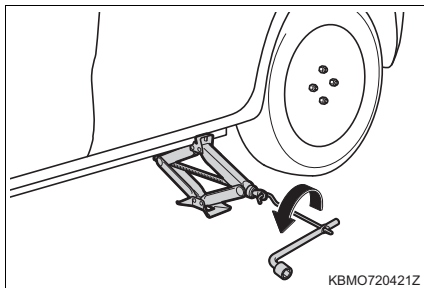


- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す

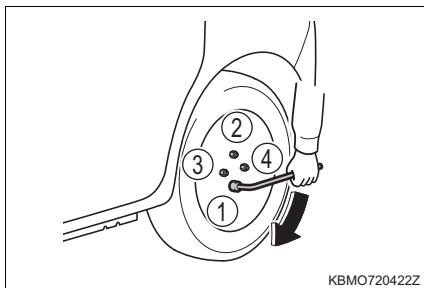


- 3 車体を下げる



- 4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2,3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m (1050kgf・cm)



- 5 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 491)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、SUBARU 販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

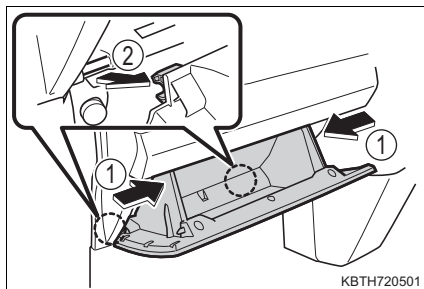
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

1 プッシュエンジンスイッチを“OFF”にする

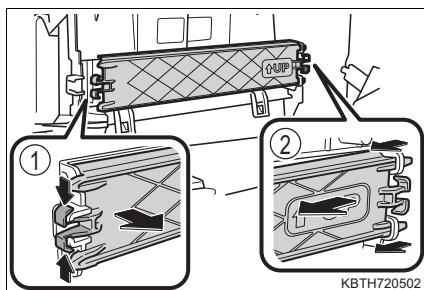
2 グローブボックスを取りはずす

- ① 側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずす
- ② 下部のツメをはずす



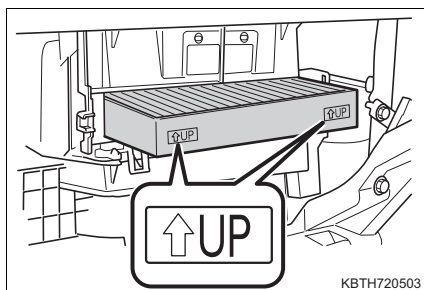
3 フィルターカバーを取りはずす

- ① フィルターカバーの固定を解除する
- ② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、フィルターカバーを抜く

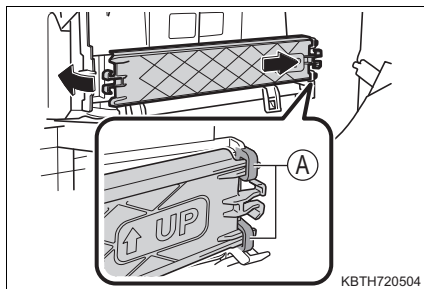


4 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
- ・ フィルターカバーは A 部に入れてから、取り付けてください。
 - ・ 「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

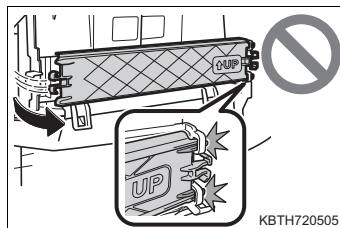
■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するとき、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。

ツメが破損するおそれがあります。



ワイパーゴムの交換

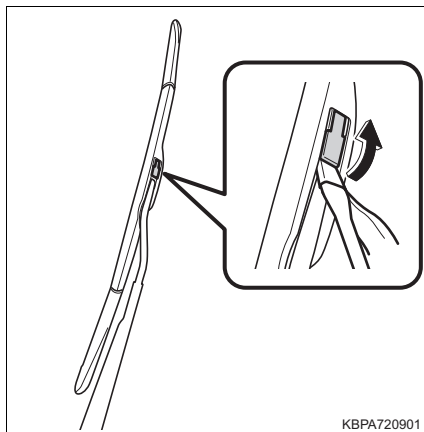
ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

フロントワイパー

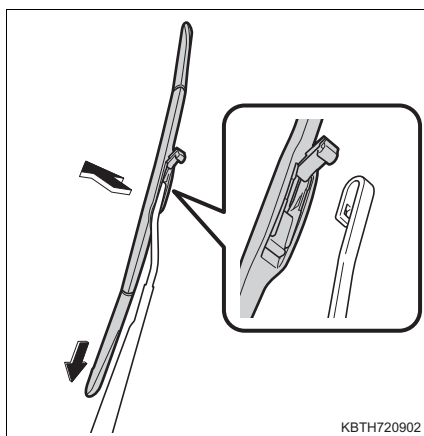
■ フロントワイパーブレードの脱着

- 1 ワイパーアームを起こし、マイナスドライバーなどを挿し込んで、カバーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



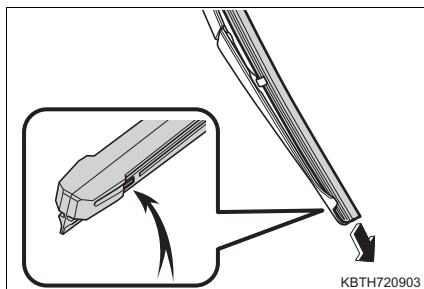
- 2 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす



- 3 取り付けるときは、逆の手順で取り付ける

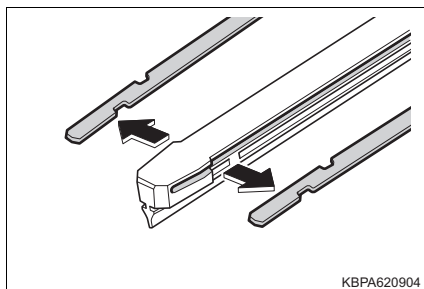
■ フロントワイパーゴムの交換

- 1 ワイパーゴムを引っ張り、ストッパーをワイパーブレードのツメからはずし、そのまま引き抜く



- 2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

ブレードの切り欠きと反りの向きに注意して取り付けてください。

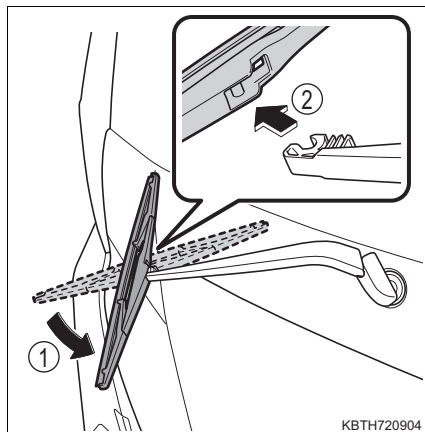


- 3 取り付けるときは、ワイパーゴムのストッパーがないほうからワイパーブレードに挿入する
- 4 ワイパーゴムのストッパーをワイパーブレードのツメで確実に固定する

リヤワイパー

■ リヤワイパーブレードの脱着

- 1 ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを取りはずす
- ① ツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを回す
- ② ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

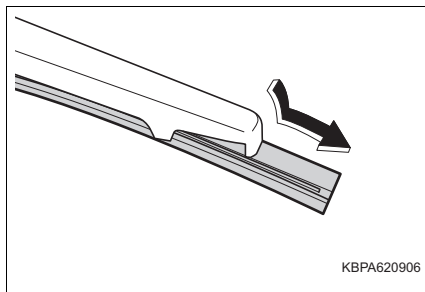


KBTH720904

- 2 ワイパーブレードを取り付けるときは1と逆の手順で取り付ける
ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

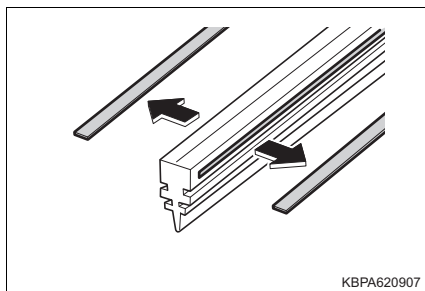
■ リヤワイパーゴムの交換

- 1 ワイパーブレードのストッパからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く



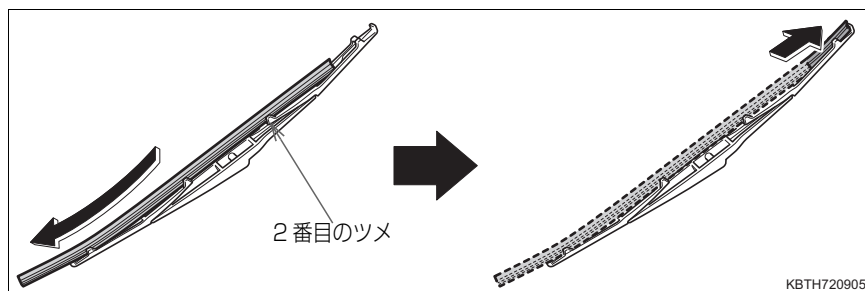
KBPA620906

- 2 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



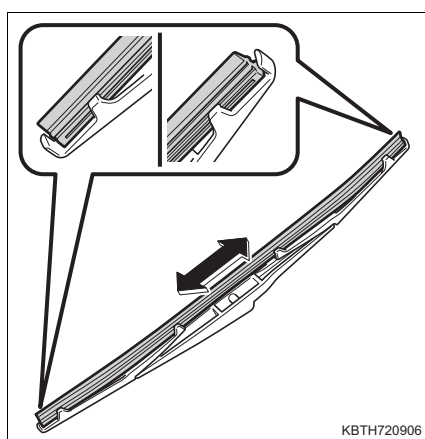
KBPA620907

- 3 ワイパーブレードの2番目のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った1つのツメに通すワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



- 4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

- ・ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。
- ・ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、SUBARU 販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- ワイパーを交換するときはツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずした後はウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- 薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）
- メカニカルキー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

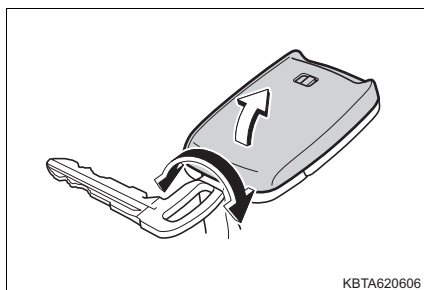
- 1 メカニカルキーを取り出す（→ P. 109）

- 2 カバーをはずす

SUBARU マーク側を下にしてはずしてください。

メカニカルキーをしっかりと奥まで差し込んでください。

傷が付くのを防ぐため、メカニカルキーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



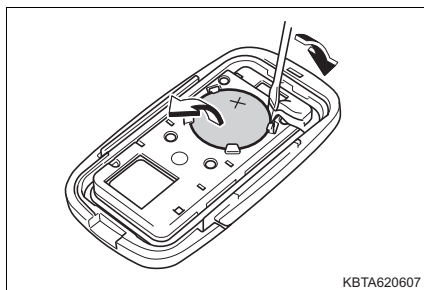
KBTA620606

- 3 消耗した電池を取り出す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

カバーをはずしたときに、上側のカバーにアクセスキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、アクセスキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

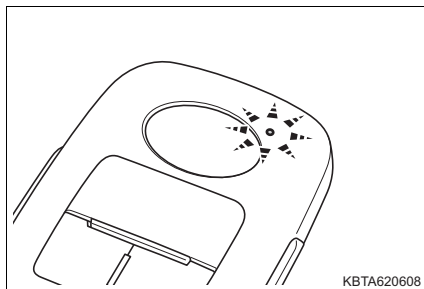
新しい電池は＋極を上にして取り付けます。



KBTA620607

4 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認する

**知識****■ 電池の交換について**

- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はリモコンの機能が正常であることを確認してください。
- 誤った取り扱いをすると、キーが損傷するおそれがあります。ご自身での電池の交換に不安がある場合は、SUBARU 販売店にご相談ください。

■ ボタン電池を廃棄する場合は

テープなどで端子部を絶縁してください。電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例に従ってください。

■ キーの故障を防ぐために

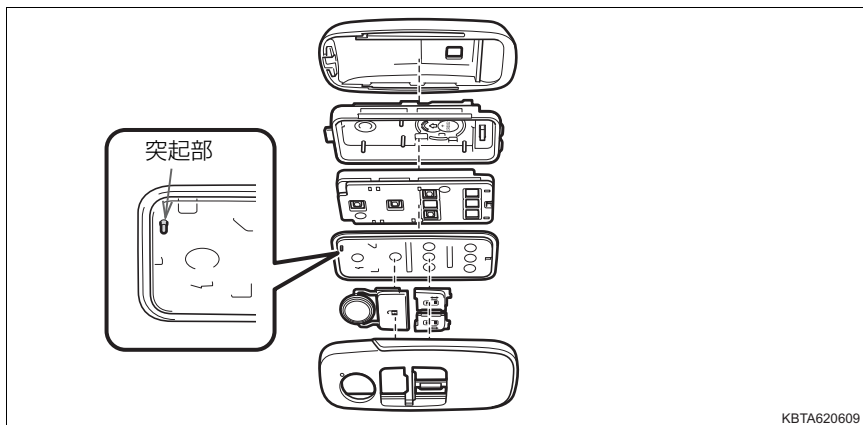
次のような状態になります。

- 液漏れなどを防ぐため、電池の+極と-極は正しく取り付けてください。
- 故障の原因となりますので、次のことをお守りください。
 - ・ 端子部分などを曲げない
 - ・ 水、油などでぬらさない
 - ・ ゴミなどの異物を入れない

■ アクセスキーの部品がばらばらになったときは

図を参考に組み付けてください。

組み付けるときは、突起部を上に向けてください。



■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池は SUBARU 販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ アクセスキーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- キーレスアクセス・電波式リモコン機能が作動しない
- 作動距離が短くなる
- インジケーターが点滅しない

⚠ 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 電池交換の留意事項**

電池交換をする場合は、必ず体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気により、キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できるものをあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

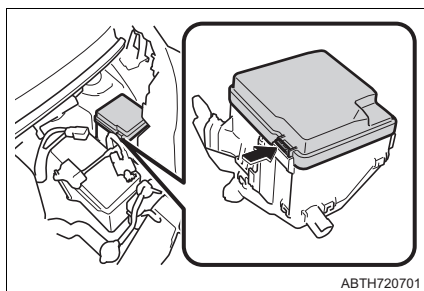
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 プッシュエンジンスイッチを“OFF”にする

2 ヒューズボックスを開ける

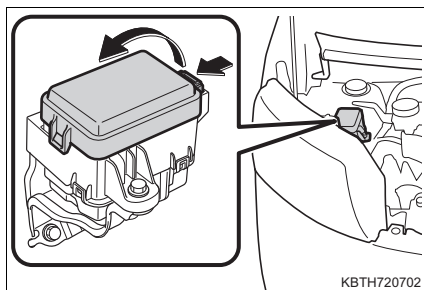
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）★

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

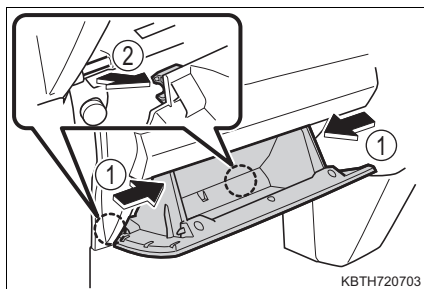


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 助手席足元

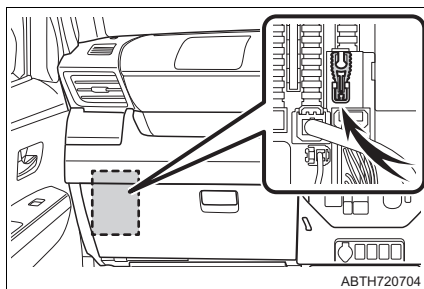
グローブボックスをはずす

- ① 側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずす
- ② 下部のツメをはずす



3 ヒューズを引き抜く

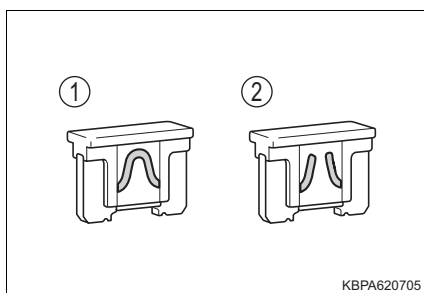
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

- ① 正常
- ② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 412)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されている SUBARU 純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定の SUBARU 純正品以外は使用できない場合があります。

 警告

■ お車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ず SUBARU 純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、SUBARU 販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

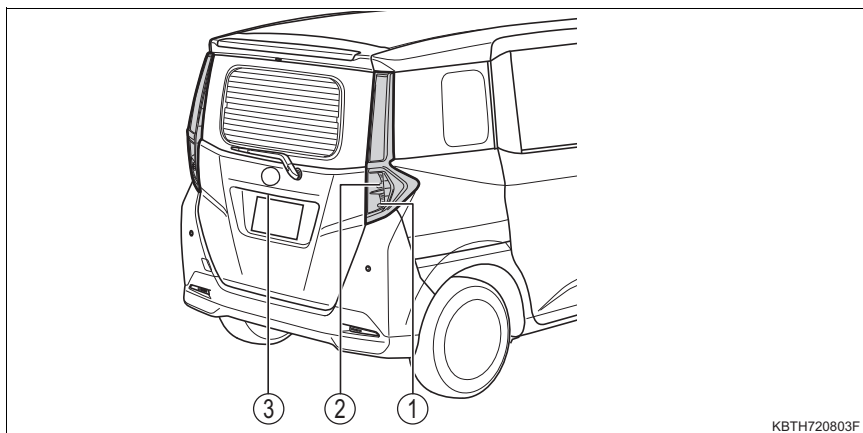
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、SUBARU 販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 492）

バルブ位置

■ リヤ

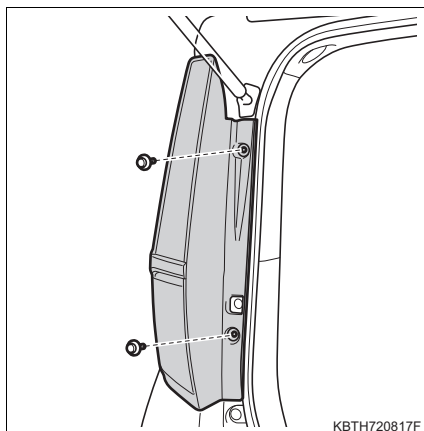


- ① 後退灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅表示灯
- ③ 番号灯

電球交換のしかた

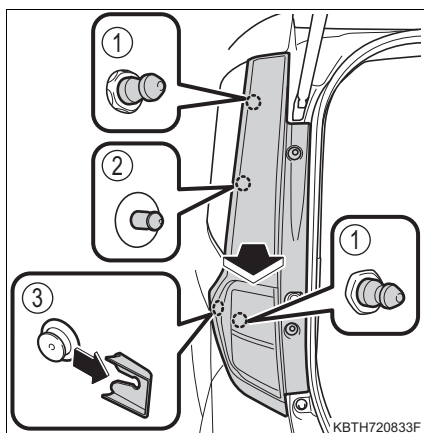
■ 後退灯・リヤ方向指示灯兼非常点滅表示灯

- 1 リヤゲートを開けて、ボルト
(2本)をはずす



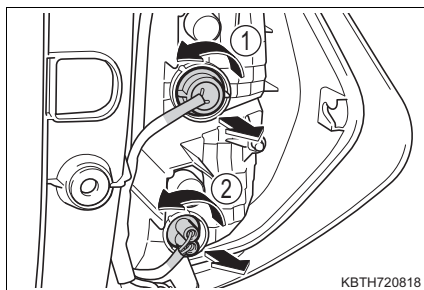
- 2 ランプ本体をまっすぐ後方に
引き、内部にあるかん合をはず
す

- ① ピン
② クリップ
③ ガイド



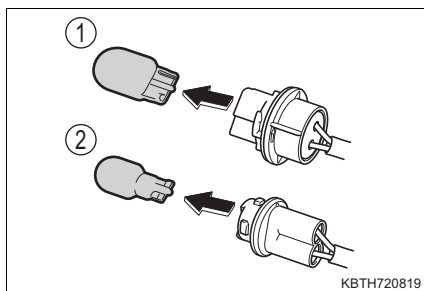
- 3 ソケットを取りはずす

- ① リヤ方向指示灯兼非常点滅
表示灯
② 後退灯

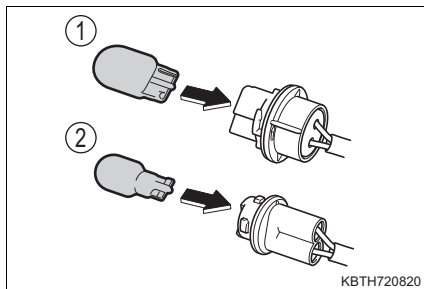


4 電球を取りはずす

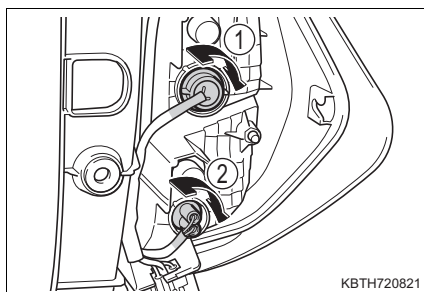
- ① リヤ方向指示灯兼非常点滅表示灯
- ② 後退灯

**5** 電球を交換し取り付け

- ① リヤ方向指示灯兼非常点滅表示灯
- ② 後退灯

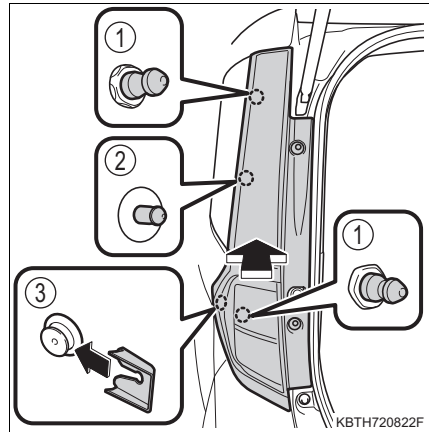
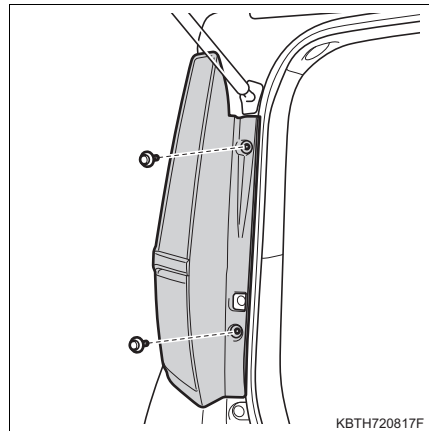
**6** ソケットを取り付ける

- ① リヤ方向指示灯兼非常点滅表示灯
- ② 後退灯



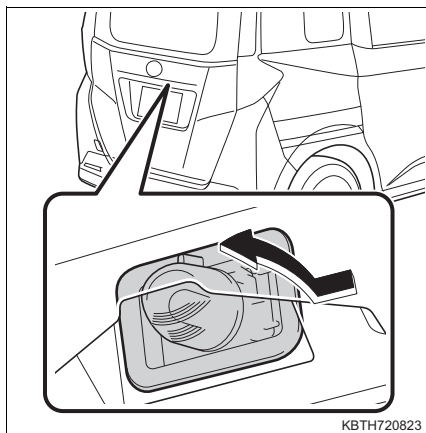
7 ランプ本体を取り付ける

ランプ本体側のピン (①)・クリップ (②) と車両側の穴の位置を合わせ、ガイド (③) がはまるようにランプ本体をまっすぐ押し込んでください。

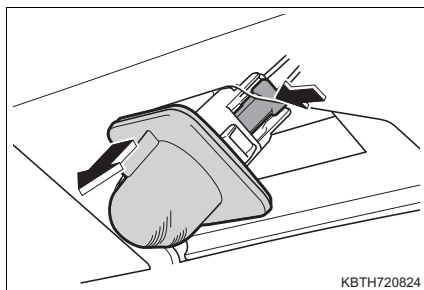
**8** ボルト (2 本) を取り付ける

■ 番号灯

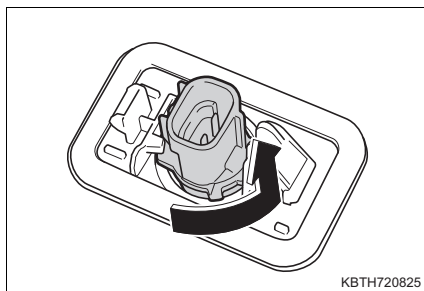
- 1 ランプ本体をスライドして取りはずす

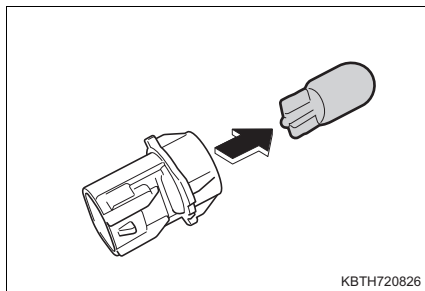
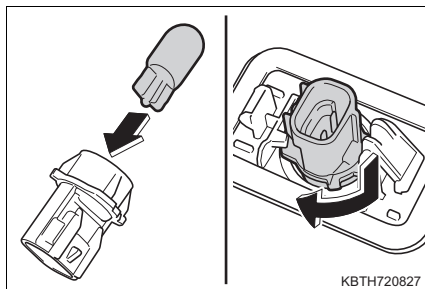


- 2 ツメを押し、コネクターを取りはずす

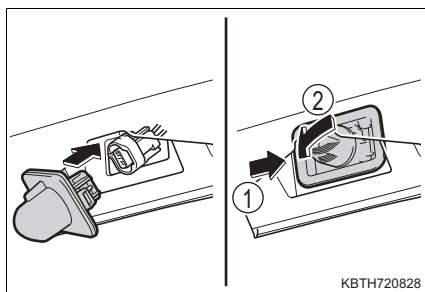


- 3 ソケットをまわして取りはずす



4 電球を取りはずす**5** 新しい電球を取り付け、ソケットをまわしてレンズに取り付ける**6** コネクターを挿し込み、ランプ本体を取り付ける

- ① 車両右側に押し込む
- ② ランプ本体を押す



■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、SUBARU 販売店で交換してください。

- ヘッドランプハイビーム／ロービーム
- LED ライナー
- 車幅灯
- フロント方向指示兼非常点滅表示灯
- サイド方向指示灯兼非常点滅表示灯
- 制動灯／尾灯
- ハイマウントストップランプ
- フロントフォグランプ

知識

■ LED ランプについて

LED ヘッドランプ、LED ライナー、制動灯／尾灯・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、SUBARU 販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、SUBARU 販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 411

 警告**■電球を交換するときは**

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

8

8-1. まず初めに

故障したときは.....	422
非常点滅表示灯 (ハザードランプ)	423
発炎筒	424
車両を緊急停止するには	426
水没・冠水したときは	427
車中泊が必要なときは	428

8-2. 緊急時の対処法

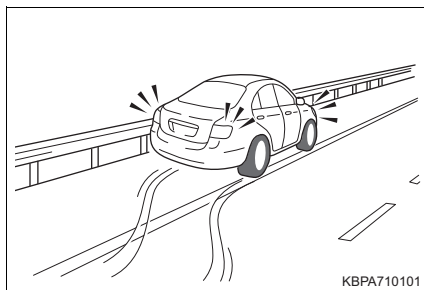
けん引について.....	429
フューエルポンプシャット オフシステム	436
警告灯がついたときは	437
警告メッセージが 表示されたときは	444
「スマアシ停止」が表示された ときは.....	461
パンクしたときは	464
エンジンが かからないときは	476
アクセスキーが 正常に働かないときは	477
バッテリーが あがったときは	479
オーバーヒート したときは.....	483
スタックしたときは.....	486

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅表示灯（→ P. 423）を点滅させながら、お車を路肩に寄せ停車する

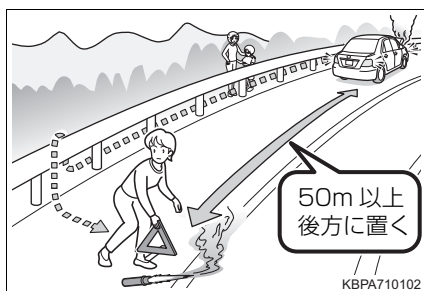
非常点滅表示灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



KBPA710101

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 424）と停止表示板を置く
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

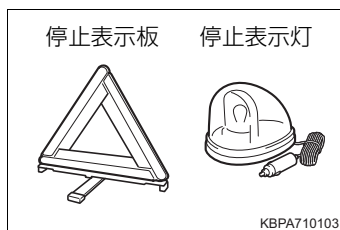


KBPA710102

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板は、SUBARU 販売店で購入することができます。



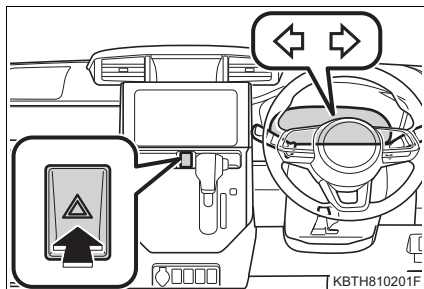
KBPA710103

非常点滅表示灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



⚠ 注意

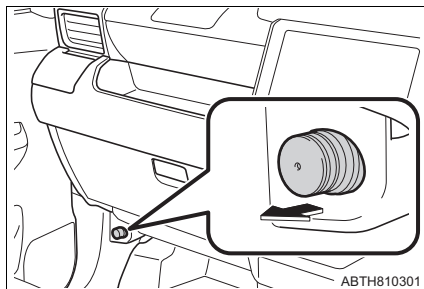
■ 非常点滅表示灯について

エンジン停止中に、非常点滅表示灯を長時間使用すると、バッテリーがあがっておそれがあります。

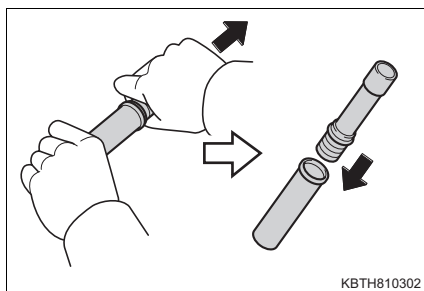
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅表示灯と併用してください。

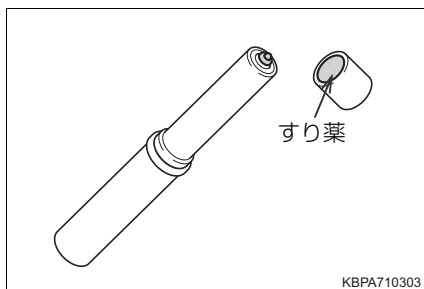
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、SUBARU 販売店で求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
 - 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
 - 3 減速後、お車を安全な道路脇に停める
 - 4 エンジンを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
 - 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
 - 4 プッシュエンジンスイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する
- 

3 秒以上押すまたは
3 回以上連続で押す

KBPA710402
- 5 お車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドゥスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドゥやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくは SUBARU 販売店にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

けん引について

けん引は、できるだけ SUBARU 販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

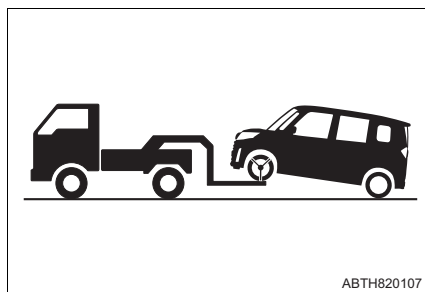
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、SUBARU 販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるがお車が動かない
- 異常な音がする

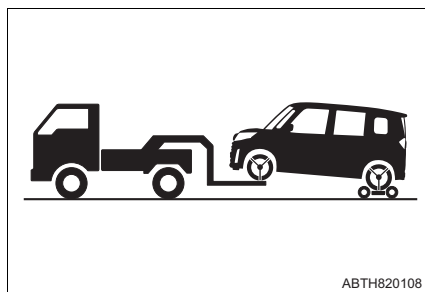
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは
(FF 車)



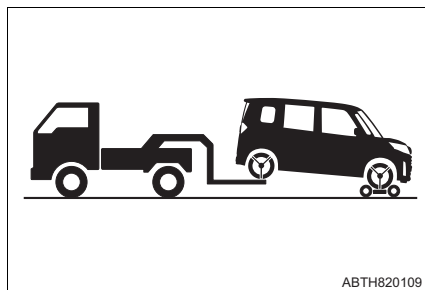
パーキングブレーキを解除する
オートモードを OFF にしてください。
(→ P. 204)

- ▶ 前向きにけん引するときは
(4WD 車)



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

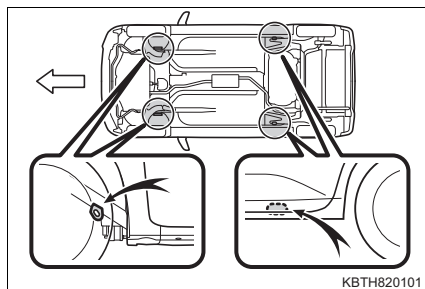


台車を使用して前輪を持ち上げる

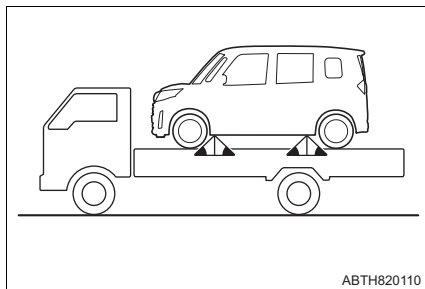
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

輸送後は、リヤ側に取り付いているフタをもとにもどしてください。



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



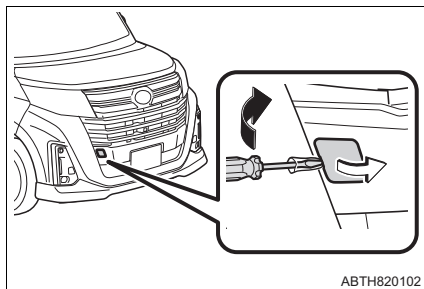
他車にけん引してもらおうとき

1 けん引フックを取り出す (→ P. 391)

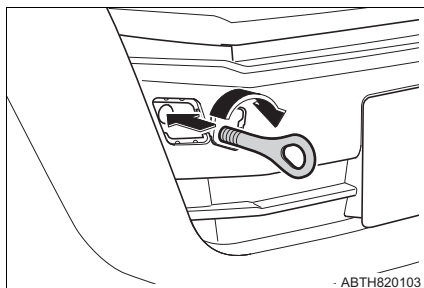
2 けん引フックを取り付ける

マイナスドライバーなどを使ってフタをはずす

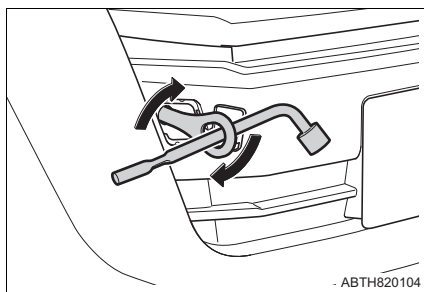
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

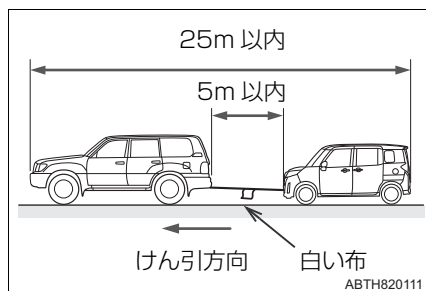


ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



- 3 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける
車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 4 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



- 5 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける
エンジンがかからないときは、プッシュエンジンスイッチを“ON”にしてください。
- 6 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 200

 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

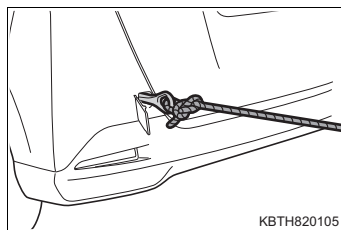
エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

助手席フロア下に搭載されています。(→ P. 391)

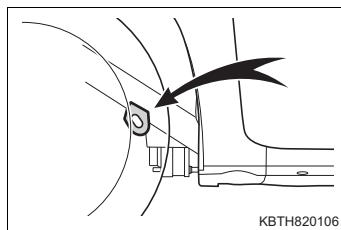
■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。



■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



■けん引が終わったら

けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

⚠ 警告

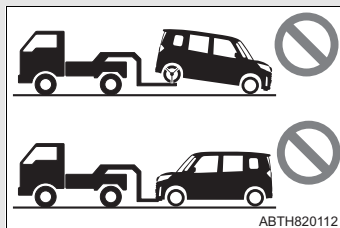
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

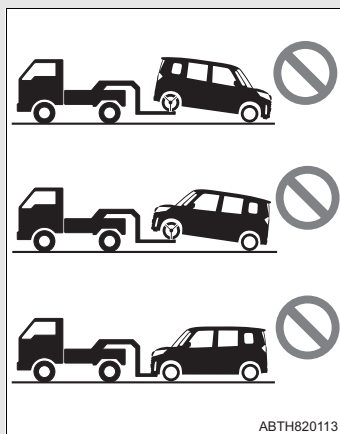
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したりお車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

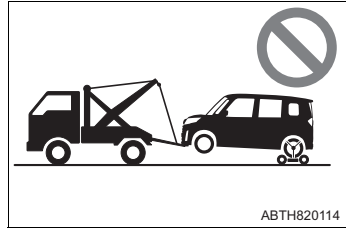
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車にお車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度は 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

- 1 プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、SUBARU 販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯 (警告ブザー ※¹) ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 (黄色)	ブレーキ警告灯 パーキングブレーキの異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	チャージ警告灯 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。
	オイルプレッシャー警告灯 (警告ブザー) エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。
 (赤色点滅 または点灯)	高水温警告灯 エンジン冷却水温の異常 (水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。→ P. 483) → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 (点滅)	CVT 警告灯 CVT 電子制御システムの異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	ABS 警告灯 ABS の異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 (点滅)	オートブレーキホールド作動表示灯 オートブレーキホールド機能の異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 (赤色)	ステアリング制御警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
※2  (黄色)	ステアリング制御警告灯（警告ブザー） 電圧不足・エレクトリックパワーステアリングのオーバーヒート → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作をひかえてください。約 10 分経過すると通常の重さにもどります。
 (黄色)	ADB 警告灯 ADB の異常 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 (点滅)  (点滅) 	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 マスターウォーニング スマートアシストの一部機能の異常 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 (点灯)  (点灯) 	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 スマートアシストの機能停止 → 表示された各機能停止コードごとに対処してください。 (→ P. 461)

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (黄色)	ACC 警告灯 ・全車速追従機能付 ACC の異常 ・全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 (点灯)	VSC (VDC) 作動表示灯 ・ブレーキアシストの異常 ・VSC (VDC) システムの異常 ・TRC システムの異常 (VSC (VDC)・TRC 作動時は点滅します。→ P. 326) ・ヒルホールドシステムの異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 (点滅)	アイドリングストップキャンセル表示灯 ・アイドリングストップシステムの異常 ・スターターの交換時期 (アイドリングストップ非作動時は点灯します→ P. 249) → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
※3  (点滅→消灯)	アイドリングストップキャンセル表示灯 バッテリーの交換時期 (アイドリングストップ非作動時は点灯します → P. 299) → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	LED ヘッドランプオートレベライザー警告灯 自動光軸調整システムの異常 → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
 (点灯)	キーレスアクセス警告灯 キーレスアクセスの異常 (キーレスアクセス警告灯が点滅したときは→ P. 442) → ただちに SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	燃料残量警告灯 燃料の残量が 2WD 車は 5.4L 以下、4WD は 6.6L 以下になった → 燃料を給油する
 (点滅)	運転席シートベルト警告灯 (警告ブザー ※4) 運転席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
 (点滅)	助手席シートベルト警告灯 ※5 (警告ブザー ※4) 助手席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	後席シートベルト警告灯 ※6 (警告ブザー ※7) 後席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
 (点滅)	パーキングブレーキ表示灯 ・ パーキングブレーキのオーバーヒート → しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。パーキングブレーキの温度が下がると使用できるようになります。 ・ パーキングブレーキの作動が停止した → パーキングブレーキを解除しようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してください パーキングブレーキをかけようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけてください

- ※¹ ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。
- ※² ステアリング制御警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合は SUBARU 販売店で点検を受けてください。
- ※³ アイドリングストップキャンセル表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。
- ※⁴ 運転席・助手席シートベルト警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトが締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトが締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。
- ※⁵ 助手席シートベルト警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。
- ※⁶ 後席シートベルト警告灯：
後席シートベルトが非装着の状態で、プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき、もしくは後席シートベルトをはずすと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または走行後約 30 秒経過すると消灯します。
また、走行後に後席シートベルトをはずした状態でスライドドアを開閉すると点灯します。
- ※⁷ 後席シートベルト警告ブザー：
車速が約 5km/h 以上で乗員が後席シートベルトをはずすと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 5km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
後席シートベルトを着用する、もしくはスライドドアを開閉すると、ブザーが停止します。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーレスアクセス警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
—	 (高速点滅)	キーレスアクセス警告灯 アクセスキーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした → アクセスキーを携帯する ※ ¹
5 回	 (高速点滅)	キーレスアクセス警告灯 プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、アクセスキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた → アクセスキーを携帯して乗車する
3 回	 (点滅)	キーレスアクセス警告灯 アクセスキーの電池切れが近いときにプッシュエンジンスイッチを“OFF”にした → 新しい電池に交換する ※ ² (→ P. 405)

※¹ アクセスキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 405)

※² 電池切れが近い状態を継続すると、プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも点滅します。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、アイドリングストップ表示灯が消灯するのを確認してください。

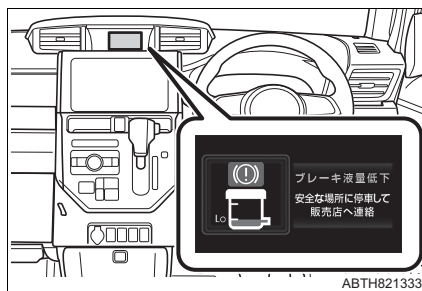
警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	アイドリングストップ表示灯 アイドリングストップによるエンジン停止中に運転席ドアを開けた → 運転席ドアを閉める
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	アイドリングストップ表示灯 アイドリングストップによるエンジン停止中に運転席シートベルトをはずした → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	アイドリングストップ表示灯 アイドリングストップによるエンジン停止中にボンネットを開けた → ボンネットを閉めた後、シフトレバーを P にして、プッシュエンジンスイッチでエンジンを始動する

⚠ 警告**■ ステアリング制御警告灯が点灯したとき**

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

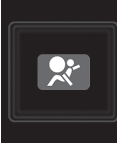
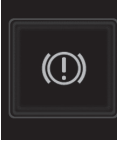
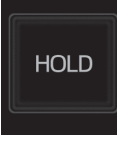


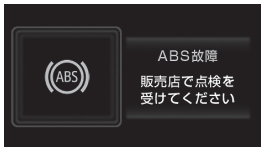
処置後に再度メッセージが表示されたときは、SUBARU 販売店へご連絡ください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  (赤色)	ブレーキ液の不足 車速が約 5km/h をこえたときには警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
  (赤色)	ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 充電システム故障 安全な場所に停車して 販売店へ連絡 	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。
 エンジン油圧低下 安全な場所に停車して 販売店へ連絡 	エンジンオイル圧力の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。
 エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 販売店へ連絡  (赤色)	エンジン冷却水高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へ連絡してください。
 エンジンシステム異常 販売店で点検を 受けてください 	エンジン電子制御システムの異常 電子制御スロットルの異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
 CVTシステム異常 販売店で点検を 受けてください  (点滅)	CVT 電子制御システムの異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 SRSエアバッグ故障 販売店で点検を受けてください 	SRS エアバッグシステムの異常 プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
 パーキングブレーキ 作動できません  (黄色)  (点灯または点滅)	パーキングブレーキ異常のため、作動不可 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
 パーキングブレーキ故障 販売店で点検を受けてください  (黄色)	パーキングブレーキの異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
 ブレーキホールド故障 ブレーキを踏んでください  (点滅)	オートブレーキホールド機能の異常 → ブレーキペダルを踏んで停車し、ただちにSUBARU 販売店で点検を受けてください。
 ブレーキホールド故障 販売店で点検を受けてください  (点滅)	オートブレーキホールド機能の異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	ABS の異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
  （赤色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
  （黄色）	電圧不足・エレクトリックパワーステアリングのオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作をひかえてください。約 10 分経過すると通常の重さにもどります。
 	キーレスアクセスの異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
 	自動光軸調整システムの異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  (黄色)	ADB の異常 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
  (点滅)  (点滅) 	スマートアシストの異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
  (黄色)	全車速追従機能付 ACC の異常 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
  (黄色)	全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常 → ブレーキペダルを踏んで停車し、SUBARU 販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	コーナーセンサーの異常 警告ブザーが鳴ります。 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	コーナーセンサー機能低下 警告ブザーが鳴ります。 → 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。
 	ブレーキアシストの異常 VSC (VDC) システムの異常 TRC システムの異常 ヒルホールドシステムの異常 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
  (点滅)	アイドリングストップシステムの異常 スターターの交換時期 バッテリーの交換時期 バッテリーの交換時期の場合は、数秒間表示されます。 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	ブレーキオーバーライドシステムの異常 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。
	ドライブスタートコントロールの異常 → SUBARU 販売店で点検を受けてください。

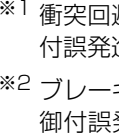
警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ブレーキとアクセルが 両方踏まれています	ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルから足を離す。
 アクセルを戻してください	ドライブスタートコントロールの作動時 → ただちにアクセルペダルから足を離す
 車両通信システム異常 販売店で点検を 受けてください 	車両通信システムの異常 → ただちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
 開いています	いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉ま ていない 開いているドアまたはボンネットが表示されま す。 各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない 状態のまま、車速が約 5 km/h（スライドドアは 約 3km/h）をこえたときにはブザーが鳴ります。 → 全ドアまたはボンネットを閉める
 給油してください 	燃料の残量が 2WD 車は 5.4L 以下、4WD は 6.6L 以下になった → 燃料を補給する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 シートベルトを装着してください  PASSENGER  	シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 運転席、助手席は車速が約 20km/h をこえたときに表示されます。 後席は車速が約 20km/h をこえてシートベルトをはずしたときに表示されます。 → シートベルトを着用する
 パーキングブレーキ高温 現在使用できません  (点滅)	パーキングブレーキのオーバーヒート → しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。パーキングブレーキの温度が下がると使用できるようになります。
 パーキングブレーキがロックされています	パーキングブレーキが解除されていない状態で走行した 規定の車速を超えたときに警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除する
 ドアが開いているためパーキングブレーキ自動解除できません	運転席のドアが開いている状態でパーキングブレーキのオートリリース (→ P. 205) をしようとした → 運転席のドアを閉めてから操作する
 シートベルト未装着のためパーキングブレーキ自動解除できません	運転席シートベルトを締めないでパーキングブレーキのオートリリース (→ P. 205) をしようとした → 運転席シートベルトを締めてから操作する
 ブレーキを踏みながらスイッチを操作してください	ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキを解除しようとした → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 パーキングブレーキが途中で停止 再度操作してください (P) (点滅)	パーキングブレーキの作動が停止した → パーキングブレーキを解除しようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してください。 パーキングブレーキをかけようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけてください。
 急坂はブレーキホールドできません。ブレーキを離さないでください	急坂で停車した → ブレーキペダルを確実に踏んで停車し、周囲の安全を確認し、発進させる
 運転席のドアを開いている状態でオートブレーキホールドスイッチを操作した → 運転席のドアを閉めてからスイッチを操作する	
 シートベルトをしてスイッチを操作してください	運転席シートベルトを締めないでオートブレーキホールドスイッチを操作した → 運転席シートベルトを締めてからスイッチを操作する
 ブレーキを踏みながらスイッチを操作してください	ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを操作した → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する
 ブレーキホールドシステム高温 現在使用できません	オートブレーキホールド機能のオーバーヒート → しばらくオートブレーキホールド機能の使用を控えてください。ブレーキの温度が下がると使用できるようになります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ※1 	衝突警報機能（対車両・対歩行者）が作動 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のエンジン出力の抑制制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
	先行車発進お知らせ機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、車両を発進させる
 （点滅） 	車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内に戻す

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	ふらつき警報が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内で適切な運転をする
	全車速追従機能付 ACC の接近警報が作動 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキペダルを踏んで、適切な車間距離を確保してください。
	コーナースエンサー作動 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 → 周囲の安全を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 	VSC (VDC) が作動 → 特に慎重な運転をする
	車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → 車幅灯を消灯する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 タイヤが左を向いています	停車時、ハンドルが左、または右に操作されている → タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる
 タイヤが右を向いています	
 凍結注意	外気温が約 3℃以下になった → 路面凍結の可能性があるため、路面状況を確認し慎重な運転をする
 休憩しませんか？	走行してから約 1 時間 30 分経過した → 駐車し、休憩することをおすすめします。

※¹ 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ・2 次ブレーキ、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動したとき点灯します。

※² ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のエンジン出力制御、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のエンジン出力制御・ブレーキ制御が作動したとき点灯します。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示とは異なる場合があります。

■ 警告メッセージの表示について

プッシュエンジンスイッチが“ON”のときに ENTER スイッチを押すと、警告メッセージが非表示になります。

(非表示にしても、数秒後に再表示される警告メッセージがあります)

■ 「開いています」の警告メッセージが表示されたときは

バッテリーあがりを防ぐため、プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“OFF”でドアまたはボンネットを開けたまま約 10 分が経過すると、自動で非表示になります。

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

次のような場合は、車線・道路※を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 作動条件以外の車速で走行しているとき

- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります（→ P. 265）

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 「凍結注意」の警告メッセージについて

- 凍結注意の警告メッセージは目安です。必ず路面状況を確認してください。

- プッシュエンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温がすでに 3℃ 以下の場合、表示されません。

- 警告メッセージがいったん表示されると、外気温が 4℃ 以上にあがってから、3℃ 以下に下がらないと再び表示されません。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーレスアクセスの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告 ブザー (車内)	警告 ブザー (車外)	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—	 キーが見つかりません  (高速点滅)	アクセスキーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした → アクセスキーを携帯する ※1
5 回	3 回	 キーが見つかりません  (高速点滅)	プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、アクセスキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた ・警告ブザーが鳴ります。 → アクセスキーを携帯して乗車する
—	1 回	 車内にキーがあります	車内にアクセスキーを置いたまま、キーレスアクセスのロック／アンロックスイッチでドアを施錠しようとした → 車内からアクセスキーを取り出したあと、再度施錠する
—	1 回	 車内にキーがあります	タッチ&ゴーロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、アクセスキーを車内に戻した → 車内からアクセスキーを取り出したあと、再度タッチ&ゴーロック機能を使用する

警告 ブザー (車内)	警告 ブザー (車外)	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	1 回		プッシュエンジンスイッチが“OFF”のときに、車内にアクセスキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にし、ドアを開けて閉めた → アクセスキーを携帯して施錠する
—	1 回		プッシュエンジンスイッチが“OFF”のときに、車内にアクセスキーを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内からアクセスキーを取り出したあと、再度施錠する
—	—		アクセスキーを携帯していない状態で2回エンジンをかけようとした → アクセスキーを携帯する ※1
—	—		自動でプッシュエンジンスイッチが“OFF”になった ・プッシュエンジンスイッチが“ACC”のときは1時間以上、“ON”のときは20分以上経過すると表示されます。 → 次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持しバッテリーを充電する

警告 ブザー (車内)	警告 ブザー (車外)	警告メッセージ	警告内容・対処方法
3 回	—		アクセスキーの電池切れが近いときにプッシュエンジンスイッチを“OFF”にした※²・警告ブザーが鳴ります。 → 新しい電池に交換する (→ P. 405)
—	—		シフトレバーがP以外の状態でプッシュエンジンスイッチを“OFF”にしようとした → シフトレバーをPにする
—	1 回		プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、キーレスアクセスのロック/アンロックスイッチでドアを施錠しようとした → プッシュエンジンスイッチをOFFにして施錠する

※¹ アクセスキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 405)

※² 電池切れが近い状態を継続すると、プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも点滅します。

知識

■ 警告メッセージについて

→ P. 456

■ 警告メッセージの表示について

→ P. 456

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、アイドリングストップの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	 	アイドリングストップによるエンジン停止中に運転席シートベルトをはずした ・ 警告ブザーが鳴ります。 → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	 	アイドリングストップによるエンジン停止中に運転席ドアを開けた ・ 警告ブザーが鳴ります。 → 運転席ドアを閉める

知識

■ 警告メッセージについて

→ P. 456

■ 警告メッセージの表示について

→ P. 456

■ 警告ブザーについて

→ P. 459

「スマアシ停止」が表示されたときは

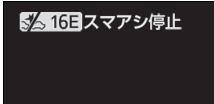
スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。

また、機能停止のメッセージを表示することができます。(→ P. 79)

機能停止コード一覧

機能停止コード	メッセージ	警告内容・対処方法
 2E スマアシ停止	 プレーキシステム高温 ACCは使用できません	ブレーキパッドが高温になった → 原因状態が解消され、再度ブッシュエンジンスイッチを“ON”にすると復帰
 5E スマアシ停止	 ソナー汚れ スマートアシストの一部機能を停止します	雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰
 6E スマアシ停止	 悪天候 スマートアシストを停止します	フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰
 10E スマアシ停止	 ACC一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください	ACCが視界不良により作動条件を満たさなくなった → 原因状態が解消されると復帰

機能停止コード	メッセージ	警告内容・対処方法
 11E スマアシ停止	 スマアシ一部機能停止 ガラスの汚れや曇りを 取ってください  ACC一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない → 原因状態が解消されると復帰
 12E スマアシ停止	 カメラ高温 スマートアシストを 停止します  カメラ高温 ACCは使用できません	ステレオカメラ（車両前側）内 が高温になった → 原因状態が解消されると復帰
 14E スマアシ停止	 初期学習中 スマートアシストを 停止します  初期学習中 ACCは使用できません	スマートアシスト初期学習中 → しばらく走行すると復帰
 15E スマアシ停止	 ソナー汚れ スマートアシストを 停止します	雨、雪、氷、汚れなどがリヤソ ナー部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が 解消されると復帰

機能停止コード	メッセージ	警告内容・対処方法
		フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰

知識

■ 機能停止コードについて

- 処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。
通常の走行に支障はありませんが、SUBARU 販売店で点検を受けてください。
- 「5E」「6E」「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「5E」「6E」はシフトレバーがP・R・N以外のときに表示します。
- 「10E」「11E」はシフトレバーがR以外のときに表示します。
- 「15E」「16E」はシフトレバーがRのときに表示します。
- 「2E」「5E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- 「5E」が表示されていても、スマートアシスト OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が表示されないことがあります。
- 「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯しないことがあります。
- シフトレバーがD・S・Bのときは、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「6E」、「スマアシ停止」、警告メッセージが表示されないことがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク修理キットでは修理できない場合があります。(→ P. 464)

タイヤパンク修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、SUBARU 販売店にご相談ください。タイヤパンク修理キットによる修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

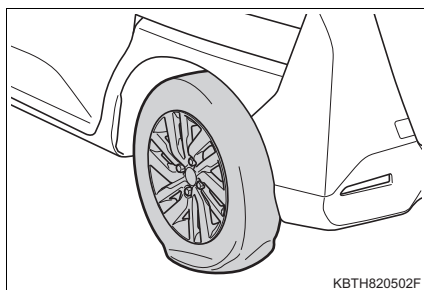
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅表示灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。



KBTH820502F

- ・ パンク修理剤がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

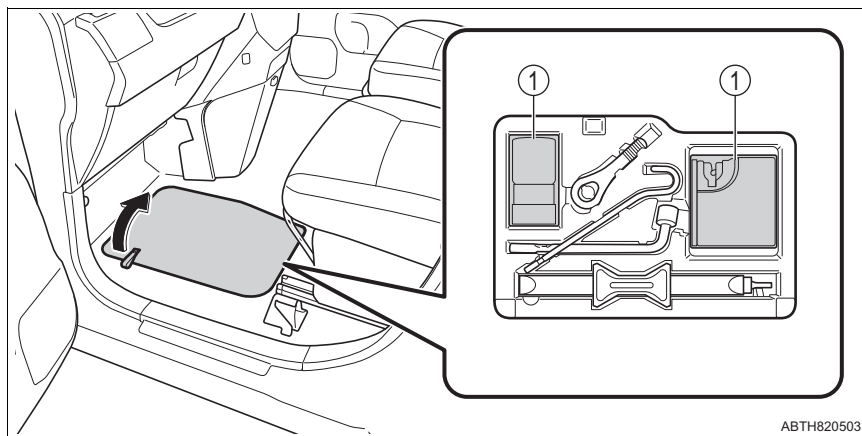
 知識

■ タイヤパンク修理キットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク修理キットでは応急修理できません。SUBARU 販売店にご連絡ください。

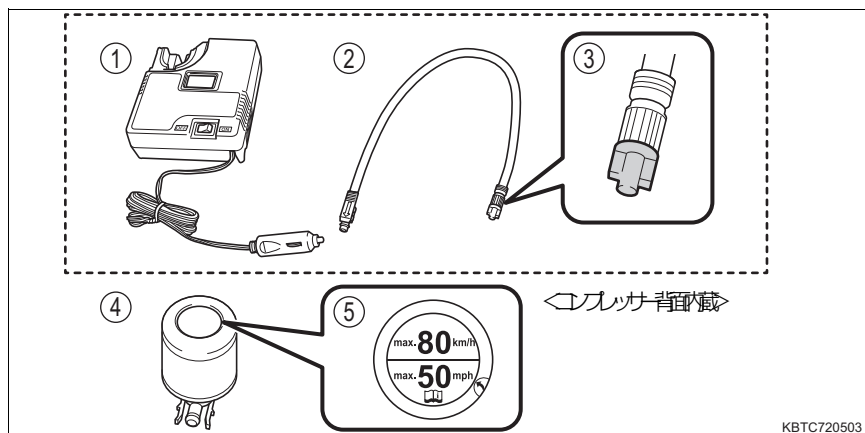
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- パンク修理剤の有効期限が切れているとき

■ タイヤパンク修理キットの搭載位置



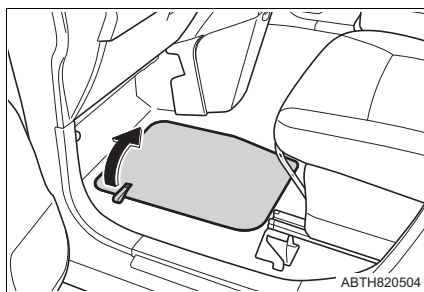
① タイヤパンク修理キット

タイヤパンク修理キットの内容／各部の名称

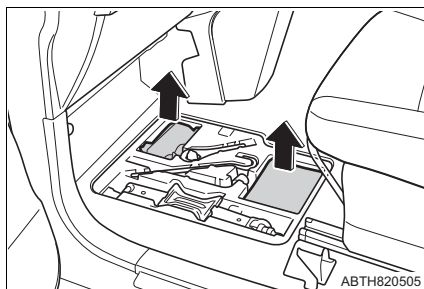


タイヤパンク修理キットの取り出し方

- 1 フロアボードを取りはずす

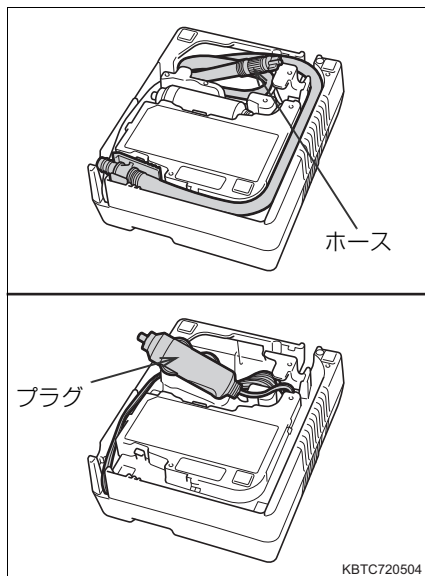


- 2 タイヤパンク修理キットを取り出す



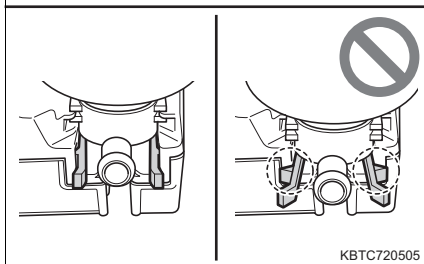
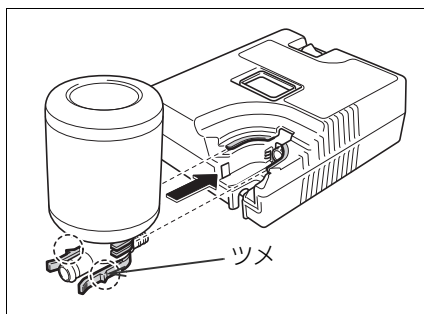
応急修理するとき**1** パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
(新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません)

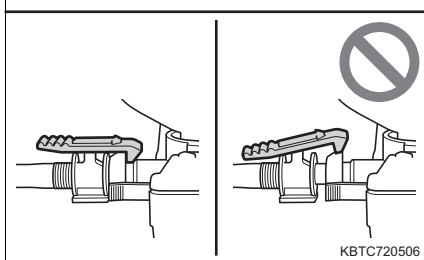
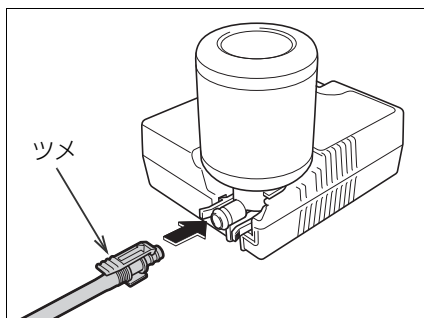
2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す**3** パンク修理剤ボトルをよく振る

パンク修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

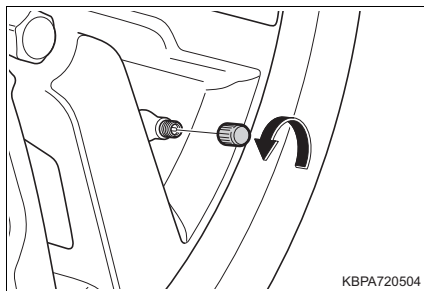
- 4 コンプレッサーにパンク修理剤ボトルを強く押し込み固定する
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



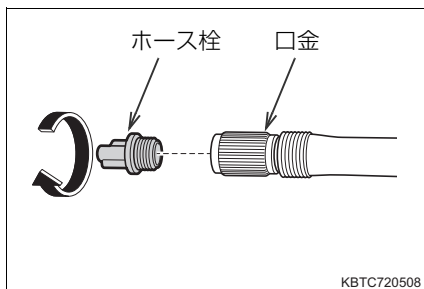
- 5 パンク修理剤ボトルにホースを差し込む
ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



- 6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す

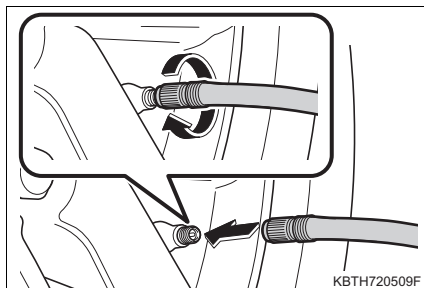


- 7 ホースの口金からホース栓を取り外す

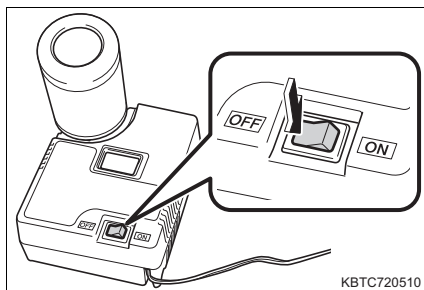


- 8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホースの口金を回して最後までしっかりねじ込みます。

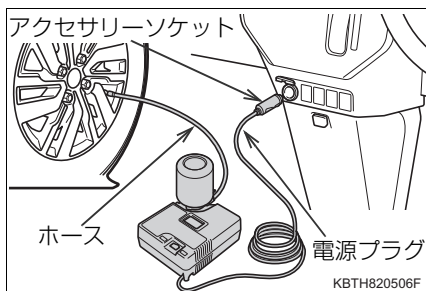


- 9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する

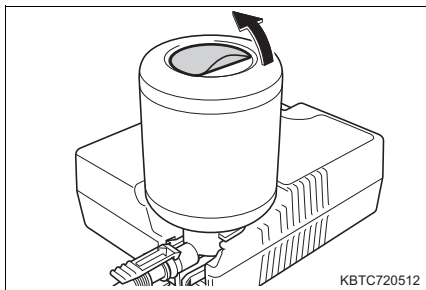


- 10** コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリースOCKETに差し込む

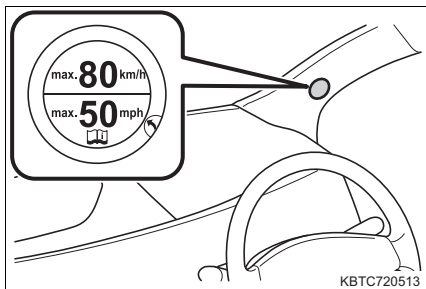
手順**9**までの作業を終えてから、アクセサリースOCKETに差し込んでください。



- 11** パンク修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



- 12** 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



- 13** タイヤの指定空気圧を確認する

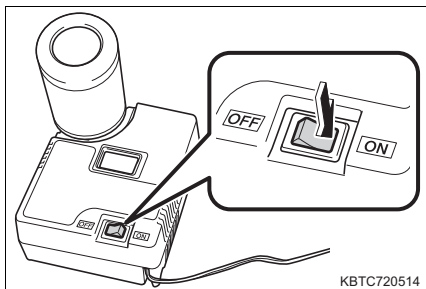
タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

- 14** エンジンを開始する

- 15** コンプレッサーの電源を“ON”にし、パンク修理剤と空気を充填する

5 分以内に昇圧し始めない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で2～3回以上回し、パンク修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。

(ジャッキの使い方→ P. 394)



- 16** 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

- ① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくはパンク修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300～400kPa まで上がります。
- ② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になります。
- ③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク修理キットで修理することができません。SUBARU 販売店、または SUBARU 安心ほっとラインなどにご連絡ください。SUBARU 安心ほっとラインの連絡先は、巻末に記載されています。

- ・ パンク修理剤が 5 分以内に充填できない
- ・ 25 分以内に指定空気圧まで上がらない

- 17** 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

- 18** アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

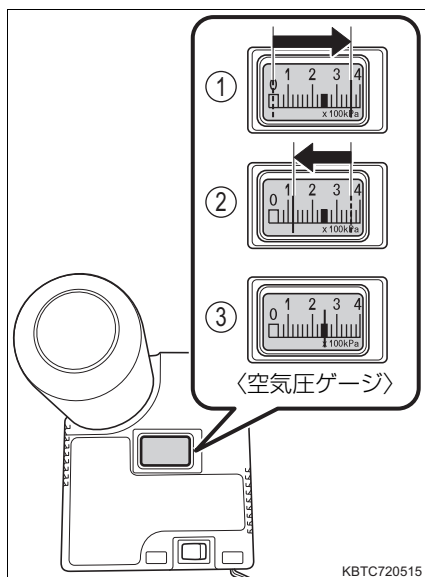
ホースの口金を取り外すときにパンク修理剤が漏れることがあります。

- 19** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 20** ホースの口金にホース栓を取り付ける

- 21** 一旦パンク修理剤ボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、カーゴルームに収納する

コンプレッサーに取り付けたボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残ったパンク修理剤がこぼれるおそれがあります。



- 22** 空気が抜けるのを防ぐため、ただちに走行を開始する
急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してください。
- 23** 約 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にする
- 24** タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する
- ・コンプレッサーを車両に接続する
 - ・エンジンを始動する
 - ・コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する
- 25** 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する
- ▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合
手順**6**～**23**を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。
 - ▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合
タイヤパンク修理キットによる修理はできません。走行を中止し、SUBARU 販売店、または SUBARU 安心ほっとラインなどにご連絡ください。SUBARU 安心ほっとラインの連絡先は、巻末に記載されています。
- 26** 異常がなければ、ただちに SUBARU 販売店まで走行する
- ・急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
 - ・100km 以上の距離を走行しないでください。

知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ タイヤパンク修理キットの点検について

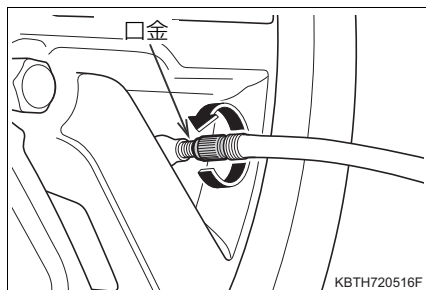
- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、SUBARU 販売店にご相談ください。
- コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに差し込み、プッシュエンジンスイッチを“ACC”にして、作動の確認をしてください。

■ タイヤパンク修理キットについて

- タイヤパンク修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク修理キットのパンク修理剤ボトルとホースは、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、SUBARU 販売店にご相談ください。
- 外気温度が -30℃～60℃のときに使用できます。
- タイヤパンク修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボディに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しいパンク修理剤ボトルは、SUBARU 販売店でご購入ください。

■ 空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠ 警告

■ タイヤパンク修理キットについて

- タイヤパンク修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などにタイヤパンク修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤパンク修理キットはお客様のお車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告**■パンク修理剤について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- コンプレッサーの使用中に、作動が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30分以上放置してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウインドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
 - ・空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、タイヤパンク修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ タイヤパンク修理キットについて

- タイヤパンク修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- タイヤパンク修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク修理キットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- タイヤパンク修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 193）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 193）に従って、エンジンをかけてください。
- イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）に異常がある可能性があります。（→ P. 66）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 479）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 477）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 479）
処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、SUBARU 販売店にご連絡ください。

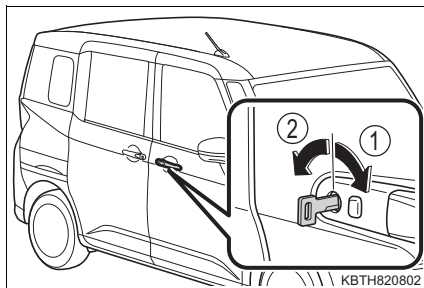
アクセスキーが正常に働かないときは

アクセスキーと車両間の通信がさまたげられたり(→P. 117)、アクセスキーの電池が切れたときは、キーレスアクセスと電波式リモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー(→P. 109)を使って次の操作ができます。

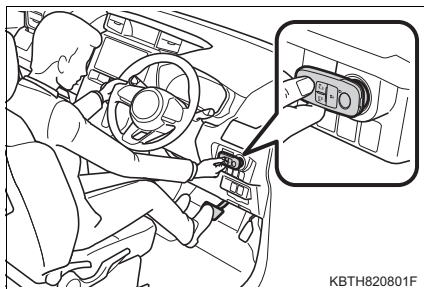
- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



エンジン始動の方法

- ① シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- ② アクセスキーを図のようにプッシュエンジンスイッチに接触させる

プッシュエンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。



- ③ プッシュエンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、SUBARU 販売店にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にしてプッシュエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 405)

■ プッシュエンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順③で、ブレーキペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 194)

■ アクセスキーが正常に働かない場合

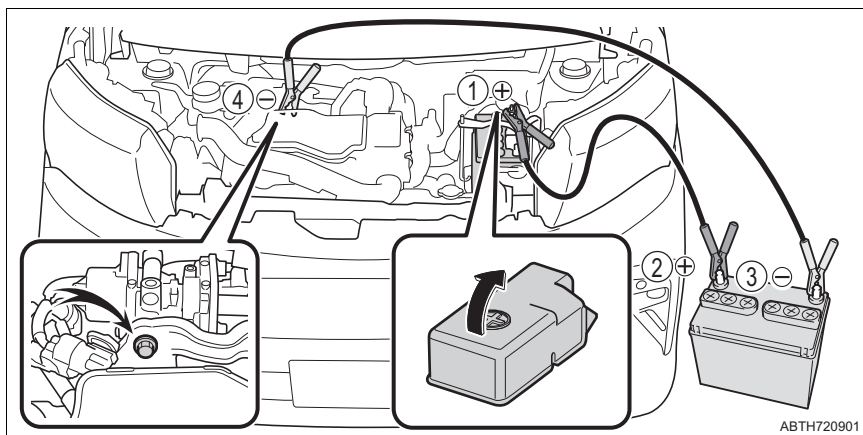
アクセスキーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は、解除してください (→ P. 117)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 バッテリーの + 端子のカバーを開ける
- 2 ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車（電源側の車）のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ



- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、プッシュエンジンスイッチを一旦“ON”にしてから自車のエンジンをかける
- 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す
- 6 + 端子のカバーを閉める

エンジンがかかっても、早めに SUBARU 販売店で点検を受けてください。

 知識**■ バッテリーあがりのときの始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときは SUBARU 販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ バッテリーあがりのときや取りはずし時など

- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にプッシュエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがりのとき、バッテリー脱着後は、バッテリーを外す前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、プッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

■ お車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、アイドリングストップ専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくは SUBARU 販売店にご相談ください。

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリーの端子から直接電装品の電源を取らないでください。アイドリングストップシステムによるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 437）が赤色に点滅または点灯した
- 「エンジン冷却水高温」の警告メッセージ（→ P. 445）が表示された
- エンジンの出力が低下した（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

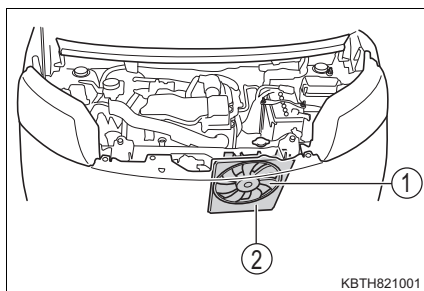
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

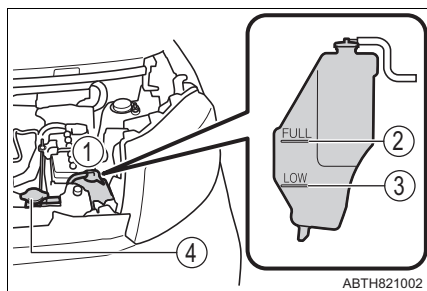
- ① ファン
- ② ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちに SUBARU 販売店に連絡してください。

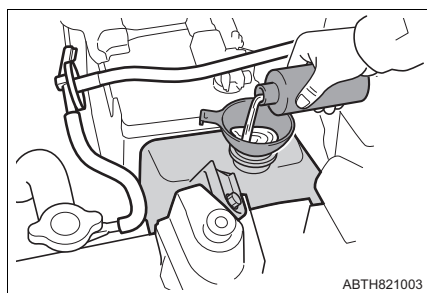


- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- | | |
|--------------|--------------|
| ① リザーバータンク | ③ “LOW”（下限） |
| ② “FULL”（上限） | ④ ラジエーターキャップ |



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、SUBARU 販売店に連絡する
- ファンが作動している場合：
最寄りの SUBARU 販売店で点検を受ける

 警告**■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 注意**■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

TRC・VSC (VDC) の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC (VDC) を停止してください。(→ P. 326, 327)

警告

■ 脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
お車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報

9

9-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ
（指定燃料・
オイル量など）488

9-2. カスタマイズ機能
カスタマイズ機能一覧493

9-3. 初期設定
初期設定が必要な項目500

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社指定オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）	
無鉛レギュラーガソリン	FF（前輪駆動）	4WD（4 輪駆動）
	36	38

エンジンオイル

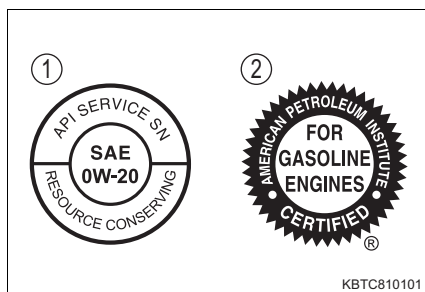
指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨：SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-20 SQ 適合：SUBARU MOTOR OIL SQ 5W-30	2.9	3.1

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

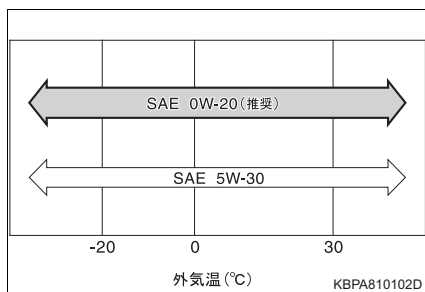
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
 粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
アミックスロングライフクーラント (高防錆タイプ) 凍結保証温度 濃度 30% - 12°C 濃度 50% - 35°C	1KR-FE	4.4

トランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値※ ¹)
アミックス CVT フルード-DFE※ ² または DC	1KR-FE	5.8

※¹ 容量は参考値です。交換が必要な際は SUBARU 販売店にご相談ください。

※² 新車時に充填されている、省燃費性に優れるオイルです。

トランスファー (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル (API GL-5 SAE 80W-90)	0.57

リヤディファレンシャル (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル (API GL-5 SAE 80W-90)	0.83

ファンベルト

自動調整式のため点検不要です。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード (DOT3 相当)

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ~ 3
踏み込んだときの床板とのすき間※	80 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

バッテリー

形式
N-55

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)
2.0

タイヤ・ホイール※

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	165/65R14 79S	14 × 5J	260 (2.6)	260 (2.6)

※ 標準装着タイヤ、装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディに貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	リヤ方向指示灯兼非常点滅表示灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントマップランプ	5
	ルームランプ	8
	デッキサイドランプ右側（スイッチ付）	5
	デッキサイドランプ左側	5
	カーゴルームランプ	5
	後席ステップランプ（右側）	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
M900F	1KR-FE (1.0L ガソリン)	FF（前輪駆動）
M910F	1KR-FE (1.0L ガソリン)	4WD（4 輪駆動）

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせて SUBARU 販売店で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくは SUBARU 販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ キーレスアクセス、電波式リモコンドアロック共通 (→ P. 112, P. 123)

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（非常点滅表示灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
作動の合図（音量）	レベル 5	OFF
		レベル 1 ～ 7

■ キーレスアクセス (→ P. 112)

機能の内容	初期設定	変更後
キーレスアクセスの作動	あり	なし
アクセスキーの室外自動検知機能の作動	あり	なし

■ パワースライドドア (→ P. 132)

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図 (ブザー)	標準	大きい
		小さい
アクセスキーのボタンでスライドドアを開閉する	長押し	OFF
		短押し
インストルメントパネル内のパワースライドドアスイッチでスライドドアを開閉する	長押し	短押し
閉作動中のブザー	あり	なし
ワンタッチスイッチの反応時間	0.1 秒	OFF
		0.2 秒
		0.5 秒
予約オープン待ち時間	1.5 秒	0.5 秒
		2.5 秒
予約オープン有効時間	3 時間	18 時間

■ ドアロック (→ P. 126)

機能の内容	初期設定	変更後
アクセスキーを携帯して解錠範囲に入ったときの全ドア解錠 (ウェルカムドアロック解除)	なし	あり
ウェルカムドアロック解除が作動してから 15 秒後に自動再ロック	あり	なし

■ リヤゲート (→ P. 150)

機能の内容	初期設定	変更後
リヤゲートの右側スイッチ操作による作動	施錠のみ	施錠・解錠

■ 衝突警報機能 (→ P. 243)

機能の内容	初期設定	変更後
衝突警報機能の警報タイミング	標準	早い
		遅い

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能 (→ P. 265)

機能の内容	初期設定	変更後
車線逸脱警報機能の警報タイミング	標準	早い

■ ふらつき警報 (→ P. 270)

機能の内容	初期設定	変更後
ふらつき警報の作動	あり	なし

■ 先行車発進お知らせ機能 (→ P. 273)

機能の内容	初期設定	変更後
先行車発進お知らせ機能の作動	あり	なし
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	遅い	標準
		早い

■ 標識認識機能 (進入禁止／最高速度／一時停止) (→ P. 276)

機能の内容	初期設定	変更後
標識認識機能 (進入禁止／最高速度／一時停止) の作動	あり	なし
標識認識機能 (進入禁止) 作動のブザー	なし	あり

■ 全車速追従機能付 ACC (→ P. 280)

機能の内容	初期設定	変更後
全車速追従機能付 ACC の先行車認識ブザー	あり	なし

■ オートエアコン (→ P. 340)

機能の内容	初期設定	変更後
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない
オートエアコン使用時のアイドリングストップシステムによるアイドリングストップの設定	標準	空調※

※ エアコンの作動が優先され、アイドリングストップシステムによるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。(→ P. 298)

■ コーナーセンサー (→ P. 307)

機能の内容	初期設定	変更後
コーナーセンサーのブザー(音量)	レベル 2	レベル 1
		レベル 3

■ ランプ (→ P. 211)

機能の内容	初期設定	変更後
ランプ消し忘れ防止機能	プッシュエンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動
アクセスキーで全ドア解錠時に車幅灯、番号灯、尾灯が自動点灯(ウェルカムランプ設定(テールランプ連動))	しない	する

■ ヘッドランプ点灯延長機能 (→ P. 211)

機能の内容	初期設定	変更後
ヘッドランプが自動的にオフになるまでの経過時間	30 秒	60 秒
		90 秒
		120 秒

■ ADB (→ P. 215)

機能の内容	初期設定	変更後
ADB の作動	あり	なし

■ メーター (→ P. 103)

機能の内容	初期設定	変更後
メーター照度が夜照度になる感度	0	- 2 ~ 2

■ イルミネーション (→ P. 349)

機能の内容	初期設定	変更後
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯する時間	15 秒	OFF
		7.5 秒
		30 秒
室内灯が自動で消灯する	する	しない
プッシュエンジンスイッチ "OFF" 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし
アクセスキーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯 (ウェルカムランプ設定 (ルームランプ連動))	する	しない

■ ドアミラー (→ P. 172)

機能の内容	初期設定	変更後
ドアミラースイッチの操作によるドアミラーの格納・復帰	プッシュエンジンスイッチが“ACC”または“ON”で格納・復帰できる	プッシュエンジンスイッチが“ON”で格納・復帰できる
オート作動によるドアミラーの復帰	キーレスアクセスによるドアの解錠と連動して復帰する	プッシュエンジンスイッチの操作と連動して復帰する
プッシュエンジンスイッチの操作によるドアミラーの復帰※	プッシュエンジンスイッチを“ACC”または“ON”にすると復帰する	プッシュエンジンスイッチを“ON”にすると復帰する

※ オート作動によるドアミラーの復帰の設定をプッシュエンジンスイッチの操作と連動に変更した場合

■ フロントワイパー (→ P. 221)

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応間欠作動機能	する	しない

■ リヤワイパー&ウォッシャー (→ P. 223)

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	する	しない
間欠作動時間の調整	標準	早い
		遅い
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない
リヤウォッシャー連動機能	しない	する

■ 方向指示レバー (→ P. 202)

機能の内容	初期設定	変更後
レバーを途中まで動かしたときの3回点滅する機能	する	しない
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の3回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル 2	レベル 1 ~ 4
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル 3	レベル 1 ~ 9

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア	・ バッテリーの充電・交換後の再接続 ・ ヒューズ交換時	P. 137
パワーウィンドウ		P. 178

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）..... 502

お車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....506

アルファベット順さくいん.....507

五十音順さくいん.....508

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、SUBARU 販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、SUBARU販売店でSUBARU指定の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 110）
- キーまたはアクセスキーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちに SUBARU 販売店にご相談ください。（→ P. 111）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 405）
- プッシュエンジンスイッチが“ON”になっていませんか？
施錠するときはプッシュエンジンスイッチを“OFF”にしてください。（→ P. 194）
- アクセスキーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときはアクセスキーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 117）



スライドドアが開かない

- チャイルドブルーフがかかっていますか？
チャイルドブルーフがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、ブルーフを解除してください。（→ P. 132）



スライドドアが全開にならない

- 中間ストッパーがかかっていませんか？
フューエルリッドが開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。フューエルリッドを閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。（→ P. 135）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらプッシュエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 193）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 193）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 114）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 477）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 479）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- プッシュエンジンスイッチは “ON” になっていますか？
プッシュエンジンスイッチが “ON” でブレーキを踏んでも解除できないときは（→ P. 200）を参照してください。



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 176）



プッシュエンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 “ACC” または “ON”（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 195）

**警告音が鳴りだした**

- 警告音が鳴りだしたときは、「お車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 506）をご確認ください。

**警告灯や警告メッセージが表示されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 437, 444 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- お車を安全な場所に停め、タイヤパンク修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 464）

**立ち往生した**

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 486）

お車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、お車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

お車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 214
パワースライドドアで自動開閉するとき	パワースライドドアメインスイッチが ON のときに、他のパワースライドドアの作動条件を満たしていない状態でドアハンドルを引いた	P. 136
	パワースライドドアメインスイッチが OFF のときにパワースライドドアスイッチを押した	P. 136
	全開するときにドアハンドルの操作が不十分だった	P. 137
パワースライドドアで自動開閉しているとき	パワースライドドアメインスイッチを OFF にした	P. 136
	給油扉を開けた	P. 136
	車速が約 3km/h 以上になった	P. 136
	挟み込み防止機能が作動した	P. 137

走行しているとき

状況	原因	詳細
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 186

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

4WD

(4 ホイールドライブ)P. 325

A/C

(エアコン)P. 340

ABS

(アンチロックブレーキシステム)P. 325

ACC

(アクセサリー)P. 194

(アダプティブクルーズコントロール)P. 280

ADB

(アダプティブドライビングビーム)P. 215

CRS

(チャイルドレストRAINTシステム)P. 61

ECO

(エコノミー／エコロジー)P. 182

EDR

(イベントデータレコーダー)P. 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング)P. 325

F-FLAT

(フルフラット)P. 164

HDMI

(ハイディフィニションマルチメディアインターフェイス)P. 370

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション)P. 489

ISOFIX

(アイソフィックス／イソフィックス)P. 44

SRS

(サブリメンタルレストRAINTシステム)P. 35

TRC

(トラクションコントロール)P. 325

USB

(ユニバーサルシリアルバス)P. 368

VSC (VDC)

(ビークルスタビリティコントロール／
ビークルダイナミクスコントロール)P. 325

五十音順さくいん

あ

アームレスト	363
アイドリングストップ	298
アイドリング	
ストップ時間	79
アイドリングストップ	
キャンセルスイッチ	299
アイドリングストップ	
キャンセル表示灯	299
アイドリングストップ	
システム	298
アイドリングストップ	
表示灯	298
アウターミラー（ドアミラー） ..	172
オート作動	173
調整	172
アクセサリソケット	367
アクセスキー	108
作動範囲	114
正常に働かないとき	477
電池が切れた	477
電池交換	405
アシストグリップ	364
アンチロックブレーキシステム	
（ABS）	325
アンテナ	337

い

イグニッション（エンジン）	
スイッチ	193
位置交換	
（タイヤローテーション）	387
イベントデータレコーダー	
（EDR）	8
イモビライザー	
（盗難防止用エンジン始動	
ロックシステム）	66

インジケーターランプ

（表示灯）	72
インナー（ルーム）ミラー	171

う

ウインカー（方向指示灯）	202
電球（バルブ）の交換	412
方向指示レバー	202
ワット数	492
ウインドウ	176
ウォッシャー	221, 223
パワーウインドウ	176
リヤウインドウ	
デフォッガー	342
ウインドウロックスイッチ	176
ウインドシールド	
デアイサー	342
ウェルカムオープン解除	131
ウェルカムドアロック解除	126
ウェルカムランプ設定	100
ウォーニングランプ（警告灯） ..	437
ウォッシャー	221, 223
液の補給	386
スイッチ	221, 223
タンク容量	491
冬の前の準備・点検	331
動けなくなったときは	
（スタック）	486
運転	180
環境に配慮した運転	182
寒冷時の運転	331
正しい運転姿勢	26
手順	180
運転席・助手席シートベルト	
締め忘れ警告灯	439

え

ADB (アダプティブ ドライビングビーム)	215
エアコン	
オートエアコン	340
ナノイー X	345
フィルターの交換	399
エアバッグ	35
SRS エアバッグ警告灯	438
作動条件	39
配置	35
HDMI 端子	370
エコドライブインジケーター	182
LED ライナー	211
電球 (バルブ) の交換	412
ライティングスイッチ	211
エンジン	
イグニッション	
スイッチ	193
エンジン回転計	
(タコメーター)	74
エンジンがかからない	476
エンジン警告灯	437
エンジンスイッチ	193
オーバーヒート	483
かけ方	193
ボンネット	381
エンジンイモビライザー	66
エンジンオイル	488
オイルプレッシャー	
(油圧) 警告表示	437
定期点検	385
冬の前の準備・点検	331
メンテナンスデータ	488
エンジンスイッチ	
操作方法	193
エンディング画面	83

お

オイル	
油脂類の容量と銘柄	488
応急修理セット	464
オートエアコン	340
オートブレーキホールド機能	208
オートヘッドランプ	
レベライザー	
警告灯	439
作動について	213
オーバーヒート	483
オープナー	
給油口	227
ボンネット	381
リヤゲート	150
オープニング画面	81
オープントレイ	358
お子さまを乗せるとき	43
ウインドウロックスイッチ	176
エアバッグに関する警告	36
お子さまのシートベルト着用 ...	32
お子さまを乗せるときの警告 ...	33
キーの電池に関する警告	407
シートベルトに関する警告	32
チャイルドシート	44
チャイルドシートの取り付け ...	57
チャイルドブルーフ	132
発炎筒の取り扱いに	
関する警告	425
バッテリーに関する警告	481
パワーウインドウに	
関する警告	178
リヤゲートに関する警告	153
オドメーター	78
機能	78
表示の切りかえボタン	77

か

カーゴルーム	
カーゴボード	359
カーテンエアバッグ	35
カーペット	377
洗淨	377
フロアマットの取り付け方	24
外気温度表示	80
外装の電球（バルブ）	412
交換要領	412
ワット数	492
格納式サンシェード	366
カスタマイズ機能	493
ガソリンスタンドでの情報	526
型式	492
カップホルダー	355
ガラスの曇り取り （リヤウインドゥ デフォッガー）	342
ガレージジャッキ	384
冠水路走行	190
寒冷時の運転	331

き

キー	108
アクセスキー	108
アクセスキーの作動範囲	114
イグニッション スイッチ	193
エンジンが始動できない	477
キーナンバープレート	108
キーの構成	108
キーの電池が切れた	405, 477
キーをなくした	110, 111
正常に働かない	477
施錠・解錠ができない	477
電池交換	405
電波式リモコン	109
プッシュエンジンスイッチ	193
メカニカルキー	109, 477
キーレスアクセス	112
アンテナの位置	113
エンジンスイッチ	193
エンジンの始動	193
カスタマイズ設定	493
警告ブザー	115, 442, 457
作動範囲	114
正常に働かないとき	477
電波がおよぼす 影響について	122
ドアの施錠・解錠	123
リヤゲートの解錠	150

給油	225
給油のしかた	225
メンテナンスデータ	488
給油口（燃料）	225
緊急時シートベルト固定機構	31
緊急時の対処	
アクセスキーが	
正常に働かない	477
アクセスキーの	
電池が切れた	405, 477
イベントデータレコーダー	8
エンジンがかからない	476
オーバーヒートした	483
キーの電池が切れた	405, 477
キーをなくした	110, 111
警告灯がついた	437
警告メッセージが	
表示された	444
けん引	429
故障したときは	422
車中泊が必要なときは	428
車両を緊急停止する	426
水没・冠水したときは	427
スタックした	486
発炎筒	424
バッテリーがあがった	479
パンクした	464
非常点滅表示灯	423
緊急ブレーキシグナル	326

く

空気圧（タイヤ）	491
空調（エアコン）	
オートエアコン	340
フィルターの交換	399
区間距離計	
（トリップメーター）	78
機能	78
切りかえボタン	77
曇り取り	
フロントウインドゥ	
ガラス	342
リヤウインドゥ	
デフォッガー	342
クラクション（ホーン）	170
クリアランスランプ（車幅灯）	211
スイッチ	211
クリップ	
フロアマット	24
グローブボックス	354

け

警音器（ホーン）.....	170
計器類（メーター）.....	74
TFT カラーマルチインフォ	
メーションディスプレイ	76
メーター	74
警告灯	69, 437
アイドリングストップ	
キャンセル表示灯	439
アンチロックブレーキ	
システム（ABS）	438
運転席シートベルト	
締め忘れ	439
SRS エアバッグ	438
LED ヘッドランプ	
オートレベライザー	439
ACC	439
ADB	438
エンジン	437
オイルプレッシャー	
（油圧）	437
キーレスアクセス	439
クルーズコントロール	
表示灯	418
高水温	437
後席シートベルト	
締め忘れ	440
CVT	437
車線逸脱警報 OFF 表示灯	438
助手席シートベルト	
締め忘れ	439
ステアリング制御	438
スマートアシスト OFF	
表示灯	438
チャージ（充電）	437
燃料残量	439
パーキングブレーキ	440
VSC（VDC）作動表示灯	439

プリテンショナー	438
ブレーキ	437
マスターウォーニング	438
警告ブザー	
アイドリング	
ストップ	304, 443
運転席・助手席シートベルト	
締め忘れ	439, 451
キーレス	
アクセス	115, 442, 457
後席シートベルト	
締め忘れ	440, 451
コーナースエンサー	307, 454
車線逸脱警報機能・	
路側逸脱警報機能	236, 453
衝突回避支援	
ブレーキ機能	235, 453
衝突警報機能	235, 453
ステアリング制御	438, 447
接近警報	290, 454
先行車発進	
お知らせ機能	237, 453
パーキングブレーキ	
未解除走行時	451
半ドア走行時	450
ブレーキ	437, 444
ブレーキ制御付誤発進抑制機能	
（前方・後方）	236, 453
ランプ消し忘れ	214, 454
リバース	201
警告メッセージ	444
化粧ミラー（バニティミラー）	362
けん引	429
けん引されるとき	429
フック	431

こ

交換	
エアコンフィルター	399
キーの電池	405
タイヤ	391
電球（バルブ）	412
ヒューズ	409
ワイパーゴム	401
工具（ツール）	391
後席シートベルト締め忘れ	
警告灯	440
航続可能距離	79
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	412
ワット数	492
コーナーセンサー	307
小物入れ	358
コンライト	
（自動点灯・消灯装置）	211

さ

サイドアンダーミラー	175
サイドエアバッグ	35
サイド方向指示灯	202
方向指示レバー	202
サイドミラー（ドアミラー）	172
操作	172
サブトランク	360
サンバイザー	362

し

シート	156, 157
シートアレンジ	162
シートの調整に	
関する警告	156, 158
シートヒーター	348
正しい運転姿勢	26
チャイルドシート	44
チャイルドシートの固定	57
調整	156, 157
手入れ	377
ヘッドレスト	160
シートアンダートレイ	355
シートバックテーブル	365
シートヒーター	348
シートベルト	28
おじさまの着用	32
緊急時シートベルト固定機構	31
シートベルト締め忘れ	
警告灯	439, 440
正しく着用するには	28
チャイルドシートの固定	57
着け方・はずし方	28, 29, 30
手入れ	377
妊娠中の方の着用	33
シートベルト締め忘れ	
警告灯	439, 440
シートベルトプリテンショナー	31
機能	31
プリテンショナー警告灯	438
CVT	
CVT	198
シフトレバーが	
シフトできない	200

室内灯（インテリアランプ）	349
カーゴルームランプ	351
後席ステップランプ	135
デッキサイドランプ左側	151
デッキサイドランプ右側 （スイッチ付）	351
フロントマップランプ	350
ルームランプ	350
ワット数	492
始動のしかた	193
シフトポジション	198
シフトレバー	198
CVT	198
シフトレバーが シフトできない	200
リバース警告ブザー	201
シフトロックシステム	200
車線逸脱警報 OFF 表示灯	233
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能	265
車線逸脱警報作動灯	236
車速 スピードメーター	74
車中泊が必要なときは	428
ジャッキ ガレージジャッキ	384
車載ジャッキ	391
タイヤ交換	391
ジャッキハンドル	391
車幅灯	211
ライティングスイッチ	211
車両カスタマイズ機能一覧	493
車両型式	492
車両仕様（スペック）	492
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	426
収納装備	353, 359
ジュニアシート	44

瞬間燃費	79
仕様（車両仕様）	492
衝突回避支援ブレーキ機能 （対車両・対歩行者）	243
衝突警報機能 （対車両・対歩行者）	243
初期設定	500
TFT カラーマルチ インフォメーション ディスプレイ	101
パワーウインドウ	178
パワースライドドア	137
助手席シートアンダートレイ	355
助手席シートベルト 締め忘れ警告灯	439
ショッピングフック	372

す

スイッチ

アイドリングストップ	
キャンセル	299
イグニッション	193
ウインドゥロック	176
ウインドシールド	
デアイサー	342
ウェルカムオープン予約	133
ウォッシャー	221, 223
オーディオ操作スイッチ	336
コーナーセンサー	307
シートヒーター	348
スマートアシスト OFF	
スイッチ	233
全車速追従機能付 ACC	280
ドアミラー	172
パワーウインドゥ	176
パワースライドドア	
スイッチ	131
パワースライドドア	
メインスイッチ	132
POWER モード切替	
スイッチ	199
非常点滅表示灯	
(ハザードランプ)	423
VSC (VDC) OFF	326
フォグランプ	220
プッシュエンジンスイッチ	193
フロントマップランプ	350
メーター操作スイッチ	77
ランプ	211
リヤウインドゥ	
デフォグガー	342
ワイパー	221, 223

スターター

エンジンの始動	193
スターターがまわらない	476

スタック	486
ステアリングスイッチ	
オーディオ操作スイッチ	336
メーター操作スイッチ	77
ステアリングホイール	
(ハンドル)	169
位置調整	169
ステアリング制御警告灯	438
ステレオカメラ	232
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	418
スノータイヤ (冬用タイヤ)	331
スピードメーター	74
スペック (車両仕様)	492
スマートアシスト OFF	
スイッチ	233
スマートアシスト OFF	
表示灯	233
スマートアシスト	
機能停止コード	461
スマートアシスト	
“故障” 表示	448
スマートアシスト作動灯	235
スマートアシスト	229
スマートアシスト	
“停止” 表示	461
スモールランプ (車幅灯)	211
ライティングスイッチ	211
スライドドア	129
イージークローザー	135
キーレスアクセス	130
電波式リモコン	129
ドアガラス	176
パワースライドドア	132
ロックレバー	129

せ

清掃	374, 377
アルミホイール	375
外装	374
シートベルト	377
内装	377
制動灯	
電球（バルブ）の交換	418
ワット数	492
積算距離計	
（オドメーター）	78
機能	78
表示の切りかえボタン	77
セキュリティ表示灯	66
接近警報	
（全車速追従機能付 ACC）	290
先行車発進お知らせ機能	273
洗車	374
全車速追従機能付 ACC	
（アダプティブクルーズ	
コントロール）	280
前照灯（ヘッドランプ）	211
ヘッドランプ	
点灯延長機能	213
LED ヘッドランプ	
オートレベライザー	
警告灯	439
ライティングスイッチ	211
ライトセンサー	213
ランプ消し忘れ警告ブザー	214
ランプ消し忘れ防止機能	213
センターダストボックス	354

そ

速度計	
（スピードメーター）	74
ソナー	232

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）	202
電球（バルブ）の交換	412
方向指示レバー	202
ワット数	492
タイヤ	387
空気圧	397, 491
交換	391
締め付けトルク	396
点検	387
パンク応急修理セット	464
パンクしたときは	464
冬用タイヤ	331
ホイールサイズ	491
ローテーション	
（位置交換）	387
タイヤが空まわりする	
（スタックした）	486
タイヤチェーン	331
タコメーター	74
タッチ & ゴーロック機能	
（パワースライドドア）	133

ち

チェーン (タイヤチェーン)	331
チェンジレバー (シフトレバー)	
CVT	198
シフトレバーが	
シフトできない	200
リバース警告ブザー	201
チャイルドシート	44
シートベルトでの固定	58
選択方法	44
ロアアンカレッジでの	
取り付け	61
チャイルドブルーフ	132
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	203
操作	203
未解除走行時	
警告ブザー	451

つ

ツール (工具)	391
----------------	-----

て

TFT カラーマルチ	
インフォメーション	
ディスプレイ	76
停止表示板収納スペース	361
ディスプレイ	76
トリップ	
インフォメーション	78
手入れ	374, 377
アルミホイール	375
外装	374
シートベルト	377
内装	377

テールランプ (尾灯)	211
電球 (バルブ) の交換	412
ライティングスイッチ	211
デッキサイドランプ左側	151
ワット数	492
デッキサイドランプ右側	
(スイッチ付)	351
スイッチ	351
ワット数	492
デフォッガー	
フロントガラス	342
リヤウインドウ	
デフォッガー	342
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	412
ワット数	492
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	488
電池交換 (キー)	405

と

ドア	123
キーレスアクセス	112
チャイルドブルーフ	132
電波式リモコン	123
ドアガラス	176
ドアポケット	358
半ドア走行時	
警告ブザー	450
ロックレバー	124
ドアガラス	176
ドアポケット	358
ドアミラー	172
オート作動	173
操作	172

ドア連動機能	352
カスタマイズ機能	493
作動について	352
点灯する部位	349
盗難防止装置	
イモビライザー	
(盗難防止用エンジン始動	
ロックシステム)	66
時計	86
トップテザーアンカレッジ	64
ドライブインフォメーション	79
トラクションコントロール	
(TRC)	325
トランスミッション	198
操作	198
メンテナンスデータ	490
トリップ	
インフォメーション	78
トリップメーター	78
機能	78
切りかえボタン	77

な

内装	
収納装備	353, 359
手入れ	377
ナノイーX	345

に

荷物	
カーゴルーム	359
積むときの注意	191

ぬ

ぬかるみにはまった	
(スタック)	486

ね

燃費	79
瞬間燃費	79
平均燃費	79
燃料	488
ガソリンスタンドでの情報	526
給油	225
種類	488
燃料残量警告灯	439
容量	488
燃料計	74

は

パーキングブレーキ	203
操作	203
未解除走行時	
警告ブザー	451
排気ガス	42
ハイビーム (ヘッドランプ)	212
ライティングスイッチ	211
ハザードランプ	
(非常点滅表示灯)	423
スイッチ	423
電球 (バルブ) の交換	412
ワット数	492
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ	177
パワースライドドア	137
発炎筒	424
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	412
ワット数	492

バッテリー

バッテリーあがりを 防ぐために	482
バッテリーがあがった	479
冬の前の準備点検	331
バニティ（化粧用）ミラー	362
パノラミックビューモニター	318
バルブ（電球）	
交換要領（外装のバルブ）	412
ワット数	492
パワーウインドゥ	176
ウインドゥロックスイッチ	176
閉めることが できないときは	177
操作	176
挟み込み防止機能	177
パワーステアリング	325
ステアリング制御警告灯	438
パワースライドドア	132
操作	132
挟み込み防止機能	137
パンクした	464
番号灯	
（ライセンスプレートランプ）... ..	211
電球（バルブ）の交換	412
ライティングスイッチ	211
ワット数	492
ハンドル	
（ステアリングホイール）	169
位置調整	169
ステアリング制御警告灯	438

ひ

ビークルスタビリティコントロール （ビークルダイナミクスコントロール）	325
ヒーター	
オートエアコン	340
シートヒーター	348
非常点滅表示灯 （ハザードランプ）	423
スイッチ	423
電球（バルブ）の交換	412
ワット数	492
尾灯（テールランプ）	211
電球（バルブ）の交換	418
ライティングスイッチ	211
ヒューズ	409
標識認識機能（進入禁止／ 最高速度／一時停止）	276
表示灯	72
日よけ（サンバイザー）	362
ヒルスタートアシスト	299

ふ

ブースターケーブルの つなぎ方	479
フォグランプ	220
スイッチ	220
ブザー	
アイドリング ストップ	304, 443, 460
運転席・助手席シートベルト 締め忘れ警告	439, 451
キーレス アクセス	115, 442, 457
後席シートベルト 締め忘れ警告	440, 451
コーナーセンサー	307, 454

車線逸脱警報機能・	
路側逸脱警報機能.....	236, 453
衝突回避支援	
ブレーキ機能	235, 453
衝突警報機能	235, 453
ステアリング制御	
警告	438, 447
接近警報	290, 454
先行車発進	
お知らせ機能	237, 453
パーキングブレーキ未解除	
走行時警告	451
半ドア走行時警告	450
ふらつき警報	237, 454
ブレーキ液警告	437, 444
ブレーキ制御付誤発進抑制機能	
(前方・後方)	236, 453
ランプ消し忘れ警告	213, 454
リバース警告	201
フック	
けん引フック	431
ショッピングフック	372
フロアマット固定フック	24
フューエルメーター	
(燃料計)	74
フューエルリッド (給油口)	225
給油のしかた	225
冬の前の準備 (寒冷時の運転) ...	331
冬用タイヤ	331
ふらつき警報	270
ブレーキ	
パーキングブレーキ	203
ブレーキ警告灯	437
メンテナンスデータ	491
ブレーキアシスト	325
機能	325
VSC (VDC) 作動表示灯	439

ブレーキ制御付誤発進抑制機能	
(前方・後方)	255
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる	186
ブレーキフルード	491
フロアマット	24
フロントシート	156
シートヒーター	348
正しい運転姿勢	26
調整	156
手入れ	377
フロントシートの調整に	
関する警告	156
ヘッドレスト	160
フロントターンシグナルランプ	
電球の交換	412
レバー	202
ワット数	492
フロントフォグランプ	220
スイッチ	220
フロントマップランプ	350
スイッチ	350
ワット数	492
フロント方向指示灯	202
方向指示レバー	202

へ

平均燃費	79
ヘッドランプ	211
ヘッドランプ	
点灯延長機能	213
LED ヘッドランプ	
オートレライザー	
警告灯	439
ライティングスイッチ	211
ライトセンサー	213
ランプ消し忘れ警告ブザー	214
ランプ消し忘れ防止機能	213

ヘッドレスト 160

ほ

ホイール

交換 (タイヤ) 387, 391

メンテナンスデータ 491

ホイールナットレンチ 391

方向指示灯 202

電球 (バルブ) の交換 412

方向指示レバー 202

ワット数 492

ホーン (警音器) 170

保証 9

ボトルホルダー 355

ボンネット 381

開け方 381

ま

マスターウォーニング 438

み

ミラー

ドアミラー 172

バニティミラー 362

ルームミラー 171

め

メーター (計器類) 74

警告灯 437

TFT カラーマルチ

インフォメーション

ディスプレイ 76

表示切りかえボタン 77

表示灯 72

メカニカルキー 109

メンテナンスデータ 488

ゆ

USB ソケット

充電用 368

通信用 / HDMI 端子 370

ユーザーカスタマイズ機能 493

雪道ですべて動けない

(スタックした) 486

油脂類 488

ら

ライセンスプレートランプ

(番号灯) 211

電球 (バルブ) の交換 412

ライティングスイッチ 211

ワット数 492

ライトセンサー 213

ラジエーター

オーバーヒート 483

メンテナンスデータ 490

ランプ

カーゴルームランプ 351

後席ステップランプ 135

室内灯 349

デッキサイドランプ左側 151

デッキサイドランプ右側

(スイッチ付) 351

電球 (バルブ) の交換 412

非常点滅表示灯

(ハザードランプ) 423

フロントフォグランプ 220

フロントマップランプ 350

ヘッドランプ（前照灯）.....	211
方向指示灯（ターンシグナル ランプ/ウインカー）.....	202
ライトセンサー.....	213
ランプ消し忘れ防止機能.....	213
ルームランプ.....	350
ワット数.....	492
ランプ消し忘れ防止機能.....	213

り

リヤウインドウ デフォグガースイッチ.....	342
リヤゲート.....	150
リヤシート.....	157
前倒し.....	157
リヤビューカメラ.....	314
リヤ方向指示灯.....	202
電球（バルブ）の交換.....	412
方向指示レバー.....	202
ワット数.....	492
リヤワイパー.....	223

る

ルームミラー.....	171
ルームランプ（室内灯）.....	350
スイッチ.....	350
ワット数.....	492

れ

冷却水.....	490
冬の前の準備.....	331
メンテナンスデータ.....	490
冷却装置（ラジエーター） オーバーヒート.....	483
メンテナンスデータ.....	490
レバー シフト.....	198
方向指示.....	202
ボンネット解除.....	381
ロック（ドア）.....	124, 129

ろ

ロック ウインドウロック.....	176
キーレスアクセス.....	112
シフトロックシステム.....	200
チャイルドブルーフ.....	132
電波式リモコン.....	123
ドア.....	123

わ

ワイパー & ウォッシャー.....	221, 223
ワイパーデアイサー.....	342
ワイパーブレード（寒冷地用）....	332
ワイヤレスリモコン.....	123
作動の合図.....	124
操作.....	123
電池の交換.....	405
半ドア警告ブザー.....	450
ワックス.....	374
ワット数.....	492

- 次の名称はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。
当社は使用許諾に基づき使用しております。
 - ・ TRC
 - ・ VSC
- 次の名称はダイハツ工業株式会社の登録商標です。
当社は使用許諾に基づき使用しております。
 - ・ アミックス
 - ・ スマートアシスト
 - ・ スマアシ
 - ・ タッチ&ゴーロック



ガソリンスタンドでの情報

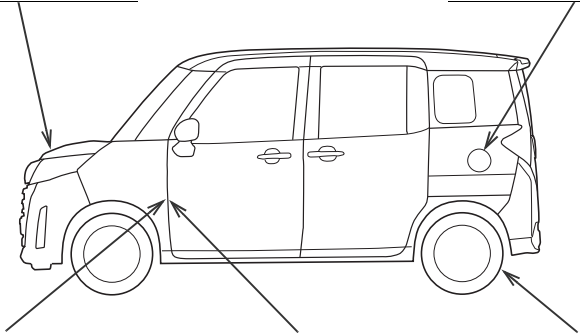
給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 381

フューエルリッド
(燃料給油口)

P. 227



ABTH150001

ボンネット解除レバー

P. 381

フューエルリッドオー
プナー (燃料給油口)

P. 227

タイヤ空気圧

P. 491

燃料の容量 (参考値)	FF (前輪駆動) : 36L 4WD (4 輪駆動) : 38L	
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン	P. 225, 488
タイヤが冷えている ときの空気圧		P. 491
エンジンオイル容量 (参考値)		P. 490
エンジンオイルの種類		P. 488

**事故や故障などの緊急時は、
SUBARU 安心ほっとラインへご連絡ください。**

事故を起こしてしまった、タイヤがパンクした、バッテリーがあがってしまったなど、万一のトラブルの際に、専任のオペレーターが対応いたします。

SUBARU 安心ほっとライン  **0120-78-2215**
24時間365日受付

**ご意見、ご相談は、SUBARU 販売店・特約店または、
SUBARU お客様センター（SUBARU コール）へお問い合わせください。**

お問い合わせの際は、下記の情報を事前にご用意いただきますと円滑な対応が可能です。
車検証の情報（車台番号・登録番号・登録年月日）や車種名・グレード・走行距離・販売店名

SUBARU お客様センター

SUBARU コール  **0120-052215**

受付時間 【平 日】 9:00～17:00
【土日祝】 9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。

- (1) ご意見/ご感想
- (2) ご案内（カタログ、販売店、転居手続き 他）
- (3) お問い合わせ/ご相談

- ・内容確認と SUBARU のサービス・品質向上のために録音させていただいております。あらかじめご了承ください。
- ・故障や修理、純正部品に関するお問い合わせはご購入いただいた店舗、またはお近くの SUBARU 販売店へご連絡ください。

株式会社 SUBARU における個人情報の取扱いについては、
SUBARU オフィシャル Web サイト（https://www.subaru.jp/privacy_policy/）に記載しております。

禁複製・転載

編集・発行 **株式会社 SUBARU**



株式会社 SUBARU

発行 2026年 8 月 Printed in Japan KB

Publication No. A4580JJ-A

01999-B1279